小糸尾萩野遺跡発掘調査報告

―― 猪谷楡原道路建設に伴う
埋蔵文化財発掘報告Ⅰ――

2017年

公益財団法人　富山県文化振興財団
埋 蔵 文 化 財 調 査 事 務 所

小糸尾萩野遺跡発掘調査報告

―― 猪谷楡原道路建設に伴う
埋蔵文化財発掘報告Ⅰ――

2017年

公益財団法人　富山県文化振興財団
埋 蔵 文 化 財 調 査 事 務 所

序

富山高山連絡道路は，災害に強い幹線道路ネットワークをつくるため，富山市から岐阜県高山市へ至る地域高規格道路として計画されました。このうち富山市猪谷から楡原までの区間が猪谷楡原道路と定められ，平成22年度には富山市庵谷から楡原までの区間の供用が開始されました。現在は，猪谷から片掛までの区間で建設工事が進められています。

猪谷楡原道路の建設に伴い，当事務所では平成17年度から計画路線内の遺跡を発掘調査してまいりました。本書は，平成25年度から26年度にかけて実施した富山市小糸尾萩野遺跡の発掘調査の成果をまとめたものです。

発掘調査の結果，縄文時代と江戸時代の遺構や遺物がみつかりました。縄文時代の竪穴建物や土坑墓の発見により，当時の集落の様子が明らかとなりました。また江戸時代の飛騨街道東道と推定される道路跡の発見は，飛騨との流通のあり方やかつて周辺にあった銀山の経営を考える上で，重要な手がかりを与えてくれるものです。

こうした発掘調査の成果が，文字の記録には現れることのない往時の生活をひもとく一助となり，地域の歴史と文化財の理解に役立てば幸いです。

本書をまとめるにあたり，ご協力とご指導を頂きました関係機関および関係諸氏に厚く感謝申し上げます。

平成29年３月

公益財団法人 富山県文化振興財団
埋 蔵 文 化 財 調 査 事 務 所

例　　言

1　本書は富山県富山市小糸（こいと）地内に所在する小糸尾萩野（こいとおはぎの）遺跡の発掘調査報告書である。

2　調査は国土交通省北陸地方整備局からの委託を受けて，公益財団法人富山県文化振興財団が行った。

3　本遺跡の発掘調査期間と本書刊行までの整理期間は下記のとおりである。

調査期間　平成25（2013）年６月10日～平成25（2013）年７月22日

平成26（2014）年９月16日～平成26（2014）年11月27日

整理期間　平成28（2016）年４月１日～平成29（2017）年３月31日

4　調査に関する全ての資料と出土遺物は，本書刊行後，富山県埋蔵文化財センターで保管する。

5　本書の編集は，田中が担当した。本書のうち，第Ⅰ～Ⅳ・Ⅵ章の執筆は田中道子，青山晃，朝田亜紀子が担当し，分担は文末に記した。自然科学分析は，石材鑑定については明治大学　研究・知財戦略機構 黒耀石研究センター客員教授 中村由克氏に依頼し，玉稿を賜った。種実遺体同定は島田亮仁が行い，その他は専門機関に委託し，これらの成果は第Ⅴ章に収録した。

6　遺跡の略号は，市町村番号に遺跡名を続け「01ＫＯ－地区名」とし，遺物の注記には略号を用いた。

7　遺構の略号は以下のとおりである。

ＳＢ：掘立柱建物，ＳＤ：溝，ＳＦ：道路状遺構，ＳＩ：竪穴建物，ＳＫ：土坑墓・埋設土器・土坑，ＳＰ：柱穴，ＳＸ：倒木痕

8　遺構番号は，調査時に地区ごとに付した番号に一定の数値を加算して遺構番号とした。番号は遺構の種類にかかわらず連番とするが，掘立柱建物には新たに番号を付した。各地区の遺構番号に加算した数値は次のとおりである。

Ａ・Ｂ・Ｃ地区：加算せず，Ｄ地区：＋700

9　本書で示す座標は平面直角座標系第７系（世界測地系）を基準とする。方位は全て真北，標高は海抜高である。

10　挿図の縮尺は下記を基本とし，各図の下に縮尺率を示す。

遺構　掘立柱建物：1/100，竪穴建物・土坑：1/40，土坑墓・埋設土器：1/20

遺物　縄文土器・陶磁器・石器：1/3

11　土層，遺構埋土，土器胎土，赤彩等の色については，農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』を参照した。

12　遺物は縄文土器１～500番台，石器等600番台，中近世の遺物700番台とし，それぞれ連番を付す。本文・挿図・一覧表・写真図版の遺物番号は全て一致する。

13　遺物の炭化物や赤彩等は図中に凡例を示した。

14　施釉陶磁器の釉の掛かる範囲は１点鎖線で示す。

15　本文・挿図で扱った遺構・遺物は，一覧表に掲載している。凡例は以下のとおりである。

①遺構の埋土に切り合い関係がある場合は，特記欄に「新＞古」と示す。

②規模・土器法量の（　）内は現存長を表す。

③重量はｇ単位で示す。計測は大きさによって台秤と電子秤を使い分けた。

16　発掘調査から本書の作成に至るまで，下記の方々からご教示・ご協力を得た。記して謝意を表する。

神保孝造，松永篤志，富山県教育委員会，富山県埋蔵文化財センター，富山市埋蔵文化財センター（敬称略，五十音順）

目　　次

第Ⅰ章　調査の経過……1
1　調査に至る経緯……1
2　発掘作業の経過と方法……2
3　整理作業の経過と方法……5
4　調査成果の公開……6
第Ⅱ章　位置と環境……7
1　地理的環境……7
2　歴史的環境……7
第Ⅲ章　縄文時代……11
1　概　要……11
2　遺　構……11
3　遺　物……41
第Ⅳ章　近　世……100
1　遺　構……100
2　遺　物……102
第Ⅴ章　自然科学分析……107
1　概　要……107
2　小糸尾萩野遺跡における石器石材と原産地推定……107
3　種実遺体同定……116
4　放射性炭素年代測定……117
5　漆塗膜分析……121
第Ⅵ章　総　括……123
1　縄文時代……123
2　近世の道路状遺構について……129
報告書抄録

挿図目次

第１図　調査遺跡位置図……1
第２図　調査地区割図……3
第３図　基本層序……4
第４図　周辺の地質……8
第５図　周辺の遺跡位置……9
第６～11図　遺構全体図……18～24
第12～23図　縄文時代遺構実測図…26～34・36～40
第24～60図　縄文時代遺物実測図…46～74・90～98
第61図　近世遺構実測図……103
第62図　道路状遺構SF3の推定延長……104
第63図　近世遺物実測図……105
第64図　小糸尾萩野遺跡の石器石材環境……113
第65図　暦年較正結果……120
第66図　暦年代の分布……120
第67図　土器外面赤色塗膜の赤外分光スペクトル図…122
第68図　遺構配置図……124
第69図　縄文土器底部の圧痕種類……125
第70図　縄文土器胎土のタイプ別比率……126
第71図　飛驒街道東道推定ルートと周辺の主要交通路…131
第72図　道路状遺構で検出されたピット群…134

表目次

第１表　既往の調査一覧……2
第２表　調査体制……3
第３表　調査一覧……3
第４表　整理体制……5
第５表　周辺遺跡一覧……10
第６表　竪穴建物一覧……25
第７表　掘立柱建物一覧……35
第８表　掘立柱建物柱穴一覧……35
第９表　土坑墓・土坑一覧……39
第10表　縄文土器一覧……75
第11表　石製品一覧……99
第12表　陶磁器等一覧……106
第13表　金属製品一覧……106
第14表　磨製石斧の石材内訳……113
第15表　磨製石斧の石材　透閃石岩－蛇紋岩の内訳…113
第16表　小糸尾萩野遺跡出土の石器・石製品石材の属性一覧…114
第17表　石材の分類と記載……115
第18表　種実遺体同定結果一覧……116
第19表　形態的特徴……116
第20表　測定試料および処理……117
第21表　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果…118
第22表　分析対象……121
第23表　生漆の赤外吸収位置とその強度……121
第24表　Ｘ線分析結果……122
第25表　塗膜分析結果……122
第26表　小糸尾萩野遺跡出土の縄文土器胎土…126
第27表　近世道路状遺構の諸例……137

写真図版目次

図版１　遠景
図版２　竪穴建物・土坑墓
図版３　土坑墓
図版４～６　縄文土器
図版７　石製品・陶磁器・金属製品
図版８　航空写真
図版９　全景
図版10・11　竪穴建物
図版12　道路状遺構
図版13　全景
図版14　竪穴建物・掘立柱建物
図版15・16　掘立柱建物
図版17　土坑墓
図版18　土坑墓・土坑
図版19～27　縄文土器
図版28　縄文土器・石製品
図版29・30　石製品

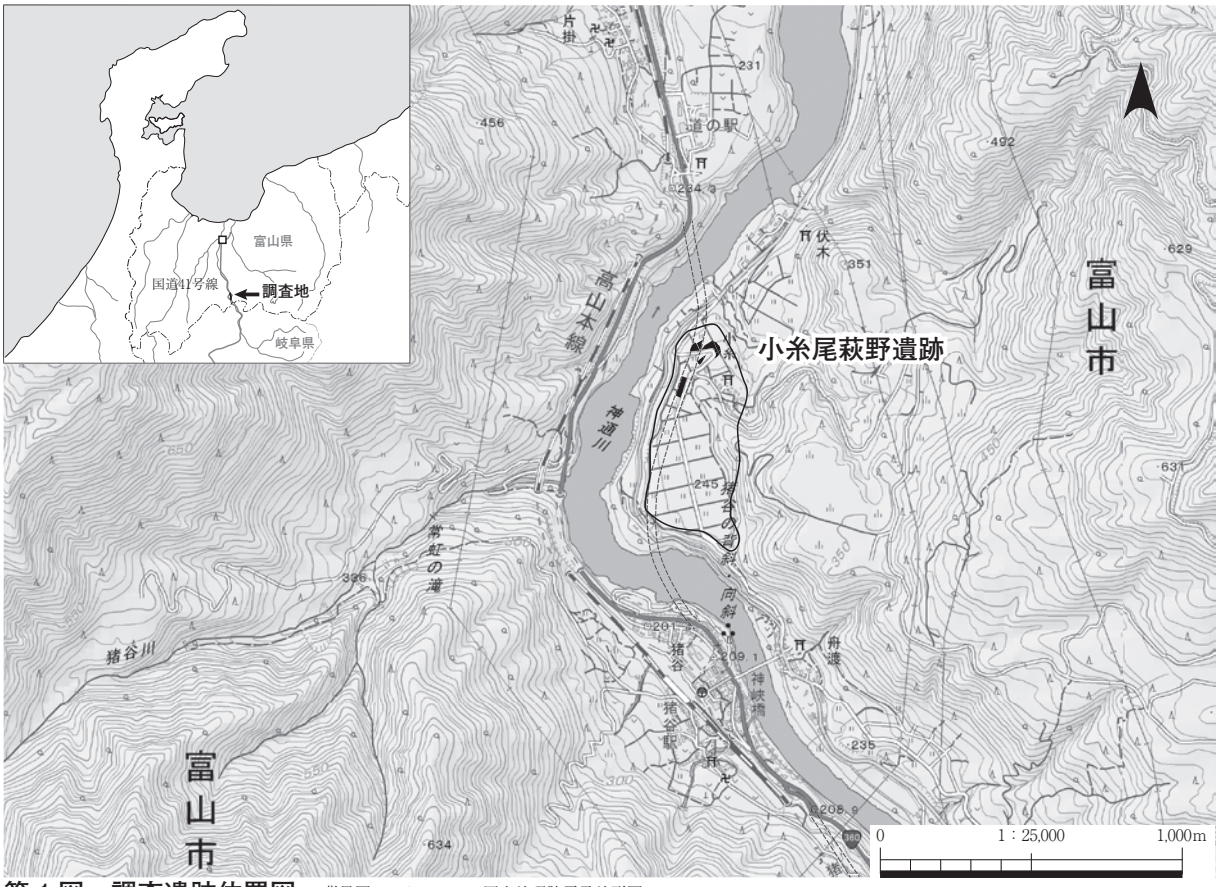
第Ⅰ章　調査の経過

1　調査に至る経緯

（1）調査の契機

国道41号線は富山市から岐阜県を経て愛知県名古屋市へ至る幹線道路である。その間の富山市から岐阜県高山市までの延長約80㎞の区間が「富山高山連絡道路」で，地域の発展や地域間の連携を目的とし，北陸自動車道，東海北陸自動車道，中部縦貫自動車道などの高規格幹線道路を補完する地域高規格道路として平成６年に路線指定された。富山高山連絡道路のうち，富山市猪谷～楡原間延長7.4㎞は「猪谷楡原道路」として事前通行規制区間の回避，急カーブ・急勾配の区間及び冬期交通障害の回避や災害に強い幹線道路ネットワークの形成等を目的に整備が進められることとなった。平成14（2002）年度に工事着手，平成22（2010）年度には富山市楡原～庵谷間3.0㎞の供用が開始され，現在は富山市片掛～猪谷間1.6㎞の工事が進められており，今回の調査はこれに伴うものである。

平成12（2000）年に建設省（現国土交通省）から猪谷楡原道路の建設計画が示された。これを受け，路線予定地内の埋蔵文化財の分布状況を把握するため，富山県教育委員会（以下，県教委）が主体となり分布調査を実施することとなった。分布調査は，平成12（2000）年度と平成20（2008）年度に富山県埋蔵文化財センター（以下，県センター）が実施した。また平成18年度には，富山市教育委員会（以下，富山市教委）が旧大沢野町域における詳細分布調査の一環として周辺の分布調査を実施している。富山市小糸地内では，小糸西遺跡（現伏木遺跡），小糸西Ｂ遺跡（現伏木谷内遺跡）が新たに発見さ



第１図　調査遺跡位置図　背景図データソース：国土地理院電子地形図 1：25,000

れるとともに，小糸遺跡，小萩野遺跡が範囲拡大・統合され，小糸・小萩野遺跡となった。その後，平成25年３月に所在地の字名から，小糸尾萩野遺跡に改称された。

分布調査の結果報告を受けて，埋蔵文化財包蔵地の今後の取扱いについて検討が行われた。その結果，遺跡のより明確な範囲と内容について把握するため，包蔵地確認調査を実施することとなった。小糸・尾萩野遺跡の確認調査は，平成24（2012）年度に公益財団法人富山県文化振興財団（以下，財団）が用地買収済みの6,600㎡について実施し，縄文時代の遺構・遺物を確認した。確認調査の結果を受け，国交省・県教委・富山市教委・財団で協議した結果，財団が本調査を受託することで合意し，平成25（2013）年度に本調査を実施した（Ａ地区）。隣接する10,800㎡については，用地買収の終了した平成25（2013）年度に県センターが包蔵地確認調査を実施し，縄文時代の遺構・遺物を確認したため，引き続き財団が平成26（2014）年度に本調査を実施した（Ｂ・Ｃ・Ｄ地区）。

（２）既往の調査

小糸尾萩野遺跡の既往の調査は，第１表のとおりである。

第１表　既往の調査一覧

調査方法	年度	調査主体	調査面積（対象面積）	文献
分布調査	平成12	県教委	－	－
	平成18	富山市教委	－	－
	平成20	県センター	－	富山県埋蔵文化財センター　『富山県埋蔵文化財センター年報　平成20年度』
確認調査	平成24	財団	442㎡（6,600㎡）	富山県文化振興財団　2013『平成24年度埋蔵文化財年報』
				富山県埋蔵文化財センター　2013『富山県埋蔵文化財センター年報　平成24年度』
	平成25	県センター	321㎡（10,800㎡）	富山県埋蔵文化財センター　2014『富山県埋蔵文化財センター年報　平成25年度』
本調査	平成25	財団	1,700㎡	富山県文化振興財団　2014『平成25年度埋蔵文化財年報』
				富山県埋蔵文化財センター　2014『富山県埋蔵文化財センター年報　平成25年度』
	平成26	財団	2,460㎡	富山県文化振興財団　2015『平成26年度埋蔵文化財年報』
				富山県埋蔵文化財センター　2015『富山県埋蔵文化財センター年報　平成26年度』

2　発掘作業の経過と方法

（１）発掘作業の経過と方法

発掘調査の作業工程及びその方法・内容は，平成16（2004）年10月に文化庁が示した『行政目的で行う埋蔵文化財の調査についての標準（報告）』，及び平成22（2010）年３月に文化庁が発行した『発掘調査のてびき－集落遺跡発掘編－』に則って進めた。

発掘調査の基準となるグリッドの設定には，世界測地系による国家座標（平面直角座標系第７系）を用いた。Ｘ＋53240・Ｙ＋6330をＸ０Ｙ０の起点とし，南北方向をＸ軸，東西方向をＹ軸とした。グリッドは２ｍ方眼とし，各グリッド名は北東角のＸ軸・Ｙ軸の座標とした。発掘範囲はＸ２～Ｘ134，Ｙ４～Ｙ98である。

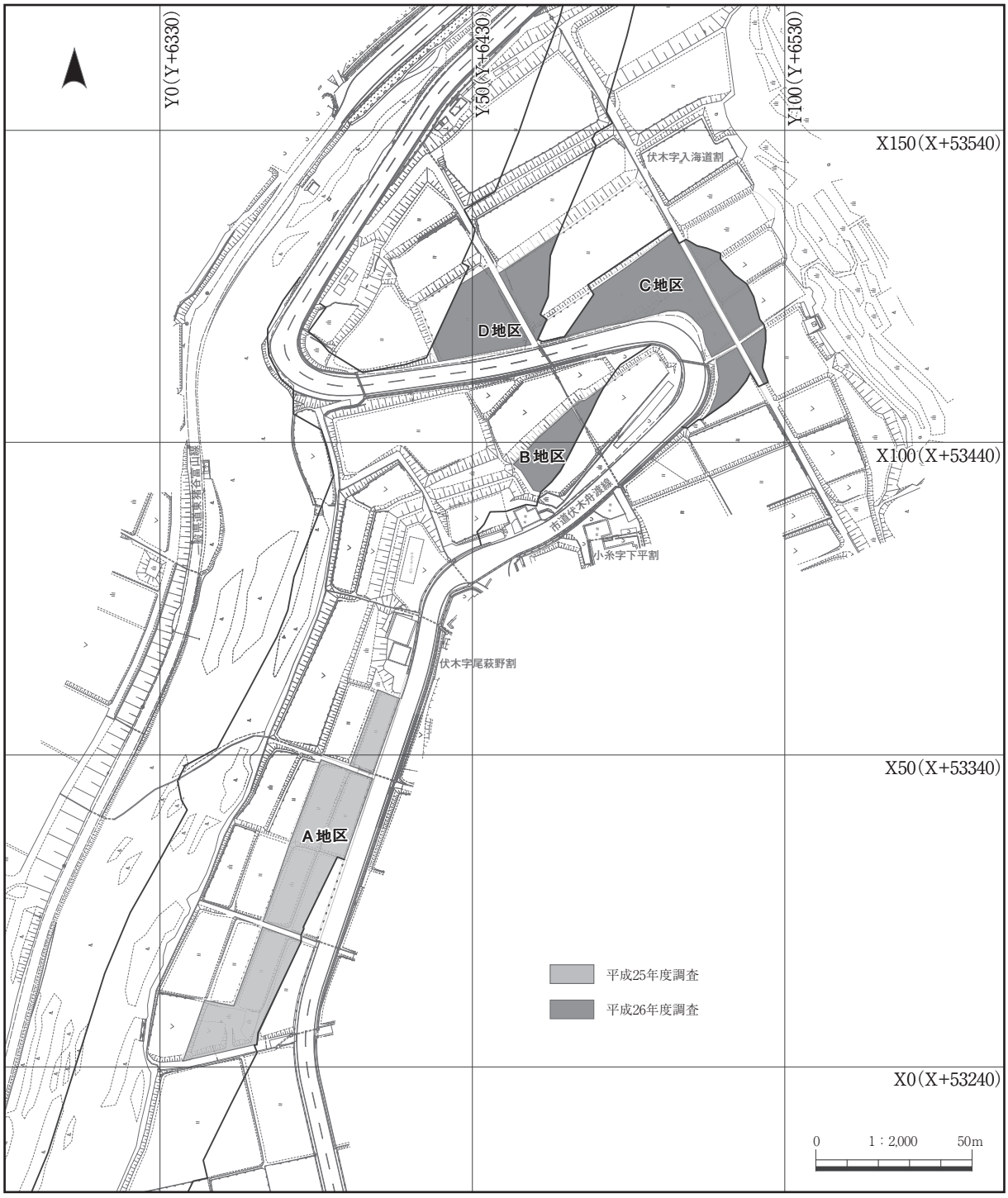
本調査は，平成24年度の確認調査によって範囲が確定したＡ地区から着手した。ただし，Ａ地区については，平成25年度に実施した本発掘調査時には，他地区の本調査の有無が不明であったため地区名を付さず，平成26年度の本調査範囲３地区が確定した時点でＡ地区とした。Ｂ地区はＳ字状に曲がる市道伏木舟渡線の南側とし，市道北側については東部分をＣ地区，西部分をＤ地区とした。

第２表　調査体制

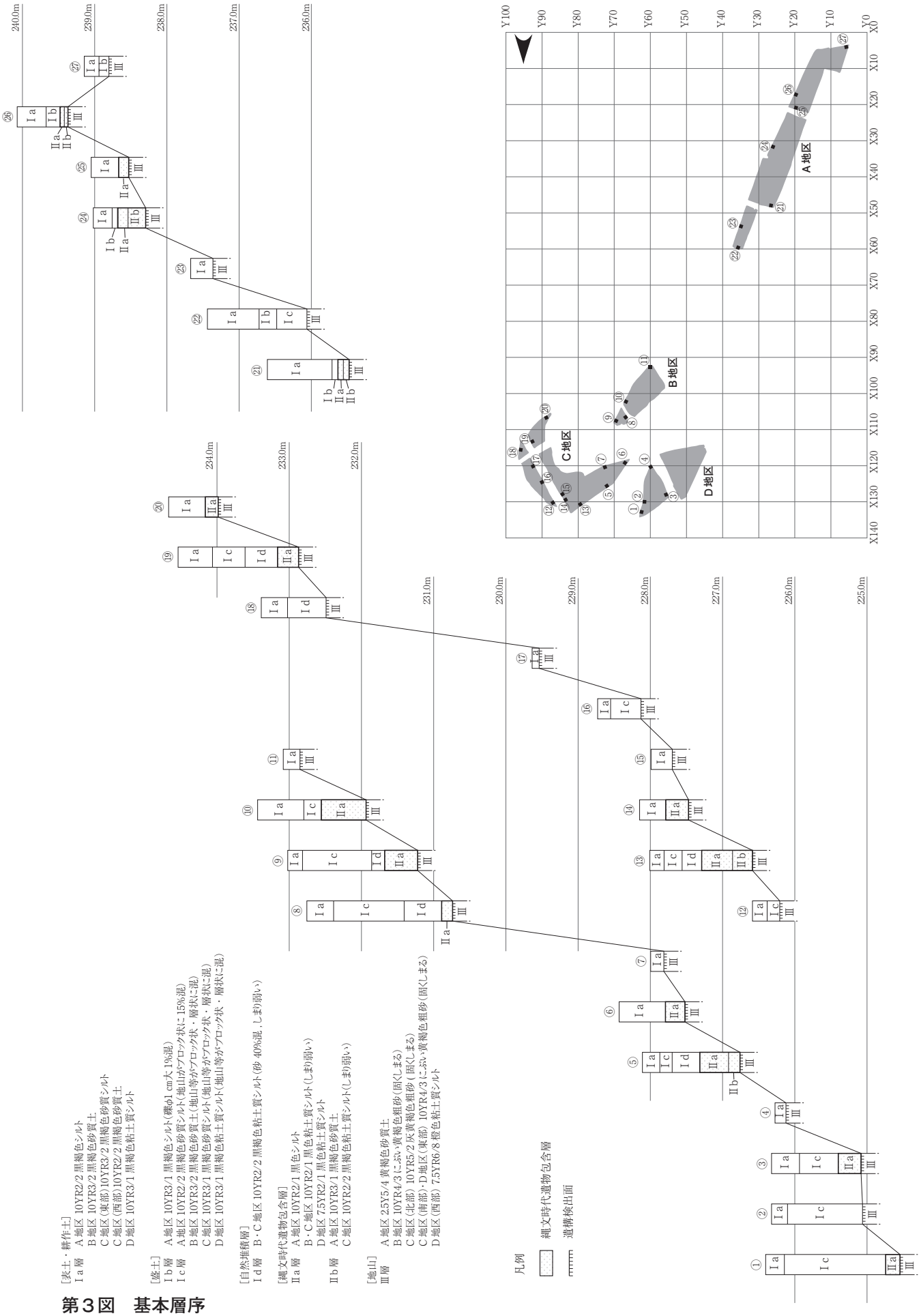
実施年度	調査事業担当							
平成25	総　括	所　　長	岸本　雅敏	総　務	総務課長	松尾　　亙	調査総括	調査課長　島田美佐子
		副 所 長	池野　正男		主　　任	江本　裕一	調査員	チーフ　中川　道子
								主　　任　青山　　晃
平成26	総　括	所　　長	岸本　雅敏	総　務	総務課長	松尾　　亙	調査総括	調査課長　島田美佐子
					チーフ	青山　　晃	調査員	主　　任　島田　亮仁
								主　　任　朝田亜紀子

第３表　調査一覧

地区	検出面	調査期間	延べ日数	調査面積	調査担当者	検出遺構	出土遺物
A	近世･縄文	平成25年6月10日～7月22日	22日間	1,700㎡	中川　道子 青山　　晃	道路,竪穴建物,土坑	縄文土器,珠洲,越中瀬戸,伊万里,唐津,石製品,煙管
B	縄文	平成26年9月16日～11月27日	43日間	320㎡	島田　亮仁 朝田亜紀子	土坑,倒木痕	縄文土器,近世陶磁器,石製品
C				1,350㎡		竪穴建物,掘立柱建物,土坑墓,土坑,倒木痕	
D				790㎡		掘立柱建物,土坑	



第２図　調査地区割図


[表土・耕作土]
Ⅰa層　A地区 10YR2/2 黒褐色シルト
B地区 10YR3/2 黒褐色砂質土
C地区(東部)10YR3/2 黒褐色砂質シルト
D地区 10YR2/2 黒褐色砂質土
D地区 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト
[盛土]
Ⅰb層　A地区 10YR3/1 黒褐色シルト(礫φ1 cm大 1%混)
Ⅰc層　A地区 10YR2/2 黒褐色砂質シルト(地山がブロック状に 15%混)
B地区 10YR3/2 黒褐色砂質土(地山等がブロック状・層状に混)
C地区 10YR3/1 黒褐色砂質シルト(地山等がブロック状・層状に混)
D地区 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト(地山等がブロック状・層状に混)
[自然堆積層]
Ⅰd層　B・C地区 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト(砂 40%混，しまり弱い)
[縄文時代遺物包含層]
Ⅱa層　A地区 10YR2/1 黒色シルト
B・C地区 10YR2/1 黒色粘土質シルト(しまり弱い)
D地区 7.5YR2/1 黒色粘土質シルト
Ⅱb層　A地区 10YR3/1 黒褐色砂質土
C地区 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト(しまり弱い)
[地山]
Ⅲ層　A地区 2.5Y5/4 黄褐色砂質土
B地区 10YR4/3 にぶい黄褐色粗砂(固くしまる)
C地区(北部) 10YR5/2 灰黄褐色粗砂(固くしまる)
C地区(南部)・D地区(東部) 10YR4/3 にぶい黄褐色粗砂(固くしまる)
D地区(西部) 7.5YR6/8 橙色粘土質シルト
凡例
縄文時代遺物包含層
遺構検出面
A地区
B地区
C地区
D地区

第３図　基本層序

（2）層　序

基本層序は，Ⅰ層：表土・盛土等，Ⅱ層：縄文時代遺物包含層，Ⅲ層：地山である。

Ⅰ層は，表土・耕作土（Ⅰａ層），盛土（Ⅰｂ・Ⅰｃ層），自然堆積土（Ⅰｄ層）からなる。Ⅰｂ・Ⅰｃ層は圃場整備に伴う盛土である。Ⅰｂ層は礫混じりでＡ地区でのみ確認し，Ⅰｃ層は砂混じりで全地区において確認した。Ⅰｃ層は旧地形の傾斜と造成された田面の高さに応じて堆積の厚さに大きな違いがあり，ほとんど無い箇所がある一方で1.5ｍ以上の堆積がみられる箇所もある。Ⅰｄ層は黒褐色粘土質シルトを基調とする無遺物層で，Ｂ・Ｃ地区に堆積が認められた。

Ⅱ層は，縄文時代中期を主体とする時期の遺物包含層で，Ⅱａ，Ⅱｂに細分した。Ⅱａ層は黒色粘土質シルトを基調とするしまりの弱い土層で，圃場整備による削平をうけた範囲を除く調査区のほぼ全域で確認した。Ⅱｂ層は黒褐色砂質土や黒褐色粘土質シルトを基調とし，地山への漸移層と考える。Ⅱａ・Ⅱｂ層が包含する遺物は，調査地区によって若干の時期差がみられるが，縄文時代中期中葉が出土遺物の中心となる。

Ⅲ層は，黄褐色砂質土やにぶい黄褐色・褐灰色粗砂，あるいは橙色粘土質シルトを基調とする無遺物層である。遺構検出面はⅢ層上面であり，Ａ地区では縄文時代と近世，Ｂ・Ｃ・Ｄ地区では縄文時代の遺構を検出した。遺構検出面の標高は239.4～224.5ｍを測り，調査区南東から北西に向かって大きく傾斜する地形である。Ｘ116～134列Ｙ55～83列範囲内において，多くの遺構を検出した。

3　整理作業の経過と方法

出土遺物は，調査年度内に洗浄，注記，分類を行った。土器のバインダー処理は，Ａ地区出土土器のうち自然科学分析を行わないものに限って実施した。石製品，金属製品についてはメモ写真を撮影し，整理台帳を作成した。

報告書刊行に向けての本格的な室内整理作業は，平成28(2016)年４月に開始した。４～12月は土器・陶磁器の接合・復元，６～12月は遺物の実測と挿図作成・デジタルトレース，11～１月は遺物の写真撮影，図版作成，10～12月は原稿執筆，編集，翌平成29（2017）年１～３月は印刷，校正を行った。

土器・陶磁器の接合・復元は室内整理作業員が行った。遺物の実測は職員と室内整理作業員が行い，遺物実測図は種類別の遺物カードに直接書き込むか貼り込んで整理した。遺物の写真撮影は職員が行った。遺構・遺物の挿図は，派遣オペレーターがデジタルデータ化を行い，印刷原稿とした。遺構実測図と写真は各台帳を作成して整理し，遺物カードとともにパーソナルコンピューターを使用してデータ入力した。データ入力は職員が行い，室内整理作業員が補足した。遺構・遺物のデータは観察表として掲載した。自然科学分析は専門業者に委託し，結果報告を掲載した。　（朝田亜紀子）

第４表　整理体制

実施年度	調査事業担当						
平成28	総　括	所　長　岸本　雅敏	総　務	総務課長　松尾　亙	調査総括	調査課長　島田美佐子
				主　査　青山　晃	担　当	副主幹　田中　道子

4　調査成果の公開

（1）遺跡説明会

各年度の発掘調査の成果を広く一般に公開するため，現地において遺跡説明会を開催した。

A　平成 25（2013）年 7 月 20 日（土）午前 10 時～ 12 時開催

梅雨明け前ではあったが，好天に恵まれ，地元住民を中心に約 70 名の参加があった。調査成果の目玉として，縄文時代の竪穴住居と近世の道路跡を間近に見られるように見学コースを設定し，調査員が概要を説明した。当地は以前から縄文時代の遺物が多く採取される遺跡として地元の方々に知られていたが，本格的な発掘調査が行われるのは今回が初めてであったため，竪穴建物を興味深そうに見学する姿がみられた。

また，現地に設置した出土品展示コーナーでは，出土した縄文土器に感心したり，展示してある石器と自宅にあるものが似ているなどと話したり，興味は尽きないようであった。　（青山　晃）

B　平成 26（2014）年 11 月 22 日（土）午前 10 時～ 12 時開催

当日は好天に恵まれ，約 100 名の参加があった。見学コースは，縄文時代の竪穴建物と土坑墓を間近に見られるよう，調査区内を縦断する形で設定した。遺構が密集している２箇所において調査員が説明を行い，あわせて参加者からの質問にも対応した。土坑墓からは副葬品と考える赤漆塗りの縄文土器が出土しており，これらを目の当たりにした参加者の中には，どのような人物が埋葬されていたのかと想像を巡らせる方も見受けられた。現場事務所では，今回の調査で出土した縄文土器や石器，炭化したクリの実などを展示した。写真を撮りながら熱心に質問をする方が多く見られた。

（朝田亜紀子）

（2）調査成果報告会

平成 27 年 3 月 21 日（土）午後 1 時～ 4 時　富山県民会館 611 号室

この調査成果報告会は，当事務所が実施した発掘調査及び遺物整理の最新成果を広く一般に公開するもので，初回となる平成 26 年度は県内５遺跡の発掘調査と４遺跡の遺物整理成果を報告し，県内外から 100 名余の参加があった。小糸尾萩野遺跡については，発掘調査によって明らかになった遺跡の概要説明と土坑墓出土の土器などを展示・解説した。　（田中道子）

第Ⅱ章　位置と環境

1　地理的環境

小糸尾萩野遺跡は富山市（旧大沢野町）小糸に所在する。富山市は平成17年４月に大沢野町外５町村が旧富山市と合併したことで，その市域は豊富な魚介類を育む富山湾から3,000メートル級の山々が連なる雄大な立山連峰までの広範囲なものとなった。旧大沢野町は富山県中央南部に位置し，南の猪谷は岐阜県飛騨市と接する。南北に流れる神通川は岐阜県飛騨市宮村の川上（かおれ）岳を源とし，神通峡谷や片路（かたじ）峡をつくり，笹津で扇状地の要となり富山平野を形成し富山湾に注ぐ。神通川の両岸には河岸段丘が形成されており，とくに右岸が顕著である。上位から船峅台地，大沢野台地，笹津台地とよばれ，さらに南部の下夕（したた）地区には高位の片掛期，中位の楡原期，低位の笹津期が見られ，狭隘な段丘上にあるやや開けた平地は水田・畑に利用されている。これらの河岸段丘が形成されたのは２～３万年前で，大沢野の神通第３ダム付近の崖から発見された「ナウマン象」の化石が示準である。神通峡は県定公園，片路峡は自然保全地域として県指定を受けている四季の変化が美しい所で，角礫凝灰岩の岩肌がゴツゴツと切り立ったようになっている。神通峡にある横山楡原衝上断層は白亜紀に起こった地殻変動でできたもので，国指定天然記念物であり，国道41号から見ることができるほか，猪谷の神峡橋付近には向斜構造，横山には背斜構造がみられ，今から6,000万年前の地殻変動の大きさを物語っている。また神通峡には変成岩類が多くみられるが，なかでも日本で最も古い古生代の岩石である「飛騨片麻岩」が多くみられる。小糸尾萩野遺跡は岐阜県境まで約２㎞，標高約240ｍの神通川右岸の高位河岸段丘上にあり，現状は水田であるが，ほ場整備以前は桑畑として利用されていた。

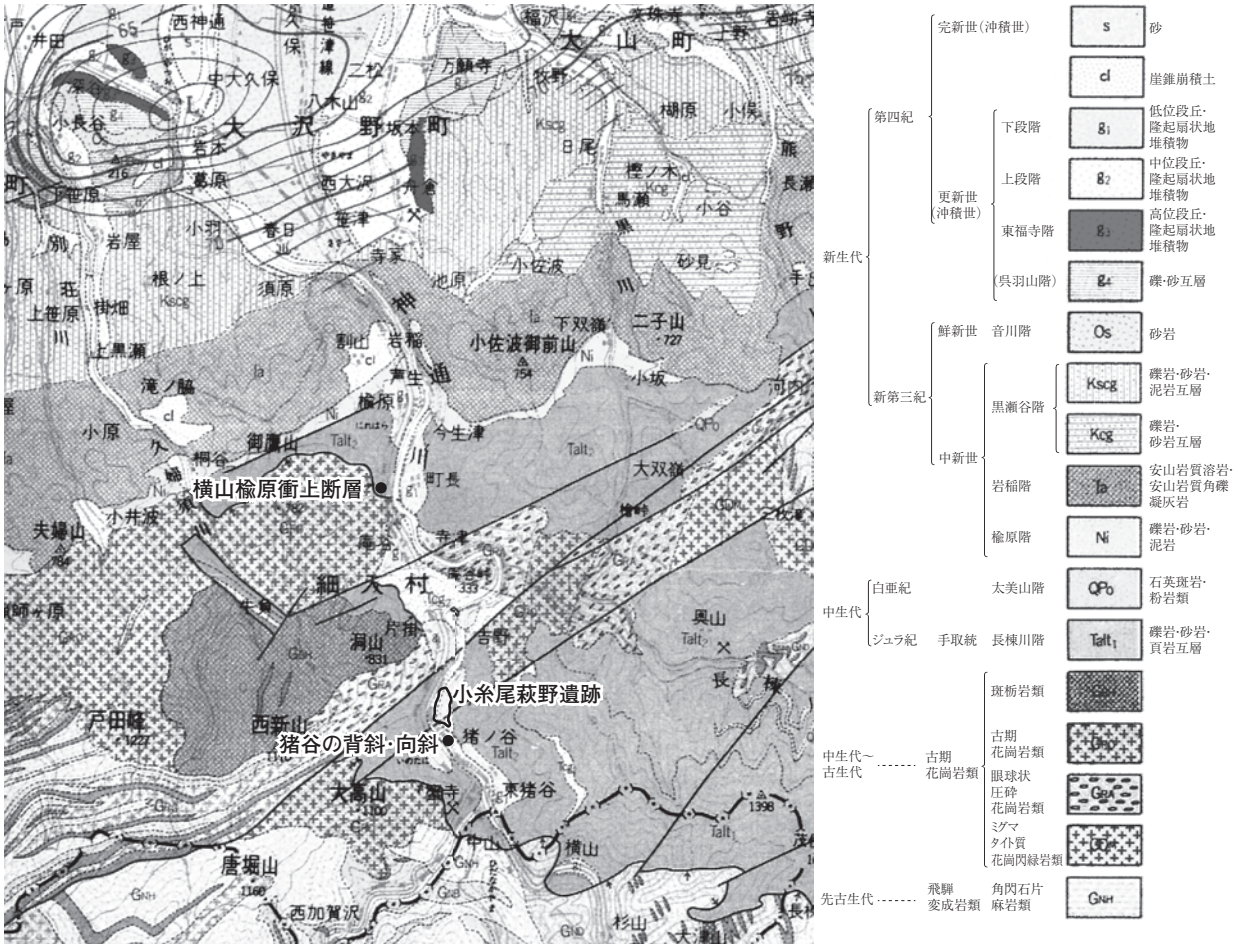
2　歴史的環境

神通川の河岸段丘上には古くから人々の生活が営まれており，扇頂部高位段丘の船峅台地の崖縁には国指定史跡である直坂遺跡（60），直坂Ⅱ・Ⅲ遺跡（61・62）といった旧石器時代，縄文時代草創期・早期の遺跡が集中している。直坂遺跡の旧石器時代の石器群は中部高地系，東北日本の石刃技法，西日本の瀬戸内技法など，周囲の多様な石器文化がもたらされたことを示し，この地の地理的特質を表している。縄文時代早期から中期には低位段丘の笹津台地に春日遺跡（67），神通川上流の高位段丘崖縁には片掛遺跡（16）や布尻遺跡（31）がある。布尻遺跡は中期後半～後期初めを中心とした竪穴建物が23棟確認され，県内では例が少ない平面形が六角形の竪穴建物が特筆される。出土遺物は多く，早期から晩期にかけての縄文土器の外，土偶や石器，石棒や石刀などの祭祀に関わる石器類が出土しており，長期間にわたり人が住み続けている中核的集落である。これらの遺跡からは富山県東部から新潟県糸魚川市周辺の遺跡で製作された蛇紋岩製の磨製石斧やヒスイの玉類，飛騨南部に産出する下呂石製の石鏃等，岐阜県飛騨市の塩屋金清神社遺跡で製作された石棒などが出土しており，神通川沿いのルートを利用してさまざまな産地から製品としてあるいは石材として流通していたことがわかる。このほか中期には寺津遺跡（26），庵谷遺跡（27），楡原遺跡（34）といった小規模な遺跡が河岸段丘上に確認されているほか，寺津東遺跡（25），須原上井山遺跡（43）が山腹緩斜面に確認され，遺跡数の増加と河岸段丘以外での生活があったことが明らかとなってきた。神通川流域の後期・晩期

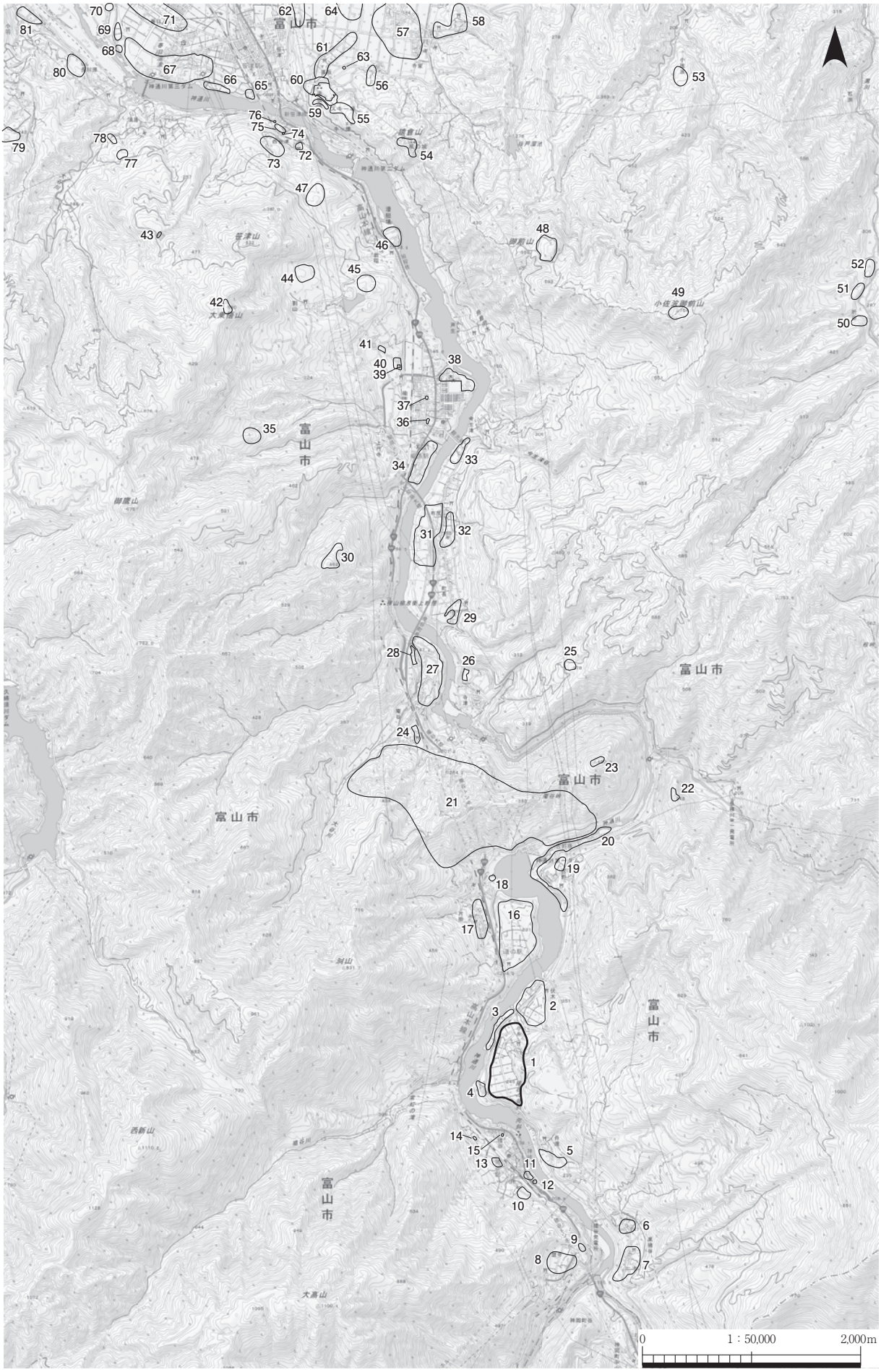
については遺跡数が減少し，中位段丘や低位段丘に立地するようになる。笹津台地に立地する春日遺跡は石棒・御物石器・石刀や石冠などの祭祀用石器の出土が特徴的である。弥生時代の遺跡としては直坂Ⅱ遺跡（61）があるが，出土した遺物は中期の櫛描文系の土器がわずかで，詳細は不明である。古墳時代，古代の遺跡も少なく，なかなか開発が進まない地域であったことがうかがわれる。

中世以降もこの神通川に沿った山間地を通るルートは越中と飛騨とを結ぶ重要な役割を果たしており，戦国期では，飛騨側から塩屋氏が進出して交通の要衝である猿倉山山頂に猿倉城跡（54）を築城するなど，越中の平野・海浜部から飛騨の山間地への塩や海産物などの物資流通路確保を目的の一つとして，この地域を重要視していたことを示している。近世以降，神通川水系は河口の岩瀬から上流の寺津まで米などの農産物や特産物，人を運ぶ主要な交通路であった一方，神通川両岸は飛騨街道として物資の運搬が盛んに行われていた。神通川上流は耕地が狭いため，飛騨街道沿いの村に住む人々は街道を往来する物資を牛に積んで運搬することで生計を補っており，この荷駄継送は文禄三年（1594）に前田利家が百姓に対し許可した特権であり，慶長六年（1601）に前田長種のより再度認められた営業権である。神通川右岸側の飛騨街道東道には加賀藩の東猪谷関所，左岸側の飛騨街道西道には富山藩の西猪谷関所，現在の猪谷関跡（11）が設置され，越中からの米・塩・魚をはじめあらゆる日用品や農具，飛騨からの板材木・楮・茶・煙草・蝋などの流通物資を取り締まり，口銭を徴収していた。この盛んな流通は飛越国境付近に開発された吉野銀山遺跡や庵谷・片掛銀山遺跡（20・21）ともかかわりがあったと考えられる。文物や人の交通は江戸時代初期には東道が主流であったが，富山藩が分藩した寛永十六年（1639）頃から西道が盛んになり，それは現在，神通川左岸段丘縁辺を走り「ぶり・ノーベル出世街道」とも呼ばれる国道41号に継承され，日本海側の富山と岐阜高山を経由して名古屋を中心とした中部圏を結ぶ主要幹線道路として変わらず重要な役割を果たしている。

（田中道子）



第４図　周辺の地質（1/150,000）　富山県 1970『富山県地質図』に加筆　凡例は抜粋



第５図　周辺の遺跡位置（1/50,000）　背景図データソース：国土地理院電子地形図１：25,000

第５表　周辺遺跡一覧

No	遺跡名	種　類	時　代	No	遺跡名	種　類	時　代
1	小糸尾萩野遺跡	散布地	縄文･近世	41	西下島遺跡	散布地	平安･近世
2	伏木遺跡	散布地	縄文	42	大乗悟山城跡	城館(山城)	鎌倉･室町
3	伏木谷内遺跡	散布地	縄文	43	須原上井山遺跡	散布地	縄文(早)･縄文(前)
4	舟渡小倉遺跡	散布地	縄文	44	定座岩岩陰	岩陰	弥生～古墳?
5	舟渡遺跡	散布地	縄文･中世･近世	45	岩稲遺跡	散布地	縄文(中)
6	東猪谷坪後遺跡	散布地	中世	46	岩稲八十苅遺跡	不明	不明
7	東猪谷遺跡	散布地	縄文･中世･近世	47	上野山七ッ塚	塚	中世
8	蟹寺遺跡	散布地	縄文	48	舟倉御前山山頂遺跡	祭祀	平安
9	蟹寺城跡	城館(山城)	鎌倉･室町	49	小佐波御前山山頂遺跡	祭祀	平安
10	猪谷遺跡	散布地	縄文(中)	50	西山南遺跡	散布地	旧石器
11	猪谷関跡	関所	近世	51	西山遺跡	散布地	縄文
12	猪谷川原遺跡	散布地	縄文(中～晩)･古代	52	宮野遺跡	散布地	縄文(前･中)
13	中沢･洞遺跡	散布地	縄文･中世･近世	53	中尾城跡	城館(山城)	室町･戦国
14	中沢遺跡	散布地	縄文･古代	54	猿倉城跡	城館(山城)	鎌倉･室町
15	旦暮遺跡	散布地	縄文	55	舟倉西山遺跡	散布地	縄文(中)
16	片掛遺跡	集落	縄文(早～晩)･古代･中世･近世	56	舟倉谷内遺跡	散布地	縄文･中世
17	片掛西遺跡	散布地	縄文(中)	57	舟倉寺家遺跡	散布地	中世･近世
18	片掛権現遺跡	散布地	縄文･中世･近世	58	寺家砦跡	城館	中世
19	吉野遺跡	散布地	縄文	59	直坂砦跡	城館(山城)	戦国
20	吉野銀山遺跡	鉱山	近世･近代	60	直坂遺跡	集落	旧石器･縄文(草･早･中)･弥生･古代
21	庵谷･片掛銀山遺跡	鉱山	近世･近代	61	直坂Ⅱ遺跡	集落	旧石器･縄文(草･早･中)･弥生･古代
22	薄波砦跡	城館	中世	62	直坂Ⅲ遺跡	散布地	旧石器･縄文
23	下山砦跡	城館(山城)	戦国	63	直坂Ⅳ遺跡	散布地	縄文･鎌倉･室町
24	上野遺跡	散布地	縄文･中世･近世	64	直坂寺家遺跡	散布地	縄文･中世
25	寺津東遺跡	散布地	縄文(中)･古代･中世	65	笹津坪根遺跡	散布地	縄文･中世
26	寺津遺跡	集落	縄文(中･後)	66	笹津Ⅱ遺跡	散布地	縄文
27	庵谷遺跡	散布地･城館	縄文(前･中)･鎌倉･室町	67	春日遺跡	集落	縄文(中･後)･中世
28	庵谷西遺跡	散布地	縄文･中世･近世	68	長走C遺跡	散布地	縄文(晩)
29	布尻A遺跡	散布地	縄文	69	長走B遺跡	散布地	縄文(晩)･平安･中世
30	楡原山城跡	城館(山城)	鎌倉･室町	70	長走A遺跡	散布地	縄文(晩)
31	布尻遺跡	集落	縄文(早～晩)･古代･中世･近世	71	春日長走遺跡	散布地	縄文(早･中･後)･弥生･古代
32	布尻東遺跡	散布地	縄文･古代･中世	72	久太郎木遺跡	散布地	縄文･近世
33	今生津遺跡	散布地	縄文･近世	73	西笹津遺跡	散布地	縄文(中)･鎌倉･室町
34	楡原遺跡	散布地	縄文(中～晩)	74	五輪塔古石塔群	墓	中世
35	山田道遺跡	散布地	縄文(中)	75	前田遺跡	散布地	中世･近世
36	中島遺跡	散布地	中世	76	題目塔と道標	その他	近世
37	五輪塔古石塔群	墓	中世	77	須原七人塚	塚	中世
38	楡原東島遺跡	散布地	縄文･中世	78	須原遺跡	散布地	不明
39	伝畠山重忠墳墓	墓	鎌倉･室町	79	下伏砦跡	城館(山城)	戦国
40	楡原館跡	城館(山城)	鎌倉･室町･近世	80	法順坊跡	社寺･塚	中世･近世
				81	小羽前田遺跡	散布地	縄文･中世･近世

参考文献

大沢野町教育委員会　1977『富山県大沢野町布尻遺跡緊急発掘調査概要』

大沢野町　2005『大沢野町誌』

富山県　1974『富山県史』史料編Ⅴ　近世下

富山県上新川郡大沢野町役場　1958『大沢野町誌』上巻

富山県教育委員会　1973『富山県大沢野町 直坂遺跡発掘調査概要』

富山県教育委員会　1976『富山県大沢野町 直坂Ⅱ遺跡発掘調査概要』

富山県教育委員会　1979『富山県歴史の道調査報告書－飛騨街道（その１）－』

細入村　1987『細入村史』通史編（上巻）

細入村　1989『細入村史』史料編（下巻）

第Ⅲ章　縄文時代

1　概　要

縄文時代中期の竪穴建物３棟，掘立柱建物９棟，土坑墓14基，埋設土器３基，土坑420基，倒木痕25基を検出した。詳細時期は新崎式から上山田式で，南に位置するＡ地区がやや古く，北のＢ・Ｃ・Ｄ地区がやや新しい傾向にあり，集落が南から北へ移動した可能性がある。掘立柱建物は２間×１間，１間×１間があり，梁に小さな棟持ち柱をもつものが多い。２間×１間の掘立柱建物の中には梁から張り出す位置に棟持ち柱をもつため，平面形が六角形状となるものがある。土坑墓は平面形が楕円形と円形になるものがあり，その規模から埋葬形態は屈葬であったと推測する。副葬品としては縄文土器，石器がある。副葬された縄文土器の中には，埋納されたと考える有孔鍔付土器のほか，遺体の被覆に用いられた可能性がある深鉢の大型破片がある。倒木痕はＢ地区やＣ地区南東部の急傾斜な場所に多く，当時は食糧採集等に利用された森林であったとみられる。

2　遺　構

（1）竪穴建物

4号竪穴建物（SI4，第12図，図版10・11）

Ａ区南側に位置し，確認した建物の中では最も標高が高く，約239ｍを測る緩傾斜地にある。建物の西半部が試掘トレンチによって消失しているが，平面形は楕円形とみられる。長軸は6.1ｍを測り，短軸は4.3ｍと推定される。建物全体がほ場整備による削平を受けており，遺存している深さは0.15ｍと浅い。床面は地山を掘り込んだ面を利用し，貼り床は認められない。建物北東部分の床面は他の範囲より0.1m程高く，テラス状となっている。主柱穴はＰ1～３・５～７・９・11・37の９基と考える。これらの平面形は円形や楕円形を呈し，径0.3～0.4ｍ，深さ0.3～0.7ｍの規模となる。Ｐ4・８も同様の規模であり，柱穴であった可能性もある。この他に床面上からは径0.1～0.15ｍ程の土坑が45基検出されている。これらは間仕切りなど屋内空間の利用に伴う可能性があるが，その実態は判然としない。また南東部分には幅，深さとも0.1ｍ前後の細く浅い溝が壁に沿って確認され，壁構築に関連するものと考えられる。これらの埋土も建物とほぼ同質である。地床炉は床面中央よりやや南西寄りに位置する。１×0.8ｍの不整楕円形を呈し，掘り込みは0.06ｍと浅く，焼土の形成も顕著ではない。建物中央からやや北東寄りでは，いわゆるロート状ピット[注1]に相当するP12を検出した。P12の平面形は1.2×1.1ｍの楕円形を呈する。掘り込みは西側が深くなるような段差を有し，浅い部分で0.15ｍ，深い部分で0.5ｍを測る。深部の平面形は方形を呈し，底面の四隅には径0.15ｍ内外のピットを検出した。また，北西には幅0.1㎝，深さ0.05㎝の細い溝がP12を囲むように沿っており，縁辺部が土手状となる。浅い部分では縄文土器（11）が押し潰された状態，石皿（648）が据えられた状態で出土した。縄文土器（１～18）・擦石（633・634・640），黒曜石剥片（605・606）が出土した。

地床炉の南端に重複するSK５は円形の土坑で，SI4の埋没後に掘り込まれている。出土遺物には縄文土器（109・110），磨製石斧未成品（615）があるが，SI4の埋土中にあったものが二次的に混入した可能性もあり，SK５自体の時期は判然としない。（田中道子）

注１　古川知明　1996「ロート状ピットを伴う縄文中期竪穴住居跡について－北陸型特殊ピットの検討－」『考古学と遺跡の保護　甘粕　健先生退官記念論集』甘粕　健先生退官記念論集刊行会

400号竪穴建物（SI400，第13・14図，図版２・14）

Ｃ地区北，標高227ｍの緩斜面に位置する。北東部と北西部が調査区外にかかるため全体形は不明であるが，平面形は楕円形となるようである。北西部でSI401と新旧の切り合い関係があり，SI401よりも新しい段階の建物である。ただし第13図ｄ断面において，SI401埋没後に縄文時代の遺物包含層が堆積し，SI400はこれを切り込むことを確認しているため，SI401廃絶直後の建て替えではなく，SI401とはある程度の時期差があると考えられる。柱穴はＰ1～Ｐ4の４基を検出した。南西部に貯蔵穴をもつ。建物掘形の長さは最大で4.51ｍ，床面までの深さは深いところで0.81mを測る。南部の壁際において，幅約0.2ｍ，深さ約0.1mの壁溝が巡るのを確認した。SI400は南から北へ傾斜する斜面に立地し，壁溝は南側にのみ認められるため，雨水の流入を防ぐ目的があったと思われる。床面は平滑に削って整えており，貼床は認められない。地山が非常に硬化した粗砂で安定しているため，貼床等の工夫は不要であったためと思われる。炉や床面における被熱の痕跡は検出していない。４基の柱穴のうちＰ1・Ｐ2は全形を確認できたが，Ｐ3は貯蔵穴（Ｋ1）と重複するため，またＰ4は東部分が調査区外にかかるため，判然としない。Ｐ1・Ｐ2は長さ0.3～0.5ｍ，深さ0.4～0.5ｍを測り，埋土は黒褐色粗砂や黒色砂質シルトを基調とする。壁溝と重複する範囲でＰ5・Ｐ6を検出したが，SI401にみられるような壁板を支える柱の可能性がある。貯蔵穴は1.97×1.23ｍ，深さ0.41ｍを測り，平面形は楕円形を呈する。埋土は黒褐色砂を基調とする。

出土遺物は縄文土器（19～73），磨製石斧（619・620），石皿（647・649・650・651），擦石（636・637），二次加工剥片（610），石剥片（611），炭化材がある。出土遺物のほとんどは埋土上層～中層から出土しており，建物廃絶後の捨て場としての窪地利用に伴うものと考えられる。

401号竪穴建物（SI401，第13図，図版２・14）

Ｃ地区北に位置する。北東部でSI400と新旧の切り合い関係があり，SI400よりも古い段階の建物である。南の一部のみの検出で，大部分が調査区外にかかるため全体形は不明である。現状で長さ3.09ｍ，深さ0.45ｍを測る。南壁に幅約0.15ｍ，深さ約0.1mの壁溝が巡り，溝内部で等間隔に並ぶＰ1～Ｐ3を検出した。壁板を支える柱の可能性がある。炉，貼床は認められなかった。中央で検出したSK525は主柱穴の可能性がある。

出土遺物は縄文土器（74～76），擦石（638・639）がある。

（２）掘立柱建物

1号掘立柱建物（SB1，第15図，図版14・15）

Ｃ地区北西に位置し，SB2と重複する。主柱は６本で，桁行２間，梁行１間である。梁から張り出す位置に小さな棟持ち柱を持つため，平面形は六角形状となる。桁行4.90ｍ，梁行2.96ｍ，面積14.50㎡である。主軸はＮ－43°－Ｅで，等高線とほぼ平行に配置し，SB2・３と建物方位がほぼ同じである。主柱穴の平面形は全て楕円形で，規模は長さ0.48～0.75ｍ，深さ0.53～0.93ｍを測る。柱間距離は桁行が2.30～2.67ｍ，梁行が2.82～2.96ｍを測る。

出土遺物はSP295・SP423の縄文土器（77・78）がある。

2号掘立柱建物（SB2，第15図，図版14・15）

Ｃ地区北西に位置し，SB1と重複する。主柱は４本で，桁行１間，梁行１間である。梁には小さな棟持ち柱を持つ。桁行3.28ｍ，梁行2.30ｍ，面積7.54㎡である。主軸はＮ－42°－Ｅで，等高線とほぼ平行に配置し，SB1・３と建物方位がほぼ同じである。主柱穴の平面形は全て楕円形で，規模は長

さ 0.51 ～ 1.16 m，深さ 0.42 ～ 0.93 m を測る。柱間距離は桁行が 3.25 ～ 3.28 m，梁行が 2.28 ～ 2.30 m を測る。

出土遺物は SP320 の縄文土器がある。

３号掘立柱建物（SB３，第 16 図，図版 14 ～ 16）

Ｃ地区の北西，SB１・２の南に位置する。主柱は４本で桁行１間，梁行１間である。梁にはやや南東寄りに棟持ち柱を持つ。桁行 3.67 m，梁行 2.14 m，面積 7.85 ㎡である。主軸はＮ－ 45°－ＥでSB１・２と建物方位がほぼ同じである。主柱穴の平面形には円形と楕円形があり，規模は長さ 0.3 ～ 0.65 m，深さ 0.37 ～ 0.51 m を測る。柱間距離は桁行が 3.57 ～ 3.67 m，梁行が 2.14 ～ 2.32 m を測る。

出土遺物は SP279 の縄文土器，SP287 の擦石（641）がある。

４号掘立柱建物（SB４，第 16 図，図版 14 ～ 16）

Ｃ地区北西に位置し，SB５と重複する。主柱は６本で，桁行２間，梁行１間である。梁から張り出す位置にやや小さな棟持ち柱を持つため，平面形は六角形状となる。桁行 4.80 m，梁行 3.36 m，面積 16.13 ㎡である。主軸はＮ－ 28°－ＥでSB５と建物方位がほぼ同じである。主柱穴の平面形には円形と楕円形があり，規模は長さ 0.34 ～ 0.74 m，深さ 0.35 ～ 0.51 m を測る。柱間距離は桁行が 2.22 ～ 2.60 m，梁行が 3.12 ～ 3.36 m を測る。

出土遺物は SP345・SP404 の縄文土器がある。

５号掘立柱建物（SB５，第 17 図，図版 14 ～ 16）

Ｃ地区北西に位置し，SB４と重複する。主柱は６本で，桁行６間，梁行１間である。梁からわずかに張り出す位置に小さな棟持ち柱を持つため，平面形は六角形状となる。桁行 4.07 m，梁行 3.62 m，面積 14.73 ㎡である。主軸はＮ－ 28°－ＥでSB４と建物方位がほぼ同じである。主柱穴の平面形は円形と楕円形があり，規模は長さ 0.27 ～ 0.7 m，深さ 0.3 ～ 0.51 m を測る。柱間距離は桁行が 1.90 ～ 2.12 m，梁行が 3.62 ～ 3.70 m を測る。出土遺物はない。

６号掘立柱建物（SB６，第 17 図，図版 14 ～ 16）

Ｄ地区東に位置し，SB７・８と重複する。主柱は６本で，桁行２間，梁行１間である。桁行 4.10 m，梁行 1.58 m，面積 6.48 ㎡である。主軸はＮ－ 87°－Ｅである。柱穴の平面形は楕円形が主体で，規模は長さ 0.43 ～ 0.97 m，深さ 0.29 ～ 0.66 m を測る。柱間距離は桁行が 1.87 ～ 2.12 m，梁行が 1.35 ～ 1.58 m を測る。

出土遺物は SP743・SP799（80）の縄文土器がある。

７号掘立柱建物（SB７，第 18 図，図版 14 ～ 16）

Ｄ地区東に位置し，SB６・８と重複する。一部が調査区外にかかるため南東隅の柱穴を欠く。桁行２間，梁行１間である。桁行 4.95 m，梁行 1.94 m，面積 9.60 ㎡である。主軸はＮ－ 80°－Ｅである。柱穴の平面形は全て楕円形で，規模は長さ 0.44 ～ 0.75 m，深さ 0.42 ～ 0.61 m を測る。柱間距離は桁行が 2.37 ～ 2.45 m，梁行が 1.94 m を測る。

出土遺物は SP758・SP770（82）・SP798（80・81）の縄文土器がある。

８号掘立柱建物（SB８，第 18 図，図版 14 ～ 16）

Ｄ地区東に位置し，SB６・７と重複する。東側が調査区外に延びるため，桁行１間，梁行１間の４基の柱穴を確認するにとどまる。主軸はＮ－ 76°－Ｅである。柱穴の平面形は円形と楕円形があり，規模は長さ 0.3 ～ 0.61 m，深さ 0.34 ～ 0.45 m を測る。柱間距離は桁行が 1.97 ～ 2.12 m，梁行が 1.82 m を測る。

出土遺物はSP781の縄文土器（83～85）とクリの種実，SP796の縄文土器（79）がある。

９号掘立柱建物（SB９，第18図，図版14～16）

Ｄ地区の東，SB７～９の北西に位置する。北西側が圃場整備の際に削平されているが，３基の柱穴を確認し，桁行１間以上，梁行１間と考えた。主軸はＮ－87°－Ｅである。柱穴の平面形は全て円形で，規模は長さ0.51～0.66ｍ，深さ0.47～0.52ｍを測る。柱間距離は桁行が2.50ｍ，梁行が1.76ｍを測る。

出土遺物はSP764の縄文土器（86）がある。

（３）土坑墓

201号土坑墓（SK201，第22図，図版18）

Ｃ地区西端に位置し，北西側の一部が調査区外にかかる。平面形は楕円形で，長さ1.34ｍ，深さ0.42ｍを測る。長軸両端で掘形が崩れたような形状であり，本来は長軸1.1ｍ程度の規模であったと考えられる。幅は現状で0.66ｍを測るが，調査区外の北西部がもう少し広がる可能性が高い。掘形は南西部から南部が直角に近い角度で，北東部がやや斜めに掘り込み，底面は平滑に整える。副葬品はないが，規模や形状から土坑墓と判断した。

出土遺物は縄文土器の深鉢胴部片３点があるが，いずれも小片で，埋納品ではないと思われる。

203号土坑墓（SK203，第19図，図版２）

Ｃ地区西に位置する。副葬品はないが，規模や形状から土坑墓と判断したものである。西に隣接するSK204と一体である。SK204とは底面の高さに約0.2ｍの高低差があるため別遺構と判断できるが，土層の切り合いは不明瞭である。断面図をみると西側掘形から0.65ｍを測る位置から西部にかけて新しい掘り込みがあるが，これをSK203の掘り込みとすると完掘の平面形と齟齬が生じるため，SK203の上に更にもう一つの土坑が重複する可能性を考えたい。SK203の上面で自然石３点を検出したが，SK203に伴うものか，新しい掘り込みに伴うかは判然としない。大きな自然石を墓標として使用する事例も各地で報告されているが[注2]，仮にこの自然石がそのような役割を持っていたものとすると，当初から３点が置かれたのか，付近の土坑墓の再葬にあたって集められたものであるのかは不明である。SK203の平面形は円形に近く，南北の長さ1.15ｍ，深さ0.37ｍを測る。

出土遺物は縄文土器の深鉢胴部片１点があるが，小片であるため埋納品ではないと考える。

204号土坑墓（SK204，第19図，図版２）

Ｃ地区西に位置し，東に位置するSK203と一体である。北西部は調査区外にかかる。SK203とは底面の高さに約0.2ｍの高低差があるため別遺構と判断できるが，土層の切り合いは不明瞭である。北部から副葬品と考えられる縄文土器（87）が横に倒れた状態でほぼ完形で出土した。平面形が不整形であるため，遺構検出当初はSK203も含めて三つの遺構の重複と捉えたが，遺構掘削を進め，西側二つの遺構の底面が段差なく平滑であり，出土した縄文土器が広がりをもって埋まっていたことから，一つの遺構と判断した。規模は，SK203との境から調査区の際までの長さ1.31ｍ，南北の長さ1.06ｍ，深さ0.55ｍを測る。

副葬された縄文土器（87）は中期中葉の粗製深鉢であることから，当該期の土坑墓と考えられる。

207号土坑墓（SK207，第19図，図版２）

Ｃ地区西に位置し，南部は調査区外にかかる。平面形は楕円形で，東西の長さ0.85ｍ，深さ0.18ｍを測り，比較的小さく浅い土坑墓である。内部の長軸東寄りから副葬品と考えられる縄文土器（89・90）が出土した。このうち有孔鍔付土器（89）は遺物包含層出土破片と接合する。今回の調査で検

注２　阿部友寿　2015「配石墓・配石遺構における遺構更新の意義」『季刊考古学』第130号

出した土坑墓において，土坑墓の副葬品と他の地点から出土した破片が接合する事例は他にない。SK207が浅い造りであり，後世の攪乱を受けている可能性が考えられる。

出土遺物には縄文土器（88～90）がある。

208号土坑墓（SK208，第22図，図版18）

Ｃ地区西に位置し，SK203の北に隣接する。副葬品はないが，規模や形状から土坑墓と判断したものである。平面形は円形で，長さ0.99～1.13ｍ，深さ0.68ｍを測る。出土遺物はない。

218号土坑墓（SK218，第19図，図版２）

Ｃ地区西に位置し，北西部は調査区外にかかる。平面形は円形か楕円形で，南北の長さ1.20ｍ，深さ0.73ｍを測る。遺構を検出した当初は東側の一部を確認するにとどまったが，下層北寄りで縄文土器の比較的大きな破片が２点出土した（第19図ｂ断面，91）。この縄文土器が副葬品である可能性を考え，最終的に調査区を可能な限り広げて平面形を確認し掘削を進めたところ，内部北東寄りにおいて縄文土器が大小２個体出土した。

副葬された縄文土器（91・92）は押し潰された状態で出土した。いずれも中期中葉の粗製深鉢であることから，当該期の土坑墓と考えられる。

255号土坑墓（SK255，第20図，図版２）

Ｃ地区西に位置する。平面形は円形で，長さ0.98～1.11ｍ，深さ0.29ｍを測る。内部北西隅から副葬品と考えられる縄文土器（95）が倒立の状態で出土した。

副葬された縄文土器（95）は中期中葉の粗製深鉢であることから，当該期の土坑墓と考えられる。

258号土坑墓（SK258，第22図，図版18）

Ｃ地区北西に位置する。平面形は楕円形で，長さ1.49ｍ，幅1.28ｍ，深さ0.49ｍを測る。副葬品はないが，規模や形状から土坑墓と判断したものである。出土遺物はない。

260号土坑墓（SK260，第20図，図版３・17）

Ｃ地区西に位置する。平面形は楕円形で，長さ1.33ｍ，幅1.14ｍ，深さ0.46ｍを測る。内部南東隅から縄文土器（96），北寄りから石鏃（604）が出土した。縄文土器（96）は完形ではなく，底部および胴部の約半分を欠き，大きな破片数点に分かれている。倒立および横に倒れた状態で出土した。遺体の顔部あるいは一部を覆う土器被覆葬に用いられたものと考える。石鏃は底面の硬化した地山に貼り付くような状態で出土した。石鏃は遺構を完掘した際には発見できず，調査終盤において底面に広がるシミ状の地山を薄く削平した際に出土した。石鏃は無斑晶質安山岩製で灰色を呈し，長身で両面とも丁寧に剥離加工する。先端を欠損しており，埋納儀礼の存在がうかがえる。

副葬された縄文土器は中期中葉の深鉢であることから，当該期の土坑墓と考えられる。

261号土坑墓（SK261，第20図，図版３）

Ｃ地区北西に位置する。平面形はややいびつな円形で，長さ0.95～1.07ｍ，深さ0.12ｍを測る。内部南東隅から縄文土器（98）が破片で出土した。おそらく副葬品と考えられるが，遺存状態はあまり良くない。土坑の深さが浅いため，SK207と同様に後世の攪乱を受けている可能性がある。

副葬された縄文土器（98）は中期中葉の深鉢であることから，当該期の土坑墓と考えられる。

265号土坑墓（SK265，第21図，図版３）

Ｃ地区北西に位置する。平面形は円形で，長さ1.01～1.13ｍ，深さ0.26ｍを測る。内部南隅から縄文土器（97）と擦石（635）が出土した。いずれも副葬品と考えられる。副葬された縄文土器（97）は中期中葉の粗製深鉢であることから，当該期の土坑墓と考えられる。

266号土坑墓（SK266，第20図，図版３）

Ｃ地区北西に位置する。平面形はややいびつな楕円形で，長さ1.03ｍ，幅0.7ｍ，深さ0.15ｍを測る。内部西隅から副葬品と考えられる縄文土器（99）が出土した。おそらく一個体と考えられるが遺存状態があまり良好ではない。浅いため後世の攪乱を受けている可能性が考えられる。

副葬された縄文土器（99）は中期中葉の深鉢であることから，当該期の土坑墓と考えられる。

305号土坑墓（SK305，第22図）

Ｃ地区北西に位置する。SB１範囲内にわずかにかかる。東西端に小穴があるが平面形は楕円形とみられ，長さ1.55m，幅0.96ｍ，深さ0.52mを測る。

出土遺物は縄文土器の深鉢口縁部片と胴部片があるが，小片であるため埋納品ではないと思われる。

390号土坑墓（SK390，第21図，図版３・17）

Ｃ地区北西，他の土坑墓群からは北東に離れて位置する。SB４・５範囲内にあり，北西には埋設土器が出土したSK391が隣接する。平面形は楕円形で，長さ1.26ｍ，幅0.99m，深さ0.41mを測る。内部北東隅から縄文土器深鉢（101），有孔鍔付土器（100）が出土した。縄文土器深鉢は口縁部から胴部にかけてはほぼ完形であるが，底部のみを欠く。大きな破片が倒立および横に倒れた状態で出土しており，SK260の深鉢（96）と共通点が多い。SK260と同様に遺体の顔部あるいは一部を覆う土器被覆葬に用いられたものと考える。有孔鍔付土器は正位で出土した。ほぼ完形であり，埋納されたと考える。また遺構の南半分を掘削した際，中層付近から琥珀製の玉（601）が出土し，副葬された可能性がある。

出土した縄文土器（101～103）と有孔鍔付土器（100）は中期前葉もしくは中期中葉でも古段階にあたり，他の土坑墓群よりは古い段階のものと考える。

（４）埋設土器

225号埋設土器（SK225，第21図，図版２）

Ｃ地区西に位置する。平面形は不整形で，掘形規模は長さ0.61m，幅0.61m，深さ0.29mを測る。縄文土器（93）は掘形北西部で正位に据えられた状態で出土した。他に縄文土器（94）が出土している。

391号埋設土器（SK391，第21図，図版３）

Ｃ地区北西，土坑墓SK390の西に位置する。平面形は円形で，掘形規模は長さ0.32～0.37m，深さ0.37ｍを測る。縄文土器（106）は掘形西寄りで正位に据えられた状態で出土した。

810号埋設土器（SK810，第21図，図版３）

Ｄ地区の東に位置する。平面形は円形で，掘形規模は長さ0.36～0.38m，深さ0.06mを測る。縄文土器は掘形中央部で正位に据えられた状態で検出したが，胴部のみであり，口縁部と底部を欠く。

（朝田亜紀子）

（５）土　坑

５号土坑（SK５，第12図）

Ａ地区SI４の内部に位置し，地床炉の南端に重複している。平面形は円形を呈し，長さ0.78ｍ，幅0.76ｍ，深さ0.35ｍを測る。出土遺物には縄文土器（109・110），磨製石斧未成品（615）があるが，SI４のものが二次的に混入した可能性もあり，SK５自体の時期は判然としない。

58号土坑（SK58，第23図）

Ａ地区北側，標高236.5ｍの傾斜地に位置する。掘形東側の掘り込みはほぼ垂直で，平面形は円形を呈し，径1.05ｍ，深さ0.25ｍを測る。出土遺物は縄文土器がある。

59・60号土坑（SK59・60，第23図，図版18）

Ａ地区北端，標高236.5ｍの傾斜地に位置する。SK59は北部分が調査区外となるが，平面形は円形と推定する。掘形の東側は地形の段に沿ってほぼ垂直に掘り下げられ，底面にかけて直角に屈曲し，底面は水平で，西は削平により掘り込みが確認できない。底部南寄りにSK60を検出した。長さ0.3ｍ，幅0.22ｍ，深さ0.33ｍを測り，平面形は楕円形を呈する。出土遺物はない。

253号土坑（SK253，第23図）

Ｃ地区北西に位置する。長さ0.92ｍ，幅0.65ｍ，深さ0.26ｍを測り，平面形は楕円形を呈する。出土遺物は縄文土器（111）がある。

278号土坑（SK278，第23図）

Ｃ地区SB３の南に位置し，平面形は不整形を呈する。出土遺物は縄文土器（112）がある。

282号土坑（SK282，第23図）

Ｃ地区SB３の内部に位置し，平面形は円形を呈する。出土遺物は縄文土器（113）がある。

304号土坑（SK304，第23図）

Ｃ地区SB１の内部に位置し，平面形は楕円形を呈する。出土遺物はない。

319号土坑（SK319，第23図）

Ｃ地区SB１・２の内部に位置し，平面形は楕円形を呈する。出土遺物は縄文土器（105）がある。

364号土坑（SK364，第23図）

Ｃ地区SB４・５の東に位置し，平面形は円形を呈する。出土遺物は縄文土器（114）がある。

403号土坑（SK403，第23図）

Ｃ地区SB１・２の東に位置し，平面形は円形を呈する。出土遺物は縄文土器（115）がある。

422号土坑（SK422，第23図）

Ｃ地区SB１・２の北東に位置し，平面形は不整形を呈する。出土遺物は縄文土器がある。

448号土坑（SK448，第23図）

Ｃ地区SB４・５の北に位置し，平面形は楕円形を呈する。出土遺物は縄文土器（116）がある。

495号土坑（SK495，第23図）

Ｃ地区の南に位置する。長さ0.96ｍ，幅0.52ｍ，深さ0.21ｍを測り，平面形は不整形を呈する。出土遺物は縄文土器（117～119）がある。

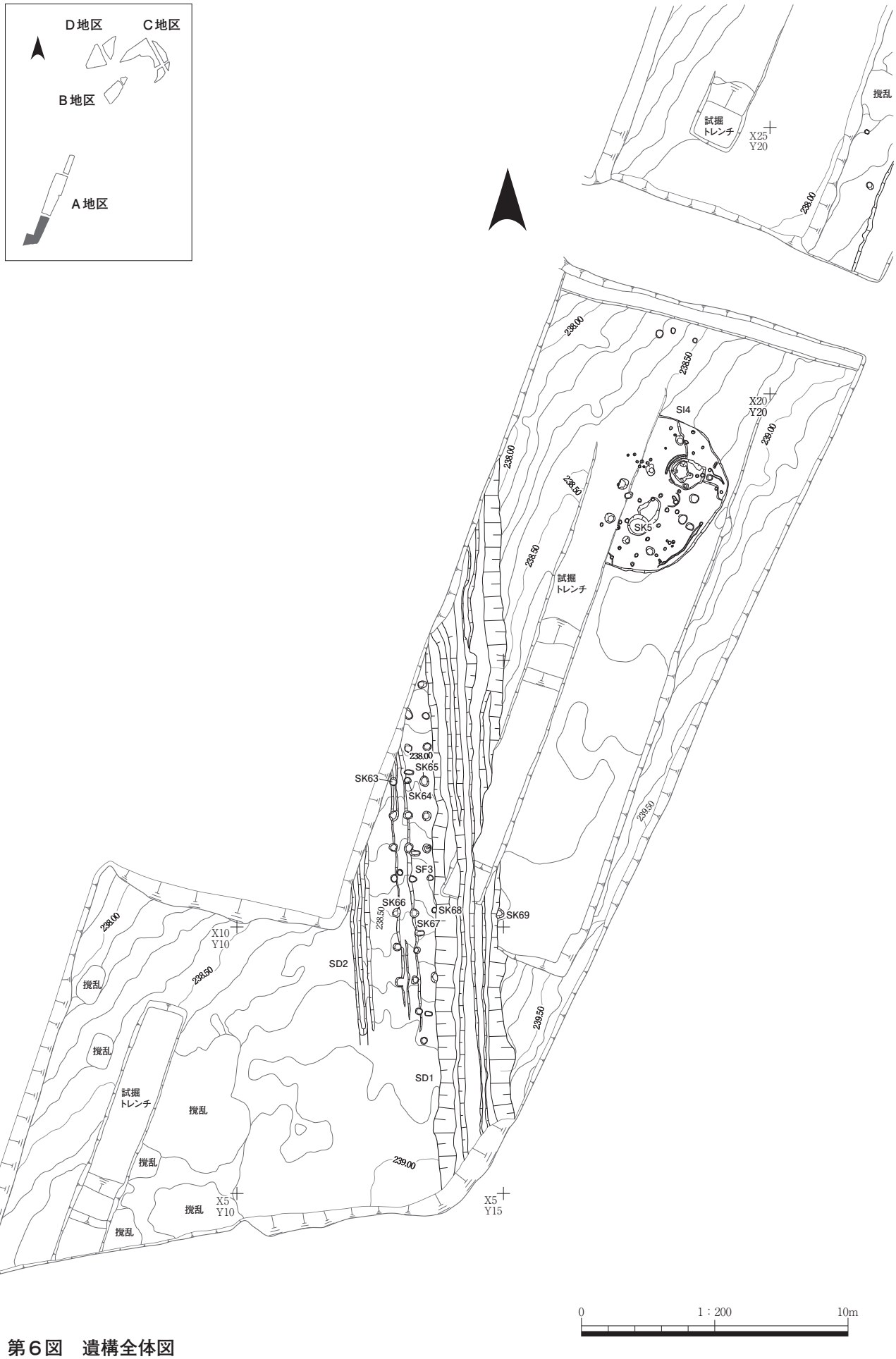
496号土坑（SK496，第23図，図版18）

Ｃ地区の南に位置し，平面形は楕円形を呈する。出土遺物は縄文土器（120・121）がある。

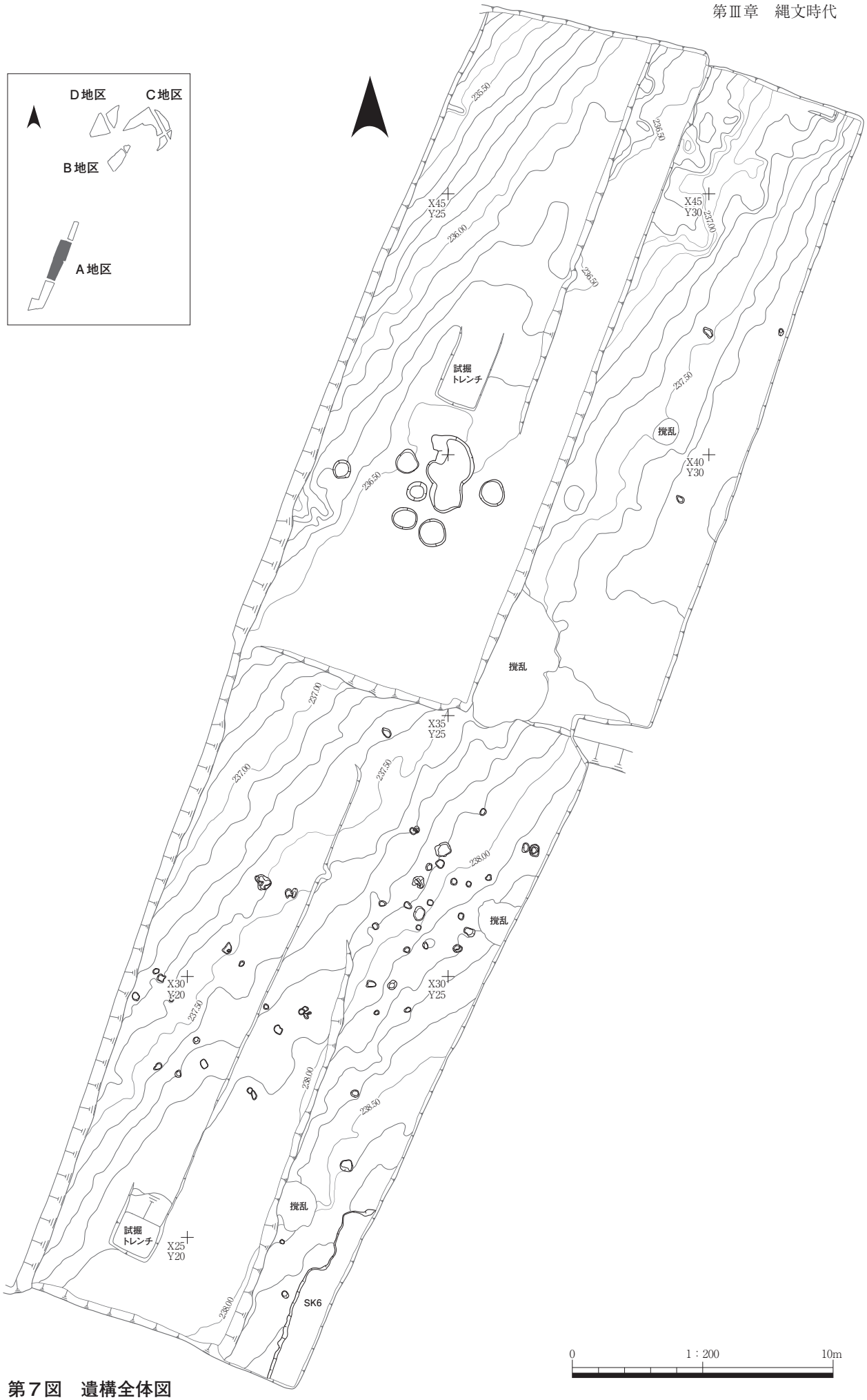
705号土坑（SK705，第23図，図版18）

Ｄ地区SB７の南に位置し，平面形は楕円形を呈する。出土遺物は縄文土器（124）がある。

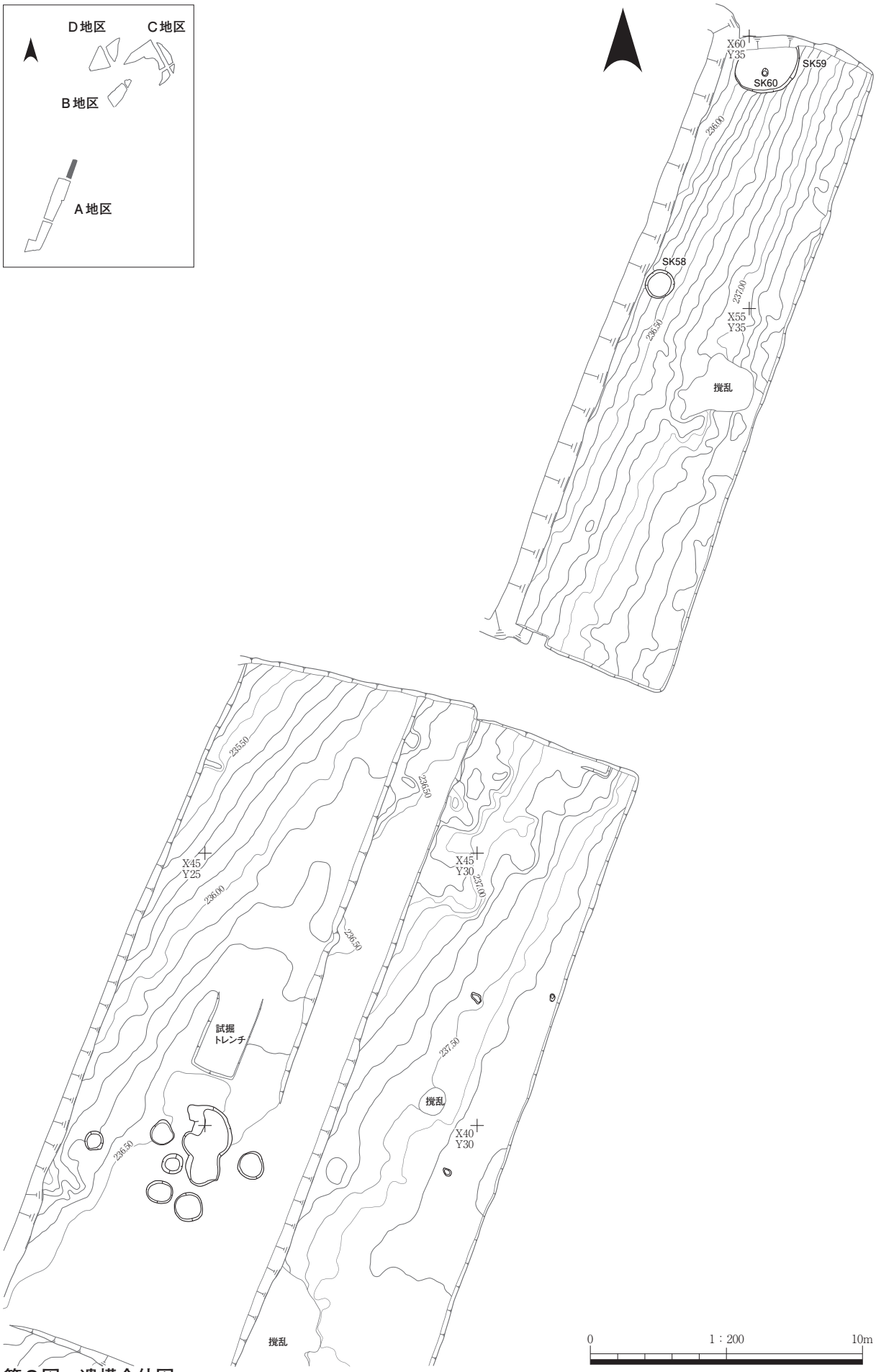
（田中道子）



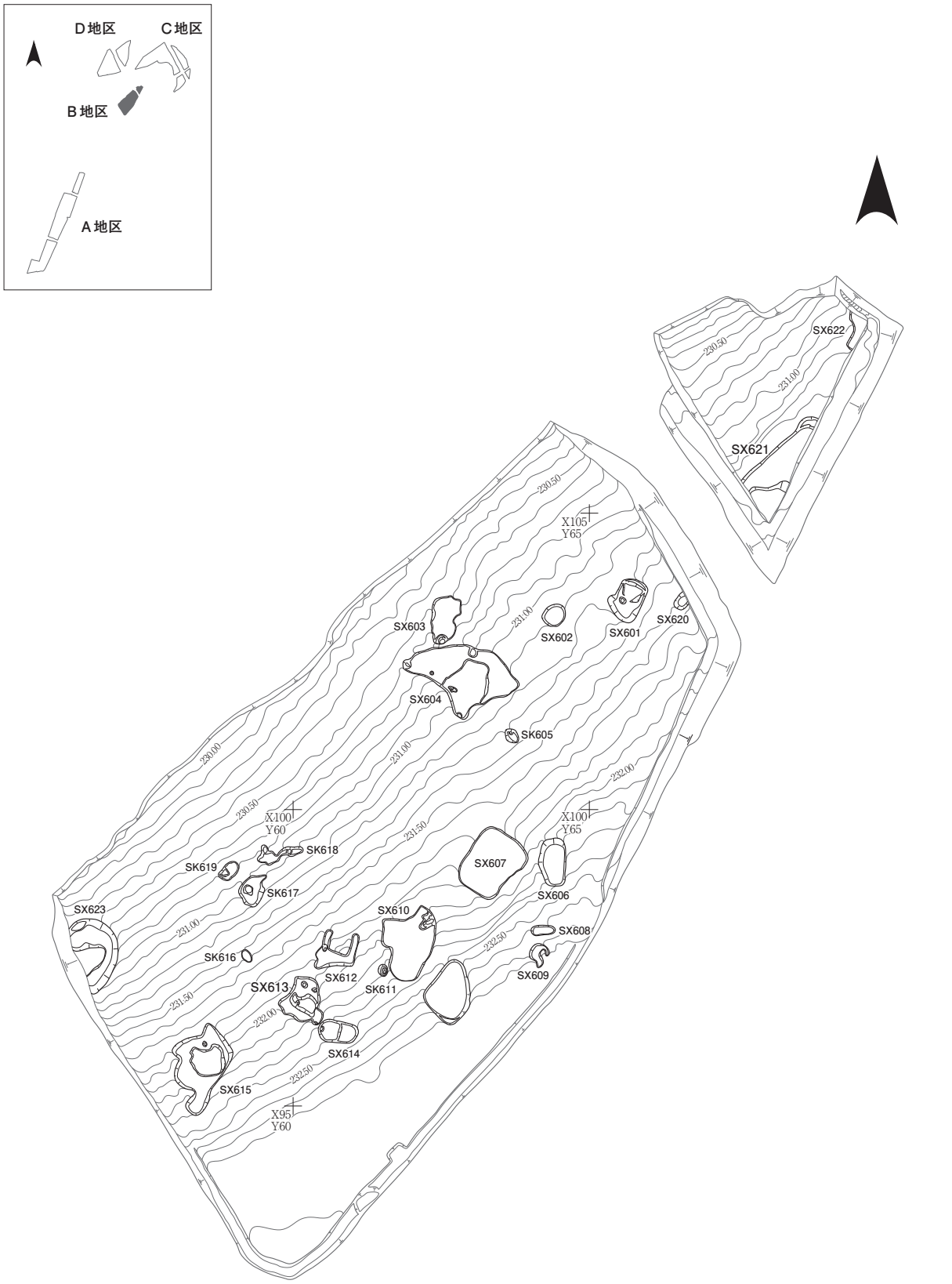
第６図　遺構全体図
Ａ地区(1)



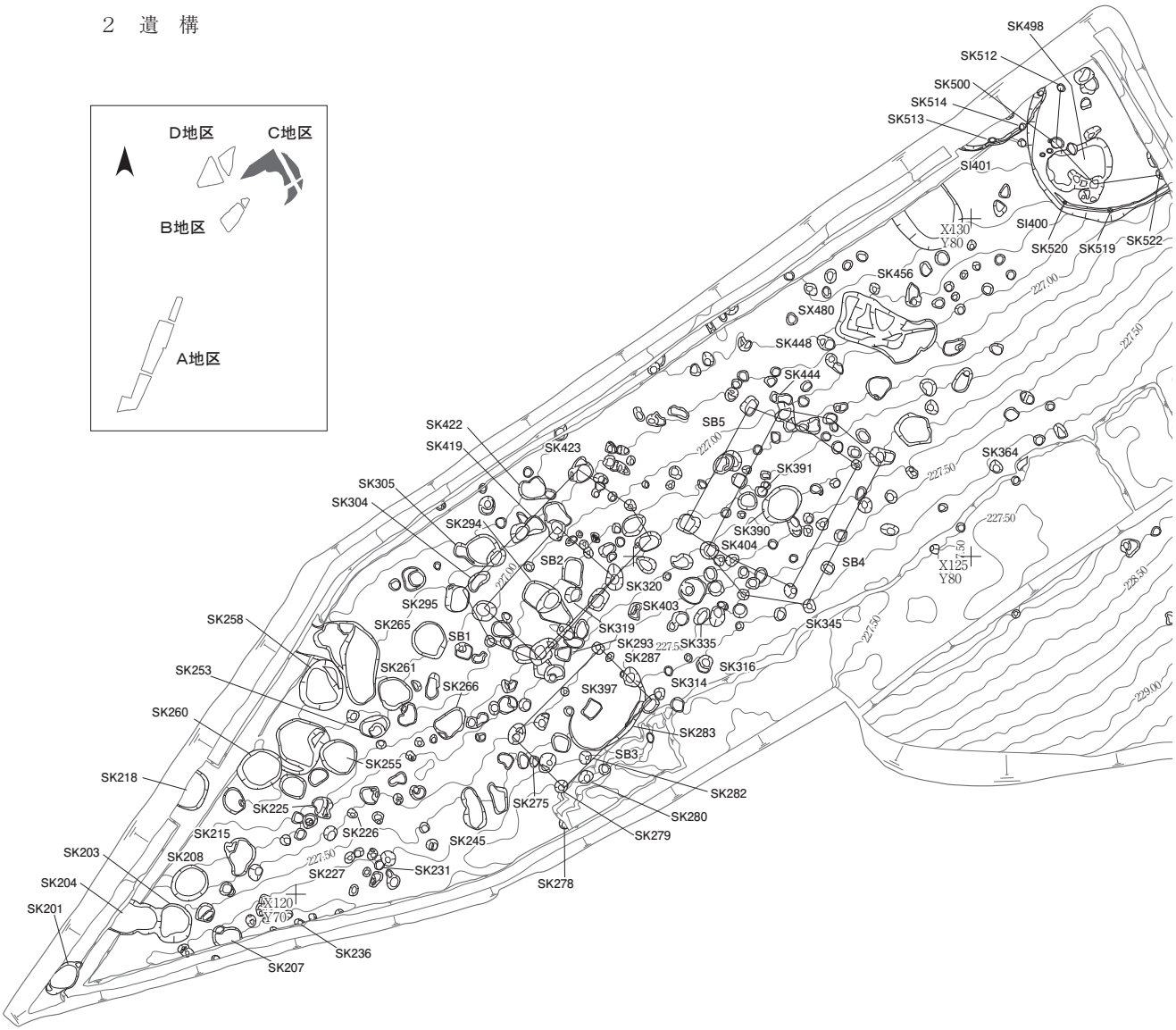
第７図　遺構全体図
Ａ地区(2)



第８図　遺構全体図
A地区(3)



第９図　遺構全体図
Ｂ地区



第10図　遺構全体図

C地区

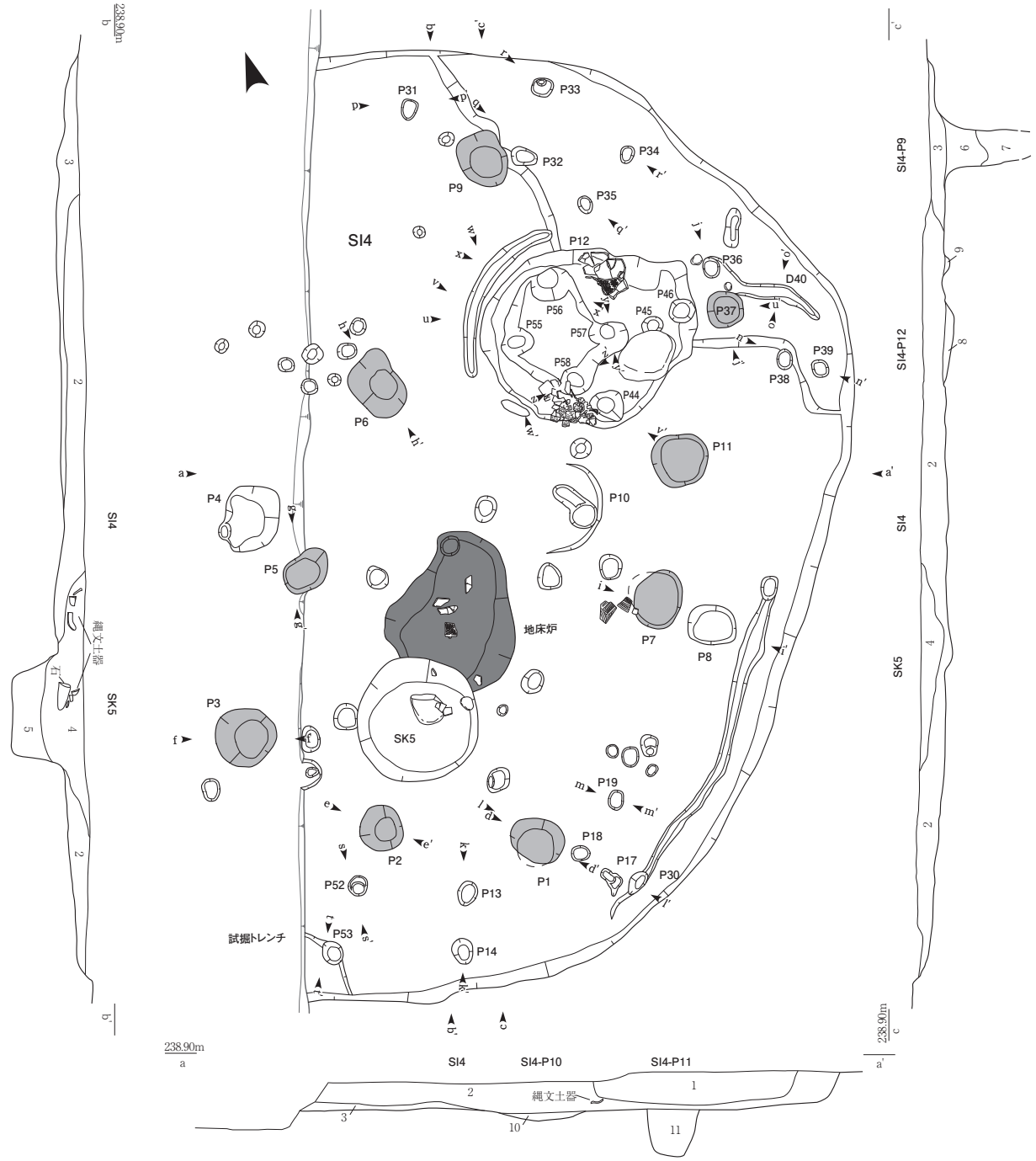
228.00
229.00
229.50
230.00
SX493
X125
Y90
X125
Y85
SX490
SX491
231.00
231.50
231.50
231.50
231.50
X120
Y95
231.00
231.50
SX516
232.00
232.50
X115
Y95
SK495
SK496
233.00
X110
Y90
233.50
0
1：200
10m

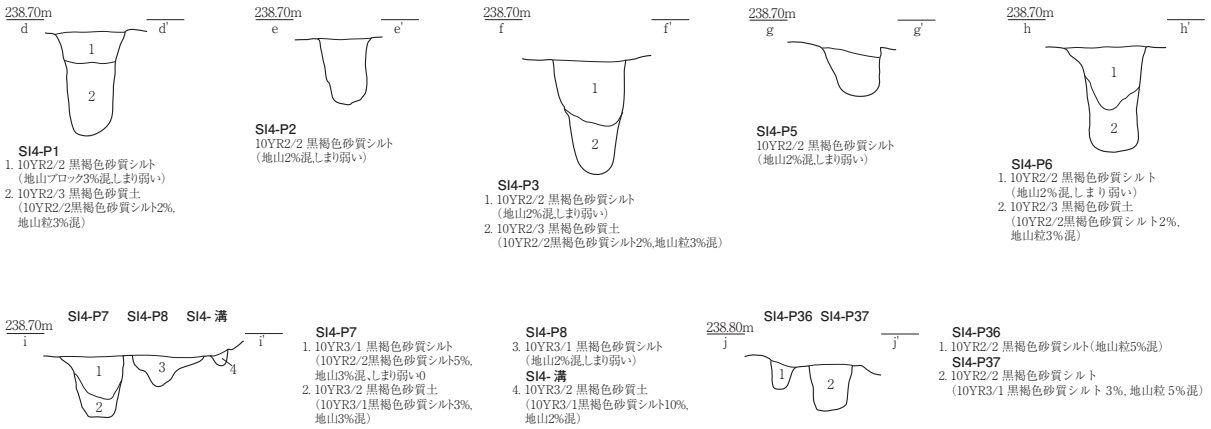
0　1：200　10m

第11図　遺構全体図
D地区

第６表　竪穴建物一覧

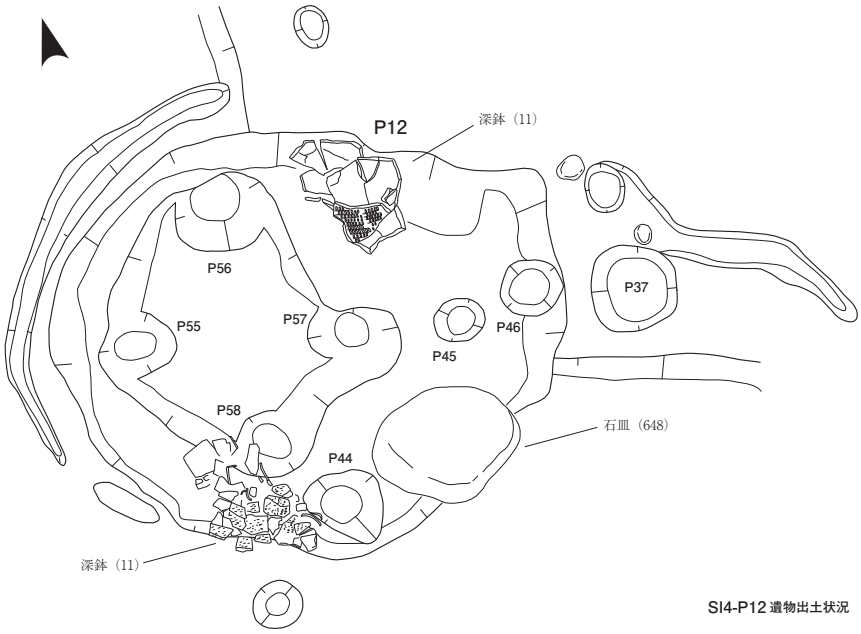
遺構番号		種類	平面形	長 (m)	幅 (m)	深 (m)	出土遺物	切り合い	特記事項	挿図	図版
SI4	SI4	竪穴建物	楕円	6.10	(4.30)		縄文土器(1～18),擦石(633･634･640),剥片(605･606),石皿(648)	<SK5		12	10
	SI4-P1	主柱穴	楕円	0.37	0.28	0.55					11
	SI4-P2	主柱穴	円	0.29	0.29	0.35					11
	SI4-P3	主柱穴	円	0.40	0.38	0.61					
	SI4-P4		楕円	0.40	0.35	0.14					
	SI4-P5	主柱穴	楕円	0.32	0.30	0.26					
	SI4-P6	主柱穴	楕円	0.44	0.30	0.56					
	SI4-P7	主柱穴	楕円	0.38	0.34	0.33					
	SI4-P8		楕円	0.37	0.23	0.17					11
	SI4-P9	主柱穴	楕円	0.37	0.29	(0.50)	擦石(640)				11
	SI4-P10		不整形	0.54	(0.30)	0.20					
	SI4-P11	主柱穴	楕円	0.35	0.35	0.35					11
	SI4-P12		楕円	1.23	1.08	0.53	石皿(648)				10･11
	SI4-P13		楕円	0.15	0.11	0.14					
	SI4-P14		楕円	0.17	0.12	0.16					
	SI4-P15		楕円	0.17	0.13	0.12					
	SI4-P16		楕円	0.16	0.13	0.17					
	SI4-P17		不整形	0.13	0.10	0.12					
	SI4-P18		楕円	0.10	0.10	0.14					
	SI4-P19		楕円	0.12	0.10	0.20					
	SI4-P20		楕円	0.07	0.06	0.06					
	SI4-P21		楕円	0.12	0.10	0.11					
	SI4-P22		楕円	0.09	0.07	0.03					
	SI4-P23		楕円	0.14	0.09	0.09					
	SI4-P24		円	0.17	0.16	0.15					
	SI4-P25		楕円	0.17	0.11	0.25					
	SI4-P26		楕円	0.13	0.11	0.08					
	SI4-P27		楕円	0.16	0.14	0.11					
	SI4-P28		円	0.15	0.14	0.10					
	SI4-P29		円	0.08	0.07	0.09					
	SI4-P30		楕円	0.18	0.16	0.27					
	SI4-P31		楕円	0.13	0.10	0.24					
	SI4-P32		楕円	0.16	0.10	0.17					
	SI4-P33		楕円	0.15	0.11	0.09					
	SI4-P34		楕円	0.11	0.09	0.13					
	SI4-P35		楕円	0.13	0.09	0.15					
	SI4-P36		楕円	0.13	0.10	0.15					
	SI4-P37	主柱穴	円	0.23	0.22	0.23					
	SI4-P38		楕円	0.12	0.10	0.14					
	SI4-P39		楕円	0.13	0.11	0.19					
	SI4-P40		楕円	0.10		0.05					
	SI4-P41		楕円	0.14	0.11	0.08					
	SI4-P42		楕円	0.15	(0.12)	0.07					
	SI4-P43		楕円	0.16	0.14	0.28		<SK5			
	SI4-P44		楕円	(0.22)	(0.16)	(0.28)					
	SI4-P45		楕円	(0.16)	(0.10)	(0.42)					
	SI4-P46		楕円	(0.14)	(0.14)	(0.24)					
	SI4-P47		円	0.11	0.10	0.06					
	SI4-P48		楕円	0.12	0.10	0.11					
	SI4-P49		楕円	0.12	0.09	0.11					
	SI4-P50		円	0.10	0.10	0.18					
	SI4-P51		円	0.10	0.10	0.13					
	SI4-P52		円	0.15	0.12	0.15					
	SI4-P53		円	0.13	0.12	0.11					
	SI4-P54		楕円	0.14	0.11	0.23					
	SI4-P55		楕円	(0.28)	(0.22)	(0.46)					
	SI4-P56		楕円	(0.27)	(0.26)	(0.49)					
	SI4-P57		楕円	(0.27)	(0.23)	(0.48)					
	SI4-P58		楕円	(0.37)	(0.17)	(0.48)					
	SI4-P59		楕円	0.25	0.25	0.14					
	SI4-P60		楕円	0.20	0.20	0.10					
	SI4-P61		楕円	0.18	0.16	0.10					
	SI4-P62		楕円	0.15	0.14	0.06					
	SI4-P63		楕円	0.26	0.25	0.24					
	SI4-P64		楕円	0.20	0.17	0.07					
SI400	SI400	竪穴建物	楕円	(4.51)	(3.26)	0.81	縄文土器(19～73),磨製石斧(619･620),石皿(647･649～651),擦石(636･637),二次加工剥片(610),剥片(611),炭化材	>SI401		13･14	2･14
	SI400-P1	主柱穴	楕円	0.52	0.43	0.40					
	SI400-P2	主柱穴	楕円	0.38	0.33	0.55	縄文土器				
	SI400-P3	主柱穴	楕円	0.52	(0.45)	0.46					
	SI400-P4	主柱穴	楕円	0.33	(0.17)	0.22					
	SI400-P5	柱穴	円	0.11	0.10	0.08					
	SI400-P6	柱穴	円	0.15	0.12	0.27					
	SI400-K1	貯蔵穴	楕円	1.97	1.23	0.41					
SI401	SI401	竪穴建物	楕円	(3.09)	(0.58)	0.45	縄文土器(74～76),擦石(638･639)	<SI400			2･14
	SI401-P1	柱穴	楕円	0.23	0.14	0.22					
	SI401-P2	柱穴	円	0.23	0.20	0.32					
	SI401-P3	柱穴	円	0.27	0.19	0.34					



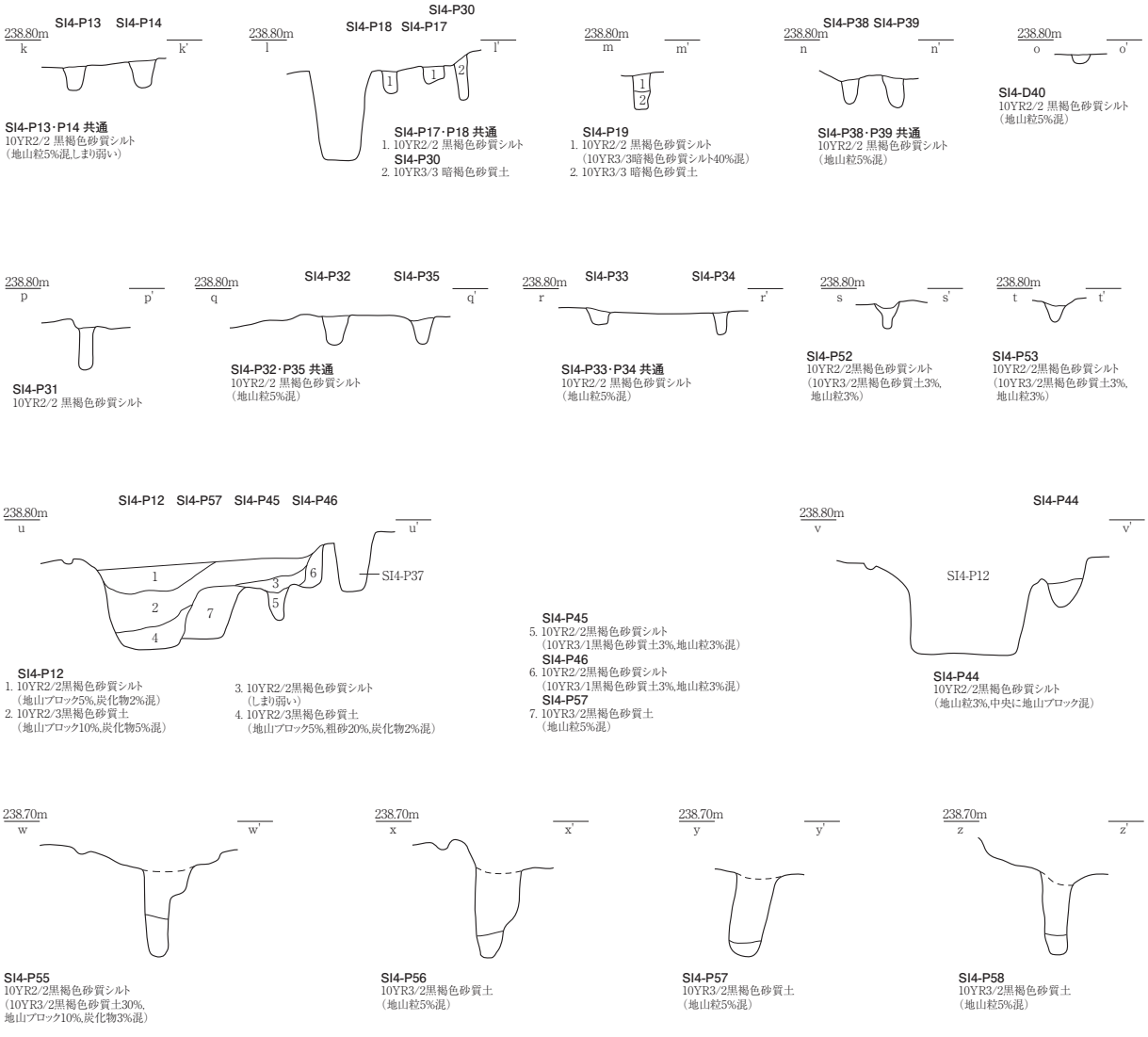


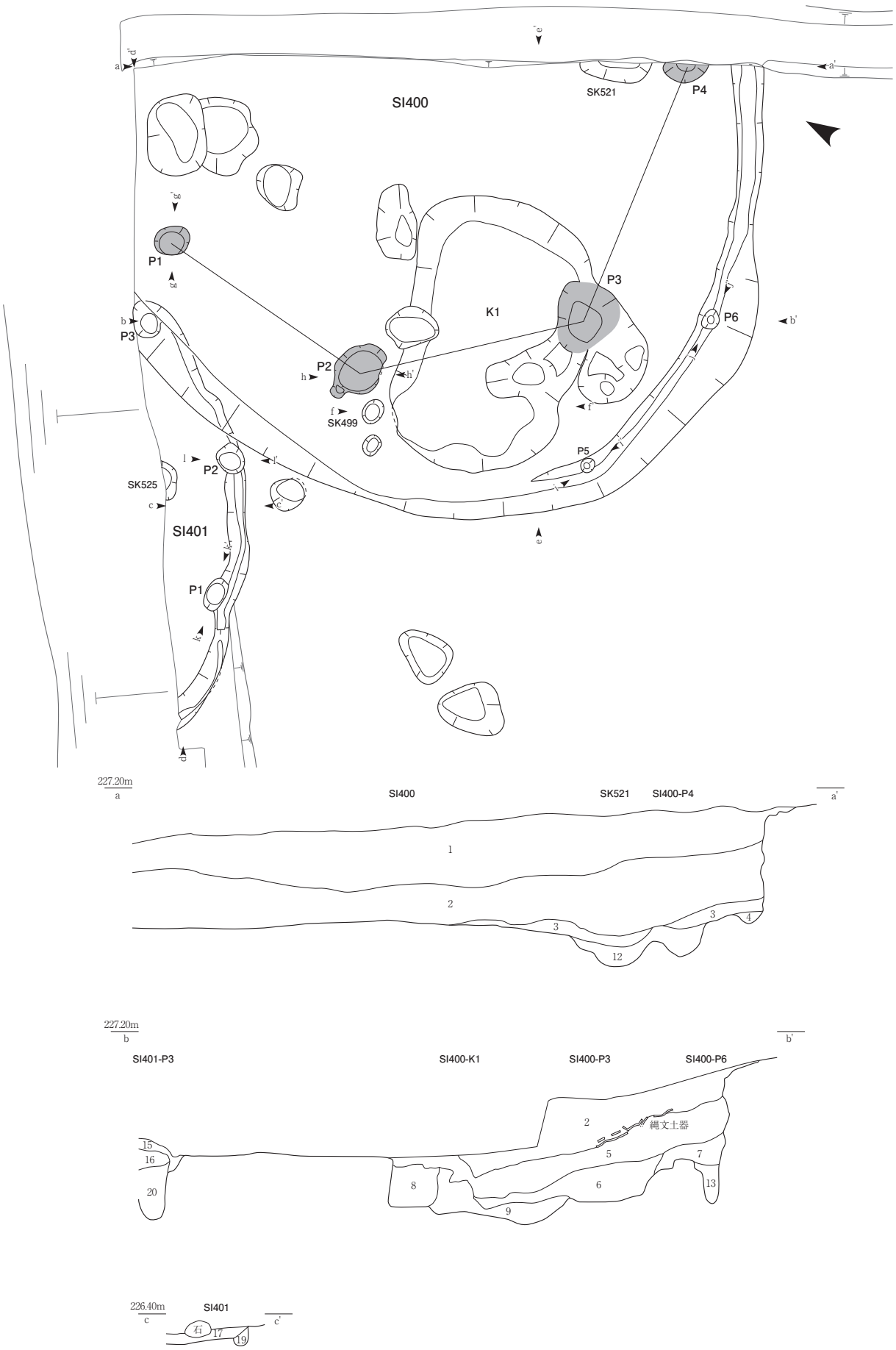
第12図　縄文時代遺構実測図
SI4

SI4
1. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト
（1～3cm大地山ブロック7%,
地山粒7%混,しまり弱い）
2. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト
（地山ブロック2%,地山粒5%混,
しまり弱い）
3. 10YR2/1 黒褐色砂質シルト
（地山粒2%混,しまり弱い）
SK5
4. 10YR2/1 黒褐色砂質シルト
（地山ブロック5%,炭化物粒5%混）
5. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト
（10YR2/3黒褐色砂質土20%,
地山ブロック10%混）
SI4-P9
6. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト
（地山ブロック2%混,しまり弱い）
7. 10YR2/3 黒褐色砂質土
（10YR2/2黒褐色砂質シルト5%,
地山ブロック5%混）
SI4-P12
8. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト
（地山ブロック5%混,
炭化物2%混）
SI4-溝
9. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト
（地山粒5%混）
SI4-P10
10. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト
（地山粒2%,炭化物2%混）
SI4-P11
11. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト
（地山2%混,しまり弱い）

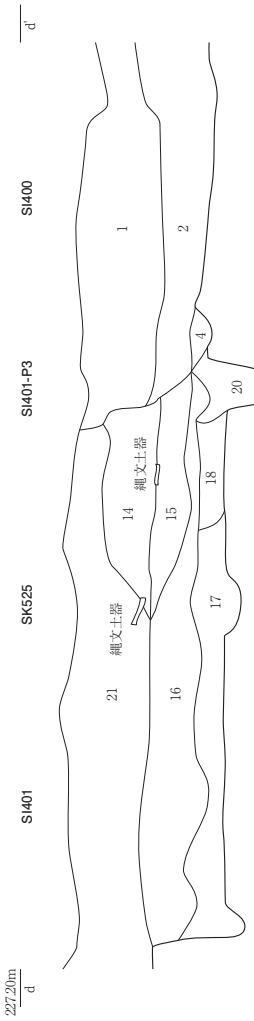


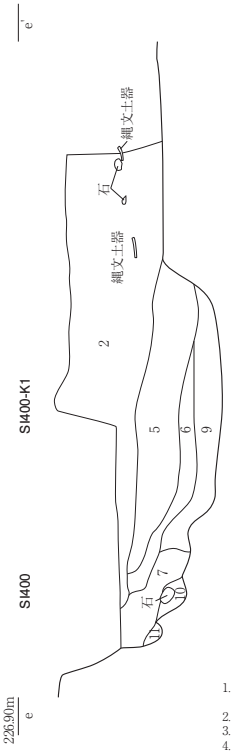
SI4-P12 遺物出土状況





第13図　縄文時代遺構実測図
SI400　SI401





SI400・SI400-K1・SI400-P3

1. 10YR3/2黒褐色砂質シルト
（地山φ1～3cmブロック状に10%,炭化物混, 固くしまる）
2. 10YR2/2黒褐色砂質シルト(炭化物混,しまりやや弱い)
3. 10YR3/2黒褐色砂質シルト(地山30%混)
4. 10YR2/1黒色粘土質シルト(地山10%混):壁際溝
5. 10YR2/1黒色粗砂(炭化物3%混,しまり弱い):K1
6. 10YR2/1黒色粗砂(炭化物1%混,しまり弱い):K1-P3
7. 10YR2/2黒褐色粗砂(地山φ5mm1%,炭化物1%混):K1
8. 10YR2/1黒色粗砂(地山φ1～2cmブロック状に5%混):K1
9. 10YR2/1黒色粗砂(地山φ1～2cmブロック状に3%混):K1,f断面の1に同じ
10. 10YR2/2黒褐色砂質シルト(地山φ0.5～1cm3%混)
11. 10YR2/2黒褐色粗砂(地山φ0.5～1cm3%混):壁際溝

SK521・SI400-P4

12. 10YR3/2黒褐色砂質シルト(地山斑状に50%混)

SI400-P6

13. 10YR2/2黒褐色粗砂(地山φ0.5～1cm3%,炭化物1%混)

SI401

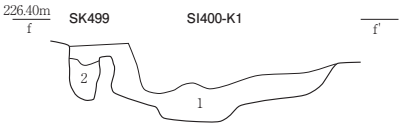
14. 10YR2/1黒色粘土質シルト
（地山ブロック状に20%,炭化物混,しまりやや弱い）
15. 10YR2/2黒褐色砂質シルト
（10YR6/2 灰黄褐色粗砂40%,炭化物混, 固くしまる）
16. 10YR3/1黒褐色砂質シルト
（地山φ2～5cmブロック状に30%,炭化物混,固くしまる）
17. 10YR1.7/1黒色粘土質シルト
（地山φ1cmブロック状に10%,炭化物混,しまり弱い）
18. 10YR2/1黒色粘土質シルト
（地山φ1cmブロック状に10%,炭化物混,固くしまる）
19. 10YR2/2黒褐色粗砂
（地山φ0.5～1cm1%混):壁際溝

SI401-P3

20. 10YR1.7/1黒色粘土質シルト
（地山φ1cmブロック状に10%,炭化物混,しまり弱い）

縄文時代遺物包含層

21. 10YR2/2黒褐色粘土質シルト(しまり弱い):Ⅱb層

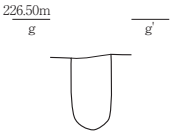


SI400-K1

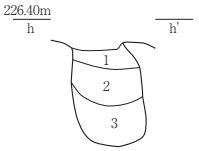
1. 10YR2/1黒色粗砂(地山φ1～2cmブロック状に3%混):e断面の9に同じ

SK499

2. 10YR2/2黒褐色粗砂(地山φ0.5～1cm3%,炭化物1%混)

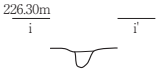


SI400-P1
10YR2/1黒色粗砂
（地山φ0.5～1cm1%,炭化物1%混,
しまりやや弱い）

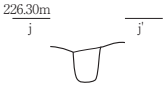


SI400-P2

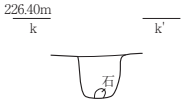
1. 7.5Y2/1黒色砂質シルト
（炭化物混,しまり弱い）
2. 7.5Y2/1黒色砂質シルト
（地山φ0.5～1cmブロック状に1%,炭化物混,
しまり弱い）
3. 7.5Y2/1黒色砂質シルト
（地山,炭化物混,しまり弱い）



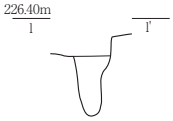
SI400-P5
10YR2/2黒褐色粗砂
（地山φ0.5～1cm3%,炭化物1%混）



SI400-P6
10YR2/2黒褐色粗砂
（地山φ0.5～1cm3%,炭化物1%混）



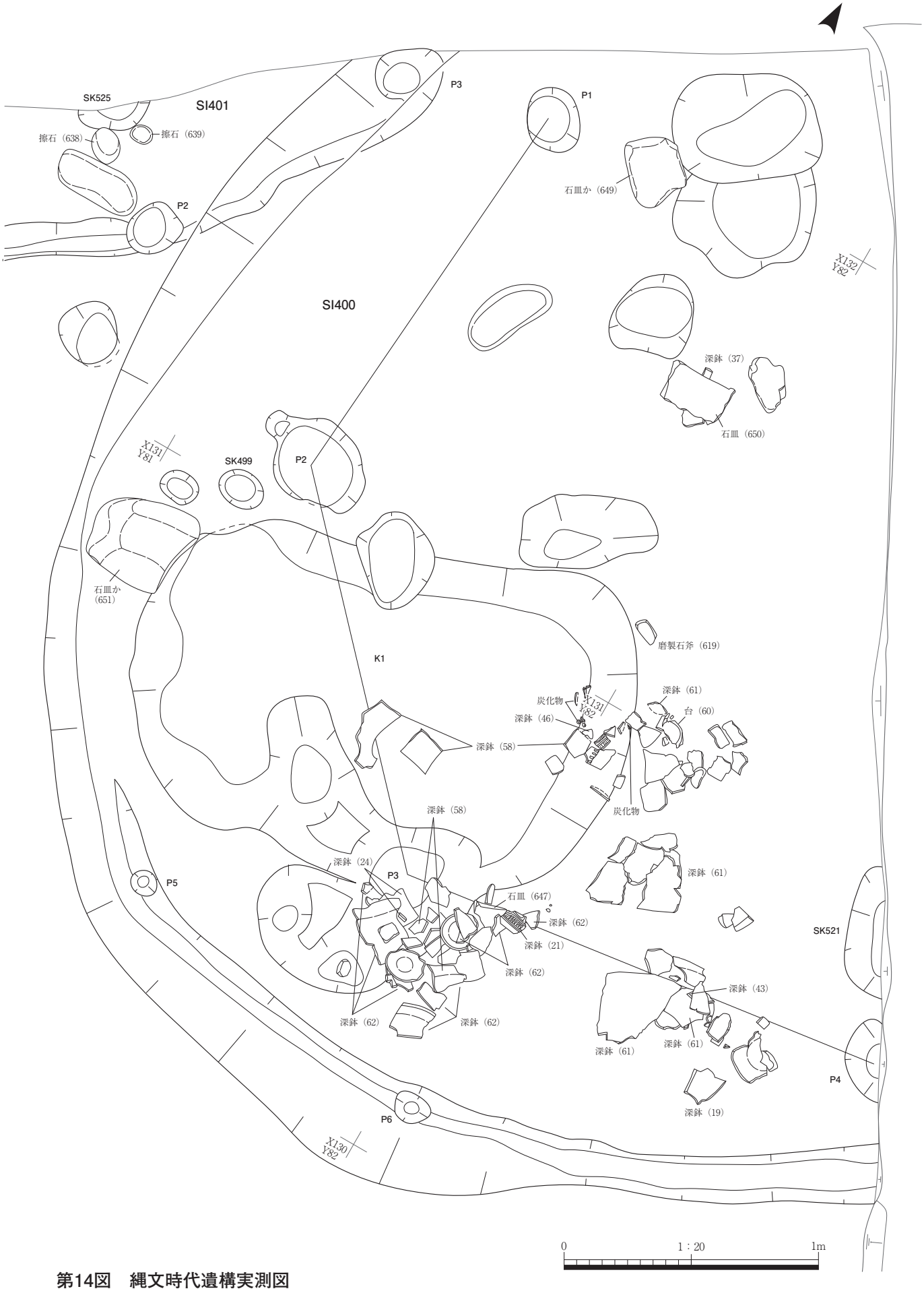
SI401-P1
10YR2/1黒色粗砂
（地山φ0.5～1cm1%,炭化物1%混,
しまりやや弱い）



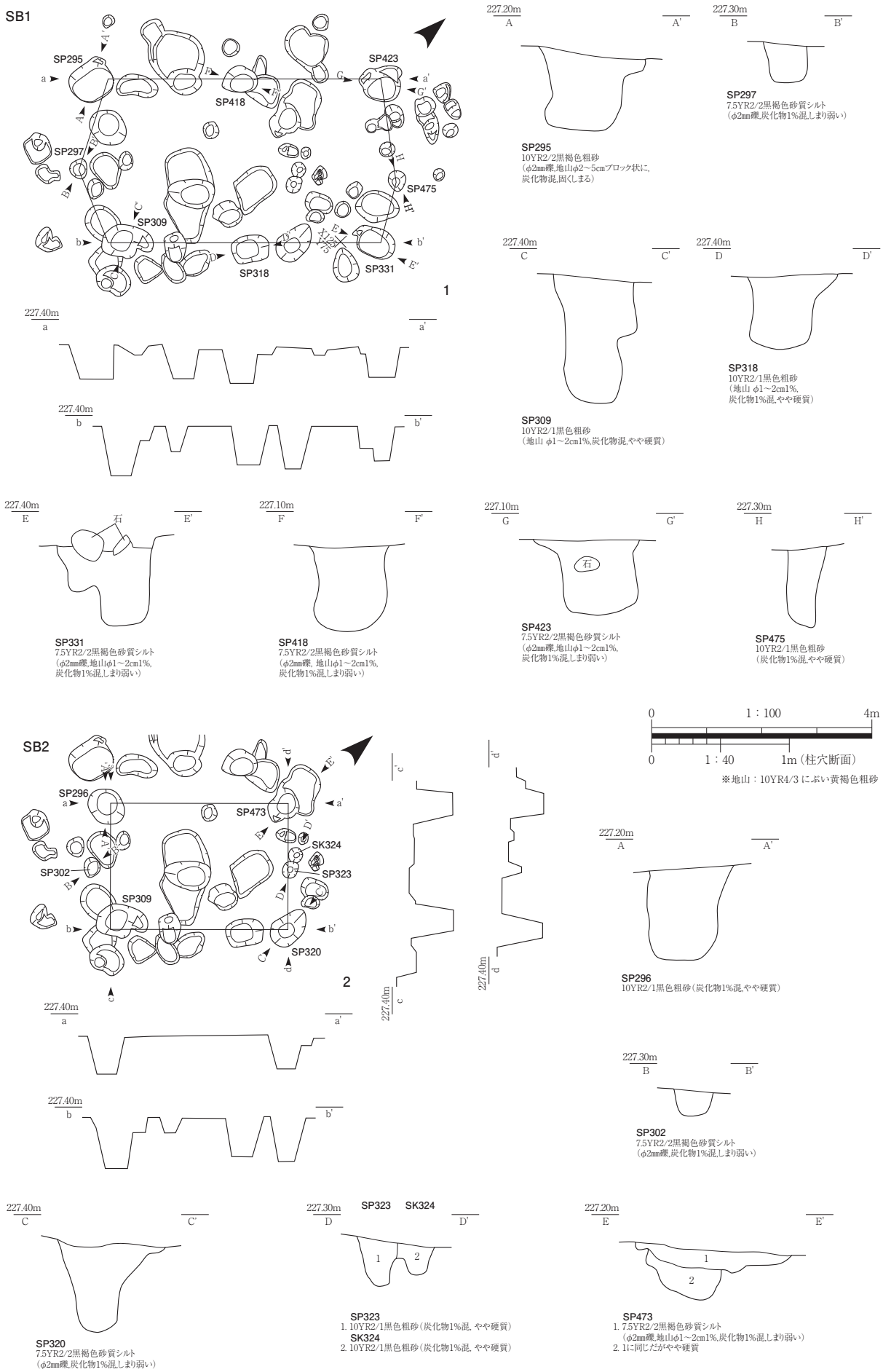
SI401-P2
10YR2/1黒色粗砂
（地山φ0.5～1cm1%,炭化物1%混,
しまりやや弱い）

0　1：40　2m

※地山：10YR5/2 灰黄褐色粗砂

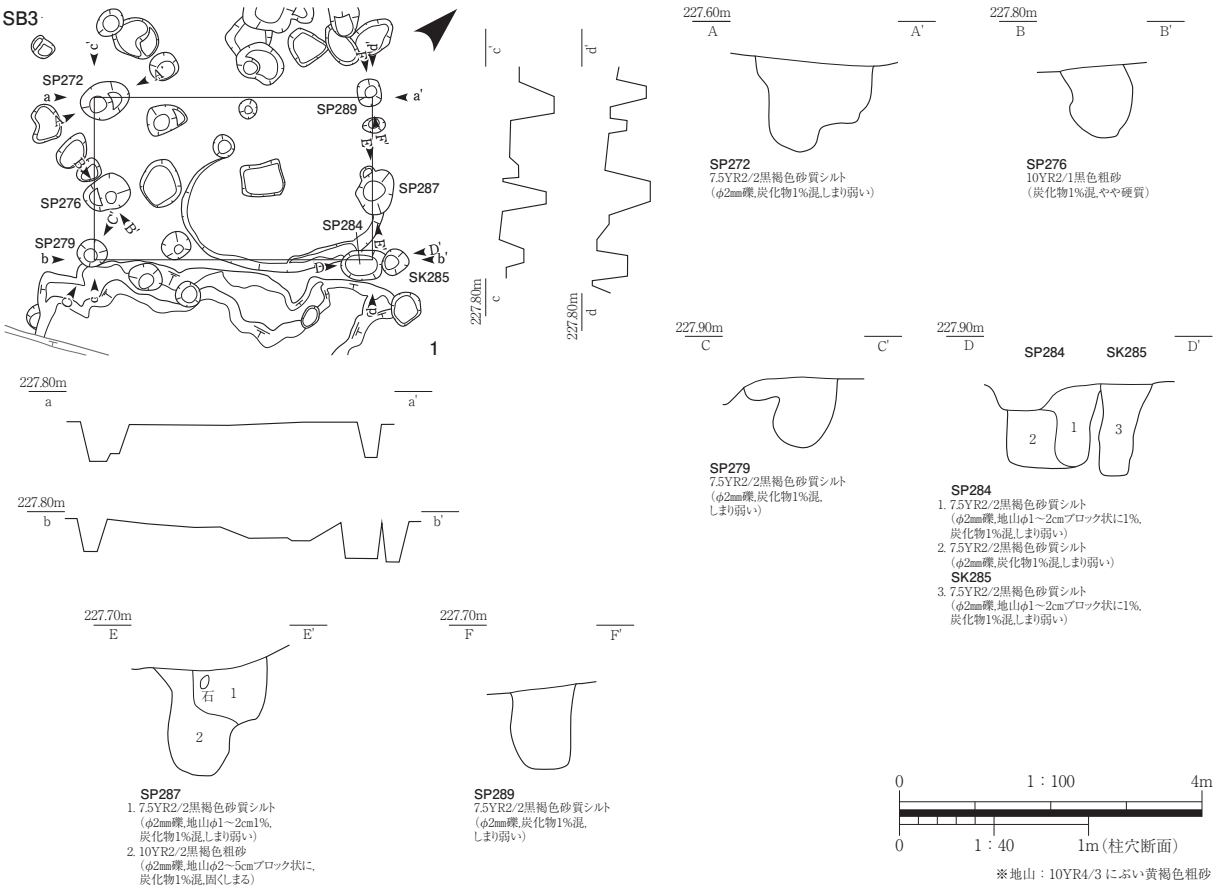


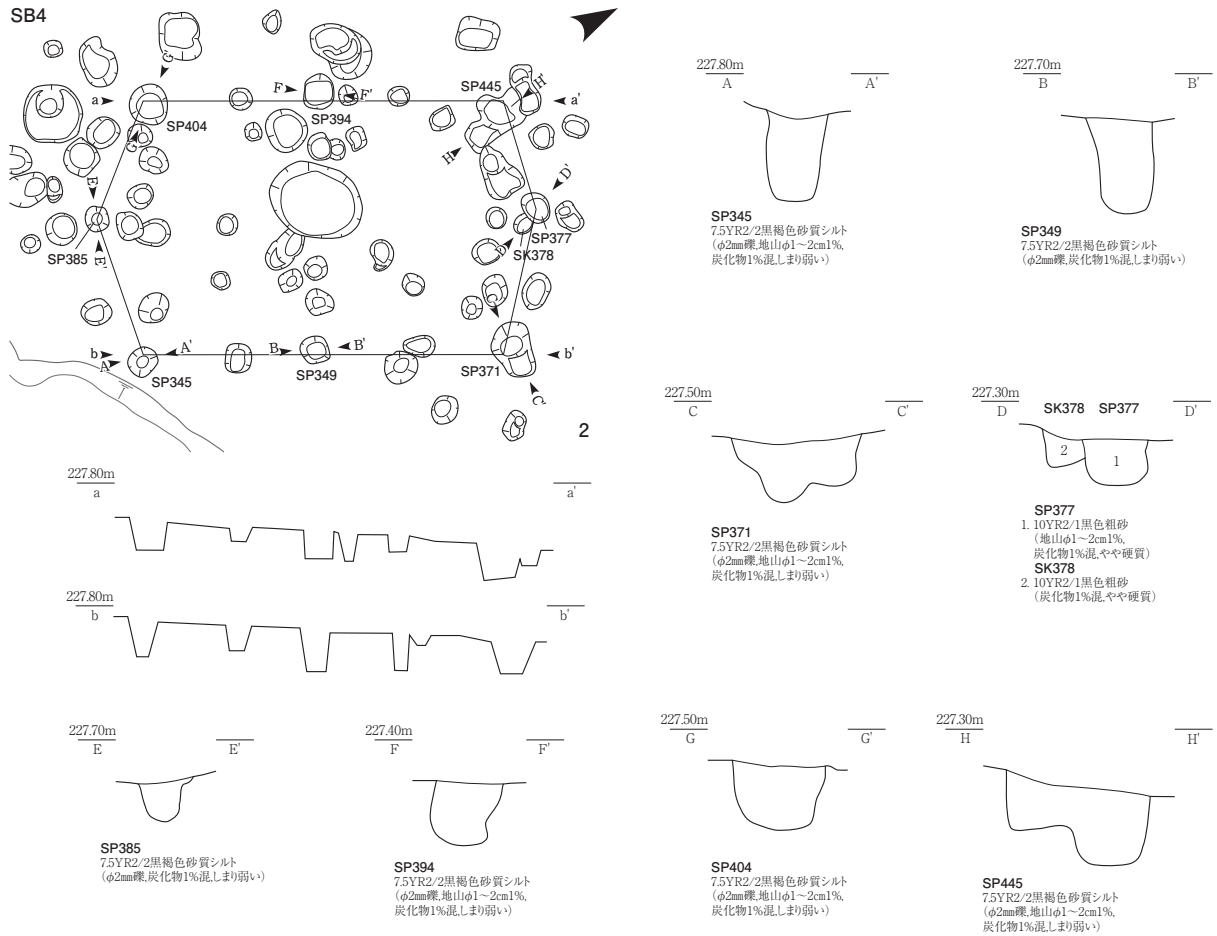
第14図　縄文時代遺構実測図
SI400・SI401遺物出土状況



第15図　縄文時代遺構実測図

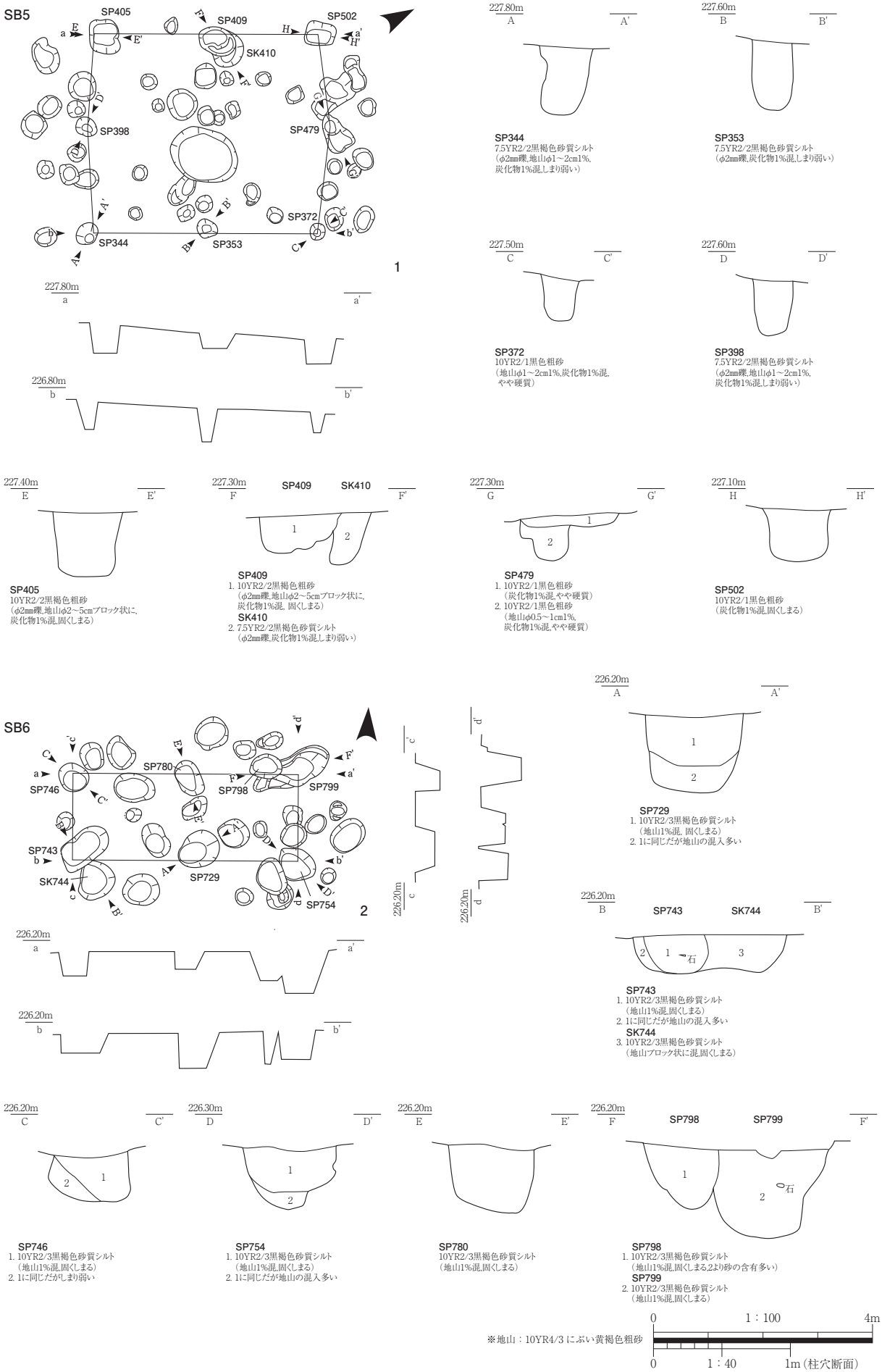
1. SB1　2. SB2





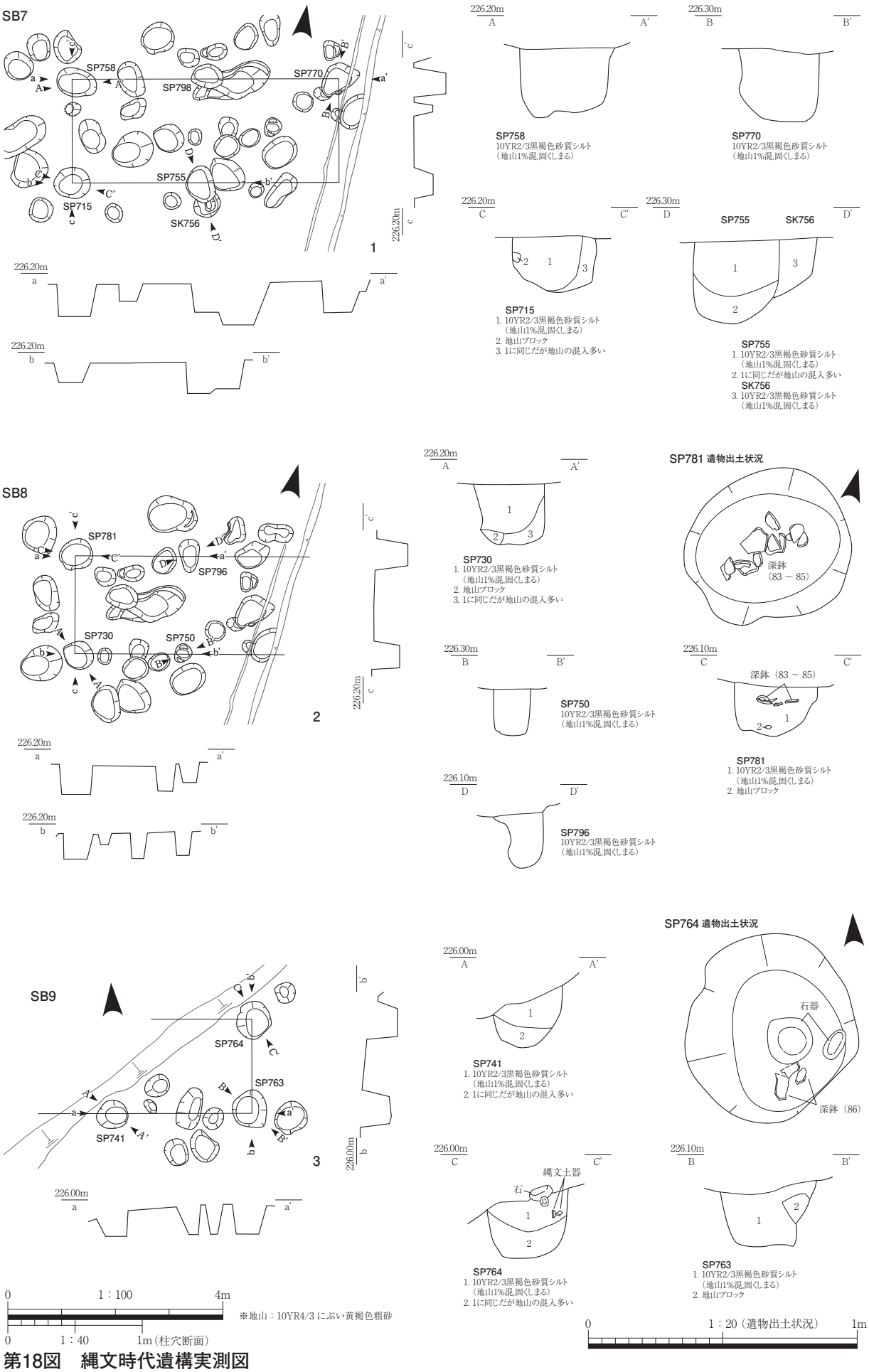
第16図　縄文時代遺構実測図

1. SB3　2. SB4



第17図　縄文時代遺構実測図

1. SB5　2. SB6



第18図　縄文時代遺構実測図

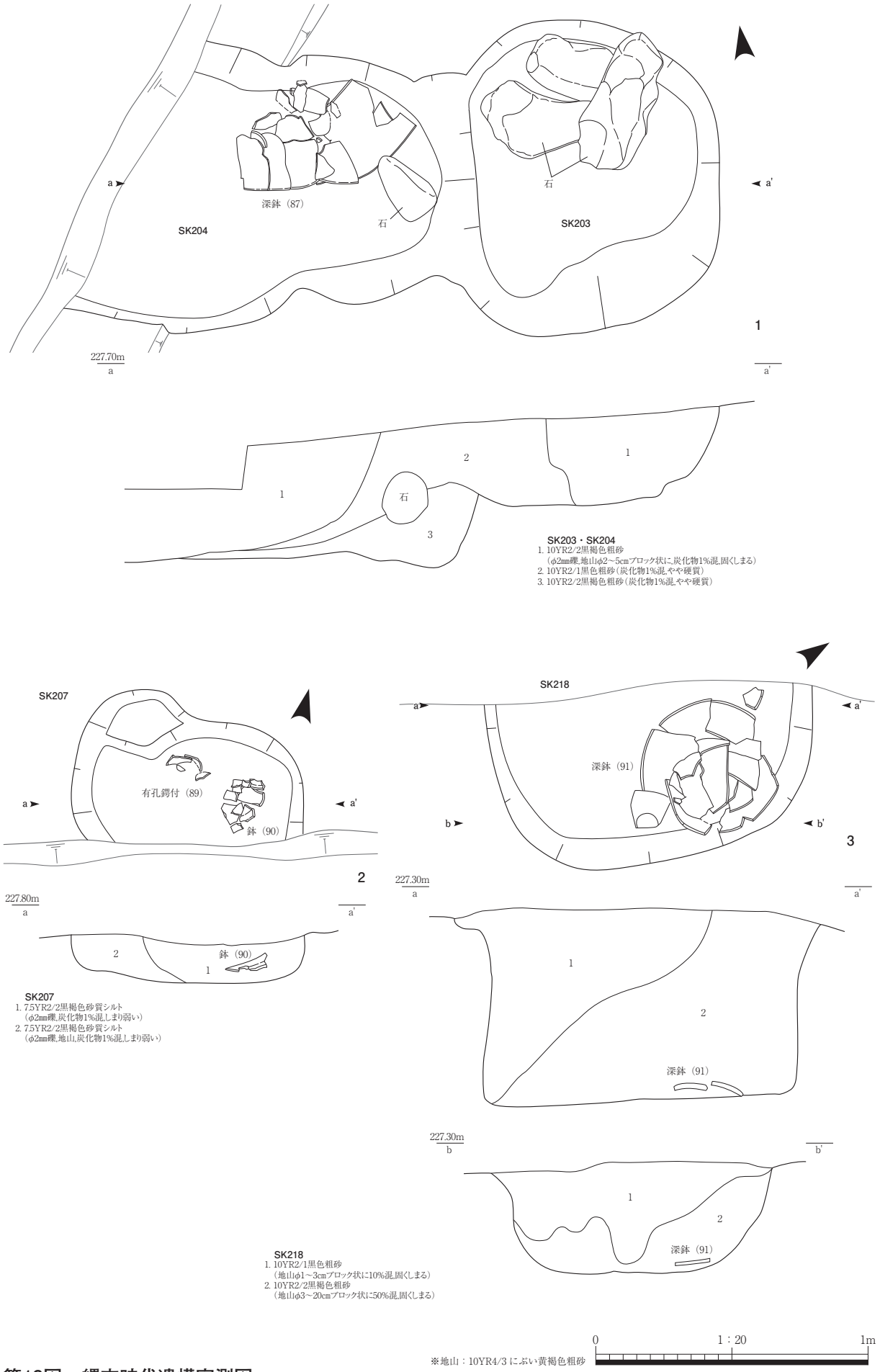
1. SB7　2. SB8　3. SB9

第７表　掘立柱建物一覧

建物	桁行柱間	梁行柱間	桁行長（m）	梁行長（m）	面積（㎡）	方位	柱穴	備考	挿図	図版
SB1	2	1	4.90	2.96	14.50	N-43°-E	SP295 SP297 SP309 SP318 SP331 SP418 SP423 SP475		15	14・15
SB2	1	1	3.28	2.30	7.54	N-42°-E	SP296 SP302 SP309 SP320 SP323 SP473			
SB3	1	1	3.67	2.14	7.85	N-45°-E	SP272 SP276 SP279 SP284 SP287 SP289		16	
SB4	2	1	4.80	3.36	16.13	N-28°-E	SP345 SP349 SP371 SP377 SP385 SP394 SP404 SP445			
SB5	6	1	4.07	3.62	14.73	N-28°-E	SP344 SP353 SP372 SP398 SP405 SP409 SP479 SP502		17	
SB6	2	1	4.10	1.58	6.48	N-87°-E	SP729 SP743 SP746 SP754 SP780 SP799			
SB7	2	1	4.95	1.94	9.60	N-80°-E	SP715 SP755 SP758 SP770 SP798		18	
SB8	1	1	1.97	1.82	3.59	N-76°-E	SP730 SP750 SP781 SP796			
SB9	1	1	2.50	1.76	4.40	N-87°-E	SP741 SP763 SP764			

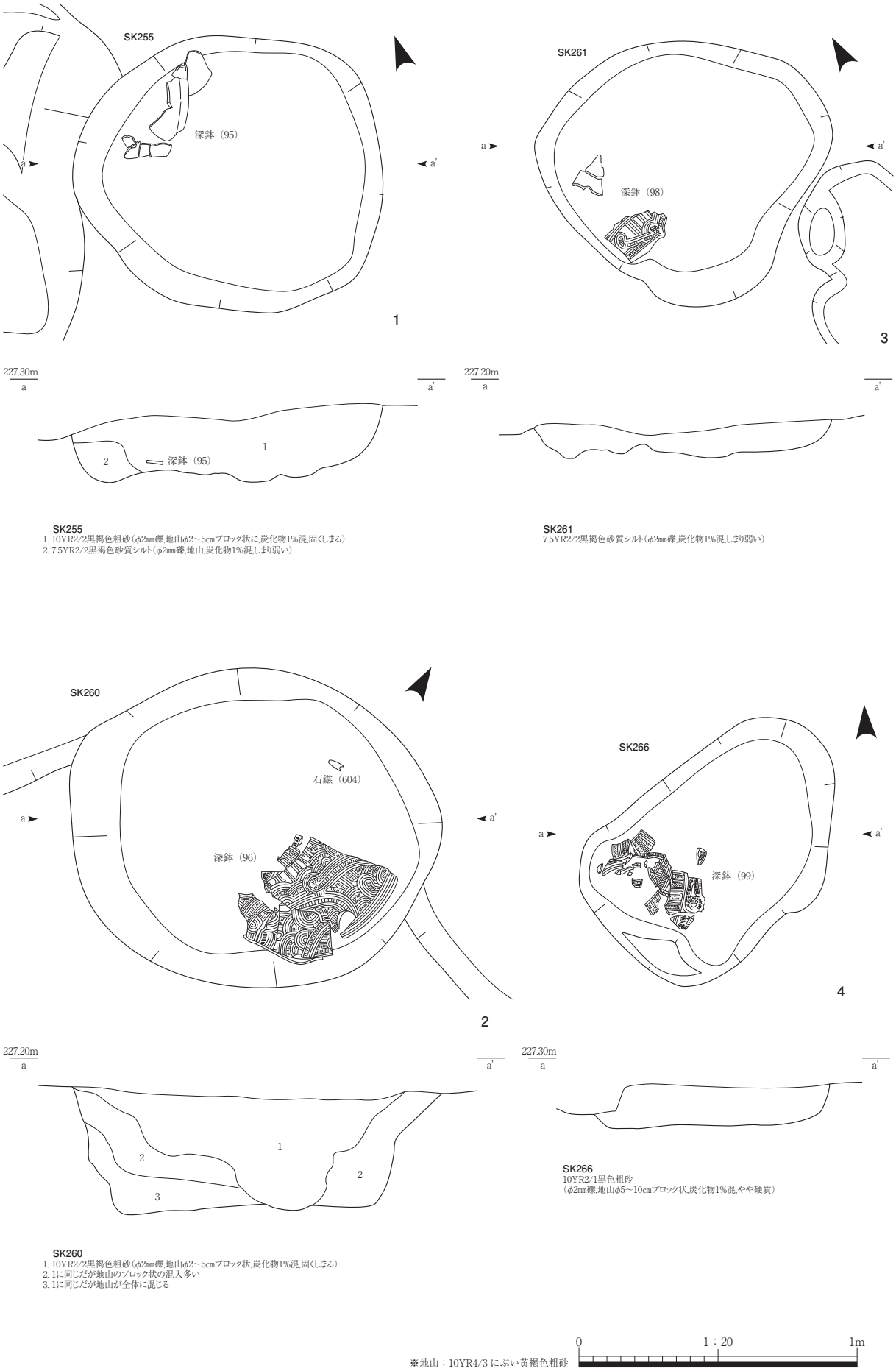
第８表　掘立柱建物柱穴一覧

	遺構	種類	平面形	長 (m)	幅 (m)	深 (m)	出土遺物	切り合い	挿図	図版
SB1	SP295	主柱	楕円	0.75	0.69	0.61	縄文土器(77)		15	15
	SP297	棟持ち柱	円	0.34	0.32	0.30				
	SP318	主柱	楕円	0.68	0.49	0.55				
	SP331	主柱	楕円	0.70	0.52	0.57				15
	SP418	主柱	楕円	0.62	0.48	0.62		＞SK419・SK420		
	SP423	主柱	楕円	0.67	0.63	0.53	縄文土器(78)			15
	SP475	棟持ち柱	円	0.37	0.31	0.60				
SB1・SB2	SP309	主柱	楕円	0.66	0.59	0.93				
SB2	SP296	主柱	楕円	0.72	0.60	0.69				
	SP302	棟持ち柱	円	0.35	0.30	0.20				
	SP320	主柱	楕円	0.78	0.51	0.64	縄文土器			
	SP323	棟持ち柱	円	0.31	0.27	0.36		＞SK324		
	SP473	主柱	楕円	1.16	0.79	0.42				15
SB3	SP272	主柱	楕円	0.65	0.48	0.51			16	
	SP276	棟持ち柱か	楕円	0.63	0.48	0.39				16
	SP279	主柱	円	0.38	0.36	0.37	縄文土器			
	SP284	主柱	楕円	0.54	0.40	0.44		＜SK285		
	SP287	棟持ち柱か	楕円	0.59	0.47	0.63	擦石(641)			
	SP289	主柱	円	0.36	0.30	0.44				
SB4	SP345	主柱	円	0.41	0.35	0.48	縄文土器			16
	SP349	主柱	円	0.36	0.34	0.50				
	SP371	主柱	楕円	0.74	0.54	0.37				
	SP377	棟持ち柱	楕円	0.43	0.35	0.24		＞SK378		
	SP385	棟持ち柱	円	0.34	0.31	0.23				
	SP394	主柱	円	0.47	0.39	0.35				
	SP404	主柱	円	0.55	0.51	0.36	縄文土器			
	SP445	主柱	楕円	(0.92)	0.58	0.51		＜SK444・SK479		
SB5	SP344	主柱	円	0.39	0.36	0.51			17	
	SP353	主柱	円	0.38	0.35	0.51				
	SP372	主柱	円	0.31	0.27	0.34				
	SP398	棟持ち柱	楕円	0.40	0.33	0.42				16
	SP405	主柱	円	0.63	0.52	0.47				
	SP409	主柱	楕円	0.70	0.50	0.30		＞SK410		
	SP479	棟持ち柱	楕円	0.74	0.34	0.33		＞SK445		
	SP502	主柱	楕円	0.54	0.42	0.38				
SB6	SP729	主柱	楕円	0.78	0.60	0.58				16
	SP743	主柱	楕円	0.95	0.53	0.29	縄文土器	＞SK744		
	SP746	主柱	円	0.56	0.50	0.37				
	SP754	主柱	楕円	0.71	0.59	0.46				
	SP780	主柱	楕円	0.67	0.43	0.50				
	SP799	主柱	楕円	0.97	0.55	0.66	縄文土器(80),自然石	＜SP798		
SB7	SP715	主柱	楕円	0.67	0.56	0.42			18	
	SP755	主柱	楕円	0.67	0.52	0.61		＞SK756		
	SP758	主柱	楕円	0.75	0.52	0.51	縄文土器			16
	SP770	主柱	楕円	0.68	0.51	0.54	縄文土器(82)	＞SK771		16
	SP798	主柱	楕円	0.57	0.44	0.49	縄文土器(80・81),自然石	＞SP799・SK800		
SB8	SP730	主柱	円	0.53	0.52	0.45				
	SP750	主柱	円	0.36	0.30	0.34				
	SP781	主柱	楕円	0.61	0.55	0.41	縄文土器(83～85),種実			16
	SP796	主柱	楕円	0.61	0.34	0.42	縄文土器(79)			
SB9	SP741	主柱	円	0.58	0.51	0.47				16
	SP763	主柱	円	0.66	0.64	0.49	縄文土器			
	SP764	主柱	円	0.66	0.64	0.52	縄文土器(86)			



第19図　縄文時代遺構実測図

1. SK203・SK204　2. SK207　3. SK218



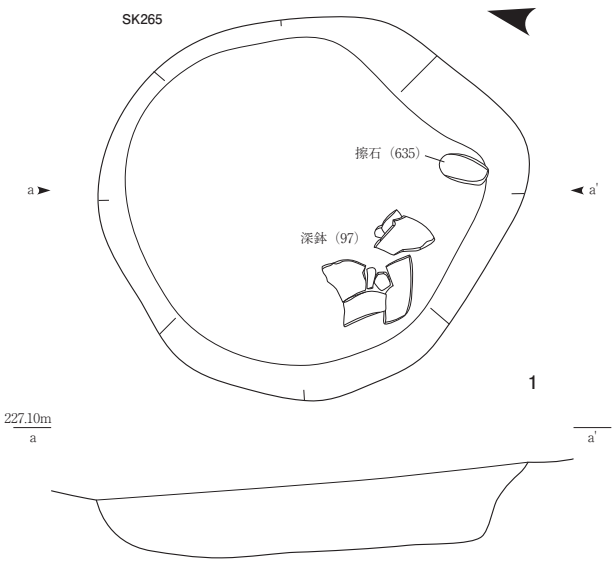
SK255
1. 10YR2/2黒褐色粗砂（φ2mm礫,地山φ2～5cmブロック状に,炭化物1%混,固くしまる）
2. 7.5YR2/2黒褐色砂質シルト（φ2mm礫,地山,炭化物1%混,しまり弱い）

SK261
7.5YR2/2黒褐色砂質シルト（φ2mm礫,炭化物1%混,しまり弱い）

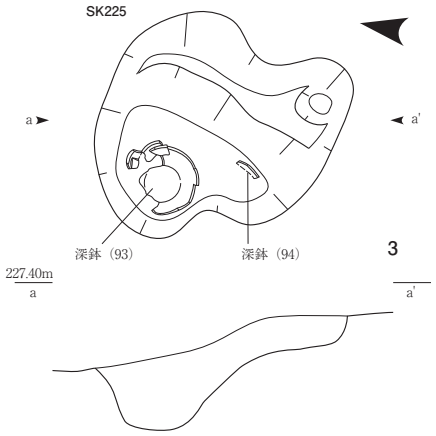
SK260
1. 10YR2/2黒褐色粗砂（φ2mm礫,地山φ2～5cmブロック状,炭化物1%混,固くしまる）
2. 1に同じだが地山のブロック状の混入多い
3. 1に同じだが地山が全体に混じる

SK266
10YR2/1黒色粗砂
（φ2mm礫,地山φ5～10cmブロック状,炭化物1%混,やや硬質）

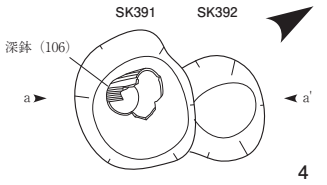
第20図　縄文時代遺構実測図
1. SK255　2. SK260　3. SK261　4. SK266

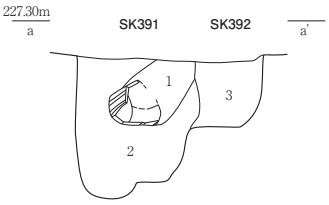


SK265
10YR2/2黒褐色粗砂（φ2mm礫,地山φ2～5cmブロック状,炭化物1%混,固くしまる）

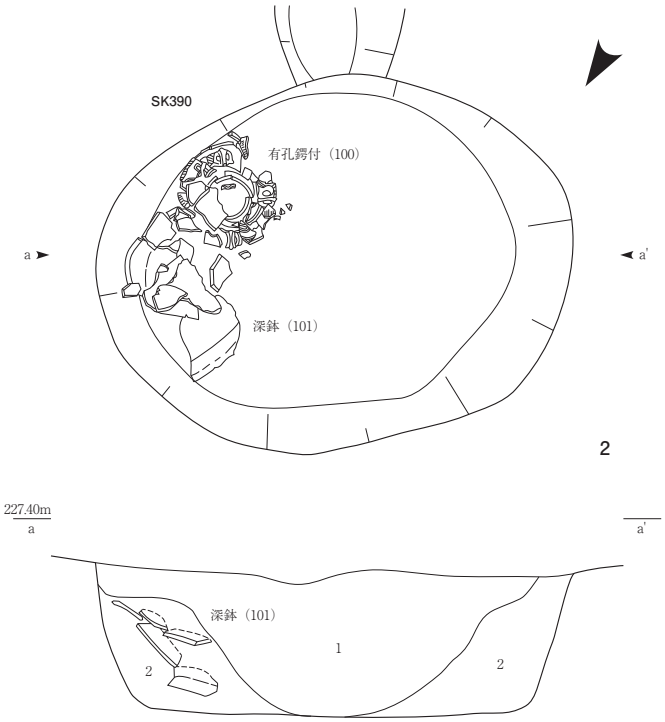


SK225
7.5YR2/2 黒褐色砂質シルト（φ2mm礫,炭化物1%混,やや硬質）

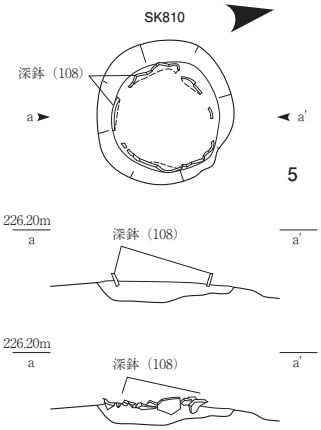




SK391
1. 7.5YR2/2黒褐色砂質シルト
（φ2mm礫,地山φ2～5cm1%,炭化物1%混,しまり弱い）
2. 7.5YR2/2黒褐色砂質シルト
（φ2mm礫,炭化物1%混,しまり弱い）
SK392
3. 7.5YR2/2黒褐色砂質シルト
（φ2mm礫,炭化物1%混,しまり弱い）



SK390
1. 10YR2/2黒褐色粗砂（φ2mm礫,地山φ2～5cmブロック状,炭化物1%混,固くしまる）
2. 1に同じだが地山の混入少ない



SK810
10YR2/3黒褐色砂質シルト（地山1%混, 固くしまる）

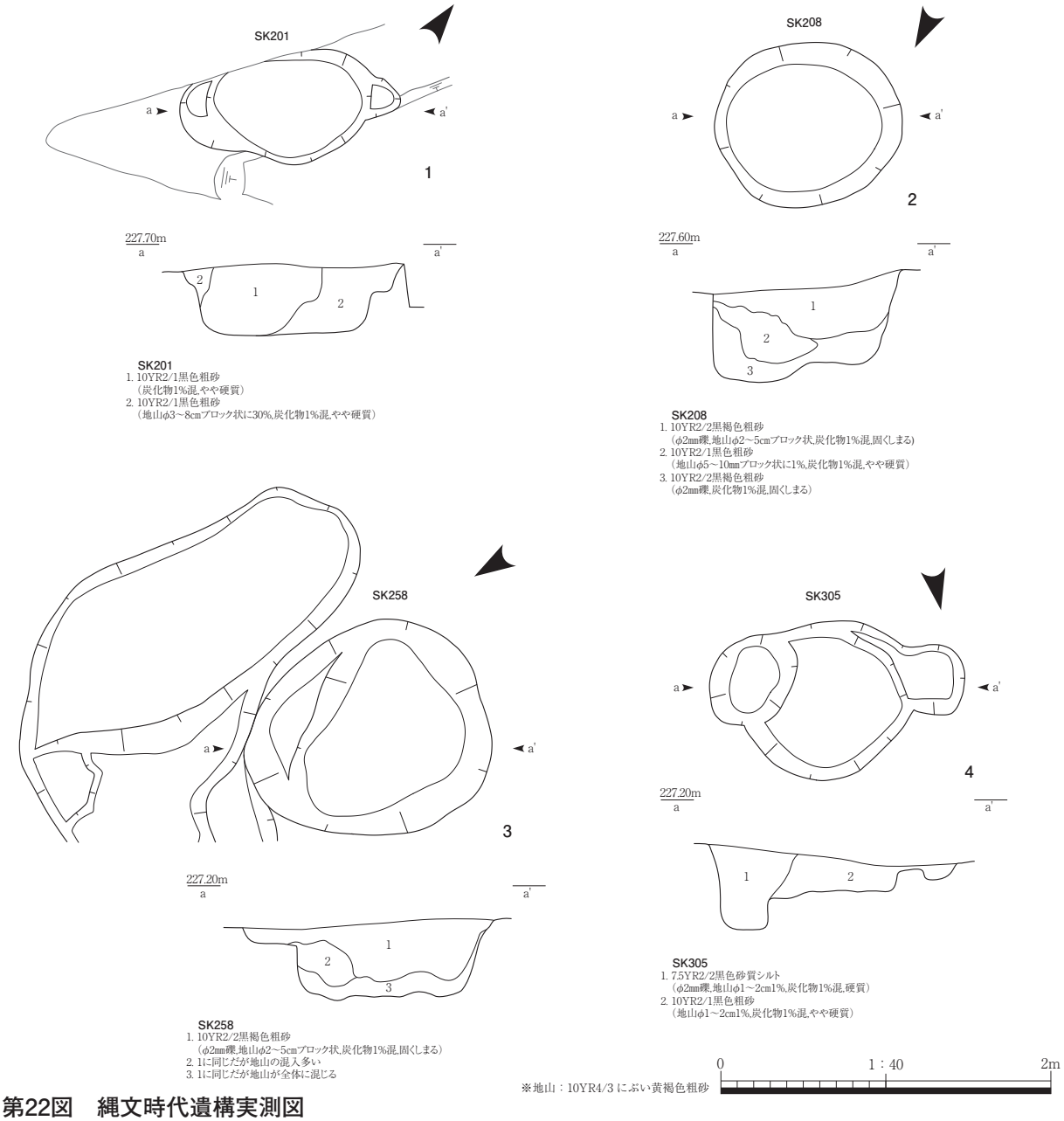
0　1：20　1m
※地山：10YR4/3 にぶい黄褐色粗砂

第21図　縄文時代遺構実測図

1. SK265　2. SK390　3. SK225　4. SK391・SK392　5. SK810

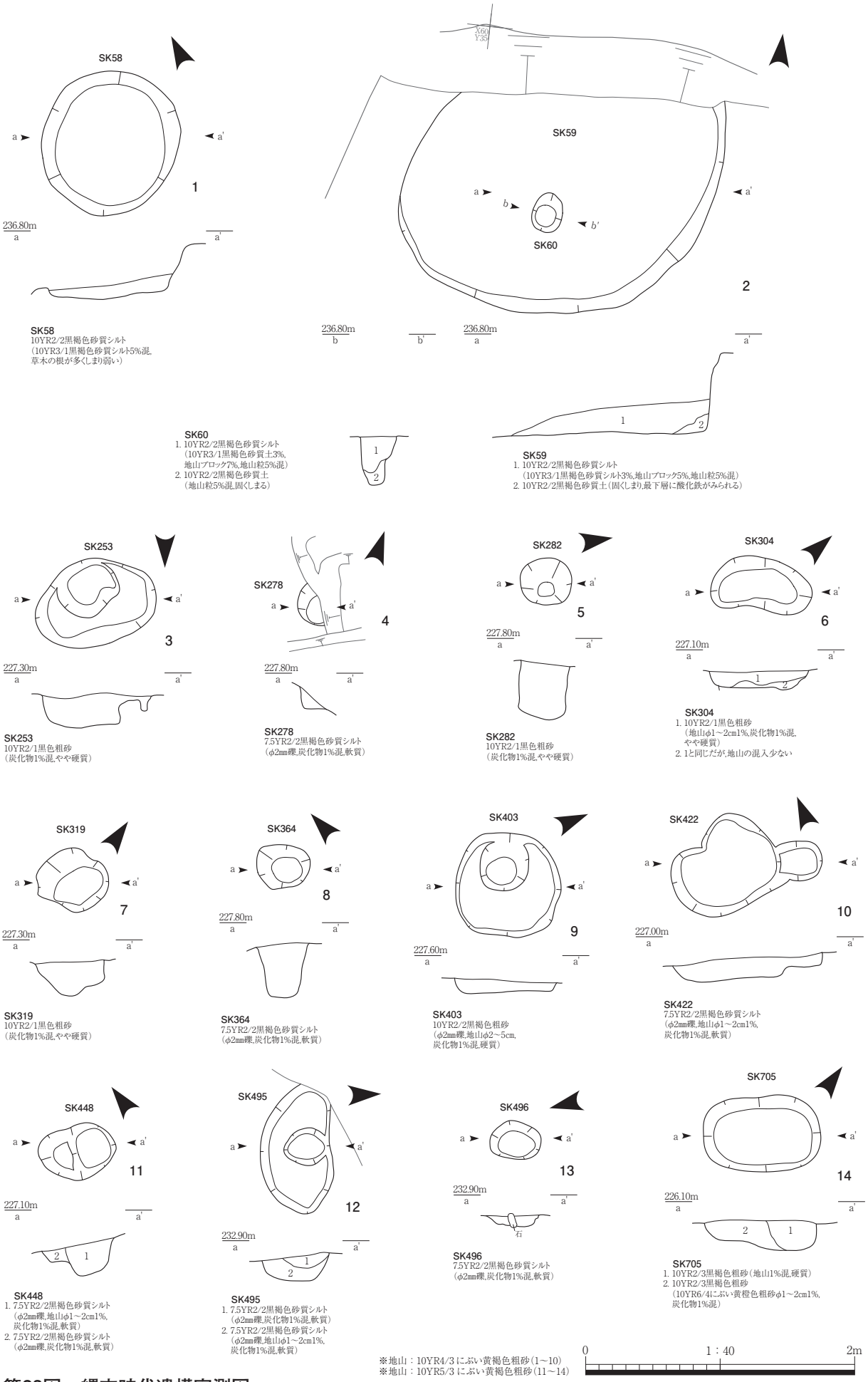
第９表　土坑墓・土坑一覧

遺構番号	種類	平面形	長（m）	幅（m）	深（m）	出土遺物	特記事項	切り合い	挿図	図版
SK5	土坑	円	0.78	0.76	0.35	縄文土器(109･110),磨製石斧未成品(615),石核(612)		>SI4	12	
SK203	土坑墓	円	1.15	(0.88)	0.37	縄文土器			19	2
SK204	土坑墓	不整	(1.31)	1.06	0.55	縄文土器(87)				
SK207	土坑墓	楕円	0.85	(0.57)	0.18	縄文土器(88～90)				
SK218	土坑墓	円か楕円	1.20	(0.66)	0.73	縄文土器(91･92)				
SK255	土坑墓	円	1.11	0.98	0.29	縄文土器(95)			20	2
SK260	土坑墓	楕円	1.33	1.14	0.46	縄文土器(96),石鏃(604)				3･17
SK261	土坑墓	円	1.07	0.95	0.12	縄文土器(98)				3
SK266	土坑墓	楕円	1.03	0.70	0.15	縄文土器(99)				
SK225	土坑	不整	0.61	0.61	0.29	縄文土器(93･94)	埋設土器		21	2
SK265	土坑墓	円	1.13	1.01	0.26	縄文土器(97),擦石(635)				3
SK390	土坑墓	楕円	1.26	0.99	0.41	縄文土器(100～103),玉(601)				3･17
SK391	土坑	円	0.37	0.32	0.37	縄文土器(106)	埋設土器	>SK392		3
SK810	土坑	円	0.38	0.36	0.06	縄文土器(107･108)	埋設土器			
SK201	土坑墓	楕円	1.34	0.66	0.42	縄文土器(104)			22	18
SK208	土坑墓	円	1.13	0.99	0.68					
SK258	土坑墓	楕円	1.49	1.28	0.49			>SK300		
SK305	土坑墓	楕円	1.55	0.96	0.52	縄文土器				
SK58	土坑	円	1.05	1.04	0.25	縄文土器			23	
SK59	土坑	円	(2.43)	2.10	0.57					18
SK60	土坑	楕円	0.30	0.22	0.33		SK59底面にて検出			
SK253	土坑	楕円	0.92	0.65	0.26	縄文土器(111)				
SK278	土坑	不整	0.34	(0.18)	0.16	縄文土器(112)				
SK282	土坑	円	0.40	0.35	0.44	縄文土器(113)				
SK304	土坑	楕円	0.77	0.38	0.14					
SK319	土坑	楕円	0.54	0.48	0.26	縄文土器(105)				
SK364	土坑	円	0.46	0.32	0.39	縄文土器(114)				
SK403	土坑	円	0.80	0.78	0.11	縄文土器(115)				
SK422	土坑	不整	1.12	0.68	0.19	縄文土器				
SK448	土坑	楕円	0.58	0.38	0.28	縄文土器(116)				
SK495	土坑	不整	(0.96)	0.52	0.21	縄文土器(117～119)				
SK496	土坑	楕円	0.38	0.28	0.08	縄文土器(120･121)				18
SK705	土坑	楕円	0.87	0.65	0.22	縄文土器(124)				



第22図　縄文時代遺構実測図

1. SK201　2. SK208　3. SK258　4. SK305



第23図　縄文時代遺構実測図

1. SK58　2. SK59・60　3. SK253　4. SK278　5. SK282　6. SK304　7. SK319　8. SK364
9. SK403　10. SK422　11. SK448　12. SK495　13. SK496　14. SK705

3　遺　物

縄文時代の出土遺物は，遺物整理箱にして142箱あり，その内訳は縄文土器130箱，石製品11箱，種実遺体等1箱である。主体となる時代は，縄文時代中期前葉～中葉の新崎式～上山田式であるが，包含層出土の縄文土器には早期中葉，中期～晩期のものがある。石製品は打製石斧・磨製石斧を主体とするが，土坑墓出土の琥珀製の丸玉をはじめとして，黒曜石，下呂石など他地域との交流を示す製品や石材がみられる。

（1）縄文土器

A　遺構出土

1～18はSI4出土（第24・25図，図版19・24）。1・2・6・8～10・16は連続爪形文，ヘラ状工具による刺突を施すもの。2は波状口縁で，無文部にヘラ状工具による刺突を施す。6は同一個体であるが接合しない。口縁部に縦位短沈線，横位半隆起線と無文帯がある。4・5は蓮華状文を施すもの。4は同一個体だが接合しない。体部は斜行縄文に半隆起線を縦位にまばらに施す。14～16は半隆起線による渦巻文や曲線を施すもの。15は縦位半隆起線文を斜行縄文の上に施す。16は斜行縄文が残るが，半隆起線による直線，曲線，渦巻文を全面に施し，半隆起線間を沈線で充填する。底部に圧痕があるが詳細は不明[注3]。17は隆帯が垂下し，縦位，横位半隆起線による区画内に正位格子目文を充填し，底部に圧痕がある。11～13・18は全面縄文のもの。11は平縁に3箇所，12は4箇所の突起がある。18の底部にはスダレ状圧痕がある。時期は5・6が新崎式，外は新崎～上山田式である。

19～73はSI400出土（第25～31図，図版19・20・24・25）。19～57は隆帯や半隆起線を主体とした文様を施すもの。19・27・32・54・55は隆帯上に連続爪形文がある。19は隆帯や半隆起線の間を蓮華状文で充填する。20は半隆起線の渦巻文が2単位配されるが全く同じパターンではない。半隆起線間には蓮華状キザミを充填する。21・22は大きく開く胴部にキザミのある隆帯が渦を巻く。21は楕円形区画内に蓮華状文刺突を施す。32は三ツ山突起があり，連続爪形文が2列，半隆起線の間にヘラ状工具によるキザミや楔形刺突を施す。54の体部上部は斜行する隆帯が先端で渦を巻き，半隆起線やキザミが施され，体部下部は縄文のみで，底部にスダレ状圧痕がある。55は胴部に綾絡文を施す。57は胴上部に弧状の半隆起線文があるもので，内面に炭化物，外面にススが付着する[注4]。34・38・41・43は隆帯上をヘラ状工具で刻むもの。34はW字状文がある。44は隆帯上を綾杉状にキザミ，楕円区画内に細沈線を充填するもので新道式系もの。23・35・37・40・47は方形や楕円形の区画がある。35の区画内は無文で縁をヘラキザミする。37は楕円区画の上縁に楔形キザミ，区画下に縦位半隆起線文を施す。47は有孔鍔付土器で，撚糸文と半隆起線内に赤彩が残る。25・26は波状口縁で，25は口縁に沿った半隆起線文の下に蓮華状文を施す。28・31は頸部に縄文原体の押圧がある。42は無文帯の上下に沈線による斜格子目文がある。46の楔形キザミは途中でキザミの方向を変える。48は縦位半隆起線間に斜行沈線を充填する。51は全面に縦位半隆起線を施し，底部にスダレ状圧痕がある。50は細い粘土紐を方形に貼付け，隆帯上から体部にかけて縄文を施すもので，気屋式のものか。

58は口縁を棒状工具のようなもので細かくキザミ，小波状とし，全面に縄文を施す。頸部屈曲部には隆帯の中央を連続指圧した突帯がつく。

59・60は台。59は器高が高く，広がるが，60はほぼ垂直で，先端が内側に肥厚する。

61～73は全面に縄文を施すもの。器形にはキャリパー形と直線的に開く逆台形がある。62・73の

注3　敷物圧痕について，松永篤知氏よりご教示いただいた。
注4　放射性炭素年代測定では^{14}C年代は4405±20 ^{14}C BP（詳細は第Ⅴ章4を参照）

底部にはスダレ状圧痕がある。66・68～70は圧痕があるが詳細は不明。

時期は新崎式～上山田式が主体であるが，50の気屋式が最も新しい時期を示す。しかし，小破片で1点のみの出土であり，時期を決定づけることは難しいと考える。

74～76はSI401出土（第32図，図版25）。74～76は半隆起線や隆帯を施すもの。74は突起があり，無文部に三叉文状抉り，75は渦巻状の隆帯上をキザミ，縦位半隆起線間をヘラ描き短沈線で充填する。

77はSP295（SB１）出土（第32図，図版25）。口縁部から胴部にかけて直線的で，胴下部にかけて窄まる器形で，同一個体であるが接合しない。口縁端部は棒状工具によるキザミ，口縁部には縄文原体の押圧が３列，胴部外面は上半部がＲＬ，下半部がＬＲの斜行縄文が施される。口縁部には補修孔とみられる２孔がある。時期は前期初頭の花積下層式併行期のもの。

78はSP423（SB１）出土（第32図，図版25）。半隆起線による渦巻文と縦位ヘラ描き平行線を施す。新道式系のものか。

80はSP798・799（SB７）出土（第32図，図版25）。半隆起線による曲線と無文部にヘラ状工具による楔形キザミを施すもの。

81はSP798・800（SB７）出土（第32図，図版25）。パネル文で，浅く刻まれた隆帯でＵ字状に区画し，左右および最も突出した下端の３箇所にＷ字状の刺突がある。区画内にはＵ字状の沈線文が対称に施され，中央を刺突する。一部に赤彩が残る。胎土も胎土色も在地系のものとは異なり，搬入されたと考える。勝坂（井戸尻Ⅰ）式併行期のもの。82はSP770・SK771（SB７）出土（第32図）。斜行縄文の胴部破片。

83～85はSP781（SB８）出土（第32図，図版21）。83は胴部が無文の深鉢。底部にはスダレ状圧痕がある。84は縦位縄文，85は縄文を施す。84は串田新～気屋式のもの。

86はSP764（SB９）出土（第32図，図版25）。口唇部上面に沈線により渦巻文を描き，玉抱き三叉文に似せた文様を施す。渦巻文は６箇所とみられる。口縁外面は無文で，ススが付着する。

87はSK204出土（第33図，図版21）。頸部のくびれが弱く口縁が直線的に開く器形。全面に縄文を施し，口縁部に補修孔がある。底部には網代圧痕（２本超え１本潜り１本送り）がある[注5]。

88～90はSK207出土（第33図，図版6・21・26）。88・89は有孔鍔付土器。88の隆帯はつまみ上げて突起状となる。穿孔は1.2～２cm間隔で施され，口縁部内面にはベンガラ漆による赤彩がわずかに残る。89はやや張った胴部に斜行縄文が施され，底部に圧痕がある。内面にはベンガラ漆が残る。90は口縁部～頸部が無文で，頸部に縄文原体を押圧している。時期は新崎～串田新式と幅がある。

91・92はSK218出土（第34図，図版21）。全面に斜行縄文を施す深鉢。91は直線的に開く逆台形，92はキャリパー形である。91は４箇所に三角形突起があり，口唇部に縄文原体を押圧する。口縁部より14cm下にはススが付着し，内底面から12cm程に炭化物が付着する[注6]。92は口縁部に沈線が１条巡る。

93・94はSK225出土（第34図，図版21）。93はやや脹らんで立ち上がった胴部が大きく外傾して開き，底部に圧痕がある。94は半隆起線による楕円形区画内に楔形キザミを施す。新道式系のもの。

95はSK255出土（第35図）。外傾して直線的にのびる胴部が肩部で内屈する器形で，同一個体だが接合しない。全面に斜行縄文を施し，内面にはコゲが付着する。

96はSK260出土（第35図，図版22）。キャリパー形の深鉢。口縁部に横位半隆起線，胴部上半はキザミのある隆帯と半隆起線が渦巻状やＳ字状に施され，その間をヘラキザミで充填し，下半は縦位半隆起線が施されるが斜行縄文が残る。

97はSK265出土（第35図，図版22）。全面に斜行縄文が施される粗製の深鉢。

注５　放射性炭素年代測定では^{14}C年代は4380±20 ^{14}C BP（詳細は第Ⅴ章４を参照）
注６　放射性炭素年代測定では^{14}C年代は4400±20 ^{14}C BP（同上）

98はSK261出土（第36図，図版26）。やや胴が張り，口縁部が外反する器形で，同一個体だが接合しない。口唇部に突起があり，口縁部は突起から斜行した隆帯の先端が渦を巻く。胴部は斜行縄文で，底部に圧痕がある。内面にコゲが付着する。

99はSK266出土（第37図，図版22）。円形透孔のある４頂部２組１対の突起をもち，口縁部は櫛状工具による刺突と三叉文状の抉りを施す。胴部は縦位半隆起線間にヘラ状工具によるキザミを施す。

100～103はSK390出土（第37図，図版6・22）。100は肩が張りかぼちゃのような形の有孔鍔付土器で，胴部上半と内面にベンガラ漆を塗る[注7]。円孔のある把手により４分割された上半部の２面にU字状の沈線文，把手の両側から赤彩面を囲むように斜行沈線文を施す。101はキャリパー形の深鉢で入字状突起を３箇所配し，頸部に縄文原体を押圧，全面に斜行縄文を施す。外面にはススが厚く付着する[注8]。

104はSK201出土（第37図，図版26）。半隆起線の渦巻文が施される。

105はSK319出土（第38図，図版22）。三ツ山突起がある平縁，口縁部の半隆起線下に斜行縄文を施す。

106はSK391出土（第38図，図版22）。全面に縦位半隆起線を施し，底部にスダレ状圧痕がある[注9]。

107・108はSK810出土（第38図）。107は外面に斜行縄文，内面にユビオサエがある。

109・110はSK５出土（第38図，図版26）。109は胴部が直線的に開き，口縁部が内湾する器形で，平縁に小突起が４箇所貼り付けられる。110は半隆起線の方形区画内をヘラ描沈線で充填する。

113はSK282出土（第38図）。隆帯は剥離しているが，隆帯に沿って半隆起線の渦巻文がある。

114はSK364出土（第38図，図版26）。口縁内面が肥厚，口縁端部はヨコナデ，胴部は斜行縄文を施す。

115はSK403出土（第38図，図版26）。口唇部は平坦に四角く仕上げ，斜行縄文を施す。

116はSK448出土（第38図，図版26）。半隆起線の渦巻文を施す。

117～119はSK495出土（第38図，図版26）。117・118は縦位半隆起線を施すもので，118は格子目状沈線がある。119は縦位縄文を施す。

120・121はSK496出土（第38図，図版26）。120はキザミのある隆帯が渦を巻く。121は口縁端部が肥厚し，沈線による楕円区画がある。

122はSK603出土，123はSK614出土，124はSK705出土（第38図）。ともに斜行縄文を施す。

125はSK761出土（第38図，図版26）。三ツ山突起の一部を欠損する。キザミのある隆帯は渦を巻く。

126はSK773出土（第38図）。外面はナデ，底部に圧痕はみられない。

127はSK788出土（第38図，図版22）。口唇部に半隆起線を施し，外面に黒斑，ススが付着する。

128はSK790出土（第38図），129はSK795出土（第38図）。外面に斜行縄文を施す。

B　包含層出土（第39～51図130～586，図版６・23・26～28）

130は口唇部が四角く，ポジ楕円形の回転押型文を横位帯状に施すもので，その下に円形刺突を施し，ススが付着する。時期は早期中葉で，出土した縄文土器の中で最も古い時期のものである。

131は口唇部に棒状工具による刺突と羽状縄文を施す。132は条痕状の調整後，ヘラ描沈線文を施す。133は尖底。131～133は早期末～前期のもの。

134～137・139・140・143は蓮華状文を施すもの。138は口唇部が肥厚し，入字状突起をもつ。141・142・145はヘラ描沈線文を施すもので，141は三叉文状抉り，145は方形区画をもつ。144・146・149は横位無文帯上縁に楔形キザミをもつ。147・148・150～152・154は方形区画やB字状区画をもつ。147・148・151は正位格子目文を充填する。153・155～158は半隆起線文を施す。153はU字状の半隆起線文，155は斜格子目文，157は鋸歯状文，158は連続刺突がある。134～158は新崎式のもの。

159は口頸部がくの字状に屈曲する浅鉢。外面はミガキ状ヨコナデ調整で，円形文とそれから伸び

注７　漆塗膜分析による（詳細は第Ⅴ章５を参照）
注８　放射性炭素年代測定では ^{14}C 年代は 4425 ± 20 ^{14}C BP（詳細は第Ⅴ章４を参照）
注９　放射性炭素年代測定では ^{14}C 年代は 4380 ± 20 ^{14}C BP（同上）

る粘土帯を貼り付けており，粘土帯にはわずかに赤色漆が残っている。160～164・166・171～175・177・179・180・182はキザミのある隆帯をもつ。160はW字状に似せた突起と楕円形沈線文，交互刺突文を施す。161・164・180は眼鏡状突起や三ツ山突起をもつ。182は波状口縁で内面を肥厚させる。167～169・170・187は隆帯を刻まないもので，167には眼鏡状突起，168には三ツ山突起と三叉文状抉りがある。169・170はキャリパー形の器形で，外面は隆帯と半隆起線を全面に施す。170は隆帯が斜行して先端が渦を巻く。187は突起から円を描く隆帯と半隆起線による半円文が組み合わされ，胴部下部には緩く渦を巻く隆帯の先端が大きく突出する。181は円形透孔がある橋状把手。加曽利Ｅ系のものか。159～170・172～182・187は上山田式のもの。

183・185・188～192・195・197～200はキザミのある隆帯をもつ口縁部の破片。183はヘラキザミ，185は口唇部の隆帯に綾杉状キザミ，195は棒状工具による連続刺突，198は連続爪形文を施し，しの字状突起をもつ。186は口縁部に斜格子目文，頸部に隆帯の中央を連続指圧した突帯がある。193・194・196は隆帯にキザミがない口縁部の破片。193は４波頭の波状口縁に沿って楔形キザミ，胴部に半隆起線の渦巻文などを施し，地紋の斜行縄文が残る。201・202は蓮華状文をもつ。201は口唇部を縦にキザミ，突起状にする。202は１弁に２本の沈線が引かれる。203～208・212・214・215・217・225～230・235・237・238・240・247～249・255はキザミのある隆帯をもつ胴部の破片。204・228は区画内に三叉文や円形の抉り，212・227・230はヘラ状工具による刺突や楔形キザミを施す。キザミのない隆帯，あるいは半隆起線を主体にするものには，楔形キザミ（209・220・244・257），蓮華状文刺突（211・224・258・261），ヘラ状刺突（216），ヘラ描沈線文（222），短沈線状キザミ（223），三叉文・円形の抉り（242・246・276）などを施すものがある。251～254は隆帯をユビオサエする。279～281は敷物圧痕があり，279は網代圧痕（２本超え１本潜りで１本送りと２本送りを繰り返す），280はスダレ状圧痕である。282～284は口唇部に連続爪形文を施す。282は無文区画内にも爪形文を施し，284は入組状突起をもつ。316～319は隆帯の両側に連続爪形文やキザミを施す新道式系統もの。316はＪ字状浮文，三角形と半円形の区画文がある。320～330は外面がナデ調整で，321は面取り状の口唇部をユビキザミし，329は頸部の屈曲部に縄文原体を押圧する。331～341・343～345・347・349・350・352・354～360は胴部に縄文を施す。口縁部が無文と全面施文があり，口縁形態も平縁・波状口縁・突起をもつものがある。338・344・355は口唇部端面にも縄文を施す。332・340・341・350・352～354・360は頸部に縄文原体を押圧する。183～186・188～360は新崎式～上山田式のもの。

361は内湾する口縁部に楕円形に隆帯を貼り付ける。362～367は口縁部に半隆起線を施すもので，端部の形態は引き出すものや四角いもの，肥厚するものなどがある。371は隆帯を入字状に貼付ける。361～375は上山田式～古府式のもの。

380は有孔鍔付土器。ヘラ描沈線文を施し，わずかに赤色漆が残る。381は体上部をくの字状に屈曲させ，横位区画内に沈線で渦巻文を描き，連続刺突を施す。376～382は上山田式～串田新式のもの。

383・384・386・394～403は葉脈状文をもつ。383・384・386・394～397は葉脈が隆帯，398・400・401は基葉脈が隆帯で，ヘラ描葉脈がある。402・403は葉脈に沿って連続刺突がある。388は三角刺突，389は楕円形の連続刺突，393は口縁端部に貼り付けた隆帯の下に連続三角刺突を横位，縦位に施す。404は有孔鍔付土器。上下２本の横位沈線により隆帯状にする。383～404は串田新式のもの。

405・410は口縁部が無文で，縦位沈線文，408・418は横位指頭沈線文がある。409は隆帯に横位連続刺突，414はヘラ状刺突，416は棒状刺突する。411・412・417・419は平行沈線間に列点を施す。422は突起。粘土紐をしの字状に貼り付け，縁辺に円形刺突を施す。427～430は台付鉢で，427は胴

部に縦位沈線文，430は円形透孔を沈線が縁取る。431～439・456・464～476は胴部から底部の破片。胴部は431が縄文地に沈線による方形区画文，432は縦位沈線文，436～438は突線文，縄文のみがあり，423～426・434・439・465・467～472・474は縦位縄文である。底部の敷物圧痕は431・432・434・435・437・438・469・474・476が網代圧痕，466・475はスダレ状圧痕である。435は接合しない破片（第47図右側の拓本）に密なもじり編みがあり，別個体の可能性がある。436～438は岩峅野式，405～435・439・456・464～476は串田新式～気屋式のもの。

440～443は口縁部に半隆起線がある。口縁部の形態は面取り状のもの（440），肥厚するもの（442）がある。444は貼付円文のある鉢。445～447は全面縄文のもの。446は口唇部を絡条体でキザミ，447は平行沈線を施す。454は外反する胴部に細い粘土紐を貼り付けて半円文や円文を描き，内面には炭化物が付着する。455は半隆起線による区画内に交互に三叉文状抉りを施す。458・459は浅鉢。458は口縁部がくの字状に屈曲し，平行沈線がある。459は緩やかに内湾し，横位半隆起線があり，内面に赤色漆がわずかに残る。460は両端に剥離痕がある把手。461は台形土器。頂部にユビオサエが残り，外面に赤彩がうっすらと残る。440～455・457～463は中期に属するもの。

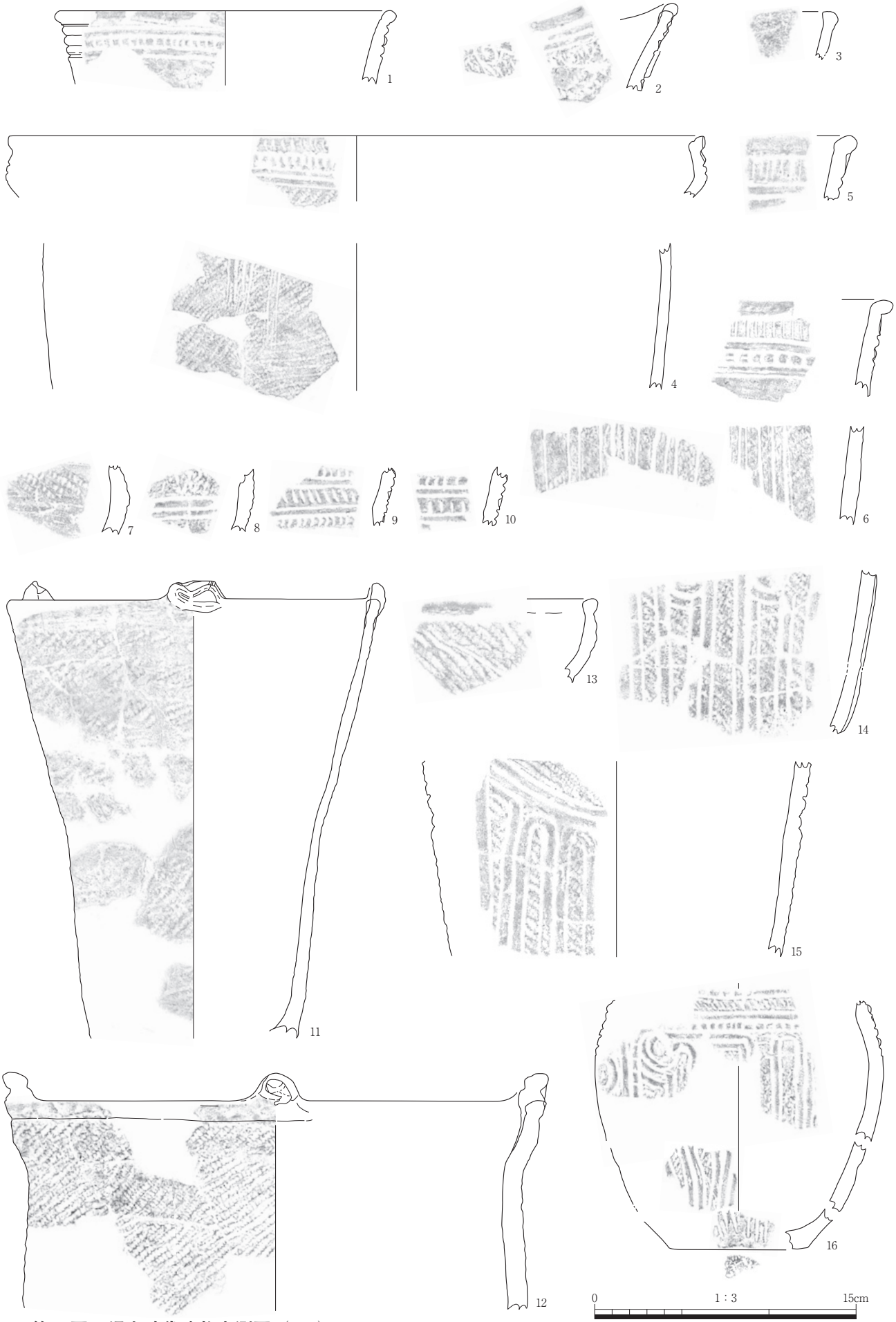
477は入字状突起で，口縁部外面に絡条体を押圧，内面にユビオサエが残る。478・480・482は口縁部に連続三角形刺突するもので，482は無文帯の上下に施す。479は綾杉状キザミがある。481・486・487は細かい縄文地に平行沈線をひく。486は沈線による円形区画内に縄文が残り，487は沈線間の縄文を交互に磨り消す。485は低い隆帯の三角形区画と，隆帯に沿った櫛歯状沈線を施す。489は粘土紐を横位波状に貼り付ける。491は無文地に連続キザミ，横位沈線・鍵手状沈線を施す。492は細かい縄文地に平行沈線，三叉文，くずれた羊歯状文がある。489は曽利式，491は八日市新保式とみられ，477～488・490は後期の気屋式のもの。

493～495・497・498は外面が条痕のもの。493～495は横位，497・498は縦位。口唇部は493が棒状刺突，494がユビキザミ，495はキザミが磨滅している。496は平行沈線間に列点文がある。499・500は口縁部が内湾する鉢。499は口唇部に沈線，口縁部には工字文状隆帯があり，内部には縄文が残る。500は細かい縄文地で，磨消ヨコナデ，平行沈線を施す。502は底部から胴部にやや脹らみをもって直線的に開き，内外面ヨコナデ調整する。503は浅鉢。外面は不規則な縄文を施し，内面のミガキは丁寧で，わずかに赤彩が残る。493～496は中屋式，497～503は晩期のもの。

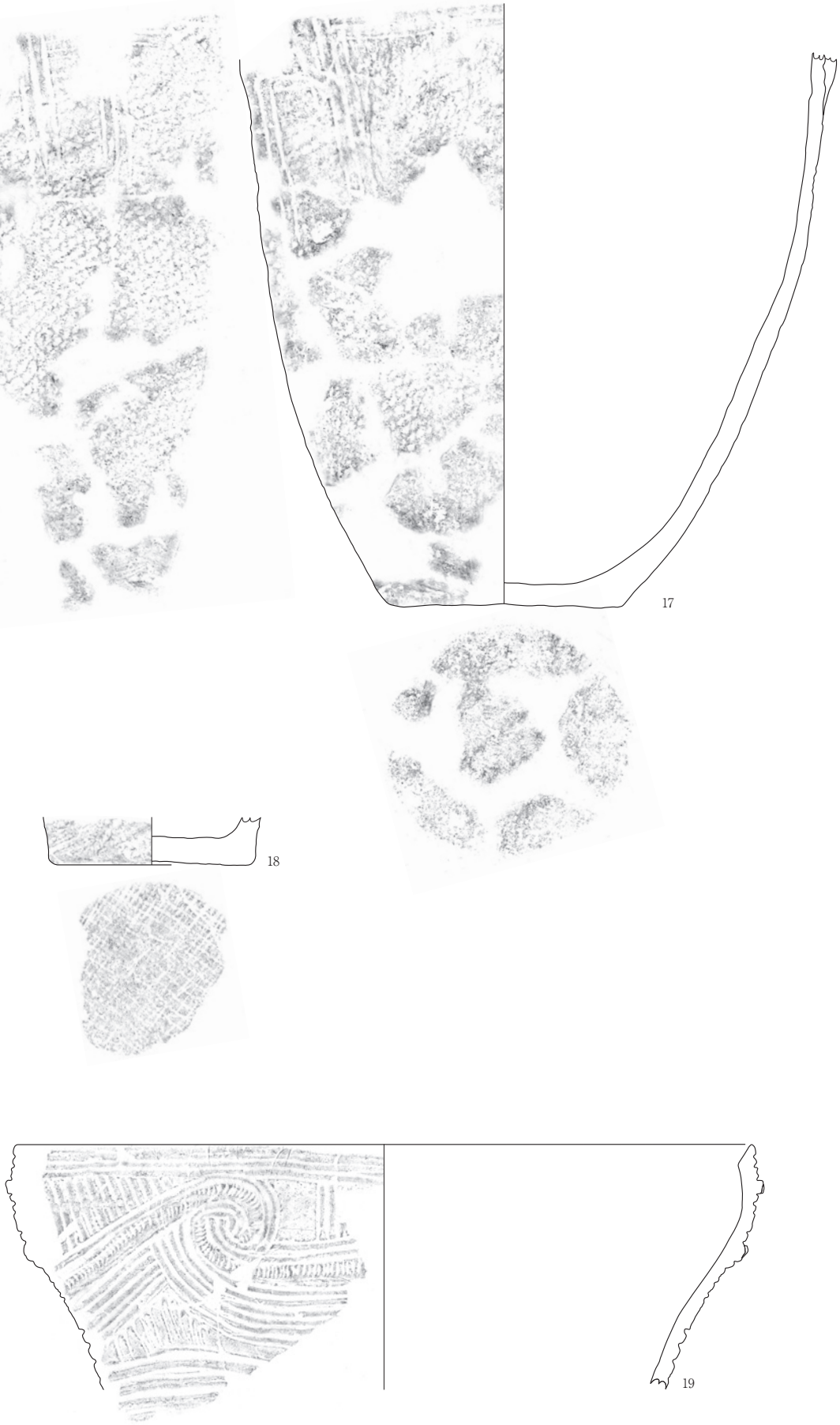
504～507・508は突起。504は円形隆帯を貼り付ける。505・507・508は沈線文を施すもので，508は頂部の渦巻沈線文が垂下する。504～507は中期，508は気屋式もの。

509は口縁部がくの字状に屈曲する小型の鉢で，外面に樹枝状の隆帯を貼り付ける。隆帯は断面三角形で，６単位が配されると推測する。内面には炭化物，外面にはススが付着している。510～523・526・527は口縁部が無文で，平行沈線文または半隆起線を施すもの。524～539・541～548・550～560は口縁部から胴部に縄文を施すもの。口縁部の形態には内側に肥厚するもの，突起を貼り付けるもの，口唇部端面にも縄文があるもの，縄文原体を押圧するものがある。535・536・544は頸部に縄文原体を押圧する。561～581は胴部から底部の破片。底部外面にスダレ状圧痕，網代圧痕，カゴ底圧痕などの敷物圧痕があるものも多い。582・583は浅鉢。口縁部が開き，端部が肥厚する582と口縁部が直立する583がある。584は有孔鍔付土器。穿孔の間隔は３㎝，鍔は高さのない隆帯で，外面はヨコナデ調整である。585・586は土製円盤。586は磨滅が激しく，条がわずかに残るのみである。584は中期ものとみられるが，509～583は詳細時期の決め手を欠くため，出土遺物の主体となる中期～晩期のものとしてまとめた。

（田中道子）

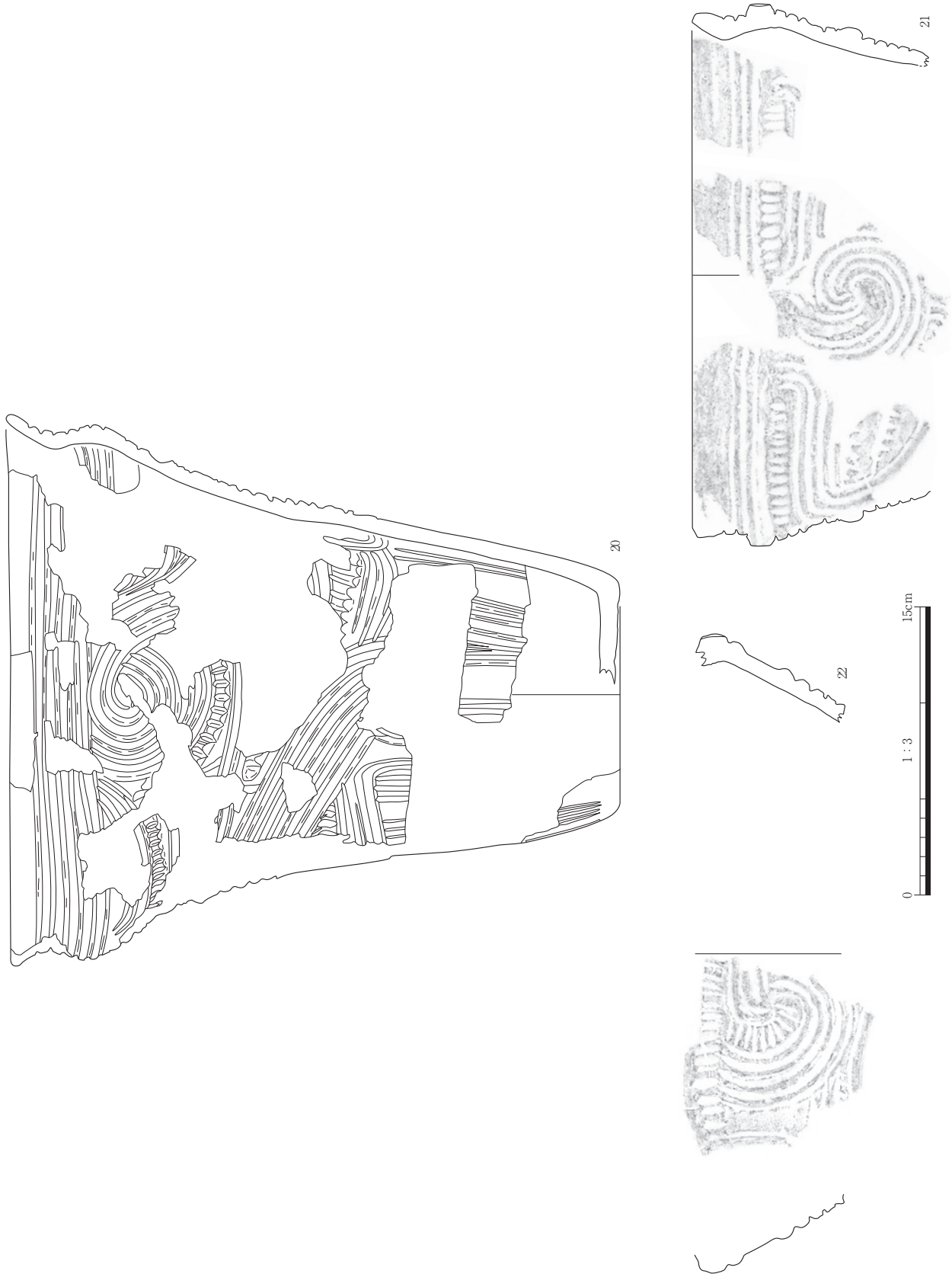


第24図　縄文時代遺物実測図（1/3）
SI4（1～16）



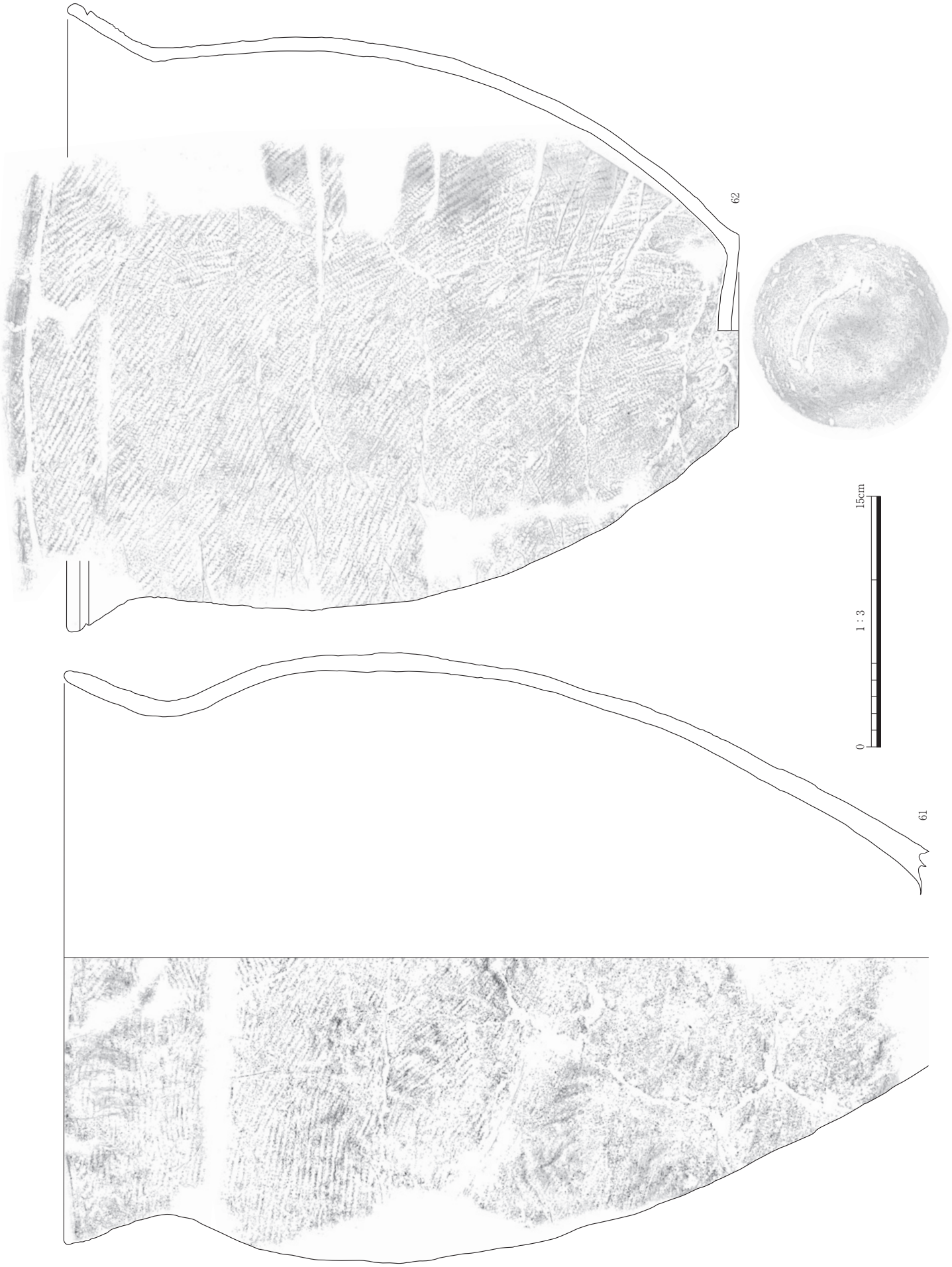
第25図　縄文時代遺物実測図（1/3）
SI4（17・18）　SI400（19）

第26図　縄文時代遺物実測図（1/3）
SI400（20～22）

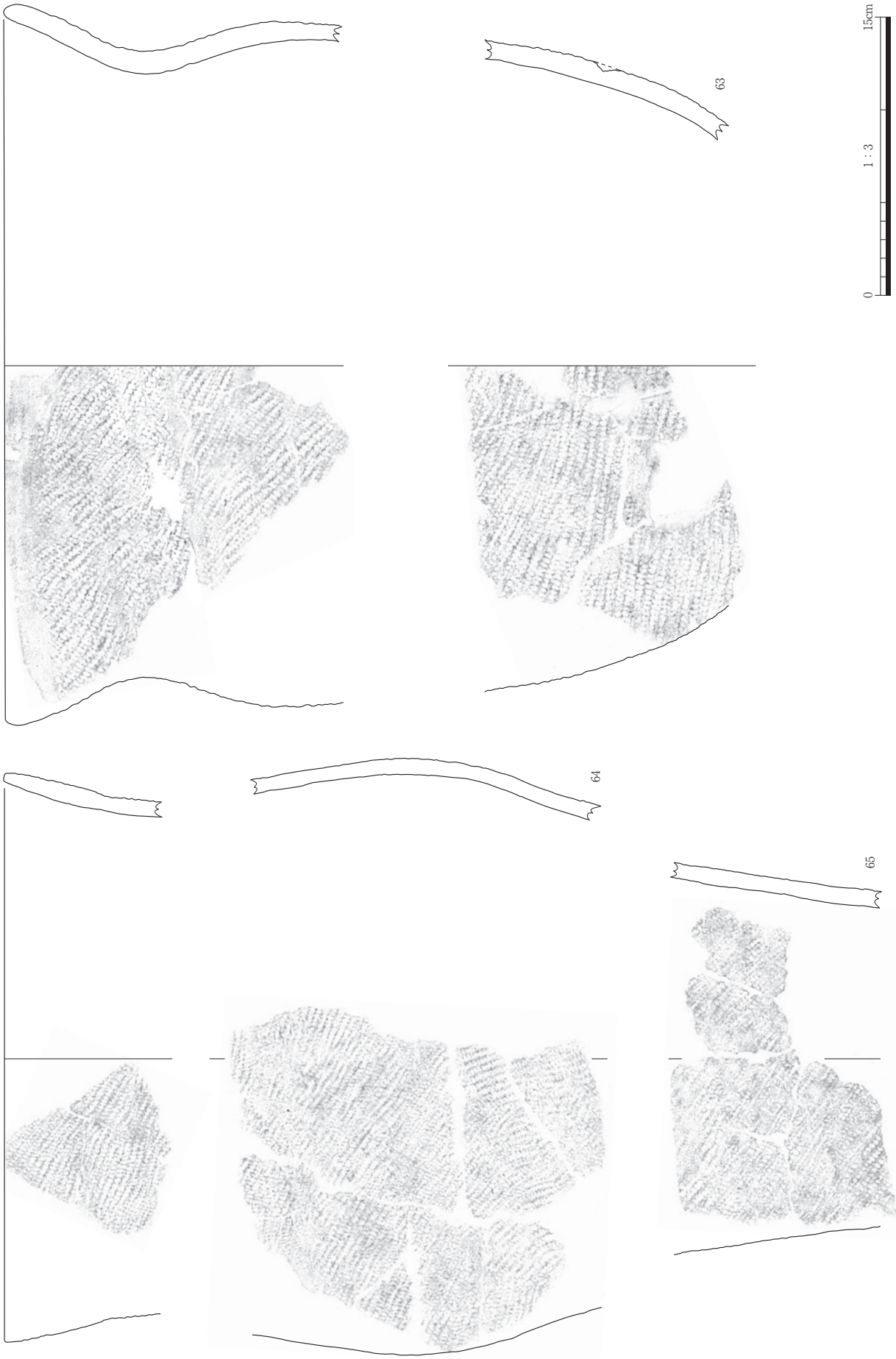

20
21
22
0
1 : 3
15cm

第27図　縄文時代遺物実測図（1/3）
SI400（23～51）

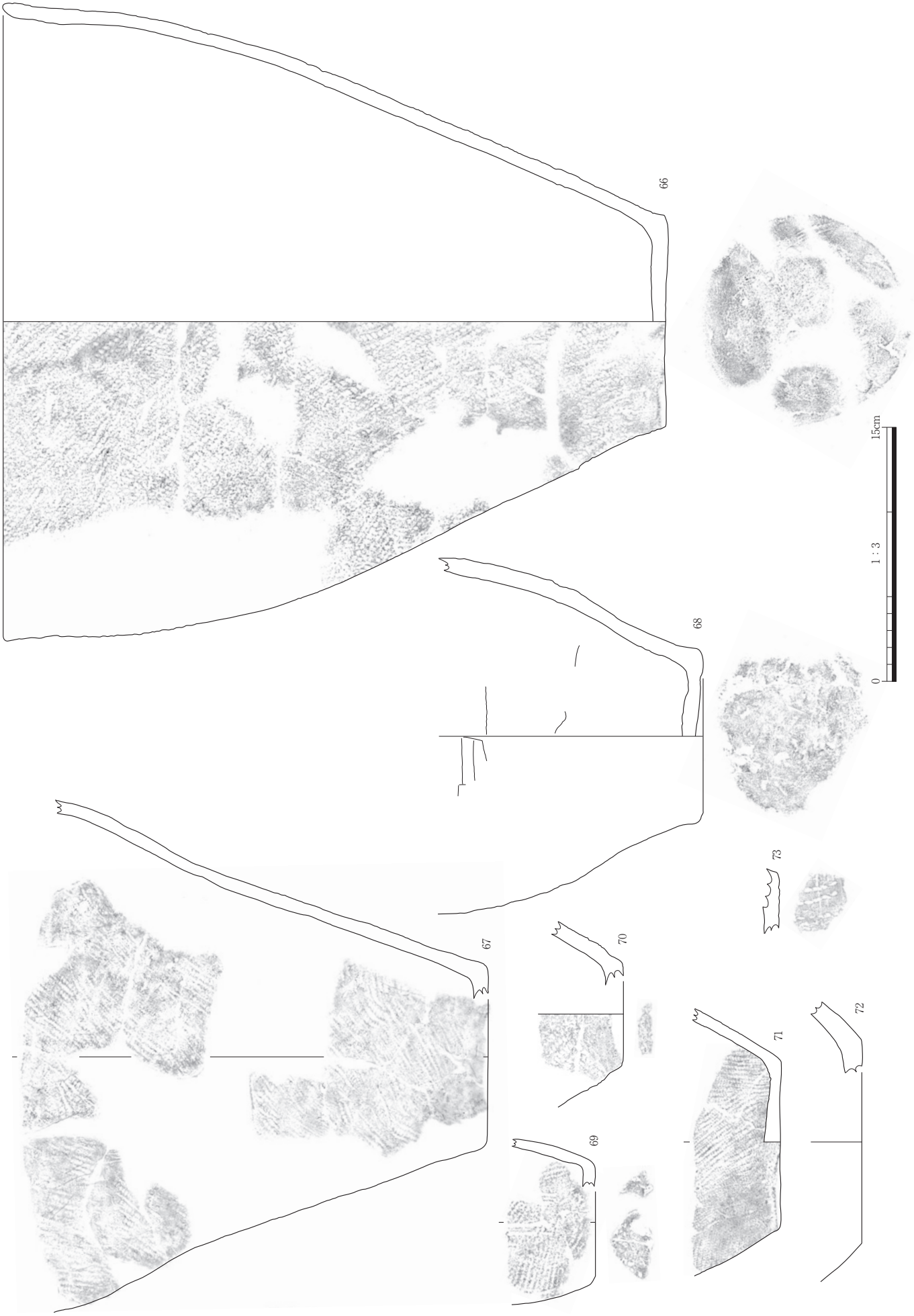
第28図　縄文時代遺物実測図（1/3）
SI400（52～60）



第29図　縄文時代遺物実測図（1/3）
SI400(61・62)

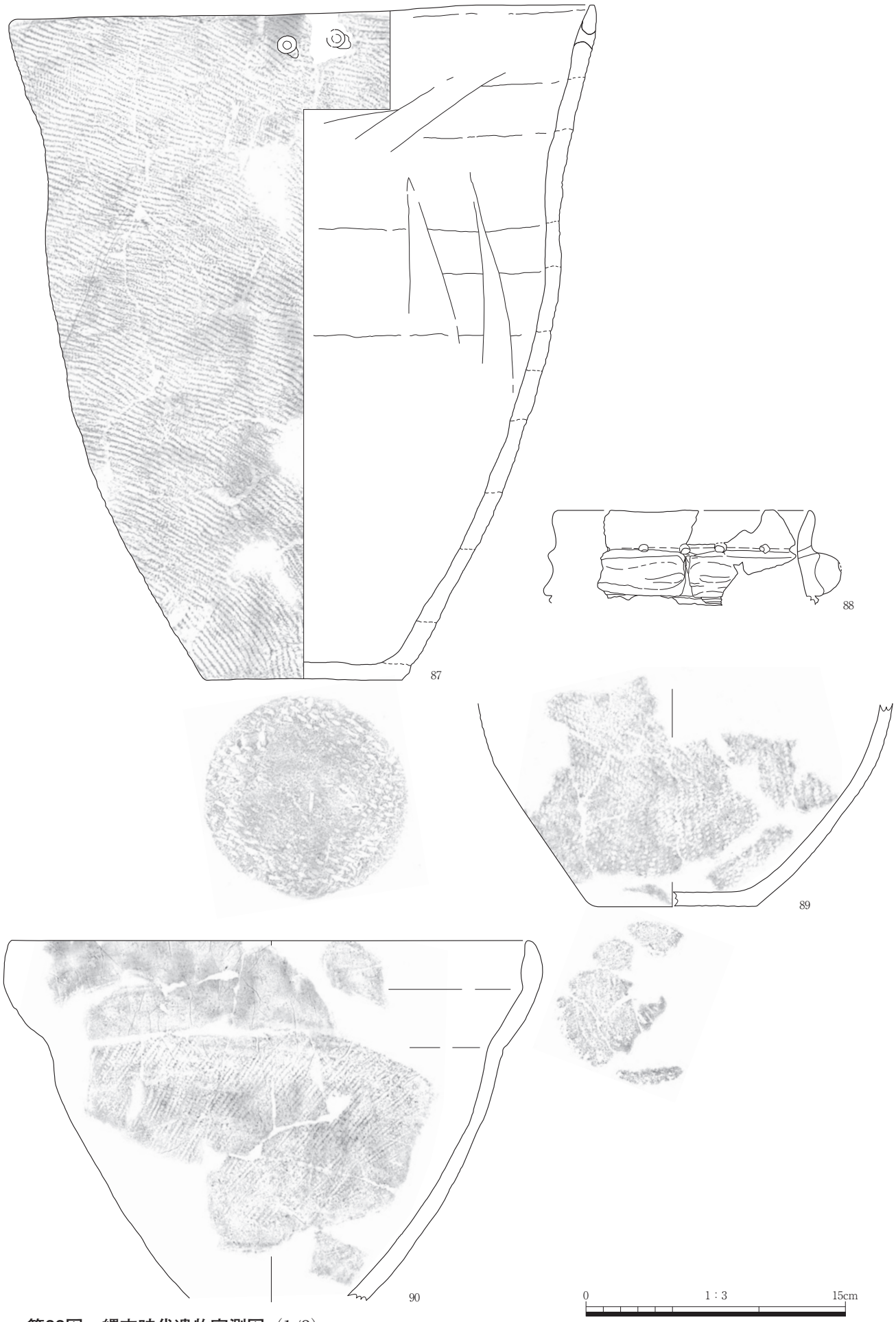


第30図　縄文時代遺物実測図（1/3）
SI400（63～65）



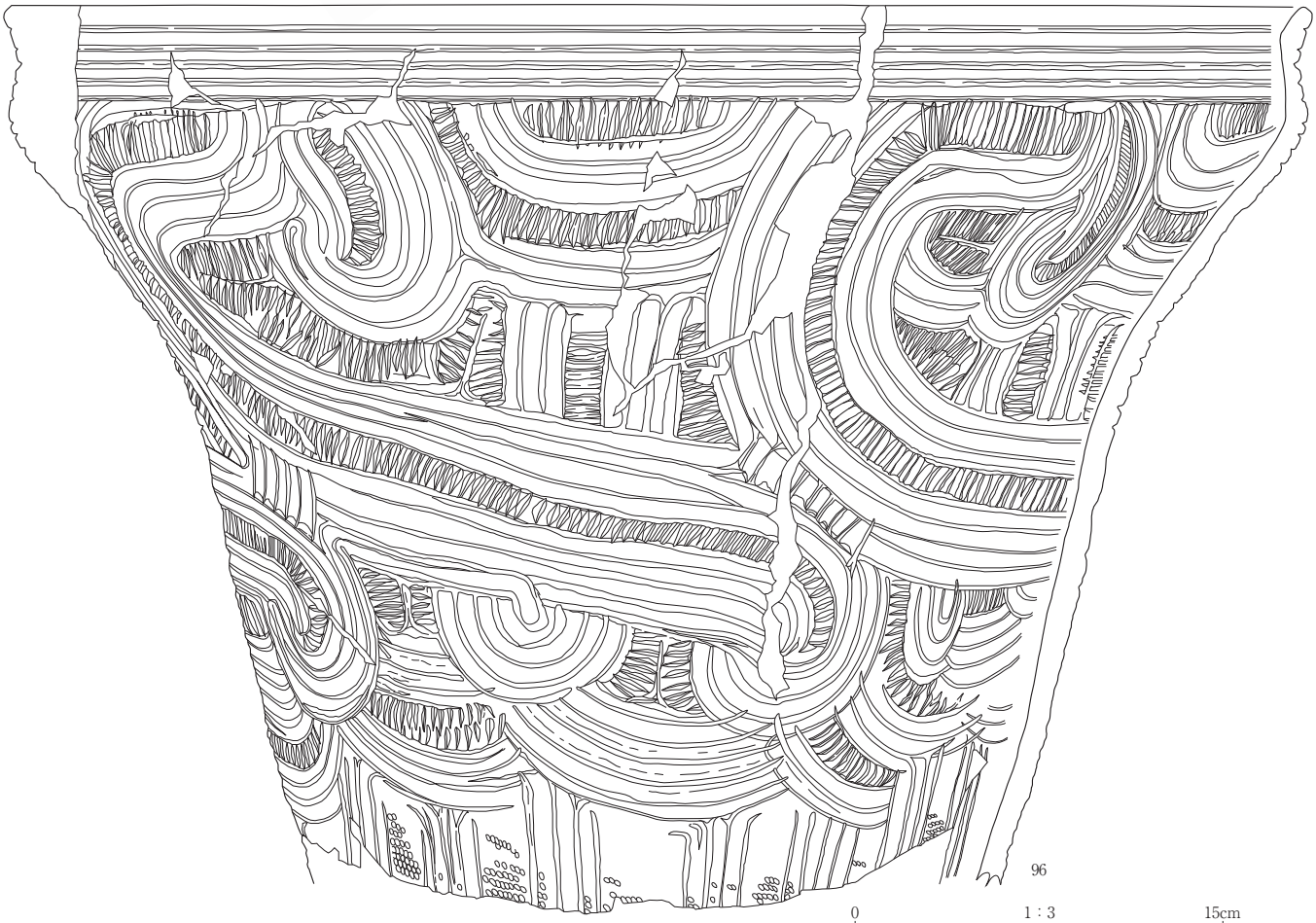
第31図　縄文時代遺物実測図（1/3）
SI400(66～73)

第32図　縄文時代遺物実測図（1/3）
SI401（74～76）　SB1（77･78）　SB7（80～82）　SB8（79・83～85）　SB9（86）



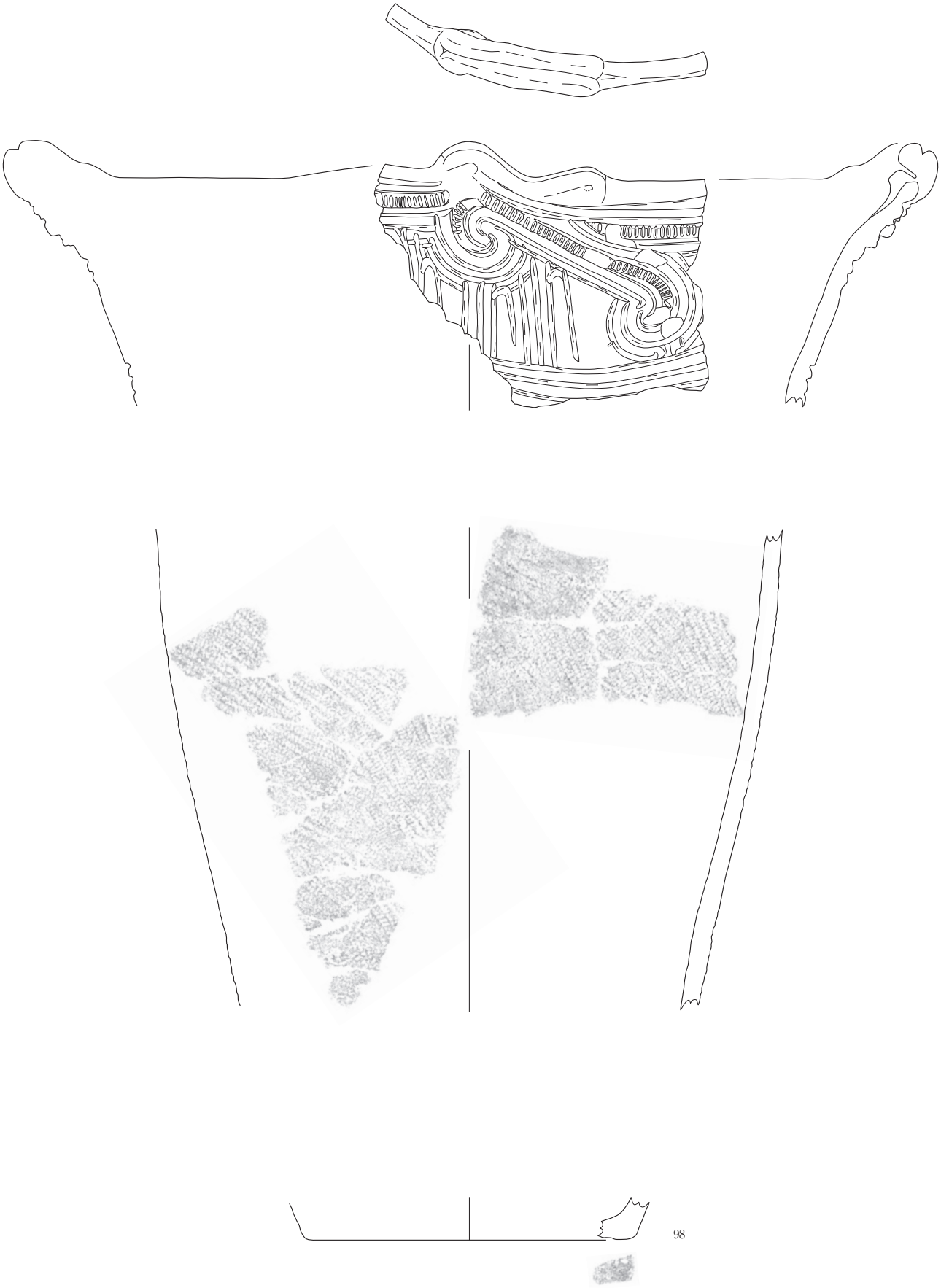
第33図　縄文時代遺物実測図（1/3）
SK204(87)　SK207(88～90)

第34図　縄文時代遺物実測図（1/3）
SK218（91・92）　SK225（93・94）

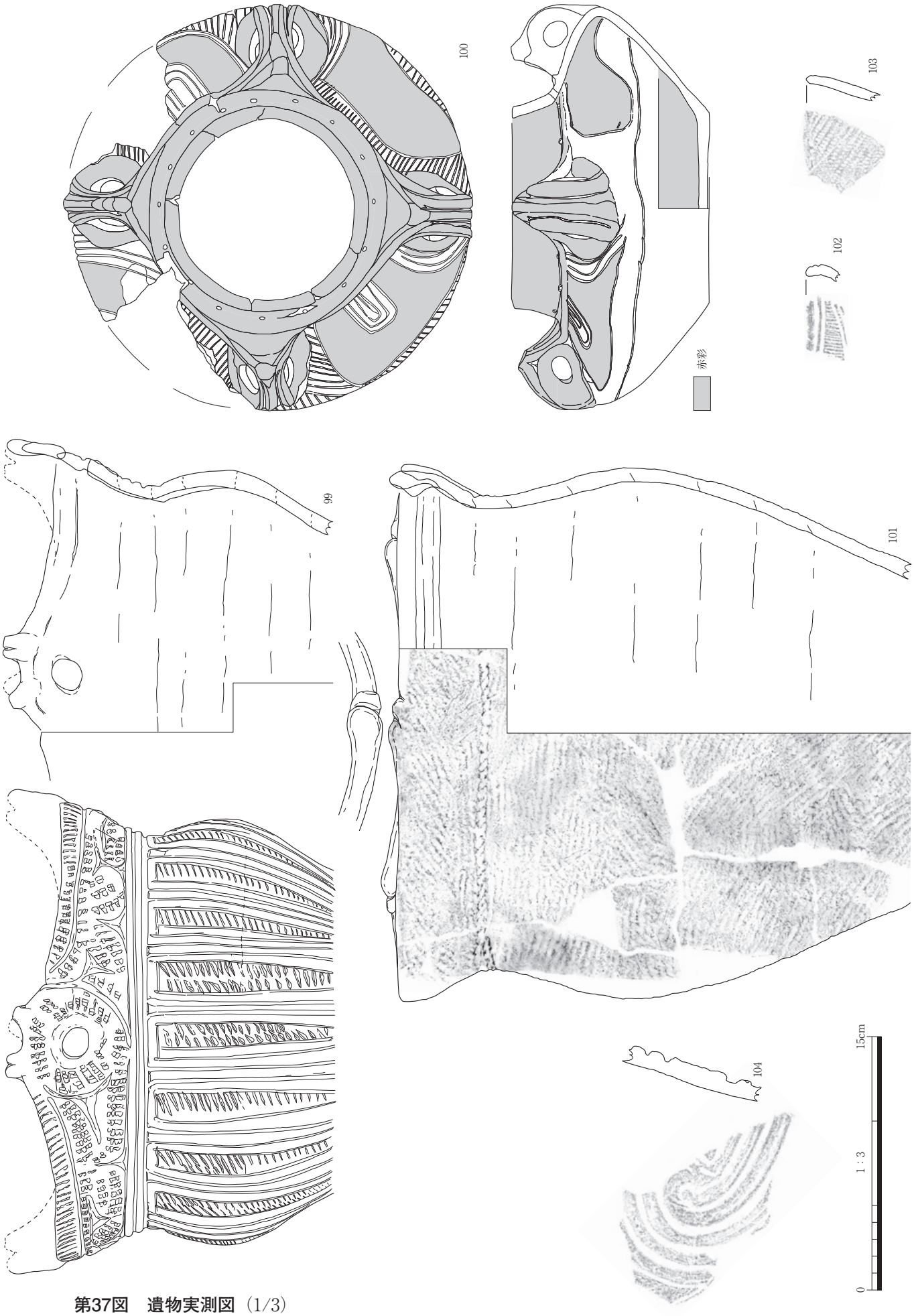


0　1：3　15cm

第35図　縄文時代遺物実測図（1/3）
SK255(95)　SK260(96)　SK265(97)



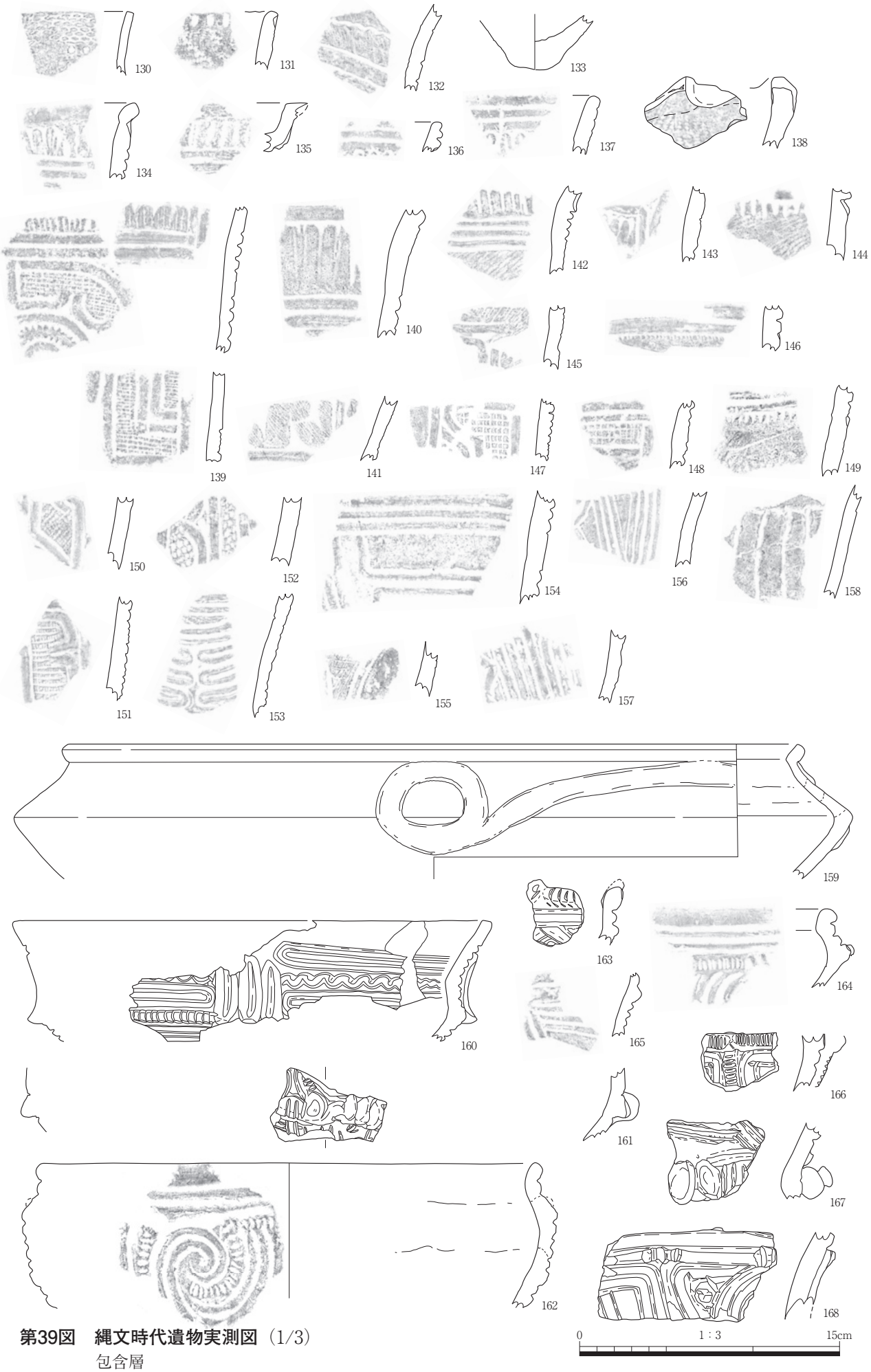
第36図　縄文時代遺物実測図（1/3）
SK261(98)



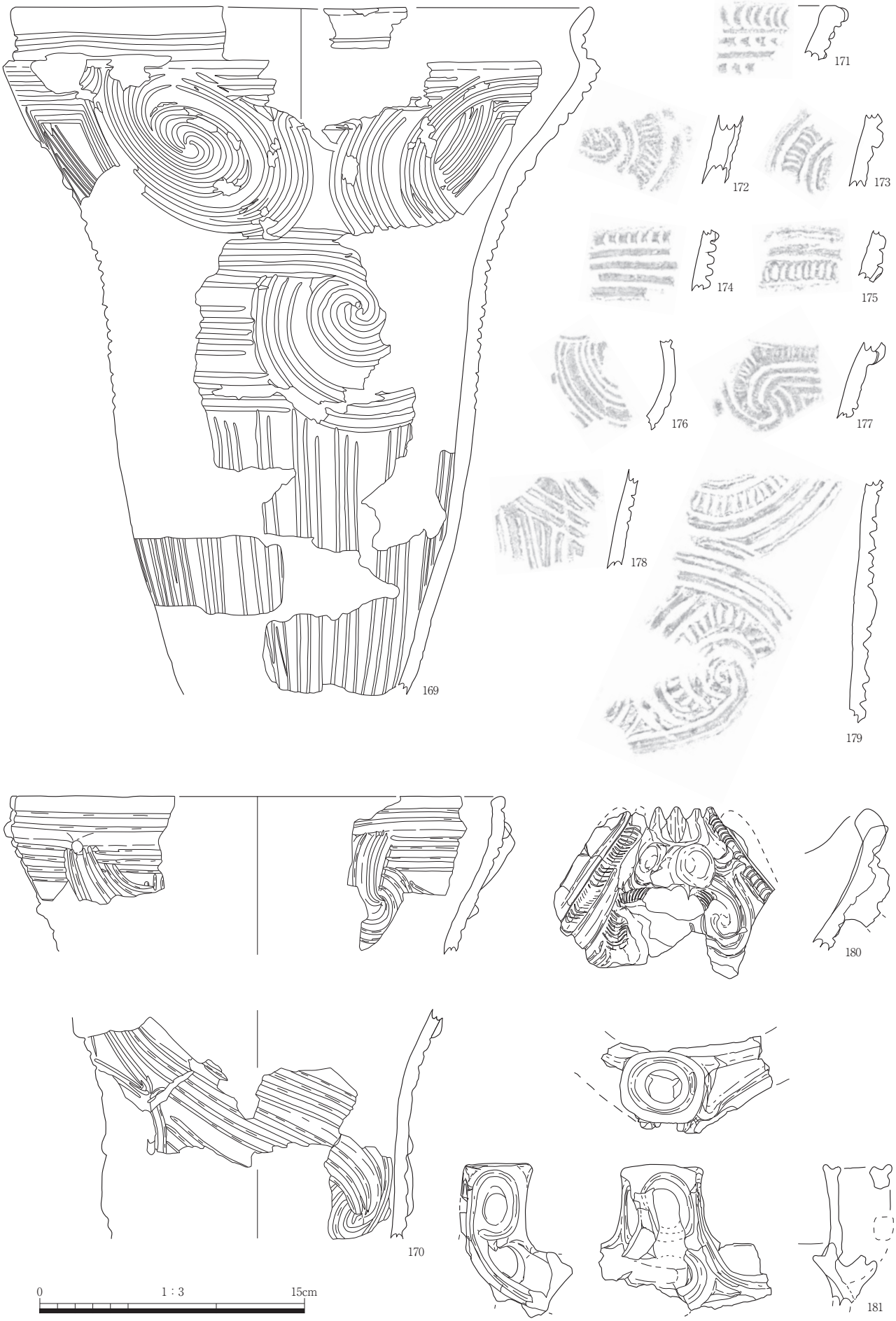
第37図　遺物実測図（1/3）
SK266(99)　SK390(100～103)　SK201(104)

第38図　縄文時代遺物実測図（1/3）

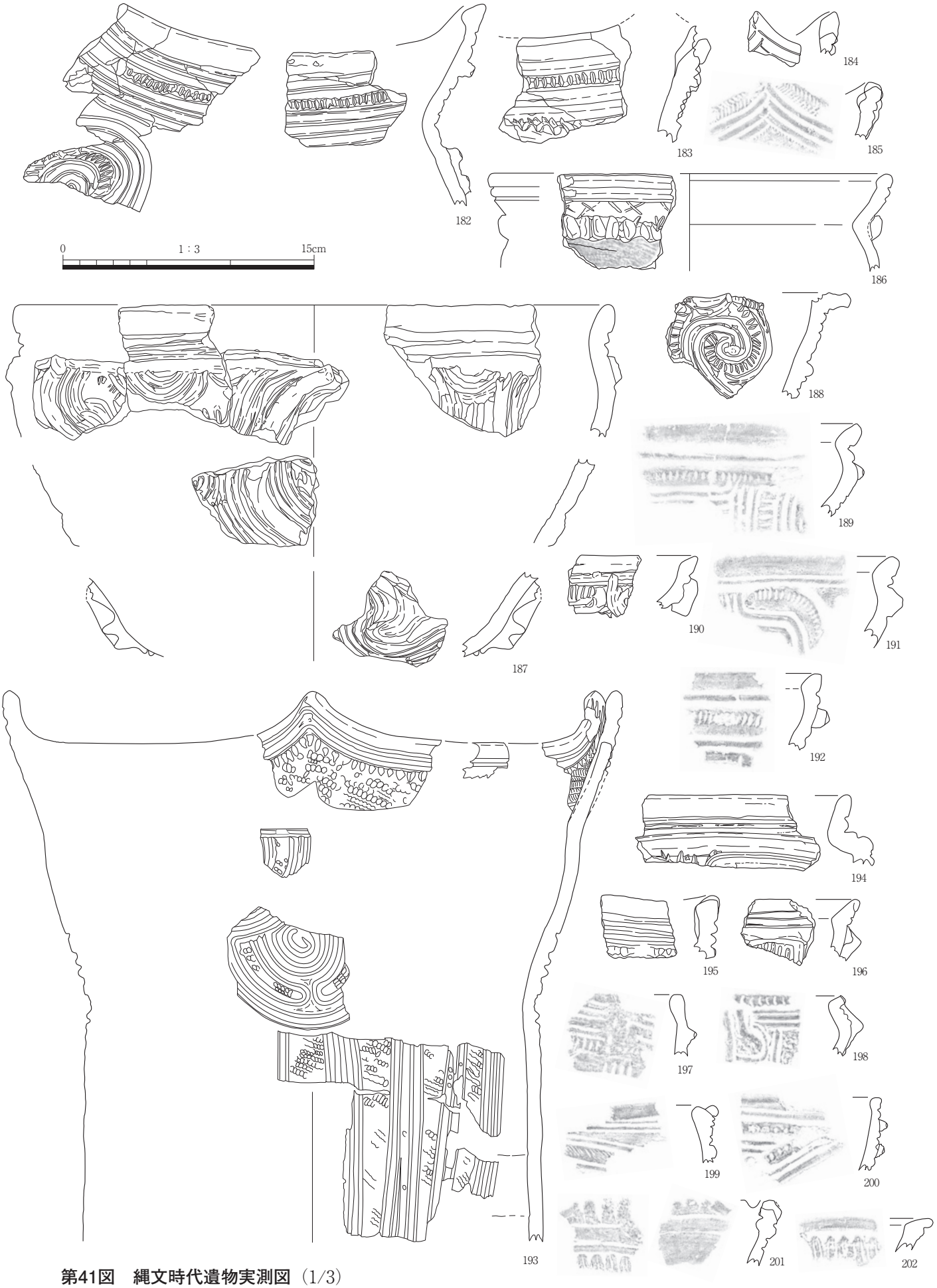
SK319(105)　SK391(106)　SK810(107・108)　SK5(109・110)　SK253(111)　SK278(112)　SK282(113)
SK364(114)　SK403(115)　SK448(116)　SK495(117～119)　SK496(120・121)　SK603(122)　SK614(123)
SK705(124)　SK761(125)　SK773(126)　SK788(127)　SK790(128)　SK795(129)



第39図　縄文時代遺物実測図（1/3）
包含層



第40図　縄文時代遺物実測図（1/3）
包含層



第41図　縄文時代遺物実測図（1/3）
包含層

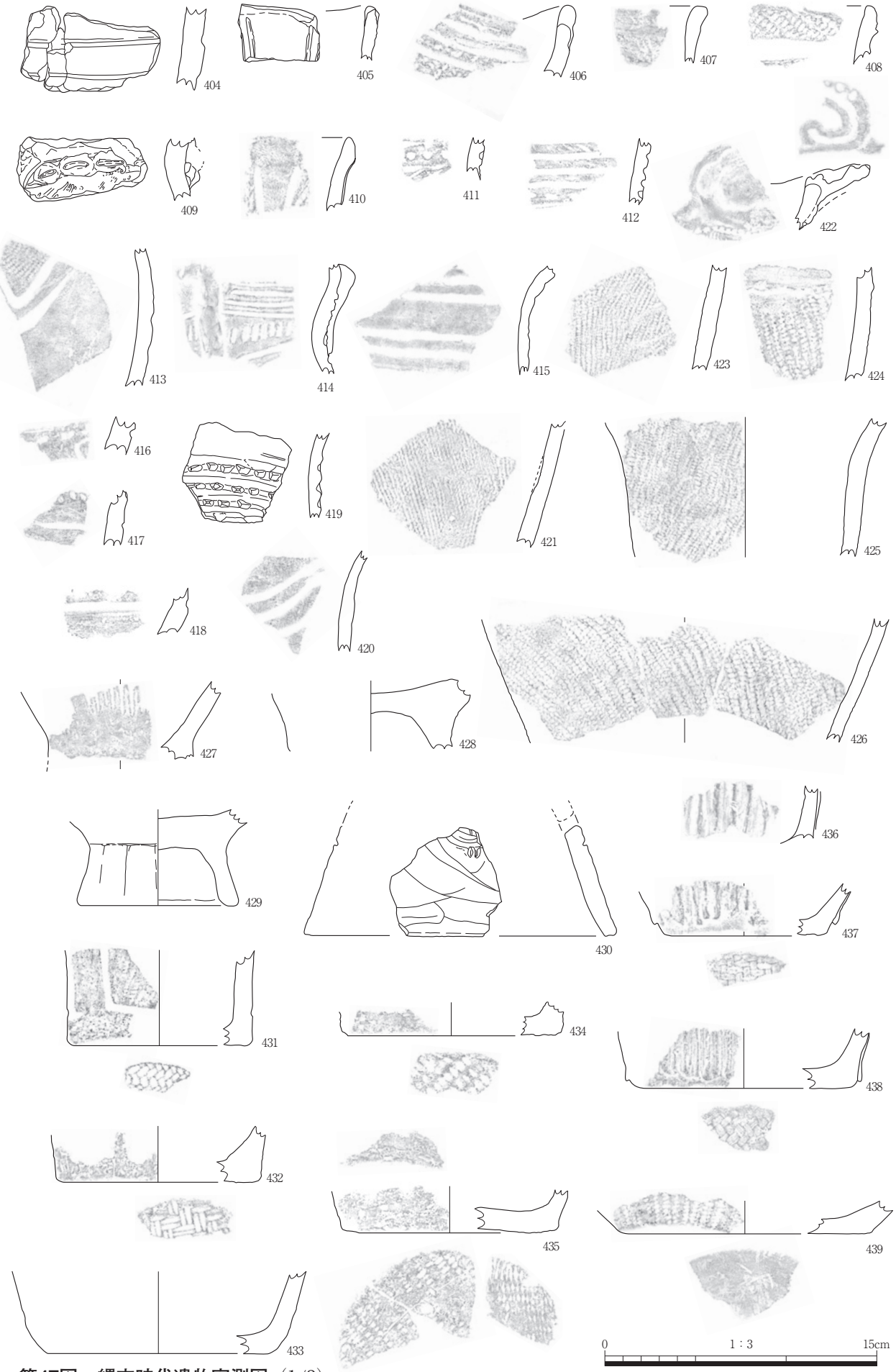
第42図　縄文時代遺物実測図（1/3）
包含層

第43図　縄文時代遺物実測図（1/3）
包含層

第44図　縄文時代遺物実測図（1/3）
包含層

第45図　縄文時代遺物実測図（1/3）
包含層

第46図　縄文時代遺物実測図（1/3）
包含層

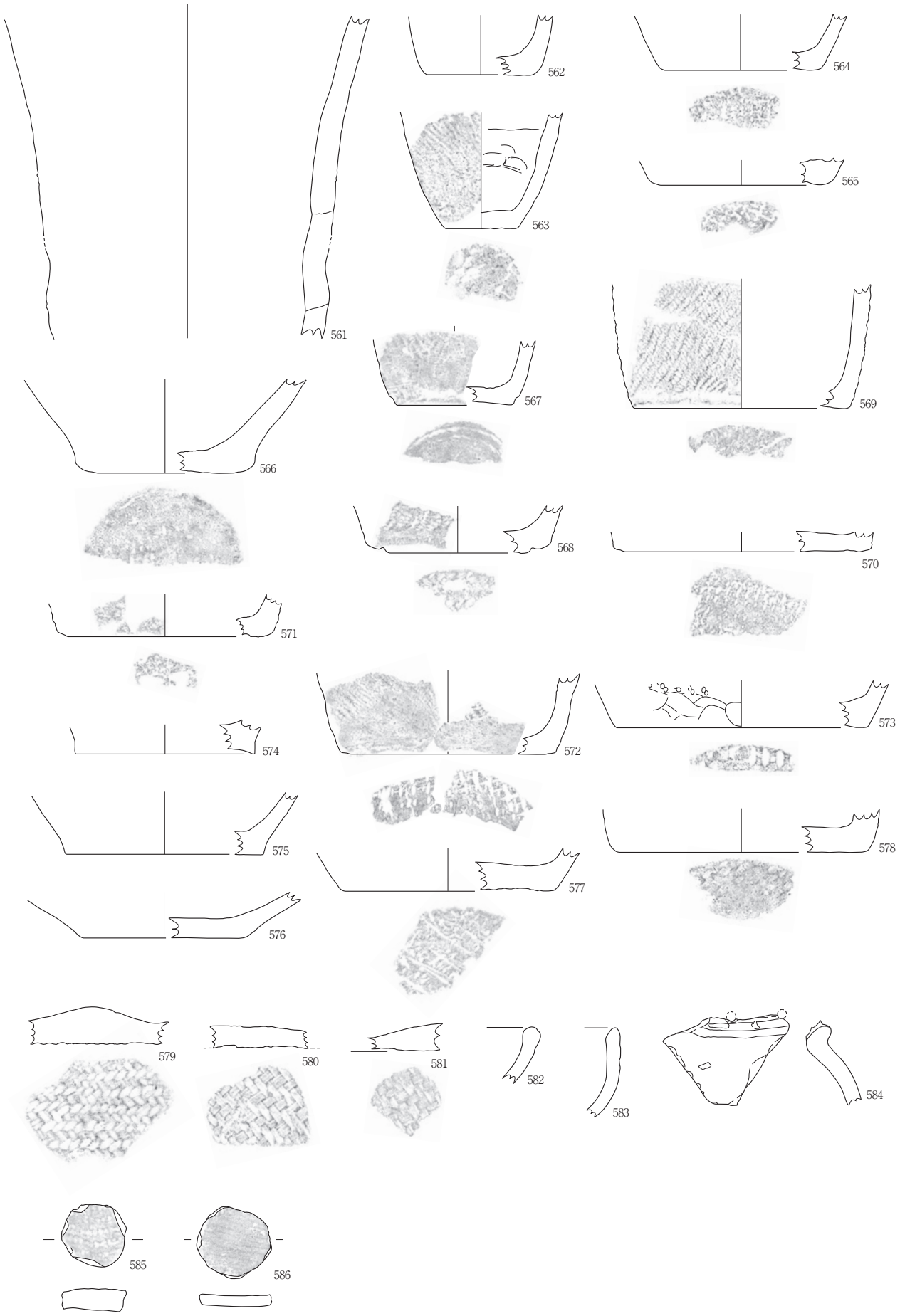


第47図　縄文時代遺物実測図（1/3）
包含層

第48図　縄文時代遺物実測図（1/3）
包含層

第49図　縄文時代遺物実測図（1/3）
包含層

第50図　縄文時代遺物実測図（1/3）
包含層



第51図　縄文時代遺物実測図（1/3）
包含層

第10表　縄文土器一覧（1）

挿図	遺物番号	図版	地区	遺構	X	Y	層	No.	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 器高	法量(cm) 底径	調整・文様・付着物 口唇部	調整・文様・付着物 外面	調整・文様・付着物 内面	時期	胎土	胎土色 記号	胎土色 色名	胎土タイプ※	備考	放射性炭素年代測定試料NO	漆塗膜分析試料NO
24	1	24	A	SI4				3	深鉢				隆帯貼付8mm・ナデ・黒斑	半隆起線6mm横3本・2本目上連続爪形文(幅6mm)・無文帯・スス付着	磨滅	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	7.5YR6/6	橙	F			
	2	24	A	SI4					深鉢				ナデ・面取り状・波状口縁	半隆起線5mm・隆帯6mm三角形区画・無文部刺突(ヘラ状)・スス付着	ミガキ状ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	3		A	SI4					鉢				ナデ	磨滅	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	4	24	A	SI4					深鉢				隆帯貼付上連続爪形文	蓮華状文・半隆起線5mm横2本・縄文LR・半隆起線5mm縦・スス付着	ミガキ状ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	E			
	5	24	A	SI4					深鉢				ナデ	蓮華状文・半隆起線6mm横	ヨコナデ・黒斑	新崎式	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	6	24	A	SI4				7	深鉢				ナデ	隆帯貼付8mm・縦短沈線・半隆起線7mm横3本・2本目上連続爪形文・無文帯・斜行縄文LR・半隆起線7mm縦・スス付着	ヨコナデ・コゲ付着	新崎式	緻密・長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	7		A	SI4					深鉢				-	半隆起線?・斜行縄文RL	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・赤色粒	10YR7/4	にぶい黄橙	F			
	8		A	SI4					深鉢				-	縄文RL・連続刺突(半截竹管)・半隆起線6mm横	ミガキ状ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	9		A	SI4					深鉢				-	半隆起線5mm横・連続爪形文(幅5mm)・連続刺突(ヘラ状)・黒斑	ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	10		A	SI4					深鉢				-	半隆起線6mm横・連続爪形文(幅5mm)・連続刺突(ヘラ状)・スス付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	11	19	A	SI4				1	深鉢	22			隆帯貼付・突起・ナデ	斜行縄文LR・スス付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	12	24	A	SI4				4	深鉢				隆帯貼付・突起・ナデ	斜行縄文LR・スス付着	ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	長石・石英・4mm大のレキ	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	13	24	A	SI4					鉢				隆帯貼付9mm・ナデ	斜行縄文RL・スス付着	ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	7.5YR6/4	にぶい橙	A			
	14	24	A	SI4					深鉢				-	斜行縄文RL・半隆起線7mm渦巻文・7mm縦	ヨコナデ・磨滅	新崎～上山田式	長石・石英・3mm大のレキ	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	15	24	A	SI4				3	深鉢				-	斜行縄文RL・半隆起線6mm縦曲線・縦・スス付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・4mm大のレキ多	7.5YR6/4	にぶい黄橙	F			
	16	24	A	SI4					深鉢				-	斜行縄文LR・半隆起線6mm上連続爪形文・連続刺突(ヘラ状)・半隆起線5mm・6mm・上連続爪形文・半隆起線6mm・直線・曲線・渦巻文・沈線充填・スス付着・底部圧痕(不明)	ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
25	17	19	A	SI4				-/1	深鉢			11.6		斜行縄文LR・隆帯縦・半隆起線6mm縦横に区画(4分割)・区画内正位格子目文・スス付着・底部圧痕(不明)	ヨコナデ・炭化物付着	新崎～上山田式	緻密・長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	18	24	A	SI4					深鉢				-	斜行縄文LR・底部スダレ状圧痕	ヨコナデ・コゲ付着	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母・4mm大のレキ多	10YR7/4	にぶい黄橙	B			
	19	24	C	SI400				17/-	深鉢				ナデ	半隆起線4mm横2本・隆帯10mm上キザミ(幅8mm)渦巻状・半隆起線4mm渦巻に沿う・区画内蓮華状文半隆起線4mmで充填・半隆起線7mm横4本・スス付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
26	20	19	C	SI400	132	82			深鉢	28.7	31.9	11.4	ナデ	半隆起線6mm5本横・8mm渦巻文・半円文・半隆起線間蓮華状文キザミ(半隆起線7mm)・半隆起線7mm2本～4本縦・スス付着	ヨコナデ・黒斑・コゲ付着	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	21	24	C	SI400	191	82		10/61/畔	深鉢				ナデ	半隆起線5mm横2本・隆帯14mm上キザミ(幅12mm)・半隆起線5mm曲線3本・無文帯(楕円)区画内蓮華状文刺突(竹管)・半隆起線5mm横2本・隆帯11mm渦巻文・半隆起線5mm4本沿う	ヨコナデ・コゲ付着	新崎～上山田式	長石・石英	7.5YR6/6	橙	D			
	22	24	C	SI400	132	82			深鉢				-	隆帯(突起欠損)・キザミ(幅11mm)・隆帯15mm渦巻文上キザミ(幅11mm)・半隆起線5mm渦巻に沿う4本・スス付着	ヨコナデ・コゲ付着	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母・骨針	10YR8/3	浅黄橙	C			
27	23	24	C	SI400	-/132	-/82			鉢				ナデ・沈線	基隆帯10mm方形区画・区画内斜行縄文LR・半隆起線4mm3本・2本・3本?・スス付着(全面)	ヨコナデ・コゲ付着	新崎～上山田式	長石・石英・骨針	10YR5/4	にぶい黄褐	C			
	24		C	SI400				6下	深鉢				磨滅	斜行縄文RL・半隆起線5mm	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母・骨針	10YR7/3	にぶい黄橙	F			
	25	24	C	SI400					深鉢				肥厚(内面側)・波状	半隆起線5mm3本半円・5本半円・5mm縦に充填蓮華状文・スス付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	26	24	C	SI400	131	82			鉢				波状口縁(4波状)・ナデ	隆帯10mm・沈線幅2mm(隆帯・口縁に沿う)	ヨコナデ	上山田式	長石・石英?・黒雲母多・骨針	7.5YR5/6	明褐	Ⓐ			
	27	24	C	SI400					深鉢				ナデ	隆帯9mm貼付・上連続爪形文(幅8mm)・半隆起線8mm横3本・縄文RL・黒斑	輪積痕・ナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母・赤色粒	10YR7/4	にぶい黄橙	B			
	28	24	C	SI400	132	82			深鉢				ナデ	ヨコナデ・半隆起線7mm横2本・屈曲部に縄文原体押圧	ヨコナデ	新崎～上山田式	緻密・石英・骨針	10YR6/3	にぶい黄橙	A			
	29		C	SI400					鉢				ナデ・スス付着	斜行縄文RL・ナデ・スス付着	ヨコナデ・コゲ付着	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母・骨針	7.5YR6/4	にぶい橙	Ⓑ			
	30		C	SI400	132/-/-	82/-/-			鉢				ナデ・黒斑	半隆起線8mm・黒斑	ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	長石・石英・赤色粒・骨針	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	31		C	SI400					鉢				ナデ・スス付着	ヨコナデ・縄文原体押圧・スス付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・骨針	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	32	24	C	SI400	132	82			深鉢				-	半隆起線6mm上キザミ(幅5mm)・6mm横3本・三ツ山突起・楕円区画爪形2列(幅6mm)・下端楔形刺突・半隆起線6mm横2本・隆帯8mm上キザミ(幅6mm)渦巻文・半隆起線6mm渦巻に沿う・半隆起線直線曲線ヘラキザミ(幅5mm)・半隆起線6mm横3本・スス付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	7.5YR7/4	にぶい橙	D			
	33	24	C	SI400					深鉢				-	半隆起線5mm渦巻文・半隆起線5mm縦	ヨコナデ	上山田式	長石・石英・黒雲母・骨針	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	34	24	C	SI400					深鉢				-	隆帯11mm上キザミヘラ状(幅10mm)・半隆起線6mm横・W字状文・黒斑・スス付着	ヨコナデ・コゲ付着	上山田式	長石・石英多・黒雲母	10YR7/4	にぶい黄橙	F			
	35		C	SI400					深鉢				-	隆帯8mm方形(楕円形?)区画・区画内無文周囲ヘラキザミ	ヨコナデ	新崎～上山田式	石英	10YR7/4	にぶい黄橙	D			
	36	24	C	SI400	132	82			深鉢				-	隆帯9mm斜行・半隆起線7mm4本渦巻文・スス付着	ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	7.5YR6/4	にぶい橙	D			
	37	24	C	SI400				49下	深鉢				-	半隆起線6mm3本楕円区画・区画内上端楔形キザミ(ヘラ状)・半隆起線6mm渦巻文・半隆起線6mm縦・スス付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・赤色粒	10YR7/4	にぶい黄橙	F			
	38	24	C	SI400	132	82			深鉢				-	隆帯8mm渦巻文上キザミ(幅5mm)・半隆起線4mm4本渦巻に沿う	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・赤色粒・骨針	10YR7/4	にぶい黄橙	F			
	39		C	SI400	132	82			鉢				-	半隆起線5mm横2本・隆帯貼付上から半隆起線5mmで渦巻文・スス付着	ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	長石・石英・骨針	10YR6/2	灰黄褐	F			
	40		C	SI400					鉢				-	半隆起線6mm楕円形・区画内半隆起線横	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・骨針	7.5YR5/4	にぶい褐	F			
	41		C	SI400	132	82			深鉢				-	隆帯9mm上キザミ(幅7mmヘラ状)・半隆起線7mm横3本	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・骨針	5YR6/6	橙	F			

※ ○のものは分類の基準とした遺物

第10表　縄文土器一覧（2）

挿図	遺物番号	図版	地区	遺構	X	Y	層	No.	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	調整・文様・付着物 口唇部	外面	内面	時期	胎土	胎土色 記号	色名	胎土タイプ	備考	放射性炭素年代測定試料NO	漆塗膜分析試料NO
27	42		C	SI400					深鉢				-	沈線斜格子目文・無文帯・沈線斜格子目文	ヨコナデ	新崎式	長石・骨針	7.5YR6/4	にぶい橙	A			
	43	24	C	SI400				24	深鉢				-	隆帯8mm横渦巻文上ヘラキザミ(幅6mm)・半隆起線7mm・スス付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	石英	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	44	24	C	SI400					鉢				-	隆帯12mm上綾杉状にキザミ・半隆起線5mm楕円形区画・区画内細沈線	ヨコナデ	新道式系	長石・石英・黒雲母・骨針	5YR4/6	赤褐	B			
	45		C	SI400	132	82			深鉢				-	無文帯・半隆起線7mm横2本・縄文地LR・半隆起線5mm縦・スス付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・骨針・赤色粒	7.5YR7/3	にぶい橙	F			
	46	24	C	SI400				33	深鉢				-	半隆起線6mm横・その間楔形キザミ(半截竹管)途中で向きかえる・磨滅	ヨコナデ・磨滅	新崎式	長石・石英・赤色粒	7.5YR6/4	にぶい橙	F			
	47	24	C	SI400	132	82			有孔鍔付				-	縄文撚糸R・半隆起線5mm楕円区画 方形区画・赤彩(沈線の中に残る)・黒斑	ミガキ状ナデ	新崎～上山田式	長石・石英・雲母・骨針	10YR7/4	にぶい黄橙	D			
	48		C	SI400					深鉢				-	半隆起線5mm縦・斜行沈線(半截竹管)	ヨコナデ	新崎式	長石・石英・赤色粒	10YR7/6	橙	F			
	49	24	C	SI400					深鉢				-	隆帯10mm渦巻文・スス付着	輪積痕・ヨコナデ	上山田～串田新式	長石・石英・黒雲母	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	50	24	C	SI400					深鉢				-	縄文RL縦位・粘土紐貼付・隆帯上縄文RL	ヨコナデ	気屋式?	長石	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	51		C	SI400	132	83	Ⅱ層		鉢			10.6	-	半隆起線6mm縦2本単位・底部スダレ状圧痕	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母・赤色粒・骨針	7.5YR6/4	にぶい橙	F			
28	52		C	SI400	-/131	-/82			深鉢				-	縄文RL・ヘラ描沈線縦位・ヨコナデ	ヨコナデ・炭化物付着	新崎～上山田式	長石・石英・骨針	10YR6/4	にぶい黄橙	C			
	53	25	C	SI400	132	82			深鉢				-	縄文RL・半隆起線5mm縦・底部圧痕(不明)	ヨコナデ・コゲ付着・一部剥離	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	54	19	C	SI400	132/130/132	82/83/83	-/Ⅱ層/Ⅱ層		深鉢				-	半隆起線5mm・隆帯10mm上爪形・斜行して渦巻文・半隆起線5mm2本・斜行縄文LR・スス付着・底部圧痕(不明)	ヨコナデ・黒斑	上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	55	25	C	SI400	132	82			深鉢				-	半隆起線6mm横2本・隆帯12mm上連続爪形(幅10mm)・半隆起線6mm横3本・縄文LR破綻文27mm間隔・黒斑	ミガキ状ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	7.5YR6/4	にぶい橙	F			
	56	25	C	SI400	132/131/132	82/82/83	-/Ⅱ層/Ⅱ層		深鉢				-	半隆起線5mm3本・蓮華状文半裁竹截刺突・斜行縄文LR・スス付着	ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	石英・骨針	7.5YR6/4	にぶい橙	F			
	57	19	C	SI400	131/131/132	82/81/82	-/Ⅱ層/Ⅱ層	18・42	深鉢				-	斜行縄文RL・半隆起線9mm弧状・スス付着	ヨコナデ・炭化物付着	新崎～上山田式	長石・石英・骨針	10YR6/4	にぶい黄橙	D		5	
	58	19	C	SI400				-/2下・3・11・34	深鉢	20	22.2	7.6	細かくキザミ(棒状?)	斜行縄文?撚糸?・隆帯ユビオサエ・スス付着	ヨコナデ・黒斑・コゲ付着	新崎～上山田式	長石・石英・赤色粒	10YR6/3	にぶい黄橙	F			
	59	25	C	SI400	131/-/-	82/-/-			台付鉢				-	ヨコナデ	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR7/4	にぶい黄橙	F			
	60	20	C	SI400				39	台付鉢				-	ヨコナデ・スス付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英多	10YR6/3	にぶい黄橙	F			
29	61	20	C	SI400				-/17・22・23・31・40	深鉢	33.8			ナデ・横位縄文RL	斜行縄文RL・黒斑・頸部を境にスス付着	ヨコナデ・黒斑・コゲ付着	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	62	20	C	SI400	131	82		3・5・6・6下・8・9・11・12・13・14・15・畔	深鉢	37	40.2	11.5	-	斜行縄文RL・口縁平行沈線1本・上部のみスス付着・底部スダレ状圧痕?	ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
30	63	25	C	SI400	-/131/131	-/82/81	畦/-/Ⅱ層		深鉢				ナデ	斜行縄文RL・黒斑・スス付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母多・骨針	10YR6/3	にぶい黄橙	B			
	64		C	SI400	131/132	81/82	Ⅱ層		深鉢	30.4			ナデ・面取り状	斜行縄文RL・縦位縄文RL・スス付着	ヨコナデ・炭化物付着	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母多・骨針	10YR6/3	にぶい黄橙	B			
	65		C	SI400	132	82			深鉢				-	縄文RL・黒斑・スス付着	ナデ・炭化物付着	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母・骨針	10YR7/3	にぶい黄橙	B			
31	66	20	C	SI400	131/132	82/82	Ⅱ層		深鉢				ナデ	斜行縄文RL・スス付着・黒斑・底部圧痕(不明)	ヨコナデ・コゲ付着	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	7.5YR7/4	にぶい橙	F			
	67	20	C	SI400	130/131/131	82/80/82	Ⅱ層		深鉢			10.8	-	斜行縄文LR・スス付着	ヨコナデ・コゲ付着	新崎～上山田式	緻密・黒雲母	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	68	20	C	SI400					深鉢				-	ヨコナデ・スス付着・底部圧痕(不明)	ヨコナデ・コゲ付着	新崎～上山田式	長石・石英・5mm大のレキ多	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	69	25	C	SI400	132	82			深鉢				-	横位縄文RL・半隆起線5mm縦・黒斑・底部圧痕(不明)	ヨコナデ・炭化物付着	新崎～上山田式	長石・石英・赤色粒	7.5YR6/4	にぶい橙	D			
	70		C	SI400					深鉢				-	縄文RL・ヨコナデ・底部圧痕(不明)	ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	石英・黒雲母多・骨針	10YR6/2	灰黄褐	A			
	71		C	SI400					深鉢				-	斜行縄文RL	ヨコナデ・炭化物付着	新崎～上山田式	長石・石英・赤色粒・骨針	10YR6/3	にぶい黄橙	F			
	72		C	SI400	131	82			鉢				-	ミガキ状ヨコナデ	ミガキ状ヨコナデ・黒斑・赤彩(ベンガラ漆)	新崎～上山田式	石英・黒雲母	10YR5/4	にぶい黄橙	A	内外面赤漆		
	73		C	SI400	131	82			鉢				-	底部スダレ状圧痕	ナデ	新崎～上山田式	長石・石英・骨針	7.5YR7/4	にぶい橙	F			
32	74	25	C	SI401					深鉢				ナデ	半隆起線6mm横・曲線・三叉文・突起・黒斑・スス付着	ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	長石・石英・雲母	10YR7/3	にぶい黄橙	E?			
	75	25	C	SI401					深鉢				-	半隆起線5mm5本渦巻に沿う・隆帯11mm上キザミ(幅9mm)渦巻文・半隆起線5mm4本横・無文帯ヘラキザミ(幅10mm)・半隆起線5mm3本曲線横・半隆起線5mm3本～5本縦・無文帯を斜めにヘラ描・スス付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・骨針	10YR5/4	にぶい黄褐	C			
	76	25	C	SI401					深鉢				-	半隆起線8mm横・6mm渦巻文	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	7.5YR6/4	にぶい橙	F			
	77	25	C	SP295	124/126/126	71/73/74	Ⅱ層		深鉢				棒状キザミ	縄文原体押圧3列・縄文RL→LR・補修孔	ユビオサエ	花積下層式	長石・石英・繊維含む	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	78	25	C	SP423					深鉢				-	半隆起線5mm渦巻文・ヘラ描縦方向平行線・半隆起線6mm?	ヨコナデ	新道式系?	長石・黒雲母多	7.5YR5/4	にぶい褐	B			
	79	25	D	SP796					鉢				ナデ	斜行縄文LR・スス付着	ヨコナデ・有段状	中期	長石・石英・黒雲母	10YR6/3	にぶい黄橙	B			
	80	25	D	SP798・799					深鉢				-	半隆起線7mm渦巻文・無文部・楔形キザミ(ヘラ状)・スス付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	D			

第10表　縄文土器一覧（3）

挿図	遺物番号	図版	地区	遺構	X	Y	層	No.	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	調整・文様・付着物 口唇部	外面	内面	時期	胎土	胎土色 記号	色名	胎土タイプ	備考	放射性炭素年代測定試料NO	漆塗膜分析試料NO
32	81	25	D	SP798・800					深鉢				-	隆帯10mmU字区画W字状に刺突(棒状)3ヵ所・上キザミ(幅6mm)・区画内U字状沈線対中央刺突(棒状)・ミガキ・黒斑・赤彩	ミガキ状ヨコナデ・黒斑	勝坂(井戸尻I)式	長石・石英・黒雲母多	7.5YR5/4	にぶい褐	Ⓑ	搬入		
	82		D	SP770・SK771					深鉢				-	斜行縄文RL・ススト付着	ヨコナデ・黒斑	中期	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	F			
	83	21	D	SP781				1・2・3	深鉢				-	ナデ・ススト付着・底部スダレ状圧痕	ヨコナデ・炭化物付着	中期	長石・石英・黒雲母・赤色粒	7.5YR6/4	にぶい橙	D			
	84		D	SP781					深鉢				-	斜行縄文RL・ススト付着	ヨコナデ・黒斑	串田新～気屋式	長石・石英	7.5YR5/4	にぶい褐	D			
	85		D	SP781				1	深鉢				-	斜行縄文LR	ヨコナデ・磨滅	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母・4mm大レキ多	10YR7/4	にぶい黄褐	F			
	86	25	D	SP764				1	深鉢				沈線文(平行・渦巻)・黒斑	ヨコナデ・黒斑・ススト付着	ヨコナデ	中期	長石・石英・黒雲母・赤色粒多・骨針	10YR6/4	にぶい黄橙	C			
33	87	21	C	SK204				3	深鉢	33.8	38.5	11.6	ナデ	斜行縄文RL・ススト付着・黒斑・底部網代圧痕(2本超え1本潜り1本送り)	ヨコナデ・黒斑・炭化物付着	新保～新崎式	白色粒・石英	2.5Y6/4	にぶい黄	D	補修孔?2	1	
	88	26	C	SK207	120	69			有孔鍔付				ナデ	ナデ・突孔1.2～2cm間隔・隆帯つまみあげ突起状・沈線	ヨコナデ・口縁部に赤彩ベンガラ漆?わずかに残る・黒斑	中期	石英・黒雲母	7.5YR5/4	にぶい褐	D			
	89	6	C	SK207				3・4・5	有孔鍔付				-	縄文RL・底部圧痕(不明)	ヨコナデ・ベンガラ漆(点々と残る)・黒斑	上山田～串田新式	長石・黒雲母	7.5YR5/4	にぶい褐	D			
	90	21	C	SK207	110/120	92/69	Ⅱ層	1/1下/2	鉢	29.8			ナデ	ヨコナデ・頸部に縄文原体押圧・斜行縄文LR・ススト付着	ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	長石・石英・骨針	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
34	91	21	C	SK218・SK210					深鉢	21.4	23.8	8.4	縄文原体押圧・ナデ・三角形突起4	斜行縄文RL・黒斑・口縁より下14cm程にススト付着	ナデ・内底面から12cm程炭化物付着(約半身のみ)	新崎～上山田式	長石・雲母	10YR5/2	灰黄褐	F		2	
	92	21	C	SK218				1	深鉢	40.1			ナデ	斜行縄文RL・口縁部沈線後ナデ・外面ススト付着	輪積痕・ヨコナデ	新崎～上山田式	白色粒・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	93	21	C	SK225	-/121/123	-/71/74	?		深鉢				-	斜行縄文RL・黒斑・底部圧痕(不明)	ヨコナデ・黒斑	中期	長石・石英・黒雲母	10YR6/3	にぶい黄橙	F			
	94		C	SK225					深鉢				-	半隆起線5mm楕円区画・内楔形キザミ(竹管幅6mm)・縄文・ススト付着	ヨコナデ	新崎式(新道式系)	長石・石英・黒雲母	10YR7/4	にぶい黄橙	E?			
35	95		C	SK255	122	70	Ⅱ層	1・2/-	深鉢				-	斜行縄文LR・ススト付着	ヨコナデ・コゲ付着	中期	長石・石英・黒雲母	10YR5/3	にぶい黄褐	D			
	96	22	C	SK260				1	深鉢	52.6			ナデ	半隆起線8mm横5本・隆帯13mm上ヘラ状キザミ(幅12mm)斜行して渦巻文・半隆起線7mm3～4本隆帯に沿う・半隆起線8mm半円文・区画内ヘラキザミ(幅9mm)充填・三叉文・短半隆起線7mm8本・半隆起線7mm縦3～4本・斜行縄文・ススト付着	ナデ	上山田式	白色粒・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	97	22	C	SK265				1	深鉢	18.4			ナデ	斜行縄文LR・ヨコナデ・ススト付着	輪積痕・ヨコナデ	中期	長石・雲母・骨針	7.5YR6/4	にぶい橙	F			
36	98	26	C	SK261	124	71	Ⅱ層	1・2	深鉢				突起・突起下にしの字状隆帯(8mm)・上キザミ(幅5mm)・突起から隆帯(8mm)・斜行して先端渦・上キザミ(幅7mm)	半隆起線7mm縦・7mm横・斜行縄文RL・ススト付着・底部圧痕(不明)	ナデ後ミガキ・ケズリ後ナデ・コゲ付着・摩磨滅	新崎～上山田式	長石・石英	7.5YR6/6	橙	F			
37	99	22	C	SK266	123	74	Ⅱ層	1・2・3・4・5・6・7・10	深鉢	27.3			4頂部2組1対の突起・ナデ	円形透孔4・沈線・櫛状具刺突・三叉文・半隆起線6mm横2本・半隆起線6mm縦3～4本方形区画・区画内ヘラ状具刺突?(キザミ)・ススト付着	輪積痕・ヨコナデ・コゲ付着	新崎～上山田式	石英・白色粒	10YR7/4	にぶい黄橙	D			
	100	6	C	SK390				16	有孔鍔付	10.5	11.6	11.3	ナデ・黒斑・赤漆	把手4・円孔・把手を縁取る沈線文・斜行沈線文・黒斑・赤漆	ミガキ状ヨコナデ・赤漆	新崎～上山田式	石英多	10YR7/4	にぶい黄橙	D			1
	101	22	C	SK390				7	深鉢	31.2			ナデ・入字状突起	斜行縄文LR・頸部に縄文原体押圧・黒斑・ススト付着	黒斑	新崎～上山田式	石英多・白色粒	10YR7/4	にぶい黄橙	F		3	
	102		C	SK390					鉢				ナデ	沈線2mm2本2mm間隔・沈線2mm2本で区画・区画内タテ沈線	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石	10YR7/4	にぶい黄橙	F			
	103		C	SK390					鉢				ヨコナデ	斜行縄文RL	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR7/4	にぶい黄橙	F			
	104	26	C	SK201					深鉢				-	半隆起線9mm渦巻文4本・ススト付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
38	105	22	C	SK319	-/122/123	-/75/75	-/Ⅱ層/Ⅱ層		深鉢				三ツ山突起・ナデ	半隆起線10mm1本・6mm3本・斜行縄文RL・黒斑・ススト付着	ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	106	22	C	SK391				1	深鉢				-	半隆起線5mm3本単位・縦平行・底部スダレ状圧痕	ヨコナデ・炭化物付着	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	7.5YR7/4	にぶい橙	D		4	
	107		D	SK810					鉢				ナデ	斜行縄文RL	ヨコナデ・ユビオサエ	中期	緻密・長石	10YR6/4	にぶい橙	E			
	108		D	SK810					深鉢				-	ヨコナデ	ヨコナデ・コゲ付着	中期	長石・石英・黒雲母	10YR7/3	にぶい黄橙	F			
	109	26	A	SK5					鉢				小突起(貼付)・ナデ	斜行縄文RL・ススト付着	ヨコナデ・コゲ付着・黒斑	新崎式	長石・石英・黒雲母	10YR6/3	にぶい黄橙	E			
	110	26	A	SK5					深鉢				-	半隆起線7mm横・縄文LR・半隆起線7mm方形区画・区画内ヘラ描縦沈線・ススト付着	ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	A			
	111		C	SK253					深鉢				-	斜行縄文RL・ススト付着	ヨコナデ	中期	長石・石英・黒雲母	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	112		C	SK278					深鉢				-	半隆起線5mm縦	ヨコナデ・コゲ付着	新崎～上山田式	長石	2.5Y6/3	にぶい黄	D			
	113		C	SK282					深鉢				-	隆帯ハクリ8mm渦巻・半隆起線6mm沿う・ススト付着	ヨコナデ	上山田式	白色粘土・赤色粒・石英?・大きい片	7.5YR5/4	にぶい褐	A			
	114	26	C	SK364					深鉢				ヨコナデ	斜行縄文RL・全面ススト付着	ヨコナデ	上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR5/3	にぶい黄褐	A			
	115	26	C	SK403					深鉢				ヨコナデ	斜行縄文RL・全面ススト付着	ヨコナデ	中期	長石・石英・骨針	10YR6/3	にぶい黄橙	C			
	116	26	C	SK448					深鉢				-	半隆起線6mm・磨滅	磨滅	上山田式	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	F			

第10表　縄文土器一覧（4）

挿図	遺物番号	図版	地区	遺構	X	Y	層	No.	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	調整・文様・付着物 口唇部	外面	内面	時期	胎土	胎土色 記号	色名	胎土タイプ	備考	放射性炭素年代測定試料NO	漆塗膜分析試料NO
38	117		C	SK495					深鉢				-	半隆起線7mm縦	ヨコナデ・コゲ付着	新崎～上山田式	長石	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	118	26	C	SK495					鉢				-	半隆起線3mm縦・格子目沈線文	ヨコナデ	新崎式	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	F			
	119		C	SK495					鉢				-	縦位縄文RL	ヨコナデ	中期	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	F			
	120	26	C	SK496					深鉢				-	隆帯8mm上キザミ(幅6mm)渦巻文・半隆起線6mm渦巻・スス付着	ヨコナデ	上山田式	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	F			
	121	26	C	SK496					深鉢				ヨコナデ	楕円沈線	ヨコナデ	串田新～前田式	石英	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	122		B	SK603					深鉢				-	斜行縄文RL・黒斑・磨滅	ヨコナデ・黒斑	中期	長石・石英・黒雲母	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	123		B	SK614					深鉢				-	斜行縄文RL	ヨコナデ	中期	緻密・石英	10YR8/3	浅黄橙	E?			
	124		D	SK705					深鉢				-	斜行縄文RL・スス付着	ヨコナデ	中期	緻密・石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	E?			
	125	26	D	SK761					深鉢				-	突起(三ツ山の一部ハクリ)・隆帯10mm渦巻文上キザミ(幅9mm)・半隆起線5mm渦巻文・スス付着	ミガキ状ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	126		D	SK773					深鉢				-	ナデ	ヨコナデ・炭化物付着	?	長石	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	127	22	D	SK788					深鉢				ナデ・半隆起線	ヨコナデ・黒斑・スス付着	ヨコナデ・黒斑	中期	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	128		D	SK790					深鉢				-	斜行縄文RL・スス付着	ヨコナデ・黒斑	中期	長石・石英・黒雲母	10YR5/3	にぶい黄褐	B			
	129		D	SK795					深鉢				-	斜行縄文RL・スス付着	ヨコナデ	中期	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
39	130	26	D		131	61	I層		鉢				ナデ	回転押型文(ボジ楕円形文)・押型文横位帯状施文・ナデ・円形刺突・スス付着	ヨコナデ	早期中葉	長石	10YR6/4	にぶい黄橙	D?			
	131	26	C		112	91	I層		深鉢				斜行縄文?	羽状縄文?・棒状工具縦位刺突	ヨコナデ	前期?	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	D?			
	132	26	C		114	92	II層		深鉢				-	条痕状・ヘラ描波状文・沈線1本・波状文・スス付着	ヨコナデ	前期?	長石・石英・骨針	7.5YR5/3	にぶい褐	C			
	133	26	C		113	93	I層		鉢			2.2	-	ナデ	ユビオサエ	佐波・極楽寺式?	長石・石英・4mm大のレキ	10YR6/3	にぶい黄橙	F			
	134	26	A		30	25	I層		深鉢				隆帯貼付11mm・ナデ	蓮華状文・半隆起線5mm横	ヨコナデ	新保式	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	135	26	C		130	80	II層		深鉢				ナデ・面取り状	隆帯ハクリ・半隆起線6mm縦位・半隆起線5mm横	ヨコナデ	新崎式	長石・石英・赤色粒	10YR7/2	にぶい黄橙	F			
	136		C		123	72	I層		深鉢				-	半隆起線5mm横3本・蓮華状文	ヨコナデ	新崎式	長石・石英・黒雲母	10YR6/3	にぶい黄橙	F			
	137		C		126	84	II層		深鉢				接合痕・ナデ・磨滅	半隆起線6mm横・蓮華状文・磨滅	ナデ・磨滅	新崎式	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	F			
	138	26	C		112	?	II層		深鉢				肥厚させ入字状突起・黒斑	縄文LR・ヨコナデ	ヨコナデ	新崎式	長石・石英・黒雲母	10YR7/3	にぶい黄橙	Ⓑ			
	139	26	C		112	93	II層		深鉢				-	蓮華状文・半隆起線6mm2本・半隆起線6mm区画B字状・区画内正位格子目文・半隆起線6mm円状9mm間隔で2本・その縁キザミ(両側から)・半隆起線7mm縦方形区画・区画内平行沈線文(横位)	ヨコナデ・コゲ付着	新崎式	緻密・黒雲母	10YR5/4	にぶい黄橙	E?			
	140	26	C		132	83	II層		深鉢				-	半隆起線9mm横・蓮華状文9mm間隔・半隆起線8mm横2本・磨滅	ヨコナデ	新崎式	緻密・長石・石英・赤色粒	10YR7/4	にぶい黄橙	A			
	141	26	C		131	81	I層		深鉢				-	半隆起線8mm方形区画・細いヘラ描沈線・三叉文状抉り(上下から)・スス付着	ヨコナデ	新崎式	緻密・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	Ⓒ			
	142		C		128	78	II層		深鉢				-	斜行縄文LR・半截竹管縦沈線・半隆起線4mm横3本	ヨコナデ	新崎式	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	F			
	143		C		131	81	II層		深鉢				-	半隆起線5mm渦巻文・無文帯の方形区画・区画内蓮華状文・スス付着	ヨコナデ	新崎式	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	144		C		129	74	II層		深鉢				-	半隆起線6mm横・横位無文帯(斜行縄文無節)楔形キザミ(半截竹管による)	ヨコナデ・黒斑	新崎式	長石・石英・骨針	7.5YR5/4	にぶい褐	C			
	145		C		112	93	II層		深鉢				-	半隆起線6mm方形区画・区画内ヘラ描沈線	ヨコナデ・炭化物付着	新崎式	長石・石英・黒雲母・骨針	10YR6/3	にぶい黄橙	C			
	146		C		112	93	II層		深鉢				-	半隆起線7mm横2本・無文地上端連続楔形キザミ	ヨコナデ	新崎式	長石・石英・赤色粒	5YR4/4	にぶい赤褐	E?	外来?		
	147	26	C		122/123	75/75	II層		深鉢				-	半隆起線6mm方形区画・B字状・区画内正位格子目文	ヨコナデ	新崎式	長石	10YR6/2	灰黄褐	F			
	148		C		131	82	II層		深鉢				-	半隆起線5mm横2本・半隆起線5mm方形区画・区画内正位格子目文・磨滅	磨滅	新崎式	長石・石英	10YR7/4	にぶい黄橙	F			
	149		B		108	59	II層		深鉢				-	半隆起線7mm横・無文帯縄文地LRナデ消し・縁楔形キザミ・スス付着	ヨコナデ	新崎式	長石・石英・黒雲母・赤色粒	10YR6/4	にぶい黄橙	B			
	150	26	C		126	84	II層		深鉢				-	縄文地LR・半隆起線6mm縦2本・曲線2本?・スス付着	ヨコナデ・コゲ付着	新崎式	石英	10YR5/3	にぶい黄褐	D			
	151	26	C		131	82	II層		深鉢				-	半隆起線7mm縦2本・区画内正位格子目文・半隆起線6mmB字状文・スス付着	ヨコナデ	新崎式	緻密・黒雲母	10YR5/3	にぶい黄褐	E?			
	152	26	C		112	91	I層		深鉢				-	斜行縄文LR・半隆起線7mm縦・B字状文・黒斑	ヨコナデ	新崎式	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	153	26	C		126	76	II層		深鉢				-	半隆起線6mm横2本・6mm半円区画2本・区画内縄文地残るRL・半隆起線5mmU字状に屈曲するもの	ヨコナデ	新崎式	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	F			
	154	26	C		113	90	II層		深鉢				-	半隆起線6mm横3本・隆帯ハクリ幅7mm縦幅19mm・半隆起線6mm方形区画・区画内無文帯・黒斑	ヨコナデ・コゲ付着	新崎式	長石・石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	155		D		127	57	I層		深鉢				-	半隆起線5mm・無文部斜格子目文・ミガキ状ヨコナデ	ミガキ状ヨコナデ	新崎式	石英	10YR7/6	明黄褐	F			
	156		C		130	80	I層		深鉢				-	無文地・半隆起線4mm曲線・縦3本・4本・スス付着	ヨコナデ	新崎式	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	F			
	157		C		112	93	II層		深鉢				-	無文地・半隆起線6mm縦鋸歯状・半隆起線5mm縦4本・曲線3本	ヨコナデ	新崎式	長石・石英・赤色粒	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	158		C		130	80	II層		鉢?				-	ヨコナデ・連続刺突・半隆起線(浅い)縦	ヨコナデ	新崎式?	石英	10YR7/4	にぶい黄橙	F			
	159	23	C		131	81	II層		浅鉢	42			ミガキ状ナデ	円形粘土帯貼付・粘土帯赤彩(2.5YR3/6暗赤褐色)・ミガキ状ヨコナデ・黒斑	一部輪積痕・ミガキ状ヨコナデ	上山田式	石英・赤色粒・粒子均質	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	160	23	B		98/100	63/61	II層		鉢				ナデ・面取り状	隆帯12mm縦・縦位沈線文4mm・楕円沈線文・交互刺突文・黒斑	ヨコナデ・黒斑	上山田式	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	161	27	B		104	65	I～II層		深鉢				-	眼鏡状突起・三ツ山突起・隆帯13mm上キザミ(幅12mmヘラ状)・9mm上キザミ(幅6mmヘラ状)・半隆起線6mm・黒斑	ヨコナデ・黒斑	上山田式	長石・石英・骨針	10YR7/3	にぶい黄橙	C			
	162	27	C		131	80	II層		深鉢	28.4			ナデ・スス付着	隆帯10mm上キザミ(幅7mmヘラ状)渦巻文・半隆起線6mm渦巻文・スス付着	輪積痕・ヨコナデ・コゲ付着	上山田式	石英多・白色粒	7.5YR6/6	橙	F			

第10表　縄文土器一覧（5）

挿図	遺物番号	図版	地区	遺構	X	Y	層	No.	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 器高	法量(cm) 底径	調整・文様・付着物 口唇部	調整・文様・付着物 外面	調整・文様・付着物 内面	時期	胎土	胎土色 記号	胎土色 色名	胎土タイプ	備考	放射性炭素年代測定試料NO	漆塗膜分析試料NO
39	163	27	B		97	61	Ⅱ層		深鉢				隆帯13mm上連続爪形文(幅11mm)・突起	半隆起線7mm横・隆帯8mm・半隆起線6mm斜行・磨滅	ヨコナデ	上山田式	長石・石英多	10YR7/3	にぶい黄橙	F			
	164	27	C		126	84	Ⅱ層		深鉢				ナデ・黒斑	半隆起線5mm横2本・隆帯10mm上キザミ(幅6mm)渦巻?・三ツ山突起・半隆起線6mm渦巻に沿う3本	ヨコナデ	上山田式	長石・石英・骨針	7.5Y6/6	橙	C			
	165		B		98	60	Ⅰ～Ⅱ層		深鉢				-	半隆起線8mm横・隆帯11mm横・半隆起線5mm斜行横・無文部・ススト付着	ヨコナデ	上山田式	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	166	27	B		100	64	Ⅱ層		鉢				-	隆帯11mm上キザミ(幅8mmヘラ状)・突起・半隆起線7mm方形区画	ヨコナデ	上山田式	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	167	27	C		122	71	Ⅱ層		深鉢				-	半隆起線4mm・隆帯8mmの内・眼鏡状突起・半隆起線4mm	ヨコナデ	上山田式	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	F			
	168	27	C		124	70	Ⅰ層		深鉢				-	無文地・半隆起線9mm・隆帯8mm三ツ山突起・垂下して渦巻文?・区画内半隆起線7mm方形区画その内部沈線・半隆起線6mm三角区画内三叉文状抉り	ヨコナデ・黒斑	上山田式	長石・石英・赤色粒	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
40	169	23	C		131/131	81/82	Ⅱ層		深鉢				ナデ	隆帯貼付・半隆起線5mm渦巻文・平行・縦平行・黒斑・ススト付着	ヨコナデ・黒斑・コゲ付着	上山田式	長石・石英	10YR7/2	にぶい黄橙	D			
	170	27	C		123	80	Ⅱ層		深鉢	28			-	半隆起線5mm・隆帯10mm平行して半隆起線5mm3本・垂下して渦巻隆帯8mm・半隆起線5mm2本沿う・無文帯・隆帯右下斜行両側に半隆起線5mm3本沿う・無文の区画	ヨコナデ	上山田式	長石・石英・黒雲母・骨針	7.5Y5/3	にぶい褐	C			
	171		C		112	93	Ⅰ層		深鉢				隆帯13mm上連続爪形文(幅9mm)・ナデ	半隆起線8mm横上キザミ(幅7mm爪形)・半隆起線8mm横・ススト付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	石英・黒雲母・白色粒	10YR7/4	にぶい黄橙	D			
	172		C		132	83	Ⅱ層		深鉢				-	隆帯12mm上キザミ(幅9mm)渦巻文・半隆起線6mm渦巻に沿う・渦巻の内部斜行沈線・ススト付着・磨滅	ヨコナデ・コゲ付着	上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR6/6	明黄褐	D			
	173		C		124	70	Ⅰ層		深鉢				-	半隆起線6mm・隆帯10mm渦巻上キザミ(幅9mm爪形)・半隆起線6mm2本沿う	ヨコナデ	上山田式	長石・石英・赤色粒	7.5YR6/4	にぶい橙	F			
	174		C		121	70	Ⅱ層		深鉢				-	半隆起線8mm2本横・隆帯10mm上縦位キザミ(幅9mm)	ヨコナデ・磨滅	上山田式	長石・石英	7.5YR5/4	にぶい褐	C			
	175		C		112	93	Ⅱ層		深鉢				-	横位半隆起線5mm5本1本上押引状連続爪形文(幅5mm)	ヨコナデ	上山田式	石英	7.5YR6/6	橙	F			
	176		C		124	74	Ⅱ層		深鉢				-	無文地・半隆起線3mm3本渦巻文	ヨコナデ	上山田式	長石・石英	7.5YR6/6	橙	F			
	177		C		126	75	Ⅱ層		深鉢				-	基隆帯上ヘラキザミ・横位9mm(幅5mm)・渦巻7mm(幅4mm)・半隆起線5mm3本沿う・横位一番下連続刺突	ヨコナデ・磨滅	上山田式	長石・石英・黒雲母・赤色粒	7.5YR6/4	にぶい橙	F			
	178		C		124	?	Ⅱ層		深鉢				-	半隆起線5mm渦巻文・5mm右下斜行・5mm縦3本・2本	ヨコナデ・コゲ付着	上山田式	長石・石英多	10YR6/6	橙	D			
	179	27	C		131/-	81/-	Ⅱ層/-		深鉢				-	上の渦巻:半隆起線6mm渦巻文・隆帯12mm渦巻文上キザミ・半隆起線6mm渦巻文3本 下の渦巻:半隆起線6mm渦巻文3本・半隆起線5mm渦巻文2本・隆帯11mm渦巻文上キザミ・半隆起線5mm渦巻文2本沿う	ヨコナデ	上山田式	長石・石英・赤色粒多・黒雲母	10YR7/2	にぶい黄橙	D			
	180	27	C		126	81	Ⅰ層カクラン		深鉢				ナデ・波状口縁	隆帯10mm上キザミ(幅8mm爪形)・半隆起線6mm・眼鏡状突起・ススト付着	ヨコナデ	上山田式	石英多・赤色粒	7.5YR6/6	橙	F			
	181	6	C		121	70	Ⅰ層		深鉢				沈線文(渦巻文)・円形透孔を持つ橋状把手(空中把手)	-	ヨコナデ	上山田式	石英多・赤色粒	10YR7/4	にぶい黄橙	D	加曽利E系?		
41	182	27	C		131/129	81/81	Ⅰ層		深鉢				波状口縁・隆帯貼付で伸ばす	半隆起線7mm横2本・隆帯9mm上キザミ(幅7mmヘラ状)・半隆起線7mm3本・隆帯11mm上キザミ(幅10mmヘラ状)渦巻状・半隆起線7mm渦巻に沿う・ススト付着	ヨコナデ	上山田式	長石・赤色粒・黒雲母	10YR7/4	にぶい黄橙	D			
	183	27	D		115/?	45/45	Ⅰ層		深鉢				ナデ	半隆起線8mm・隆帯11mm上ヘラキザミ(幅9mm)半隆起線8mm・隆帯縁にキザミ(半截竹管8mm)	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	7.5YR6/4	にぶい橙	E?			
	184		B		98	59	Ⅱ層		深鉢				ナデ	半隆起線6mm	ヨコナデ	新崎～上山田式	微密・長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	A?			
	185	26	C		114	91	Ⅱ層		深鉢				三角突起・ナデ	隆帯8mm綾杉状キザミ(幅5mm)・半隆起線5mm曲線3本・無文帯辺刺突・黒斑	ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	長石・骨針	10YR7/3	にぶい黄橙	C			
	186	26	B		101	61	Ⅰ～Ⅱ層		鉢				ナデ	半隆起線6mm・斜格子目文・隆帯ユビオサエ・縄文RL横位・ススト付着	輪積痕・ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	長石・石英・骨針	10YR6/3	にぶい黄橙	⑪			
	187	26	C		125/124	83/83	Ⅱ層		深鉢				ナデ	半隆起線6mm2本・半隆起線5mm3本半円・突起6?・隆帯11mm渦巻文・半隆起線6mm内2本外3本沿う・渦巻文の区画キザミ・右下へ斜行する隆帯大きく渦巻が突出・黒斑	ヨコナデ	上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	188	27	C		125	86	Ⅱ層		深鉢				-	隆帯8mm上キザミ(幅8mm)突起・隆帯10mm渦巻文上キザミ(幅8mm)・半隆起線5mm2本渦巻に沿う	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR7/4	にぶい黄橙	D			
	189	26	C		123	74	Ⅱ層		深鉢				ナデ	半隆起線6mm横1本・隆帯10mm上キザミ(幅7mm)・半隆起線5mm横3本・縦(渦巻に沿??)3本・半隆起線10mm上キザミ(幅9mm)渦巻?1本・5mm沿う3本	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	190	27	C		125	74	Ⅱ層		深鉢				ナデ	半隆起線6mm横1本・隆帯12mm上キザミ(幅8mm)・三ツ山突起(山2つ欠損)・半隆起線6mm横・ススト付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	石英	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	191	27	C		125	75	Ⅱ層		深鉢				ナデ・黒斑	半隆起線5mm横・隆帯12mm上キザミ(幅6mm)・半隆起線6mm方形・黒斑	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄褐	D			
	192		C		123	81	Ⅱ層		深鉢				ナデ	半隆起線6mm横1本・隆帯12mm上キザミ(幅8mm)・半隆起線6mm横2本	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・黒雲母・3mm大レキ・骨針	7.5YR6/6	橙	C			
	193	23	C		124/125/125	71/71/72	Ⅱ層/-/Ⅱ層		深鉢	36.2			ナデ・4波状	半隆起線6mm2本口縁に沿う・楔形キザミ(棒状)・斜行縄文RL・半隆起線4mm3本横・半隆起線6mm渦巻文・半隆起線6mm2本～3本縦・ススト付着	輪積痕・ヨコナデ・黒斑・コゲ付着	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	194		D		120/120	48/49	Ⅰ層		鉢				ナデ	半隆起線8mm・隆帯11mm・半隆起線8mm区画・縦	ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	長石・石英・骨針	10YR8/4	浅黄橙	C			
	195		B		98	60	Ⅰ～Ⅱ層		深鉢				ナデ	半隆起線7mm横2本・隆帯上連続刺突(棒状)	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR7/4	にぶい黄橙	F			
	196		C		132	81	Ⅰ層		深鉢				ナデ	半隆起線4mm横2本・隆帯9mm区画・区画内蓮華状文?・ススト付着	ヨコナデ・磨滅	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	197		C		131	82	Ⅱ層		深鉢				突起から垂下する隆帯・ハクリ(幅15mm)	半隆起線5mm横4本・隆帯13mm上連続キザミ(幅6mm)・半隆起線6mm縦3本・ススト付着	輪積痕・ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR6/2	灰黄褐	D			
	198		C		112	90	Ⅱ層		深鉢				隆帯上爪形文	半隆起線3mm・しの字状突起・斜行縄文・ススト付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・骨針	10YR7/3	にぶい黄橙	F			

第10表　縄文土器一覧（6）

挿図	遺物番号	図版	地区	遺構	X	Y	層	No.	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	調整・文様・付着物 口唇部	外面	内面	時期	胎土	胎土色 記号	色名	胎土タイプ	備考	放射性炭素年代測定試料NO	漆塗膜分析試料NO
41	199		C		114	92	Ⅱ層		深鉢				隆帯7mm貼付・黒斑	半隆起線4mm・半隆起線4mm横斜・無文帯・隆帯8mm上浅いヘラ状キザミ・半隆起線4mm隆帯に沿う	ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	200		C		131	81	Ⅱ層		深鉢				ナデ	半隆起線5mm横1本・隆帯7mm上キザミ（幅4mm）横斜・半隆起線5mm隆帯に沿う2本・ススト付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	石英・3mm大のレキ・骨針	7.5Y5/6	明褐	C			
	201	26	C		112	91	Ⅰ層		深鉢				タテ刻みで突起状	隆帯9mm横・半隆起線6mm横・蓮華状文8mm・黒斑	半隆起線9mm・ヨコナデ・ミガキ状	新崎～上山田式	長石・骨針	10YR5/2	灰黄褐	C			
	202		C		113	98	Ⅱ層		深鉢				ナデ	隆帯6mm・蓮華状文7mm・1弁に2本の沈線	ヨコナデ・コゲ付着	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR7/3	にぶい黄橙	E?			
42	203	26	B		101	65	Ⅱ層		深鉢				-	隆帯10mm上キザミ（幅7mm）斜行・半隆起線5mm隆帯に沿う（上・下）・5mm方形区画・区画内縄文（撚糸L）・ススト付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	E?			
	204	27	C		113	90	Ⅱ層		深鉢				-	隆帯上キザミ・半隆起線5mm2本・隆帯上キザミ左下り渦巻文・半隆起線5mm3本沿う・半隆起線5mm区画・区画内三叉文・区画内円文抉る・区画内キザミ・ススト付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	205		B		98	58	Ⅱ層		深鉢				-	半隆起線6mm渦巻文・横位・隆帯11mm上キザミ（幅9mm）	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	206		C		132	81	Ⅱ層		深鉢				-	隆帯11mm上キザミ（幅10mm）渦巻文・半隆起線6mm渦巻に沿う・ススト付着	ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR7/4	にぶい黄橙	D			
	207		C		132	83	Ⅱ層		深鉢				-	隆帯7mm曲線渦巻?突起状上キザミ（幅6mm）・半隆起線7mm曲線に沿う2本単位・ススト付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	208		D		131	61	Ⅰ層		深鉢				-	半隆起線7mm横・渦巻文・隆帯状7mm上キザミ（幅6mmヘラ状）・ススト付着	ミガキ状ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	7.5YR7/6	橙	D			
	209	26	C		121	71	Ⅱ層		深鉢				-	半隆起線7mm曲線2本・三角形抉り・半隆起線7mm曲線3本・隆帯状12mm上楔形刺突・半隆起線7mm・黒斑	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・骨針	10YR6/3	にぶい黄橙	C			
	210		C		123	74	Ⅱ層		深鉢				-	半隆起線6mm渦巻文・ススト付着	輪積痕・ヨコナデ・コゲ付着	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	211		C		124	89	Ⅱ層		深鉢				-	隆帯9mm渦巻文内側連続蓮華状文刺突（竹管幅5mm）・ススト付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母・骨針	10YR7/3	にぶい黄橙	C			
	212		C		127	76	Ⅰ層		深鉢				-	隆帯状12mm上キザミ（幅11mm）渦巻文・半隆起線5mm3本渦巻に沿う・内部連続刺突ヘラ状5mm間隔・ススト付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR7/2	にぶい黄橙	F			
	213		C		131	82	Ⅱ層		深鉢				-	隆帯10mm渦巻文・半隆起線5mm2本沿う	ケズリ・ミガキ・黒斑	新崎～上山田式	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	F			
	214		C		122	70	Ⅱ層		深鉢				-	半隆起線7mm渦巻文・隆帯状8mm連続楔形キザミ（幅7mmヘラ状）・ススト付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・骨針	10YR5/3	にぶい黄褐	C			
	215		C		122	?	Ⅱ層		深鉢				-	隆帯9mm上キザミ（幅8mm）渦巻文・半隆起線6mm4本渦巻に沿う・黒斑	ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	長石・赤色粒・黒雲母・骨針	7.5YR7/4	にぶい橙	C			
	216		C		120	74	Ⅱ層		深鉢				-	無文地・半隆起線・隆帯11mm・半隆起線6mm3本斜・半隆起線6mm3本縦・区画内無文地周囲ヘラ?キザミ（幅7mm）	磨滅	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR7/4	にぶい黄橙	F			
	217		C		123	80	Ⅱ層		深鉢				-	隆帯8mm上キザミ（幅6mmヘラ）渦巻文・半隆起線5mm6本渦巻文	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	F			
	218		C		132	81	Ⅰ層		深鉢				-	無文地・半隆起線6mm渦巻文2本	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母多	7.5YR5/4	にぶい褐	B			
	219		C		129	79	Ⅱ層		深鉢				-	無文地・半隆起線6mm横平行3本・楕円区画・区画内半隆起線上キザミ・斜行	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR7/4	にぶい黄橙	F			
	220		C		123	74	Ⅱ層		深鉢				-	半隆起線7mm斜行楕円形区画（2段）・区画内連続刺突（幅4mm棒状）・連続楔形キザミ（幅7mmヘラ状）	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR6/3	にぶい黄橙	B			
	221		C		130	70	Ⅱ層		深鉢				-	半隆起線5mm渦巻文4本・渦巻の間連続キザミ（棒状5mm間隔）・ススト付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	F			
	222		B		106	65	Ⅰ～Ⅱ層		深鉢				-	半隆起線5mm渦巻文・半隆起線間ヘラ描平行沈線・ススト付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR7/4	にぶい黄橙	F			
	223		C		130	80	Ⅱ層		深鉢				-	半隆起線7mm渦巻文・棒状工具で短沈線状にキザミ・半隆起線7mm楕円文・内部短半隆起線7mm縦・ススト付着	輪積痕・ナデ・コゲ付着	新崎～上山田式	石英多・白色粒	7.5YR7/4	にぶい橙	A			
	224		C		126	?			深鉢				-	半隆起線6mm4本縦・6mm2本渦巻文・外側の上端をキザミ蓮華状文（幅8mm竹管）	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・赤色粒	10YR7/4	にぶい黄橙	D			
	225		C		132	83	Ⅱ層		深鉢				-	半隆起線6mm横・縦・J字状・突起玉状・半隆起線6mm横1本上連続爪形文（幅6mm）	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	F			
	226		C		123	74	Ⅱ層		深鉢				-	半隆起線7mm横・隆帯10mm横・斜上キザミ（幅7mm）沿う	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・骨針	10YR7/4	にぶい黄橙	C			
	227		C		126	75	Ⅱ層		深鉢				-	隆帯9mm貼付上キザミ（幅6mm）ヘラ状・隆帯9mm斜行半円の区画・半隆起線6mm隆帯に沿う・隆帯斜行・区画内縄文LR残る・楔形キザミ（半截竹管の刺突）・半隆起線5mm平行	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR7/4	にぶい黄橙	F			
	228		C		126	76	Ⅱ層		深鉢				-	半隆起線5mm曲線2本・無文線の区画内三叉文・半隆起線5mm横3本・隆帯10mm上キザミ（幅7mm三角状）・半隆起線5mm横1本	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	7.5YR5/4	にぶい褐	D			
	229		D		119	46	Ⅰ層		深鉢				-	半隆起線7mm横・隆帯9mm上キザミ（幅6mmヘラ状）・半隆起線7mm斜行・突起ハクリ・ススト付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR7/4	にぶい黄橙	D			
	230		B		100	63	Ⅱ層		深鉢				-	隆帯13mm上キザミ（幅8mm）・半隆起線6mm横2本・連続刺突（半截竹管）	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	7.5YR5/4	にぶい褐	F			
	231		C		124	82	Ⅰ層		深鉢				-	隆帯欠損・半隆起線5mm横1本・隆帯8mm渦巻文・半隆起線4mm7本渦巻に沿う・ススト付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR7/4	にぶい黄橙	D			
	232		C		126	81	Ⅰ層		深鉢				-	半隆起線9mm弧状・連続爪形文・半隆起線9mm横・ススト付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	233		D		123	60	Ⅰ層		深鉢				-	半隆起線6mm渦巻文・無文部	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	7.5YR5/4	にぶい褐	D			
	234		C		130	83	Ⅰ層		深鉢				-	突起・無文地・半隆起線6mm斜行3本（?）横	ヨコナデ	新崎～上山田式	緻密・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	E?			
	235		C		126	75	Ⅱ層		深鉢				-	隆帯11mm上連続爪形文（幅11mm）・半隆起線5mm2本隆帯に沿う	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	236		D		127	58	Ⅰ層		深鉢				-	半隆起線5mm横・蓮華状文	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・骨針	7.5YR6/4	にぶい橙	C			

第10表　縄文土器一覧（7）

挿図	遺物番号	図版	地区	遺構	X	Y	層	No.	器種	法量（cm）			調整・文様・付着物			時期	胎　土	胎土色		胎土タイプ	備考	放射性炭素年代測定試料NO	漆塗膜分析試料NO
										口径	器高	底径	口唇部	外　面	内　面			記号	色名				
42	237		B		96	60	I～Ⅱ層		深鉢				-	半隆起線5mm渦巻・隆帯10mm上キザミ（幅9mmヘラ状）渦巻文・スス付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英多	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	238		C		113	90	Ⅱ層		深鉢				-	半隆起線6mm横1本・隆帯10～12mm方形区画上連続爪形文（幅7～9mm）・半隆起線6mm区画内2本・無文部連続蓮華状文刺突（竹管5mm）・黒斑	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母・赤色粒	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	239		C		124	83	Ⅱ層		深鉢				-	半隆起線8mm（浅い）・隆帯11mm渦巻文ハクリ・半隆起線8mm2本沿う（浅い）・8mm2本曲線（浅い）・無文部・スス付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	F			
	240		D		119	?	I層		深鉢				-	半隆起線6mm横・隆線15mm上キザミ（幅6mmヘラ状）・半隆起線6mm横3本・無文部	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	241		C		132	83	Ⅱ層		深鉢				-	無文地・半隆起線8mm横2本?・7mm曲線2本?	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・赤色粒	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	242		C		132	83	Ⅱ層		深鉢				-	斜行縄文RL・半隆起線8mm・三叉文状抉り	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	243		C		131	81	Ⅱ層		深鉢				-	縄文地・半隆起線7mm横2本・7mm縦B字状・4mm縦6本	ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	E?			
	244		D		127	60	I層		深鉢				-	半隆起線8mm渦巻文・無文部端を楔形キザミ（幅6mm）・黒斑	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	245		B		101	65	Ⅱ層		深鉢				-	斜行縄文LR・半隆起線5mm台形区画・スス付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	微密・長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	246	26	C		128	79	I層		深鉢				-	半隆起線6mm縦横・三叉文状抉り・円形抉り・黒斑	輪積痕・ナデ・黒斑	新崎～上山田式	白色粒・石英	7.5YR6/4	にぶい橙	D			
43	247	26	C		124	73	Ⅱ層		深鉢				-	隆帯8mm縦上キザミ（幅6mm）・半隆起線6mm縦横・区画	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	F			
	248	26	D						深鉢				-	半隆起線6mm横・隆帯12mm上キザミ（幅8mm）・小突起片側ハクリ・半隆起線7mm横2本・方形・楕円形B字状・スス付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・骨針	10YR6/3	にぶい黄橙	C			
	249		B		99	62	Ⅱ層		深鉢				-	隆帯上キザミ（幅7mmヘラ状）・方形区画・突起（三ツ山?）半隆起線5mm区画内方形に充填	ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	F			
	250	26	C		127	78	Ⅱ層		深鉢				-	三ツ山突起・半隆起線6mm曲線3本	ヨコナデ・コゲ付着	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	251	26	C		108	91	I層		深鉢				-	半隆起線5mm・隆帯9mm・ユビオサエ・沈線4mm間隔・スス付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	252	26	C		124	73	Ⅱ層		深鉢				-	半隆起線4mm・隆帯指押え・半隆起線5mm・スス付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	E			
	253	26	C		125	73	Ⅱ層		深鉢				-	隆帯指押え・半隆起線4mm・スス付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・黒雲母	10YR4/3	にぶい黄褐	E			
	254	26	C		131	80	Ⅱ層		深鉢				-	隆帯指押え・半隆起線6mm	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・黒雲母	10YR7/4	にぶい黄橙	Ⓔ			
	255		B		99	64	I～Ⅱ層		深鉢				-	隆帯11mm上キザミ（幅8mmヘラ状）・半隆起線6mm横4本・無文帯	ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	長石・石英	7.5YR6/4	にぶい橙	F			
	256		D		127	52	I層		深鉢				-	半隆起線6mm横・斜行縄文RL・半隆起線6mm縦	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/2	灰黄褐	D			
	257		C		124	83	Ⅱ層		深鉢				-	半隆起線6mm横・楔形刺突（半截竹管）・半隆起線6mm横3本・楔形刺突（半截竹管）・黒斑	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	F			
	258		C		129	80	Ⅱ層		深鉢				-	半隆起線6mm楕円区画・区画内無文帯下端連続蓮華状文刺突（竹管幅6mm）・半隆起線6mm横4本・スス付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	259		C		130	80	Ⅱ層		深鉢				-	半隆起線7mm・爪形文（幅7mm）・ヘラによる沈線文・刺突文・黒斑	ヨコナデ	新崎～上山田式	石英・黒雲母	10YR7/4	にぶい黄橙	F			
	260		B						深鉢				-	半隆起線7mm縦・4mm横・スス付着	ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	長石・石英	7.5YR7/4	にぶい橙	F			
	261		D		127	57	I層		深鉢				-	半隆起線6mm・無文帯（方形区画）・上端連続蓮華状文刺突（半截竹管）・スス付着	ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	長石・骨針	10YR4/1	褐灰	C			
	262		B		106	60	I～Ⅱ層		深鉢				-	ヨコナデ・半隆起線6mm縦	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	263		C		110	90	I層		深鉢				-	半隆起線7mm横	ヨコナデ	新崎～上山田式	微密・長石	7.5YR7/4	にぶい橙	E?			
	264		C		132	83	Ⅱ層		深鉢				-	斜行縄文RL・隆帯10mm渦巻文上キザミ（幅8mm）・半隆起線8mm3本渦巻に沿う4本渦巻文・8mm縦3本・1本・スス付着	ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	長石・石英多・赤色粒	10YR7/4	にぶい黄橙	D			
	265		C		130	82	Ⅱ層		深鉢				-	縦→横位半隆起線4mm	ヨコナデ・コゲ付着	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	7.5YR6/3	にぶい褐	F			
	266		C		131	80	Ⅱ層		深鉢				-	半隆起線6mm横3本渦巻・無文・半隆起線6mm2本・隆帯状12mm曲線上ヘラキザミ（幅10mm）・スス付着	磨滅・コゲ付着	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	7.5YR6/6	橙	Ⓓ			
	267		C		130	80	I層		深鉢				-	無文地・半隆起線5mm縦2本・曲線・磨滅	ヨコナデ・磨滅	新崎～上山田式	長石・赤色粒多	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	268		C		126/124	81/83	I/Ⅱ層		深鉢				-	無文地・縦位半隆起線6mm3本	ヨコナデ・吹きこぼれ状コゲ付着	新崎～上山田式	長石・石英多	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	269		C		132	81	Ⅱ層		深鉢				-	縄文地RL・半隆起線4mm縦3本単位・2本単位・3本?・スス付着	ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	長石・黒雲母	10YR6/2	灰黄褐	F			
	270		C		132	83	Ⅱ層		深鉢				-	半隆起線6mm縦・斜行・黒斑	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・骨針	10YR6/3	にぶい黄橙	C			
	271		C						深鉢				-	半隆起線5mm横・縄文地LR・半隆起6mm縦・スス付着	ミガキ状ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母・骨針	10YR5/3	にぶい黄褐	C			
	272		C		124	73	Ⅱ層		深鉢				-	無文地・半隆起線5mm横2本・縦・黒斑	ヨコナデ・磨滅	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	F			
	273		C		126	81	I層		深鉢				-	ヨコナデ・半隆起線8mm縦3本・黒斑	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	A			
	274		C		136	85	Ⅱ層		深鉢				-	半隆起線6mm縦斜行2本・その間縄文地RL・スス付着	ヨコナデ・炭化物付着	新崎～上山田式	長石	10YR6/3	にぶい黄橙	A			
	275		C		126	74	Ⅱ層		深鉢				-	縦位縄文LR・半隆起線7mm縦3本	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	F			
	276		B		100	59	Ⅱ層		深鉢				-	半隆起線9mm曲線・三叉文状抉り	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	277		C		130	80	Ⅱ層		深鉢				-	縦位半隆起線5mm・スス付着	ヨコナデ・炭化物付着	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	278		C		131	82	Ⅱ層		深鉢				-	無文地・半隆起線6mm縦3本・2本	ヨコナデ・底面炭化物付着	新崎～上山田式	長石・石英	7.5YR6/4	にぶい橙	D			

第10表　縄文土器一覧（8）

挿図	遺物番号	図版	地区	遺構	X	Y	層	No.	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	調整・文様・付着物 口唇部	外面	内面	時期	胎土	胎土色 記号	色名	胎土タイプ	備考	放射性炭素年代測定試料NO	漆塗膜分析試料NO
43	279		B		106	65	I～II層		深鉢				-	半隆起線7mm縦・底部網代圧痕(2本超え1本潜りで1本送り2本送りを繰り返す)・スス付着	ナデ・コゲ付着	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	280		B		98	63	II層		深鉢				-	半隆起線7mm縦・底部スダレ状圧痕（二重痕）・黒斑	ナデ・炭化物付着	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR6/3	にぶい黄橙	F			
	281		B		98	59	II層		深鉢				-	半隆起線7mm縦・底部圧痕（不明）	ナデ	新崎～上山田式	石英・赤色粒	7.5YR6/4	にぶい橙	F			
44	282	27	C		114	91	II層		深鉢				ナデ・面取り状・連続爪形文幅8mm	半隆起線8mm三角形区画横2本斜行2本・区画内無文帯周囲連続爪形文・隆帯8mm・半隆起線8mm	平行沈線1本幅3mm・ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	長石・石英・赤色粒	10YR8/3	浅黄橙	F			
	283	27	C		113	90	II層		深鉢				ナデ	無節斜縄文L・押し引き状爪形文・ナデ・スス付着	ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	B			
	284		A		35/32	23/21	II層		深鉢				ナデ	隆帯貼付8mm上連続爪形文・突起入組状・半隆起線7mm横2本・斜行縄文LR・半隆起線8mm縦・曲線・スス付着	ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	7.5YR6/6	橙	D			
	285		B		99	60	II層		深鉢				ナデ・黒斑	半隆起線8mm横・スス付着	ヨコナデ・有段状	新崎～上山田式	長石・石英・骨針	10YR5/3	にぶい黄橙	C			
	286	27	C		131	82	II層		深鉢				ナデ	隆帯15mm・半隆起線6mm横3本・両端が残る連続爪形文(幅7mm)・黒斑	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・赤色粒	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	287		C		130	80	II層		深鉢				ナデ	半隆起線5mm横2本・隆帯上縦位キザミ・磨滅	ヨコナデ・磨滅	新崎～上山田式	石英・赤色粒	7.5YR7/6	橙	D			
	288		C		123	81	II層		深鉢				ナデ	半隆起線5mm横2本・連続蓮華状文刺突幅5mm・縄文RL	ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄褐	D			
	289		B		96	60	I～II層		深鉢				ナデ	半隆起線7mm横3本・スス付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	7.5YR6/6	橙	F			
	290		C		131	81	II層		深鉢				ナデ	半隆起線9mm・5mm・波状	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	2.5YR7/3	浅黄	D			
	291		C						鉢				ナデ・面取り状・吹きこぼれ状スス付着	半隆起線5mm横4本	ヨコナデ・コゲ付着	新崎～上山田式	緻密	10YR6/2	灰黄褐	E?			
	292		C		122	70	II層		深鉢				肥厚・ナデ	半隆起線6mm横3本・連続キザミ・スス付着	ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	長石・石英	10YR5/4	にぶい黄褐	D			
	293		C		129	80	II層		深鉢				ナデ	半隆起線7mm横5本・上から4本目上キザミ(幅5mm)・炭化物付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	A			
	294		C		126	74	I層		深鉢				ナデ	半隆起線6mm横6本・スス付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	295		C		125	74	II層		深鉢				ナデ	半隆起線5mm横2本・5mm長楕円区画・5mm横1本	輪積痕・ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR7/2	にぶい黄橙	D			
	296		C		129	79	I層		深鉢				ナデ・磨滅	半隆起線6mm横・楕円区画・無文地の区画上端刺突	磨滅	新崎～上山田式	石英・黒雲母	10YR7/4	にぶい黄橙	F			
	297		C		124	70	I層		深鉢				ナデ	半隆起線4mm横2本・隆帯9mm上キザミ(幅7mm)・半隆起線4mm楕円・無文帯の辺キザミ(幅5mm)	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	7.5YR6/6	橙	D			
	298		C		129	79	II層		深鉢				ナデ	半隆起線5mm横3本・隆帯12mm上キザミ(幅11mm)・スス付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	299		C		122	70	II層		深鉢				ナデ	隆帯ハクリ・半隆起線8mm横・隆帯8mm上キザミ(幅5mm)・スス付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・3mm大レキ	7.5YR6/4	にぶい橙	F			
	300		C		129	78	II層		深鉢				ナデ	一部剥離・半隆起線6mm横1本・隆帯9mm渦巻文上連続キザミ(幅8mmヘラ)・半隆起線5mm横	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・赤色粒	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	301		C		125	73	II層		深鉢				ナデ・スス付着	半隆起線6mm横・スス付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	302		C		123	74	II層		深鉢				ナデ	半隆起線7mm直線・曲線(渦巻?)・スス付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・黒雲母	7.5YR5/3	にぶい褐	D			
	303		C		120	67	II層		深鉢				ナデ	半隆起線7mm横1本・隆帯8mm横1本・半隆起線7mm横2本・黒斑	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	2.5Y7/2	灰黄	D			
	304	27	C		133	82	I層		深鉢				ナデ	半隆起線5mm横・隆帯10mm上キザミ(幅5mm)・半隆起線5mm横4本・縦2本	ヨコナデ	新崎～上山田式	石英	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	305		C		122	75	II層		深鉢				ナデ	半隆起線4mm横3本・隆帯7mm・半隆起線4mm横1本・黒斑	輪積痕・ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	306	27	C		131	81	II層		深鉢				ナデ	隆帯10mm・半隆起線5mm横3本・無文帯上端連続蓮華状文刺突(竹管)6mm・半隆起線5mm曲線2本渦巻?・スス付着・黒斑	輪積痕・ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR7/4	にぶい黄橙	E?			
	307	27	C		122	75	I層		深鉢				ナデ	半隆起線7mm横2本・隆帯7mm上キザミ(幅7mm)横と渦巻文・半隆起線7mm横3本縦1本	ヨコナデ	新崎～上山田式	石英・赤色粒	10YR7/4・5YR6/6	にぶい黄橙・橙	F			
	308		C		131	81	II層		深鉢				ナデ	半隆起線8mm横・黒斑	ヨコナデ	新崎～上山田式	石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	309		C		122	70	II層		深鉢				ナデ	半隆起線6mm横3本・半隆起線6mm曲線3本・うち1本上ヘラキザミ(幅8mm)・退化した蓮華状文・黒斑	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	310	27	C		131	81	II層		深鉢				ナデ	半隆起線3mm横2本・間隔8mm連続キザミ(幅7mm)・半隆起線3mm横2本・黒斑	ミガキ状ナデ・黒斑	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	311		D		115	49	I層		深鉢				ナデ	隆帯貼付・半隆起線6mm横	磨滅	新崎～上山田式	長石・黒雲母	7.5YR6/6	橙	F			
	312		C		123	80	II層		鉢?				ナデ	半隆起線5mm横6本・曲線2本	ヨコナデ・スス付着	新崎～上山田式	長石・石英	7.5YR6/4	にぶい橙	F			
	313		B		104	65	I～II層		鉢				ナデ	平行沈線幅4mm	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	7.5YR6/6	橙	D			
	314		D		129	61	I層		鉢				ナデ	半隆起線5mm・連続刺突(棒状先端尖る)・無文帯	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・黒雲母	10YR7/4	にぶい黄橙	D			
	315		D		131	61	I層		深鉢				ナデ	半隆起線7mm・9mm・無文帯・スス付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・骨針	7.5YR5/4	にぶい褐	C			
	316	27	C		112	93	II層		深鉢				ナデ・面取り状	隆帯12mm・J字状浮文・隆帯9mm半円形両側からヘラキザミ・綾杉状ヘラキザミ・半隆起線5mm横・スス付着	ヨコナデ	新道式系	石英・黒雲母多・白色粒・粒子均質	10YR5/3	にぶい黄橙	B			
	317		B		106	65	I～II層		深鉢				ナデ	半隆起線両側連続爪形文	ヨコナデ	新道式系	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	F			
	318		C		110	91	I層		鉢?				ナデ	渦巻状隆帯・隆帯下連続縦位刺突(幅5mm)・スス付着	ヨコナデ	新道式系	長石・石英・黒雲母	7.5YR6/4	にぶい橙	B			
	319		C		131	81	II層		深鉢				-	隆帯内側からキザミ(幅7mm)爪形・突起欠損	ヨコナデ	新道式系	長石・黒雲母	7.5YR5/4	にぶい褐	B			
	320		B		98	59	II層		深鉢				ナデ・半隆起線横	ヨコナデ・黒斑	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・骨針	10YR7/2	にぶい黄橙	C			
	321	27	C		114	92	II層		深鉢				面取り状・ユビ刻み	ヨコナデ・スス付着	ヨコナデ・ミガキ状	新崎～上山田式	長石・黒雲母	10YR7/4	にぶい黄橙	B			

第10表　縄文土器一覧（9）

挿図	遺物番号	図版	地区	遺構	X	Y	層	No.	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 器高	法量(cm) 底径	調整・文様・付着物 口唇部	調整・文様・付着物 外面	調整・文様・付着物 内面	時期	胎土	胎土色 記号	胎土色 色名	胎土タイプ	備考	放射性炭素年代測定試料NO	漆塗膜分析試料NO
44	322		C		127	78	Ⅱ層		深鉢				ナデ・面取り状	斜行縄文RL・ヨコナデ・平行沈線5.5mm	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	323		C		126	77	Ⅱ層		深鉢				ナデ	ヨコナデ・半隆起線12mm・スス付着	ヨコナデ・コゲ付着	新崎～上山田式	長石・石英	10YR7/2	にぶい黄橙	D			
	324		B		104	65	Ⅱ層		鉢				ナデ	縄文RL・ヨコナデ	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	325		C		127	76	Ⅱ層		鉢				ナデ	ヨコナデ・半隆起線12mm	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石	10YR6/4	にぶい黄橙	A			
	326		C		126	77	Ⅱ層		深鉢				ナデ	ヨコナデ	ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	長石・石英・骨針	10YR7/4	にぶい黄橙	C			
	327		B		104	65	Ⅰ～Ⅱ層		深鉢				ナデ	ヨコナデ・黒斑	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	328		B		97	?	Ⅱ層		深鉢				ナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・赤色粒	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	329		C		131	81	Ⅱ層		深鉢				ユビオサエ・ナデ	縄文原体押圧・ヨコナデ	輪積痕・ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	2.5Y6/3	にぶい黄	B			
	330		C		124	75	Ⅱ層		深鉢				ナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR7/4	にぶい黄橙	D			
45	331		C		131/131	31/32	Ⅱ層		深鉢	40.5			ナデ	無文・ナデ・縄文RL・口縁部黒斑	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	5YR6/6	橙	F			
	332	27	D		130	60	Ⅰ層		深鉢				ナデ	縄文原体押圧・斜行縄文LR・スス付着	輪積痕・ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	B			
	333		C		120	47	Ⅰ層		深鉢				ナデ・黒斑	半隆起線6mm横2本・斜行縄文RL・炭化物付着	ヨコナデ・口縁部黒斑	新崎～上山田式	緻密・黒雲母多	10YR6/3	にぶい黄橙	B			
	334		D		119/125	46/60	Ⅰ層		鉢				ナデ	半隆起線6mm横・斜行縄文RL・スス付着	ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	長石・石英・骨針	10YR6/4	にぶい黄橙	C			
	335	27	C		113	93	Ⅰ層		深鉢				波状口縁・ナデ	斜行縄文RL・ヨコナデ・スス・炭化物付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	336		C		122	70	Ⅱ層		深鉢				ナデ・面取り状	縄文RL・半隆起線7mm・スス付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	337	27	C		126	?	Ⅱ層		深鉢				ナデ	波状端部キザミ・沈線3mm・縄文RL	ヨコナデ・黒斑	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母・骨針	10YR6/4	にぶい黄橙	C			
	338	23	A		19/19	18/19	Ⅱ層		鉢	14.2			突起(三角)貼付・縄文LR	斜行縄文無節・スス付着	ヨコナデ・コゲ付着	新崎～上山田式	長石・石英	7.5YR6/3	にぶい褐	D			
	339	27	C		112	91	Ⅰ層		深鉢				ナデ	縄文RL・ヨコナデ・黒斑	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	B			
	340	27	C		122	75	Ⅱ層		深鉢				ナデ	斜行縄文(無節)・縄文原体押圧	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	341		C		124	73	Ⅱ層		鉢				ナデ・面取り状	斜行縄文RL・ヨコナデ・縄文原体押圧・スス付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	7.5YR5/4	にぶい褐	D			
	342		C		126	82	Ⅰ層		深鉢				ナデ	ヨコナデ・半隆起線11mm	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR6/3	にぶい黄橙	F			
	343		C		126	81	Ⅰ層		深鉢				ナデ・内面肥厚	斜行縄文RL・半隆起線12mm横・スス付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	344		C		125	71	Ⅰ層		深鉢				肥厚端部斜行縄文LR	斜行縄文LR・磨滅	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	345		C		121	70	Ⅱ層		深鉢				ナデ	横位縄文・半隆起線9mm	ヨコナデ・一部剥離	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母	10YR7/4	にぶい黄橙	D			
	346		C		125	85	Ⅰ層		深鉢				ナデ	ヨコナデ	半隆起線10mm・ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・赤色粒	7.5YR6/6	橙	F			
	347		C		122	75	Ⅱ層		深鉢				ナデ・突起	縄文RL横位	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・赤色粒	10YR7/4	にぶい黄橙	D			
	348		C		124	?	Ⅱ層		深鉢				ナデ	半隆起線10mm・磨滅	ヨコナデ・磨滅	新崎～上山田式	長石・石英	10YR7/4	にぶい黄橙	F			
	349		C		126	74	Ⅰ層		深鉢				ナデ・山形突起状	絡条体・ヨコ押圧	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	F			
	350	27	C		125	74	Ⅰ層		深鉢				ナデ・スス付着	斜行縄文LR・ヨコナデ・縄文原体押圧・炭化物付着	ヨコナデ・コゲ付着	新崎～上山田式	長石・骨針	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	351		C		138	83	Ⅱ層		鉢				外へ巻き込む・ナデ	タテナデ	ヨコナデ	新崎～上山田式	緻密・長石・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	E?			
	352	27	C		123	72	Ⅰ層		深鉢				ナデ	斜行縄文RL・ヨコナデ・縄文原体押圧	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	F			
	353	27	C		131	80	Ⅱ層		深鉢				ナデ	ヨコナデ・屈曲部に縄文原体押圧	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・4mm大のレキ	10YR7/3	にぶい黄橙	F			
	354	27	C		123	75	Ⅱ層		深鉢				ナデ・磨滅	斜行縄文RL・ヨコナデ・屈曲部に縄文原体押圧	磨滅	新崎～上山田式	長石・石英	10YR7/4	にぶい黄橙	F			
	355		C		110	98	Ⅰ層		深鉢				内屈・斜行縄文LR	斜行縄文RL・ヨコナデ・スス付着	ミガキ状ヨコナデ	新崎～上山田式	緻密・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	356		B		104	65	Ⅱ層		深鉢				ナデ・面取り状	斜行縄文LR・黒斑	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	357		B		97	58	Ⅰ～Ⅱ層		深鉢				-	半隆起線6mm・楔形キザミ・斜行縄文LR・スス付着	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	358		B		95	58	Ⅱ層		深鉢				-	半隆起線7mm方形区画・区画内連続刺突(櫛状)充填	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	F			
	359		C						深鉢				-	半隆起線・横位縄文LR・スス付着	ヨコナデ・炭化物付着	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母多	10YR6/3	にぶい黄橙	A			
	360		B		107	68	Ⅰ～Ⅱ層		深鉢				-	ヨコナデ・縄文原体押圧・斜行縄文RL	ヨコナデ	新崎～上山田式	長石・石英・黒雲母多	10YR6/3	にぶい黄橙	B			
46	361	27	D		117/118	46/47	Ⅰ層		深鉢				ナデ	斜行縄文LR・楕円隆帯貼付・半隆起線9mm・スス付着	ヨコナデ・黒斑	上山田～古府式?	長石・石英	7.5YR6/3	にぶい褐	F	加曽利E風		
	362		C		123	80	Ⅱ層		深鉢				ナデ	一部剥離・半隆起線5mm横2本・無文帯	輪積痕・ヨコナデ・コゲ付着	上山田～古府式	長石・石英	2.5Y7/3	浅黄	D			
	363		C		119	80	Ⅱ層		深鉢				ナデ	半隆起線6mm横2本・スス付着	ヨコナデ・コゲ付着	上山田～古府式	長石・石英・黒雲母	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	364		C		123/125	72/73	Ⅱ層		深鉢				ナデ	半隆起線8mm横6本・ユビオサエ・スス付着	ケズリ	上山田～古府式	長石・石英多	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	365		C		126	76	Ⅱ層		鉢?				ナデ	半隆起線8mm横・隆帯ハクリ	接合痕・ヨコナデ	上山田～古府式?	長石・石英	10YR7/2	にぶい黄橙	F			

第10表　縄文土器一覧（10）

挿図	遺物番号	図版	地区	遺構	X	Y	層	No.	器種	法量（cm）			調整・文様・付着物			時期	胎土	胎土色		胎土タイプ	備考	放射性炭素年代測定試料NO	漆塗膜分析試料NO
										口径	器高	底径	口唇部	外　面	内　面			記号	色名				
46	366		C		124	83	Ⅱ層		深鉢				ナデ	無文地・半隆起線6mm横・隆帯6mm横・半隆起線6mm横・キザミ?	ヨコナデ	上山田～古府式?	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	367		C		124	83	Ⅱ層		深鉢				ナデ	半隆起線7mm横・縄文LR・磨滅	ヨコナデ	上山田～古府式	石英・赤色粒	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	368		C		125	73	Ⅱ層		鉢				ナデ・磨滅	半隆起線4mm横2本・斜行縄文RL・磨滅	ヨコナデ・黒斑	上山田～古府式	長石・黒雲母	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	369		C		126	85	Ⅰ層		鉢				ナデ	無文地隆帯貼付・押引状刺突	ヨコナデ	上山田～古府式?	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	F			
	370		C		122	80	Ⅱ層		深鉢				-	半隆起線5mm3本横・縄文RL・ヨコナデ・スス付着	ヨコナデ・炭化物付着	上山田～古府式	石英・黒雲母	7.5YR5/4	にぶい褐	D			
	371	27	C		125	75	Ⅱ層		深鉢				-	半隆起線6mm横・隆帯9mm入字状貼付・突起・半隆起線8mm隆帯に沿う	ヨコナデ	上山田～古府式	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	372		C		112	91	Ⅰ層		深鉢				-	半隆起線8mm横・縄文RL・スス付着	ヨコナデ	上山田～古府式?	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	373		C		123	75	Ⅱ層		深鉢				-	縄文RL・半隆起線5mm横2本	ヨコナデ	上山田～古府式	長石・黒雲母多	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	374		C		128	76	Ⅰ層		深鉢				-	半隆起線8mm渦巻文3本・その間に縄文LR・黒斑	ヨコナデ	上山田～古府式	長石・石英・4mm大のレキ	10YR6/3	にぶい黄橙	F			
	375		C		127	78	Ⅰ層		深鉢				-	半隆起線が隆帯・隆帯8mm斜右下・その上爪形キザミ幅6mm・半隆起線4mm1本横・4mm3本縦	ヨコナデ	上山田～古府式?	長石・石英・赤色粒	10YR7/4	にぶい黄橙	D			
	376		C		123	81	Ⅱ層		深鉢				ナデ	隆帯6mm上キザミ幅4mm・縦位短沈線幅3mm	ヨコナデ・横位沈線	上山田～串田新式	石英・5mm大のレキ	7.5YR6/6	橙	D			
	377		C		123	80	Ⅱ層		深鉢				ナデ	隆帯12mm横1本・縄文RL・隆帯9mm渦巻?円?	ヨコナデ	上山田～串田新式	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	378		C		131	83	Ⅱ層		深鉢				-	隆帯9mm上キザミ（幅7mm）・斜行縄文LR・半隆起線7mm縦	ヨコナデ	上山田～串田新式	長石・石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	379		C		122	75	Ⅱ層		深鉢				-	半隆起線7mm斜行して方形区画・区画内無文地・スス付着	輪積痕・ヨコナデ・黒斑	上山田～串田新式	長石・石英	7.5YR6/3	にぶい褐	D			
	380	27	C		131	82	Ⅱ層		有孔鍔付				-	突孔φ5mm22mm間隔・半隆起線8mm横1本・ヘラ描平行線・沈線文・円?内側ミガキ・赤漆（わずかに残る）	輪積痕・ミガキ状ヨコナデ・黒斑	上山田～串田新式	長石・赤色粒	7.5YR7/4	にぶい橙	D			
	381	27	C		129	78	Ⅱ層		浅鉢				ナデ	半隆起線4mm渦巻文・沈線上3mm下5mmその間連続刺突（幅11mmヘラ状）	ミガキ状ヨコナデ	上山田～串田新式	石英・黒雲母	7.5YR7/4	にぶい橙	D			
	382		C		131	82	Ⅱ層		台				-	ヨコナデ	輪積痕・ナデ	古府～串田新式	長石・石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	383	27	B		104	65	Ⅰ～Ⅱ層		深鉢				ナデ	ケズリ・隆帯10mm葉脈状文	ヨコナデ	串田新式	長石・石英・3mm大のレキ多	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	384	27	B		105	64	Ⅰ～Ⅱ層		深鉢				ナデ・ユビオサエ	隆帯11mm波状・ナデ	ヨコナデ・指頭沈線文	串田新式	長石・石英・4mm大のレキ多	10YR7/4	にぶい黄橙	F			
	385		C		113	90	Ⅱ層		深鉢				ナデ・黒斑	横位隆帯10mm・黒斑	横位沈線幅8mm・ヨコナデ	串田新式	長石・石英・赤色粒	2.5Y7/3	浅黄	D			
	386	27	C		123	80	Ⅱ層		深鉢				ナデ	隆帯13mm・沈線幅5mm	ヨコナデ	串田新式?	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	F			
	387		B		100	60	Ⅰ～Ⅱ層		鉢				ナデ	幅太沈線文4.5mm曲線	ヨコナデ	串田新式	緻密・黒雲母	5YR6/6	橙	E?			
	388		B		101	65	Ⅱ層		鉢				ナデ・面取り状	半隆起線9mm・三角刺突文・撚糸文L	ヨコナデ	串田新式	長石・黒雲母	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	389		B		96	60	Ⅰ～Ⅱ層		鉢				ナデ・面取り状	外面折り返し・連続刺突（棒状）	ヨコナデ	串田新式	長石・石英	7.5YR5/4	にぶい褐	D			
	390		B		104	65	Ⅰ～Ⅱ層		深鉢				ナデ・磨滅	斜行縄文・指頭沈線	磨滅	串田新式	長石・石英・赤色粒	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	391		B		101	65	Ⅱ層		深鉢				ナデ・スス付着	ユビオサエ・縦位条痕	ヨコナデ	串田新式	長石・石英・4mm大のレキ	10YR6/3	にぶい黄橙	F			
	392		B		96	60			鉢				ナデ	ナデ	ヨコナデ	串田新式?	長石・石英	5YR6/6	橙	F			
	393		B		101	65	Ⅱ層		深鉢				-	隆帯10mm・連続三角形刺突・縄文RL（縦位）・スス付着	ヨコナデ	串田新式	長石・石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	394	27	C		126	74	Ⅱ層		深鉢				-	縦→波状隆帯・葉脈状沈線文・スス付着	輪積み・ヨコナデ・コゲ付着	串田新式	長石・石英・黒雲母	7.5YR5/4	にぶい褐	Ⓔ			
	395	27	C		122	78	Ⅱ層		深鉢				-	葉脈状文・粘土貼付	ヨコナデ・コゲ付着	串田新式	長石・石英・黒雲母	10YR6/3	にぶい黄橙	B			
	396		C		126	74	Ⅱ層		深鉢				-	葉脈状文の基隆帯・タテ隆帯	磨滅	串田新式	長石・石英・黒雲母多	7.5YR6/6	橙	A			
	397		B		101	65	Ⅱ層		深鉢				-	隆帯14mm縦・ナデ・葉脈状文	ヨコナデ	串田新式	石英	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	398	27	B		103	64	Ⅱ層		深鉢				-	隆帯10mm縦・ヘラ描葉脈状文・スス付着	ヨコナデ	串田新式	長石・石英・赤色粒	7.5YR6/4	にぶい橙	D			
	399		C		126	81	Ⅰ層		深鉢				-	葉脈状文の基隆帯・タテ隆帯・スス付着	ヨコナデ	串田新式	長石・石英・黒雲母	7.5YR5/6	明褐	D			
	400		B		100	62	Ⅱ層		深鉢				-	隆帯11mm・ヘラ描（葉脈状）	ヨコナデ	串田新式	長石・石英・赤色粒	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	401	27	B		102	66	Ⅰ～Ⅱ層		深鉢				-	隆帯10mm・ヘラ描葉脈状文（綾杉文）・スス付着・磨滅	磨滅	串田新式	長石・石英・5mm大のレキ	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	402	27	C		123	80	Ⅱ層		深鉢				-	隆帯11mm縦・無文地に連続刺突（棒状）	ヨコナデ・コゲ付着	串田新式	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	403	27	C		126	74	Ⅱ層		深鉢				-	沈線4mm縦葉脈状文・主葉脈に沿って列点（半円形の棒状）・スス付着・二次被熱	ヨコナデ	串田新式	長石・石英・骨針	10YR7/2	にぶい黄橙	C			
47	404	28	C		132	83	Ⅱ層		有孔鍔付				-	隆帯22mm・上下沈線で縁取る・ミガキ状ヨコナデ	ミガキ状ヨコナデ	串田新式	長石・石英・黒雲母	10YR5/4	にぶい褐	D			
	405	28	C		126	76	Ⅰ層		鉢				ナデ	無文・縦位沈線2.5mm・スス付着	ヨコナデ・黒斑	串田新～前田式	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	406		B		96	60	Ⅰ～Ⅱ層		深鉢				ナデ	半隆起線8mm・縦位縄文LR	ヨコナデ	串田新～前田式	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	407		B		99	64	Ⅰ～Ⅱ層		深鉢				ナデ	斜行縄文RL・指頭沈線	ヨコナデ	串田新～前田式	長石・石英・黒雲母	10YR5/2	灰黄褐	D			

第10表　縄文土器一覧（11）

挿図	遺物番号	図版	地区	遺構	X	Y	層	No.	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	調整・文様・付着物 口唇部	外面	内面	時期	胎土	胎土色 記号	色名	胎土タイプ	備考	放射性炭素年代測定試料NO	漆塗膜分析試料NO
47	408		B		99	64	I～II層		深鉢				隆帯貼付(外側)・斜行縄文RL	指頭沈線状(幅12mm)・黒斑	ヨコナデ	前田～気屋式	長石・黒雲母・骨針	7.5YR5/2	灰褐	C			
	409	28	D		129	61	I層		深鉢				-	隆帯貼付・指頭押圧・刺突(キザミ?)・突起(欠損)・撚糸文?	ヨコナデ	串田新式?	長石・石英・赤色粒	7.5YR7/6	橙	F			
	410	28	B		104	65	I～II層		深鉢				ナデ	沈線	ヨコナデ	串田新～前田式	長石・石英	10YR8/3	浅黄橙	F			
	411		B		104	65	I～II層		深鉢				-	沈線(平行)・列点文・ヘラ描斜行沈線	ヨコナデ	串田新～前田式	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	412		B		101	65	II層		深鉢				-	隆帯7mm上キザミ(ヘラ状幅6mm)・沈線3本・沈線間列点文	ヨコナデ	串田新～前田式	長石・石英・赤色粒	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	413		B		101	65	II層		鉢				-	縄文LR・沈線文区画内縄文・スス付着	ヨコナデ	串田新式	長石・石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	414	28	C		126	84	I層		深鉢				-	隆帯8mm方形に区画・突起ハクリ・半隆起線4mm横3本・連続刺突(ヘラ状)・半隆起線5mm曲線・黒斑	ヨコナデ	前田式?	緻密・黒雲母	10YR7/4	にぶい黄橙	E?			
	415		C		130	83	II層		深鉢				-	無文地・横位沈線(幅4mm)・無文帯	ヨコナデ・磨滅	前田式	長石・石英・黒雲母	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	416		C		121	70	II層		深鉢				-	連続刺突(棒状3mm間隔)・沈線区画幅2mm・黒斑	ヨコナデ	串田新式?	長石・石英・赤色粒	7.5YR5/4	にぶい褐	D			
	417		C		123	74	II層		深鉢				-	列点・沈線	ヨコナデ	串田新式?	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	418		B		99	64	I～II層		鉢				-	ヨコナデ・指頭沈線文	ヨコナデ	串田新式?	長石・石英・4mm大のレキ	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	419	28	C		112	93	II層		深鉢				-	沈線幅5mm横3本・その間列点(棒状)	ヨコナデ・コゲ付着	前田式	緻密・黒雲母	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	420		C		131	80	II層		深鉢				-	幅太沈線4mm曲線	ヨコナデ・炭化物付着	前田式	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	421		B		98	59	II層		深鉢				-	細かい縦位縄文RL	ヨコナデ	串田新～気屋式	長石・石英・黒雲母	2.5Y6/3	にぶい黄	D			
	422	28	B		101	65	II層		鉢				突起粘土紐「しの字」状に貼付縁キザミ・末端刺突・肥厚・スス付着	隆帯横連続刺突(尖った棒状)上キザミ	ヨコナデ	串田新～気屋式	長石・石英・黒雲母	10YR7/3	にぶい黄橙	B			
	423		B		98	58	II層		深鉢				-	縦位縄文LR	ヨコナデ・黒斑	串田新～気屋式	長石・石英	10YR7/4	にぶい黄橙	D			
	424		B		98	59	II層		深鉢				-	隆帯状に粘土貼付・縦位縄文RL・スス付着	ヨコナデ	串田新～気屋式	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	425		B		104	65	I～II層		深鉢				-	縦位縄文LR	ヨコナデ・コゲ付着・黒斑	串田新～気屋式	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	F			
	426		B		96/98	60/58	I～II層/II層		深鉢				-	縦位縄文RL・スス付着	ヨコナデ	串田新～気屋式	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	F			
	427		C		126	?	II層		台付鉢				-	縦位沈線5mm間隔	磨滅	串田新式	石英	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	428		D		131	61	I層		鉢				-	ナデ	ナデ	串田新式?	長石・石英・黒雲母	10YR7/4	にぶい黄橙	F			
	429		B		100	66	I層		台付鉢				-	ナデ	ナデ	串田新式	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	430	28	B		102	66	I層		台				ナデ	透孔円形・沈線縁とり・ヨコナデ	ヨコナデ	串田新式	長石・石英	10YR7/4	にぶい黄橙	F			
	431		C		124	71	II層		深鉢			10.0	-	斜行縄文LR・4mmの沈線で区画・区画外ナデ消し・底部網代圧痕(2本超え2本潜り1本送り)	ヨコナデ	串田新式	長石・石英・黒雲母	10YR7/4	にぶい黄橙	D			
	432		C		123	81	II層		深鉢			11.2	-	縦位沈線?ヘラ描3mm間隔・底部網代圧痕(2本超え2本潜り1本送り・経糸緯糸とも2本1組)	磨滅	串田新式	長石・石英・赤色粒	10YR7/3	にぶい黄橙	F			
	433		C		122	70	II層		深鉢			12.2	-	縦方向ケズリ・黒斑	ヨコナデ・コゲ付着	串田新式?	長石・石英・黒雲母	10YR7/4	にぶい黄橙	D			
	434		C		124	70	I層		深鉢				-	縦位縄文・底部網代圧痕(1本超え1本潜り1本送り)	ナデ	串田新式?	長石・石英・黒雲母・赤色粒	7.5YR5/4	にぶい褐	F			
	435		C		131/131	80/81	II層		深鉢			12.0	-	縄文?・底部網代圧痕(1本超え1本潜り1本送り)・密なもじり編み圧痕	ナデ・コゲ付着	串田新式?	長石・石英・黒雲母・赤色粒	10YR7/4	にぶい黄橙	F	別個体の可能性あり		
	436		C		112	93	II層		深鉢				-	突線文	ヨコナデ	岩崎野式	長石・石英・骨針	7.5YR6/3	にぶい褐	C			
	437		C		130	83	II層		深鉢			9.0	-	三角隆帯6mm間隔・底部網代圧痕(2本超え2本潜り1本送り)	ヨコナデ	岩崎野式	長石・石英	10YR7/4	にぶい黄橙	F			
	438		C		123	74	II層		深鉢			12.0	-	突線文・底部網代圧痕(2本超え2本潜り1本送り)	ヨコナデ・コゲ付着	岩崎野式	長石・石英・黒雲母	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	439		B		105	68	I層		深鉢				-	縦位縄文RL・底部圧痕(不明)・スス付着	ナデ	串田新～気屋式	長石・石英・骨針	7.5YR6/6	橙	C			
48	440		B		100	64	II層		深鉢				ナデ	斜行縄文RL・粗雑な半隆起線横	ヨコナデ	中期	長石	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	441		C		112	93	I層		深鉢				ナデ	半隆起線5mm横・隆帯7mm上キザミ(幅5mm)・半隆起線5mm楕円?・黒斑	ヨコナデ・磨滅	中期	長石	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	442		B		100	64	II層		深鉢				ナデ	半隆起線12mm・スス付着	ヨコナデ・有段状	中期	長石・石英	7.5YR6/3	にぶい褐	D			
	443		B		101	65	II層		深鉢				ナデ	半隆起線6mm横	ヨコナデ	中期	長石・石英・黒雲母	10YR6/2	灰黄褐	D			
	444	28	C		122	75	II層		鉢				ナデ	無文地(幅27mm)貼付円文?	ヨコナデ	中期	長石・石英・黒雲母	7.5YR7/4	にぶい橙	D			
	445		B		100	59	II層		鉢				ナデ	斜行縄文LR・スス付着	ヨコナデ・黒斑	中期	長石・石英・赤色粒	10YR7/4	にぶい黄橙	D			
	446		B		98	59	II層		深鉢				絡条体キザミ	斜行縄文RL	ヨコナデ・斜行沈線	中期	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	447		B		100	61	II層		鉢				磨滅	斜行縄文RL・平行沈線・磨滅	磨滅	中期	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	448		C		125	75	II層		鉢				ナデ・黒斑	無文地・半隆起線6mm曲線	ヨコナデ・黒斑	中期	長石・石英・赤色粒	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	449		B		100	59	II層		鉢				-	半隆起線7mm横・半円形・突起状・沈線文	ヨコナデ	中期	長石・石英	10YR7/2	にぶい黄橙	F			
	450		C		123	74	I層		鉢?				-	半隆起線(浅い)縦・半隆起線7mm横・半隆起線(浅い)縦	ヨコナデ	中期	長石・石英・黒雲母	10YR5/3	にぶい黄褐	F			

第10表　縄文土器一覧（12）

挿図	遺物番号	図版	地区	遺構	X	Y	層	No.	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	調整・文様・付着物 口唇部	外面	内面	時期	胎土	胎土色 記号	色名	胎土タイプ	備考	放射性炭素年代測定試料NO	漆塗膜分析試料NO
48	451		B		106	65	I～II層		深鉢				-	隆帯6mm縦・半隆起線7mm曲線	磨滅	中期	長石・石英	7.5YR5/4	にぶい褐	D			
	452		C		114	91	II層		深鉢				-	隆帯12mm横・8mm渦巻状?	ヨコナデ	中期	長石・石英・赤色粒	10YR7/2	にぶい黄橙	D			
	453		B		99	64	I～II層		鉢				-	隆帯9mm縦・突起（U字状）・ススト付着	ミガキ状ヨコナデ	中期	微密・長石・石英	7.5YR5/4	にぶい褐	D			
	454	28	D		129	61	I層		鉢				-	粘土紐貼付（円文）	ヨコナデ・炭化物付着	中期	長石・石英・骨針	10YR4/2	灰黄褐	C			
	455	28	C		112	93	I層		深鉢				-	半隆起線6mm渦巻文・半隆起線6mm縦・区画内交互に三叉文状抉り・ススト付着	輪積痕・ヨコナデ・黒斑	中期中葉	石英多・黒雲母多・白色粒	10YR7/4	にぶい黄橙	B			
	456		B		101	61	I～II層		深鉢				-	縦位縄文LR・ススト付着	ナデ・コゲ付着	串田新～気屋式	長石・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	457		C		114	92	II層		深鉢				-	斜行縄文RL	ヨコナデ・炭化物付着	中期	長石・石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	458	28	B		103	67	II層		浅鉢				ナデ	平行沈線	ヨコナデ	中期	微密・石英	7.5YR6/4	にぶい橙	D			
	459		B						浅鉢				-	半隆起線6mm横3本・ススト付着	ヨコナデ・赤彩	中期	長石・石英	7.5YR6/6	橙	D			
	460		B		138	?	II層		把手				-	ナデ・黒斑	ナデ	中期	長石・石英	5YR5/6	明赤褐	D			
	461	23	C		125	74	II層		台形土器		5.1	13.0	-	ユビオサエ・ヨコナデ・赤彩	黒斑	中期中葉	石英多・赤色粒	7.5YR6/6	橙	D			
	462		B		100	64	II層		台付鉢				-	ヨコナデ	ヨコナデ	中期	微密・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	463		C		132/130	83/80	II層		台付鉢				-	ヨコナデ	ヨコナデ	中期	長石・石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	464		C		129	80	II層		深鉢			6.0	-	斜行縄文LR・ヨコナデ	ヨコナデ・黒斑・炭化物付着	串田新～気屋式	長石・石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	465		C		114	92	II層		深鉢			7.0	-	縦位縄文LR	ヨコナデ	串田新～気屋式	長石・石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	466		C		130	83	II層		深鉢			12.0	-	斜行縄文LR・底部スダレ状圧痕	ヨコナデ	串田新～気屋式	長石・石英・黒雲母	10YR6/2	灰黄褐	F			
	467		C		130	83	I層		深鉢			9.0	-	縦位縄文・底部網代圧痕（超え潜り送り不明）・黒斑	ヨコナデ	串田新～気屋式	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	F			
	468		C		124	71	II層		深鉢			8.3	-	縦位縄文RL・底部網代圧痕（超え潜り送り不明）	ヨコナデ	串田新～気屋式	長石・石英	5YR6/8	橙	F			
	469		C		112	93	I層		深鉢			12.0	-	縦位縄文・底部網代圧痕あり（2本超え2本潜り1本送り・一部3本超え?）	ヨコナデ	串田新～気屋式	長石・石英多・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	470		C		115	92	I層		深鉢			12.0	-	縦位縄文LR・底部圧痕（不明）	磨滅	串田新～気屋式	長石・石英・黒雲母4mm大レキ	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	471		B		98	62	II層		深鉢				-	縦位縄文RL・底部網代圧痕（2本超え2本潜り1本送り）	ナデ・黒斑	串田新～気屋式	長石・石英・骨針	10YR6/3	にぶい黄橙	C			
	472		B		98	59	II層		深鉢				-	縦位縄文LR・底部網代圧痕（超え潜り送り不明）・黒斑	ナデ	串田新～気屋式	長石・石英・骨針	7.5YR6/4	にぶい橙	C			
	473		C		122	70	II層		深鉢			16.0	-	斜行縄文RL・ナデ・底部網代圧痕（超え潜り送り不明）・ススト付着	ヨコナデ	串田新～気屋式	長石・石英・黒雲母多	10YR6/4	にぶい黄橙	B			
	474		B		99	66	I層		深鉢				-	縦位縄文LR・底部圧痕（不明）・ススト付着・磨滅	ナデ・炭化物付着	串田新～気屋式	長石・石英	10YR7/4	にぶい黄橙	F			
	475		C		125	74			深鉢			9.8	-	斜行縄文RL・底部スダレ状圧痕	ヨコナデ	串田新～気屋式	長石・石英	2.5Y7/3	浅黄	D			
	476		C		123	74?	II層		深鉢			18.2	-	斜行縄文・底部網代圧痕（経糸緯糸とも2本1組とする2本超え2本潜り1本送り）	ヨコナデ・種子圧痕?	串田新～気屋式	長石・石英	7.5YR6/4	にぶい橙	F			
49	477	28	B		99	64	I～II層		深鉢				ナデ	入字状突起・絡条体押圧・沈線	ヨコナデ・ユビオサエ	気屋式?	長石・石英・赤色粒	10YR7/4	にぶい黄橙	F			
	478	28	C		114	93	II層		深鉢				斜行縄文LR・ナデ	斜行縄文RL・三角形刺突	ナデ	気屋式	長石・石英	7.5YR6/4	にぶい橙	F			
	479	28	B		97	62	I～II層		深鉢				ナデ	綾杉状キザミ	ヨコナデ	気屋式?	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	F			
	480		C		113	93	I層		深鉢				やや肥厚	沈線横・連続三角形刺突	ヨコナデ	気屋式	長石・石英・赤色粒	10YR7/3	にぶい黄橙	F			
	481		C		124	73	II層		深鉢				縄文原体斜行押圧	細かい縄文RL・平行沈線（幅3mm）横2本・斜行沈線?	ヨコナデ・コゲ付着	気屋II～加曽利B式	長石・石英・黒雲母	2.5Y7/4	浅黄	D			
	482		C		129	80	II層		鉢				絡条体圧痕文?	口縁部三角形刺突5mm・無文帯・押引刺突（三角形刺突）・ススト付着	ヨコナデ	気屋式	微密・黒雲母	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	483	28	B		106	65	II層		深鉢				-	隆帯10mm楕円・上キザミ（棒状）（横位のみ）・黒斑	ヨコナデ	気屋式?	長石・石英・黒雲母	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	484		C		123	73	II層		深鉢				-	縦位縄文LR・沈線幅5mm横2本	ヨコナデ	気屋式	長石・石英・赤色粒	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	485	28	D		130	61	I層		深鉢				-	隆帯8mm三角形区画・櫛歯状沈線区画内（幅8mm）・ススト付着	ヨコナデ・磨滅	気屋式	長石・石英・黒雲母・5mm大のレキ多	7.5YR7/4	にぶい橙	F			
	486	28	C		124	80	II層		深鉢				-	隆帯9mm上斜行キザミ幅4mm・区画内細かい縄文LR・ススト付着	輪積痕・ヨコナデ	気屋式	長石・石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	487	28	C		124	71	II層		深鉢				-	細かい斜行縄文RL・沈線2mm横11mm間隔・縄文残す・スリ消すを交互・縦位縄文RL	ヨコナデ	気屋II式	長石・石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	488	28	C		131	81	II層		深鉢				-	縄文地RL・渦巻状平行沈線・ススト付着	ヨコナデ	後期	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	489	28	C		125	?	II層		深鉢				-	隆帯7mm・粘土紐4mm貼付ヨコ・波状・タテ沈線・ススト付着	ヨコナデ	曽利式?	長石・石英・黒雲母多	7.5YR4/3	褐	A			
	490		D		129	61	I層		深鉢				-	斜行縄文RL・指頭沈線・縦位縄文RL・ススト付着	ヨコナデ	気屋式	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	491	28	C		112	91	I層		浅鉢				-	無文地・キザミ（幅4mm）・横位沈線・鍵手状沈線（幅3mm）	突帯2条（幅7mm）	八日市新保式?	微密・石英・黒雲母	10YR5/3	にぶい黄橙	D			
	492	28	C		124	71	II層		鉢				ナデ・平行沈線・三叉文状	細かい縄文LR・沈線幅4mm2本・幅11mm・幅4mm・縄文地に羊歯状文崩れ?沈線文	ヨコナデ	中屋式	長石・石英	10YR7/4	にぶい黄橙	D			
	493		C		126	75	II層		深鉢				刺突（棒状）	横位条痕・ヨコナデ	ヨコナデ	中屋式	長石・石英	7.5YR6/4	にぶい橙	F			

第10表　縄文土器一覧（13）

挿図	遺物番号	図版	地区	遺構	X	Y	層	No.	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	調整・文様・付着物 口唇部	外　面	内　面	時期	胎　土	胎土色 記号	色名	胎土タイプ	備考	放射性炭素年代測定試料NO	漆塗膜分析試料NO
49	494	28	D		127	59	Ⅰ層		鉢				ユビキザミ	横位条痕	ヨコナデ	中屋式	長石・石英	7.5YR6/6	橙	F			
	495		C		?	80	Ⅰ層		鉢				キザミ・磨滅	横位条痕・ヨコナデ	磨滅	中屋式	長石・石英	7.5YR7/6	橙	Ⓕ			
	496		C		117	96	Ⅰ～Ⅱ層		鉢				-	平行沈線間4mmに列点文φ5mm・斜行の刻み?	ヨコナデ	中屋式	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	497		C		125	74	Ⅱ層		深鉢				ユビキザミ	斜→横位条痕（幅1.5mm）・スス付着	ヨコナデ（板状工具）	晩期	長石・石英・4mm大のレキ	10YR6/3	にぶい黄橙	F			
	498		B		98	63	Ⅱ層		深鉢				ナデ	縦位条痕	磨滅	晩期?	長石・石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	499	28	C		122	75	Ⅱ層		鉢				沈線2.5mm	無文地工字文状隆帯3mm・区画内斜行縄文地LR	ヨコナデ・赤色化	晩期?	長石・石英	7.5YR6/6	橙	D			
	500		B		104	65	Ⅱ層		鉢				ナデ	細かい斜行縄文RL・磨消ヨコナデ・平行沈線2.5mm2条・スス付着	ミガキ状ヨコナデ	晩期?	長石・石英・黒雲母・骨針	10YR5/4	にぶい黄橙	Ⓒ			
	501		B		96	60	Ⅰ～Ⅱ層		深鉢				ナデ・面取り状	ヨコナデ・スス付着	ミガキ状ヨコナデ・赤彩	晩期?	長石・石英・黒雲母	7.5YR6/4	にぶい橙	F			
	502	23	C		130	80	Ⅰ層/Ⅱ層		深鉢				ナデ	ヨコナデ・スス付着	ヨコナデ・黒斑・コゲ付着	晩期?	長石・石英・4mm大のレキ多	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	503		C		130	80	Ⅰ層		浅鉢			13.0	-	不規則な縄文RL・スス付着	ミガキ・黒色・赤彩	晩期?	長石・石英・黒雲母多	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
50	504	28	C		123	80	Ⅱ層		深鉢				円形隆帯貼付	隆帯6mm横・半隆起線6mm渦巻状・押引刺突?	ヨコナデ	中期	長石・石英・黒雲母	10YR7/6	明黄褐	F			
	505	28	C		128	72	Ⅱ層		鉢				突起・沈線文	-	-	中期	長石・赤色粒・骨針	10YR7/4	にぶい黄橙	C	眼鏡状		
	506	28	C		117	86	Ⅰ～Ⅱ層		深鉢?				-	隆帯11mm・半隆起線7mm	ヨコナデ	中期	長石・黒雲母・赤色粒・骨針	10YR6/3	にぶい黄橙	C			
	507	28	C		132	83	Ⅱ層		鉢				突起・半隆起線5mm沈線文	-	-	中期	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	508	28	C		131	82	Ⅱ層		鉢				7mm幅渦巻沈線文	スス付着	-	気屋式?	長石・石英・黒雲母	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	509	28	C						鉢				ナデ	断面三角隆帯貼付6単位・スス付着	ヨコナデ・炭化物付着	中～晩期	緻密	7.5YR5/4	にぶい橙	E?			
	510		B		101	65	Ⅱ層		深鉢				ナデ	平行沈線	ヨコナデ	中～晩期	長石	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	511		B		97	61	Ⅱ層		鉢				ナデ・面取り状	半隆起線11mm横	ヨコナデ	中～晩期	長石・石英・雲母	10YR6/2	灰黄褐	D			
	512		D		117	46	Ⅰ層		鉢				ナデ	ミガキ状ヨコナデ	ヨコナデ	中～晩期	長石・石英・骨針	10YR6/4	にぶい橙	Ⓐ			
	513		B		101	65	Ⅱ層		深鉢				ナデ	ヨコナデ・黒斑	ヨコナデ	中～晩期	長石・石英・骨針	10YR7/3	にぶい黄橙	C			
	514		B		98	63	Ⅱ層		深鉢				ナデ	ヨコナデ	ヨコナデ・コゲ付着	中～晩期	長石・石英・黒雲母	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	515		C		131	82	Ⅱ層		鉢				ナデ	ヨコナデ・半隆起線7mm横	ヨコナデ	中～晩期	長石・石英・赤色粒	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	516		C		124	83	Ⅱ層		鉢	10.2			ナデ・面取り状	ヨコナデ	ヨコナデ	中～晩期	石英・赤色粒	10YR6/6	明黄褐	D			
	517		C		122	75	Ⅱ層		鉢	11.0			ナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	中～晩期	緻密・石英・骨針	7.5YR6/4	にぶい橙	Ⓐ			
	518		C		?	83	Ⅱ層		深鉢				ナデ	ケズリ状ナデ・スス付着	ヨコナデ・コゲ付着	中～晩期	長石・石英・黒雲母・骨針	10YR6/3	にぶい黄橙	C			
	519		C		123	81	Ⅱ層		深鉢				ナデ	ヨコナデ	指頭沈線・ヨコナデ・黒斑	中～晩期	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	F			
	520		C		130	80	Ⅰ層		深鉢	15.2			ナデ・面取り状	ヨコナデ	輪積痕・ヨコナデ	中～晩期	長石・石英	10YR7/4	にぶい黄橙	F			
	521		C		130	80	Ⅱ層		深鉢				ナデ	ヨコナデ・スス付着	ヨコナデ・黒斑	中～晩期	長石・石英・骨針	10YR6/4	にぶい黄橙	C			
	522		C		132	81	Ⅰ層		深鉢				ナデ	半隆起線横	ヨコナデ	中～晩期	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	523		C						鉢				ナデ	ミガキ・沈線?1本	ミガキ状ヨコナデ	中～晩期	緻密	7.5YR6/4	にぶい橙	D			
	524		C		130	80	Ⅱ層		鉢				ナデ	斜行縄文RL・ヨコナデ・スス付着	ヨコナデ・炭化物付着	中～晩期	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	525	28	C		123	72	Ⅰ層		深鉢				ユビキザミ	斜行縄文・磨滅	輪積み・ヨコナデ	中～晩期	長石・黒雲母	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	526		C		126	84	Ⅱ層		鉢?				ナデ	ヨコナデ・平行沈線幅4mm	ミガキ状ヨコナデ	中～晩期	長石・石英	7.5YR6/4	にぶい橙	D			
	527		C		129	80	Ⅱ層		鉢?				ナデ	半隆起線4mm横・スス付着	ミガキ状ヨコナデ	中～晩期	長石	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	528		C		130	83	Ⅱ層		深鉢				ナデ	斜行縄文RL・平行沈線・黒斑	指頭沈線・ヨコナデ	中～晩期	長石・石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	529		B		100	61	Ⅱ層		深鉢				ナデ	斜行縄文RL・沈線・磨滅	ヨコナデ	中～晩期	石英・赤色粒	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	530		C		130	80	Ⅱ層		深鉢				肥厚・半隆起線12mm・スス付着	斜行縄文LR・スス付着	半隆起線12mm・ヨコナデ・スス付着	中～晩期	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	F			
	531		C		124	71	Ⅱ層		深鉢				ナデ	斜行縄文LR・平行沈線幅3mm・ヨコナデ	ヨコナデ	中～晩期	長石・石英	7.5YR6/4	にぶい橙	F			
	532		C		126	85	Ⅱ層		鉢				外面折り返し	斜行縄文RL・黒斑	ヨコナデ	中～晩期	長石	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	533		C		128	76	Ⅰ層		深鉢				肥厚させ内に巻込む	縄文RL・ヨコナデ・スス付着	ヨコナデ	中～晩期	石英・黒雲母	10YR7/3	にぶい黄橙	F			
	534		C		112	90	Ⅱ層		深鉢				ナデ	縄文RL・平行沈線幅4.5mm・ヨコナデ	ヨコナデ	中～晩期	緻密・骨針	2.5Y7/2	灰黄	C			
	535		B				Ⅰ層		鉢				ナデ・外面折り返し	縄文・撚糸原体押圧	ヨコナデ・有段状	中～晩期	長石・石英・黒雲母	7.5YR6/4	にぶい橙	D			
	536		C		124	83	Ⅱ層		深鉢				ナデ	平行沈線（幅2mm）1本・ヨコナデ・縄文原体押圧	ヨコナデ	中～晩期	長石・石英・黒雲母	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	537		C		129	79	Ⅱ層		深鉢				ナデ	斜行縄文（無節）・半隆起線8mm・スス付着	輪積痕・ヨコナデ・黒斑	中～晩期	長石・石英・黒雲母	10YR5/3	にぶい黄褐	D			
	538	28	C		128	77	Ⅱ層		深鉢				突起貼付・ナデ	斜行縄文LR・黒斑	輪積痕・ヨコナデ・黒斑	中～晩期	石英・骨針	10YR7/3	にぶい黄橙	A			
	539		C		123	74	Ⅱ層		深鉢				ナデ	斜行縄文LR・ヨコナデ	ヨコナデ・黒斑	中～晩期	長石・石英・赤色粒	10YR6/4	にぶい黄橙	F			

第10表　縄文土器一覧（14）

挿図	遺物番号	図版	地区	遺構	X	Y	層	No.	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	調整・文様・付着物 口唇部	外面	内面	時期	胎土	胎土色 記号	色名	胎土タイプ	備考	放射性炭素年代測定試料NO	漆塗膜分析試料NO
50	540		C		130	80	Ⅱ層		深鉢				ナデ・スス付着	無文地・縦位沈線文幅1mm・スス付着	ヨコナデ	中～晩期	緻密・黒雲母	7.5YR6/4	にぶい橙	D			
	541		C		125	75			鉢				肥厚・内折・ナデ	斜行縄文LR・ヨコナデ	ヨコナデ	中～晩期	長石・石英・黒雲母・4mm大のレキ	7.5YR6/6	橙	D			
	542		C		111	90	Ⅱ層		深鉢				隆帯貼付内側に肥厚・磨滅	斜行縄文LR・スス付着・磨滅	ヨコナデ・磨滅	中～晩期	長石・石英・赤色粒	10YR7/4	にぶい黄橙	F			
	543		C		125	74	Ⅰ層		深鉢				ナデ	斜行縄文RL・ヨコナデ	輪積痕・ヨコナデ	中～晩期	石英・黒雲母多	2.5Y6/3	にぶい黄	B			
	544	28	C		133	74	Ⅱ層		深鉢				ナデ	頸部に縄文原体押圧・斜行縄文RL・スス付着	ヨコナデ・コゲ付着	中～晩期	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	545		C		129	80	Ⅱ層		鉢				指頭押さえによる小波状・突起ハクリ?	斜行縄文RL・横位沈線（ヘラ状）	半隆起線8mm・ヨコナデ	中～晩期	緻密	7.5YR6/4	にぶい橙	D			
	546		C		128	76	Ⅰ層		深鉢				肥厚・ナデ・磨滅	斜行縄文LR	ヨコナデ	中～晩期	長石・石英・黒雲母	10YR7/3	にぶい黄橙	B			
	547		C		126	81	Ⅰ層		深鉢				ナデ	斜行縄文RL・スス付着	ヨコナデ	中～晩期	長石・石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	B			
	548		B		97	61	Ⅱ層		深鉢				肥厚・ナデ	斜行縄文RL・磨滅	ヨコナデ・有段状	中～晩期	長石・石英・赤色粒	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	549		C		124	73	Ⅱ層		深鉢				内面肥厚・ナデ	ヨコナデ	ナデ・黒斑	中～晩期	長石・石英・骨針	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	550		C		129	80	Ⅱ層		深鉢				肥厚（内側）	斜行縄文RL・黒斑	輪積痕・ヨコナデ・黒斑	中～晩期	長石・石英・黒雲母	10YR6/3	にぶい黄橙	F			
	551		C		130	80	Ⅱ層		深鉢				ナデ	斜行縄文RL・スス付着	輪積痕・ヨコナデ	中～晩期	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	552		C		132	?	Ⅱ層		深鉢				ナデ	斜行縄文LR・磨滅	ヨコナデ	中～晩期	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	553		C		123	69	Ⅱ層		深鉢				ナデ	斜行縄文RL	ヨコナデ	中～晩期	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	F			
	554		C		129	78	Ⅱ層		深鉢				ナデ	斜行縄文LR・スス付着	ヨコナデ	中～晩期	長石・石英	7.5YR5/4	にぶい褐	D			
	555		C		131	81	Ⅱ層		深鉢				ナデ	斜行縄文LR・スス付着	ヨコナデ	中～晩期	長石・石英・黒雲母	10YR5/2	灰黄褐	B			
	556		C		114	91	Ⅱ層		深鉢				斜行縄文RL・磨滅	斜行縄文LR・指頭沈線・スス付着	ヨコナデ	中～晩期	長石・石英	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	557		C		124	83	Ⅱ層		深鉢				斜行縄文・磨滅	斜行縄文RL・沈線（幅6mm）横1本・ヨコナデ・スス付着	ヨコナデ	中～晩期	長石・石英・黒雲母	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	558		C		125	71	Ⅰ層		深鉢				縄文原体でキザミ?・磨滅	斜行縄文RL・ヨコナデ	ヨコナデ	中～晩期	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	559		C				Ⅱ層		深鉢				縄文原体押圧	細かい斜行縄文RL・沈線（2mm）で区画?・ヨコナデ	ミガキ状ヨコナデ・コゲ付着	中～晩期	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	F			
	560		C		131	90	Ⅱ層		深鉢				ナデ	斜行縄文RL・ヨコナデ・スス付着・磨滅	磨滅	中～晩期	石英・赤色粒	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
51	561		C		132/121/131	83/82/81	Ⅱ層		深鉢				-	無文・ヨコナデ・スス付着	輪積痕・ヨコナデ	中～晩期	長石・石英・黒雲母	10YR7/4	にぶい黄橙	D			
	562		C		124	72?	Ⅰ層		深鉢			6.0	-	ヨコナデ	ヨコナデ・コゲ付着	中～晩期	長石・石英・黒雲母多	7.5YR6/4	にぶい橙	B			
	563		B		101	61	Ⅰ～Ⅱ層		鉢				-	斜行縄文RL・スス付着・底部圧痕（不明）	輪積痕・ヨコナデ・黒斑	中～晩期	長石・石英・骨針	10YR6/4	にぶい黄橙	C			
	564		C		126	75	Ⅱ層		深鉢			9.0	-	ヨコナデ・底部スダレ状圧痕	ヨコナデ	中～晩期	長石・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	565		B		97	61	Ⅱ層		深鉢				-	ヨコナデ・底部スダレ状圧痕	ナデ・黒斑	中～晩期	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	F			
	566		B		100	62	Ⅱ層		深鉢				-	底部圧痕（不明）・磨滅	ヨコナデ	中～晩期	長石・石英・雲母	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	567	28	C		126	81	Ⅰ層		鉢			6.4	-	斜行縄文・ヨコナデ・底部カゴ底圧痕?	ヨコナデ	中～晩期	長石・石英・黒雲母	10YR7/4	にぶい黄橙	D			
	568		C		132	?	Ⅱ層		深鉢			10.0	-	縦位縄文LR・底部網代圧痕（超え潜り）送り不明）	ヨコナデ	中～晩期	長石・石英・黒雲母	7.5Y6/6	橙	F			
	569		C		112	93	Ⅱ層		深鉢			12.0	-	斜行縄文LR・底部スダレ状圧痕・スス付着	ヨコナデ・コゲ付着	中～晩期	長石・石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	570		C		124	73	Ⅱ層		深鉢			14.3	-	底部スダレ状圧痕・ナデ	ヨコナデ	中～晩期	長石・石英・黒雲母	10YR6/3	にぶい黄橙	B			
	571		C						深鉢				-	縄文?磨滅・種子?底部スダレ状圧痕?	ナデ	中～晩期	長石・石英・黒雲母	10YR6/3	にぶい黄橙	F			
	572		C		162/122	76/75	Ⅰ層/Ⅱ層		深鉢			12.0	-	斜行縄文RL・ヨコナデ・底部スダレ状圧痕・スス付着	ヨコナデ・炭化物付着	中～晩期	長石・石英・黒雲母	10YR6/4	にぶい黄橙	D			
	573		C		123	75	Ⅱ層		深鉢			14.0	-	斜行縄文・ヨコナデ・底部網代圧痕（超え潜り）送り不明）	ヨコナデ・炭化物付着	中～晩期	長石・石英・黒雲母	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	574		C		131	82	Ⅱ層		鉢			10.0	-	ヨコナデ	磨滅	中～晩期	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	D			
	575		C		106	91	Ⅰ層		鉢			11.0	-	ヨコナデ	ヨコナデ	中～晩期	長石・石英・雲母	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	576		C						鉢			9.0	-	ヨコナデ・黒斑	ヨコナデ	中～晩期	長石・石英・骨針	10YR6/4	にぶい黄橙	C			
	577		C		121	71	Ⅰ層		深鉢			12.0	-	ヨコナデ・底部圧痕（不明）	ヨコナデ	中～晩期	長石・石英・4mm大	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	578		C		131	83	Ⅰ層		深鉢			14.0	-	縄文ハクリ（激しい）・底部網代圧痕（2本超え2本潜り1本送り）	ヨコナデ・黒斑	中～晩期	長石・黒雲母・6mm大のレキ	2.5Y6/3	にぶい黄	F			
	579		B		100	66	Ⅰ層		深鉢				-	底部網代圧痕（2本超え2本潜り1本送り）・黒斑	ナデ	中～晩期	長石・石英・赤色粒	7.5YR7/4	にぶい橙	F			
	580		C		125	?	Ⅱ層		深鉢				-	磨滅・底部網代圧痕（2本超え2本潜り1本送り）	磨滅	中～晩期	長石・石英・黒雲母・赤色粒	10YR6/4	にぶい黄橙	F			
	581		C		125	85	Ⅰ層		鉢				-	底部網代圧痕（2本超え2本潜り1本送り）	ナデ	中～晩期	長石	10YR6/3	にぶい黄橙	F			
	582	28	C		131	80	Ⅰ層		浅鉢				ナデ	ミガキ状ヨコナデ・スス付着	ミガキ状ヨコナデ	中～晩期	長石・石英	10YR6/3	にぶい黄橙	D			
	583		C		122	79	Ⅰ層		浅鉢				ナデ	ミガキ状ヨコナデ・半隆起線11mm	ミガキ状ヨコナデ	中～晩期	石英・骨針	10YR6/3	にぶい黄橙	C			
	584	28	C		124	70	Ⅰ層		有孔鍔付				-	ナデ・穿孔3cm間隔・隆帯	ヨコナデ	中期	長石・石英多・黒雲母	2.5Y7/3	浅黄	D			
	585	28	A		31	25	Ⅱ層		土製円盤				-	縄文RL	磨滅	-	長石・3mm大のレキ	10YR6/3	にぶい黄橙	F			
	586	28	B		99	60	Ⅱ層		土製円盤				-	縄文（磨滅が激しい）	ナデ	-	長石・石英	10YR7/3	にぶい黄橙	F			

（２）石製品

石器を含む石製品は110点出土し，遺存状態の良い52点を図化，掲載している。型式分類は朝日町境Ａ遺跡を参考にした[注10]。石材は中村氏による鑑定結果を観察表に記入し，第Ⅴ章に報文を掲載した。

601は琥珀製の丸玉（第52図，図版７）。土坑墓SK390出土。表面は磨かれているが，かなり脆く一部欠損している。孔は中心からややずれている。琥珀の産地は日本に数箇所あるが，その赤褐色の色調から岩手県久慈市など東日本産とみられ[注11]，製品として搬入されたものと考える。

602～604は石鏃（第52図，図版７）。全て無茎凹基で，602は片面の側縁を細かく丁寧に剥離加工する。604は土坑墓SK260から出土し，先端を欠損するが，長身で両面とも丁寧に剥離加工する。早期以前のものである可能性がある。石材は602が下呂石，603は無斑晶質安山岩である。

605～607・611は剥片，608～610は二次加工剥片（第52図，図版７）。605・606・609・610は自然面を一部残す。607・609は横長剥片，608・610・611は縦長剥片である。605・606はSI4から出土した。610はSI400から出土した石刃状剥片で，片面の片縁のみに細かい剥離加工がある。石材は605・606が黒曜石。透明度が高く，信州産の諏訪系か和田系とみられる[注12]。609は下呂石。610は珪質頁岩で，早期以前の可能性が高い[注13]。

612は石核（第52図）。全面に剥離面があり，２面は大きな剥離でほぼ直角な面をなす。石材は珪質頁岩。SK５から出土したが，SI４出土の石製品には同じ石材のものはない。

613～622は磨製石斧（第53図，図版28）。刃先が撥形に開く613・614・622，緩やかに開く615・618・620，短冊形の616・617・619・621がある。616・617は剥離面にも研磨されていることから，再加工とみられる。621の基部には敲打痕があり，再利用された可能性がある。石材は蛇紋岩が２点，透閃石岩７点，輝緑岩１点で，Ａ地区出土のものは蛇紋岩と輝緑岩である。

623～631は打製石斧（第54・55図，図版29）。短冊形624・625・628～630，撥形623・626，分銅形627・630がある。片面に自然面を残すものが多く，628は裏面の中央に柄装着痕がみられる。623・630は刃部に土ズレとみられる摩耗痕がある。631は近世の溝SD１から出土した。基部は折れているが残存長13.3㎝，刃部の幅11.6㎝を測る大型のもので，石材は礫岩である。

632～641は擦石（第55・56図，図版29）。632は平坦面中央と側縁に敲打痕があり，敲石としても使用されたことがわかる。637はSI400から出土したもので，ススが帯状に付着している。石材は閃緑岩３点，アレナイト質砂岩２点，顕晶質安山岩２点，閃緑斑岩２点，マイロナイト１点であり，SI４およびSI400は同一遺構から異石材のものが出土している。

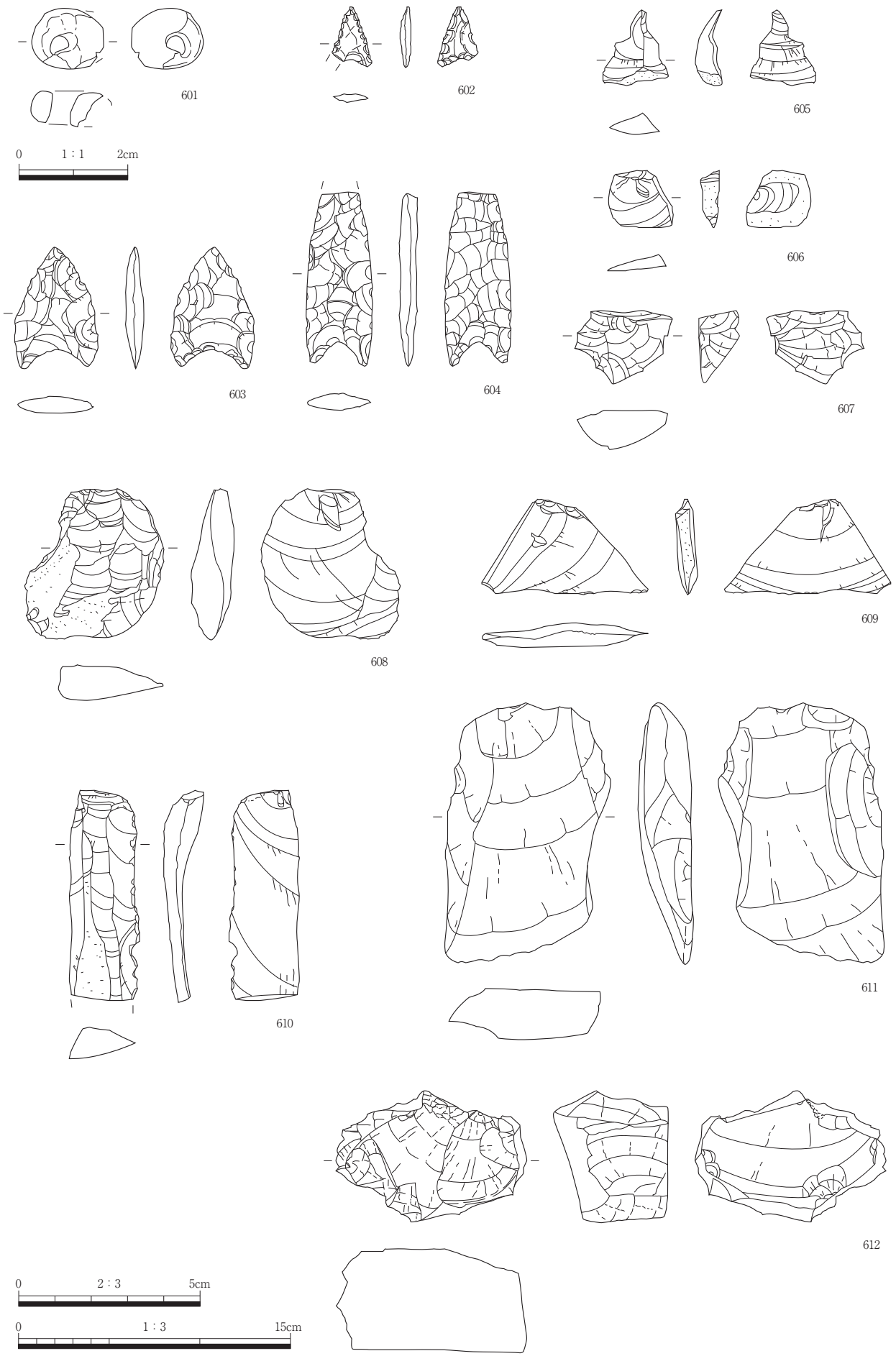
642・643は石錘（第57図，図版30）。いずれも打欠きによって糸かけを作り出している。

644は有溝砥石（第57図，図版30）。砥面の中央に幅0.4㎝の溝状の凹みが１本あり，砥面は使い込まれている。溝状の凹みのない面には敲打痕があり，敲石に転用されたと考えられる。

645・646は石棒（第57図，図版30）。645は両端を欠損しており，全面に研磨痕がみられる。646は先端部の一部とみられる。端面は研磨され平坦で，装飾はなく，全面に研磨痕がみられる。石材は凝灰岩で，645は塩屋石とみられ，飛騨地方からの搬入品と考えられる。

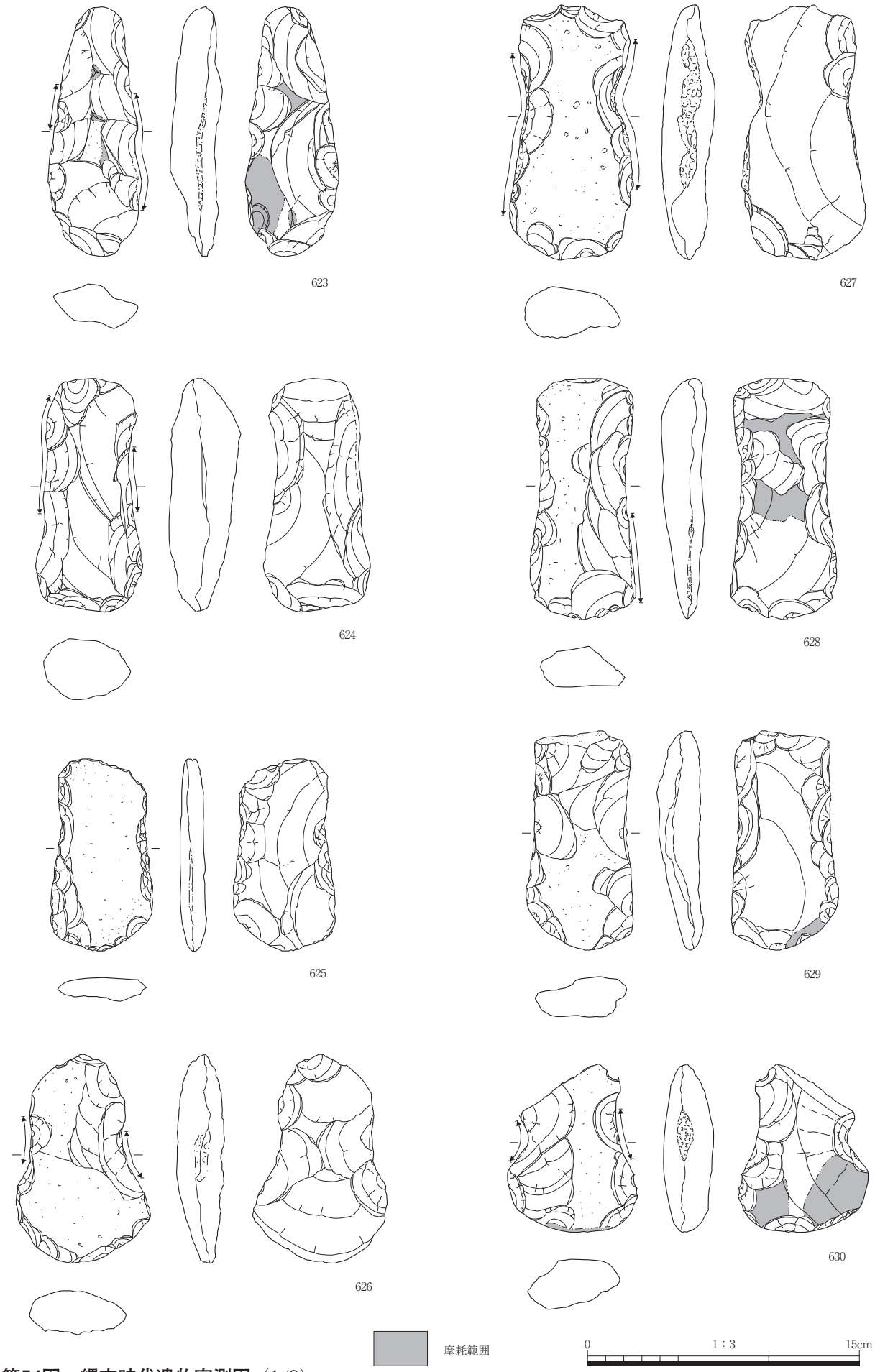
647～652は石皿（第57～60図，図版30）。扁平な647・649・650と，縁に厚みのある648，全体に厚みのある651・652があり，647～649には据え置くための加工とみられる擦面がある。648は周縁を敲打加工し，台石としての使用もうかがえる磨滅もみられる。647・650には擦痕が明瞭に残る。651はSI400出土。表面は石皿と砥石，裏面は砥石と台石，天面は石皿，左側面は砥石として使用されている。652は三面の平坦面を作り出し，いずれも使い込まれている。石材は全て砂岩。（田中道子）

注10　富山県教育委員会　1990『北陸自動車道遺跡調査報告　朝日町編５　境Ａ遺跡石器編』
注11・12・13　中村氏のご教示による。

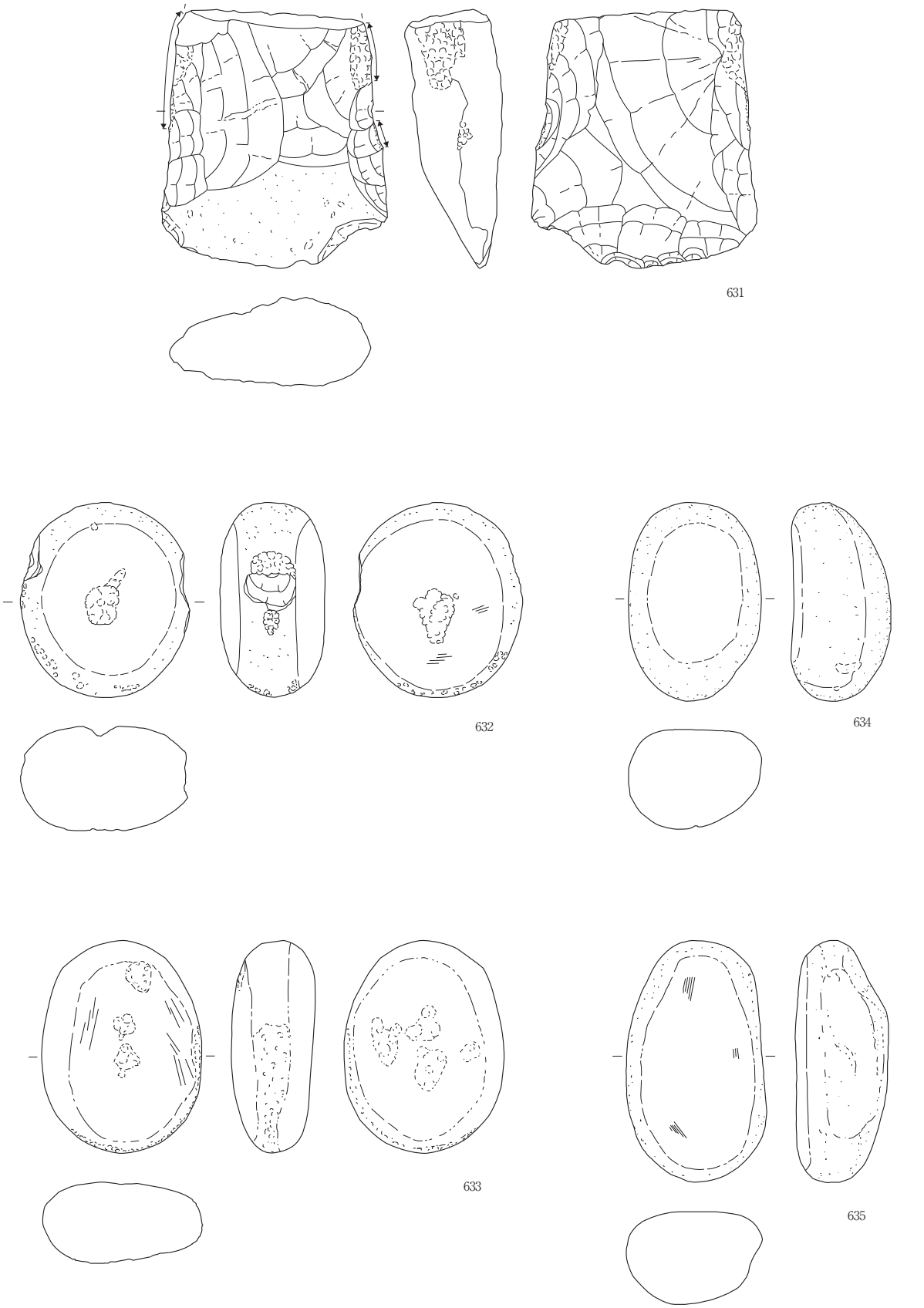


第52図　縄文時代遺物実測図（601　1/1，602～611　2/3，612　1/3）
SK390(601)　SK260(604)　SI4(605・606)　SK772(607)　SI400(610・611)　SK5(612)　包含層

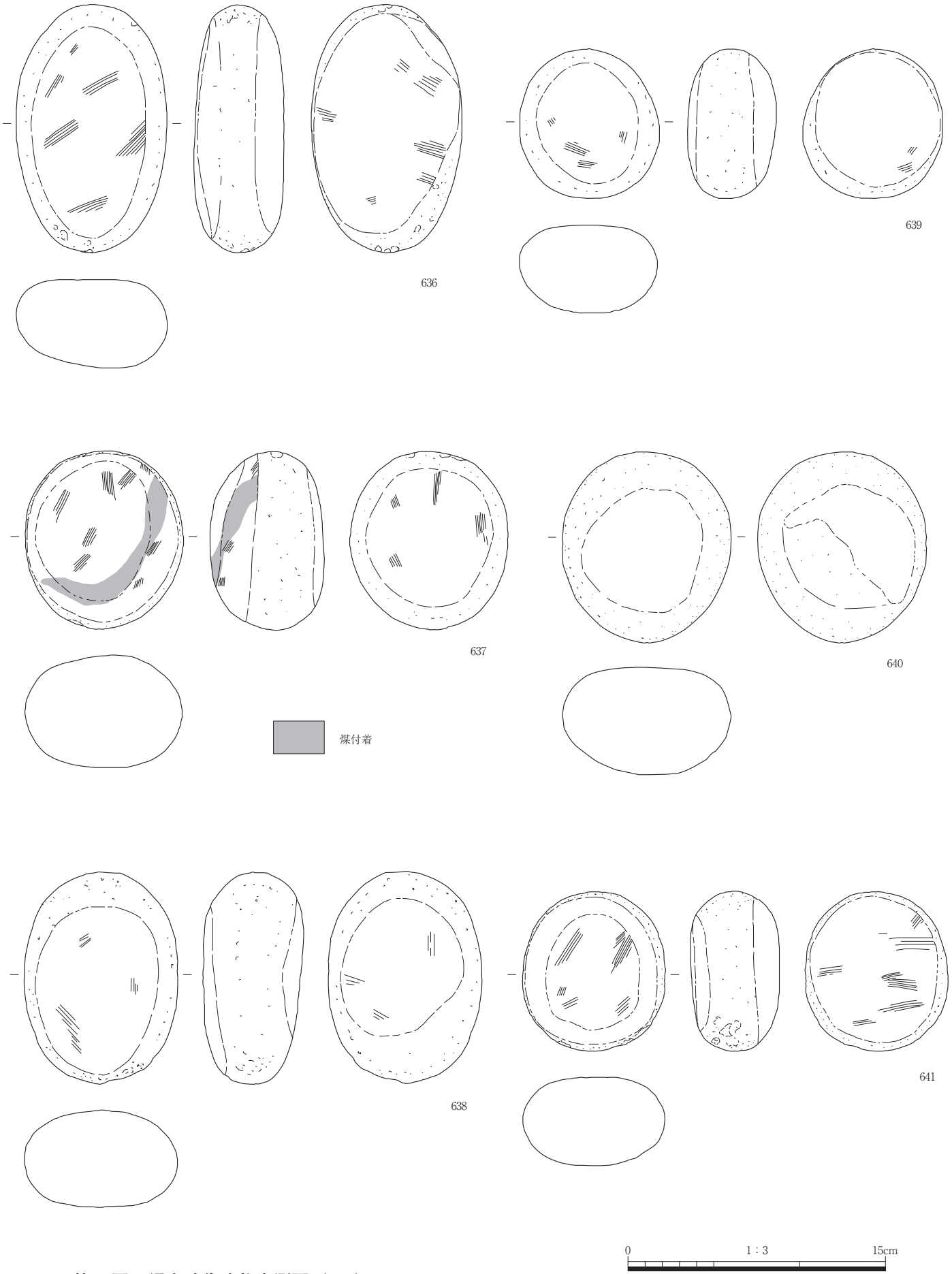
第53図　縄文時代遺物実測図（1/3）
SD1(613)　SK5(615)　SI400(619・620)　包含層



第54図　縄文時代遺物実測図（1/3）
包含層

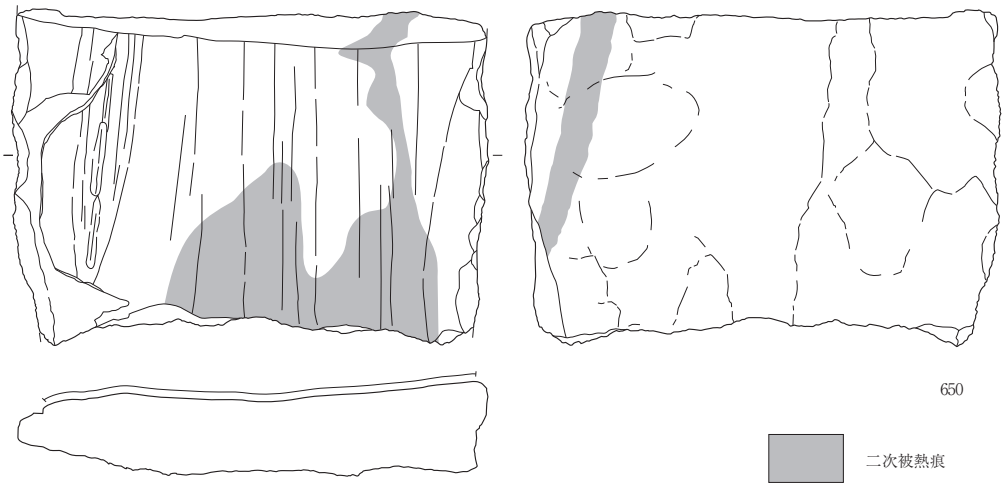


第55図　縄文時代遺物実測図（1/3）
SD1(631)　SI4(633・634)　SK265(635)　包含層



第56図　縄文時代遺物実測図（1/3）
SI400（636・637）　SI401（638・639）　SI4（640）　SB3（641）

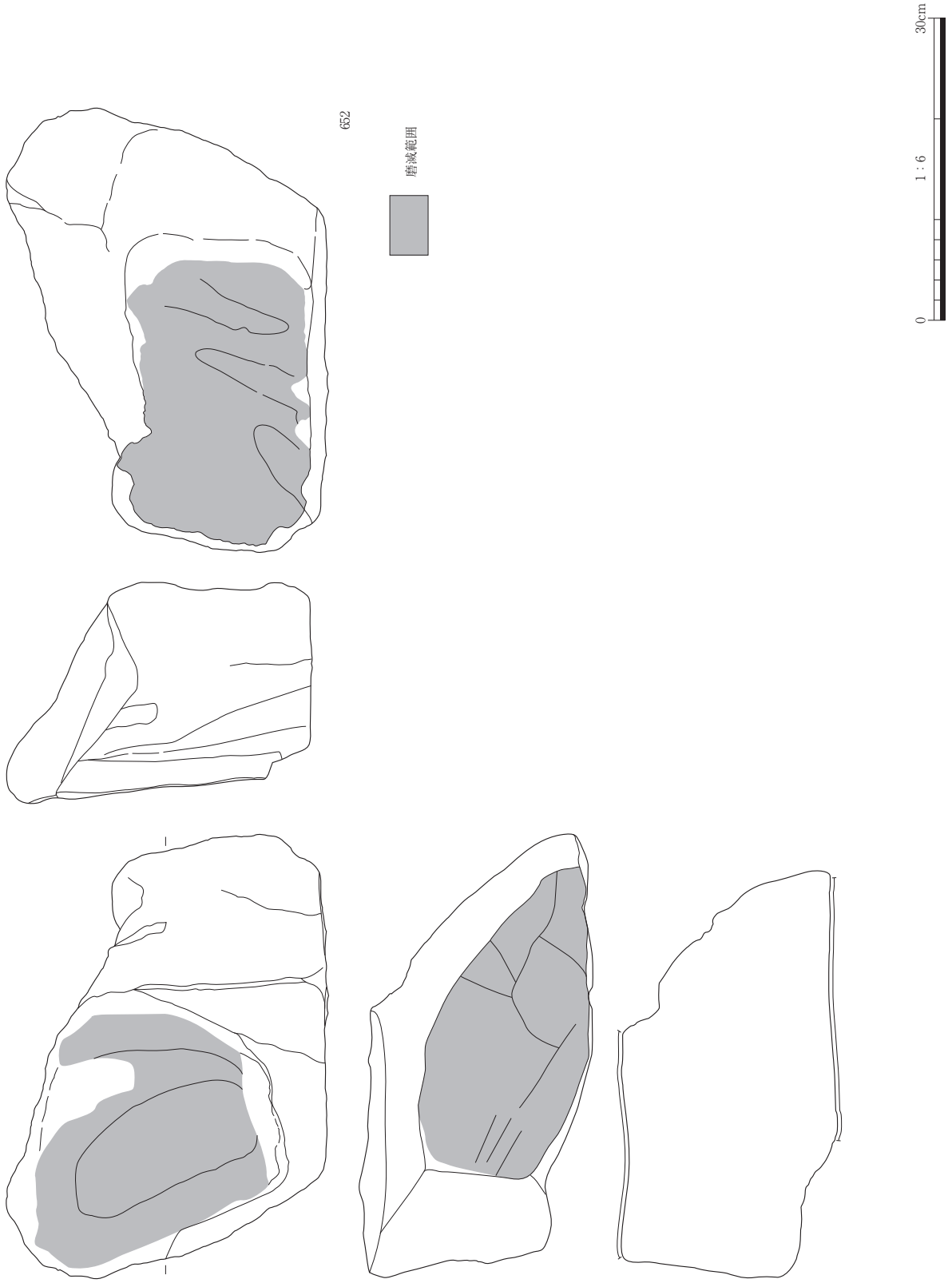
第57図　縄文時代遺物実測図（642～647　1/3，648　1/6）
SI400(647)　SI4(648)　包含層



0　1：4　20cm

第58図　縄文時代遺物実測図（1/4）
SI400（649・650）

第59図　縄文時代遺物実測図（1/4）
SI400（651）



第60図　縄文時代遺物実測図（1/6）
SK397(652)

第11表　石製品一覧

挿図	遺物番号	図版	地区	遺構	出土地点	種類	法量(cm・g) 長	幅	厚	重量	石材 名称	略号	備考
52	601	7	C	SK390		玉	1.0	1.3	1.2	0.48	琥珀	AMB	
	602	7	A		表採	石鏃	1.6	1.1	0.2	0.34	下呂石	GE	
	603	7	C		X123Y74　Ⅱ層	石鏃	3.3	2.3	0.5	3.13	無斑晶質安山岩	AN-3	
	604	7	C	SK260	№8	石鏃	(4.7)	1.8	0.5	3.98	デイサイト	DAC	
	605	7	A	SI4	B区	剥片	2.1	1.8	0.6	1.20	黒曜石	OB	
	606	7	A	SI4		剥片	1.6	1.8	0.5	1.17	黒曜石	OB	
	607	7	D	SK772		剥片(緑色凝灰岩)	2.5	2.0	1.0	3.65	緑色凝灰岩	GT	
	608	7	B		X101Y65　Ⅱ層	二次加工剥片	4.1	3.8	1.1	16.52	碧玉(鉄石英)	JA-1	
	609	7	C		X125Y85　Ⅰ層	二次加工剥片	2.6	4.6	0.6	5.28	下呂石	GE	
	610	7	C	SI400	X131Y82	二次加工剥片	5.8	1.9	0.9	8.55	珪質頁岩	SH-S	
	611	7	C	SI400		剥片	7.0	4.0	1.5	43.85	緑色凝灰岩	GT	
	612		A	SK5		石核	10.5	6.1	6.0	620.00	珪質頁岩	SH-S	
53	613	28	A	SD1	X15Y15	磨製石斧	5.7	2.5	0.7	19.60	蛇紋岩	SE-ⅡA	
	614	28	B		X104Y65　Ⅰ～Ⅱ層	磨製石斧	(4.4)	3.3	1.3	24.32	透閃石岩	TR-D2	
	615	28	A	SK5		磨製石斧未成品か	5.7	4.6	1.3	72.40	輝緑岩?	DIA?	
	616	28	C		X125Y74　Ⅱ層	磨製石斧	11.0	5.4	2.3	256.49	透閃石岩	TR-B	
	617	28	D		X127Y59　Ⅰ層	磨製石斧	12.3	5.1	2.2	221.48	透閃石岩	TR-B	
	618	28	C		X123Y80　Ⅱ層	磨製石斧	(14.0)	6.3	2.6	433.63	透閃石岩	TR-B	
	619	28	C	SI400	№1	磨製石斧	11.4	5.7	2.4	254.99	透閃石岩	TR-B	
	620	28	C	SI400	X132Y82	磨製石斧	9.0	5.0	1.5	189.59	透閃石岩	TR-B	
	621	28	C		X124Y82　Ⅰ層	磨製石斧	14.6	5.5	2.4	403.91	透閃石岩	TR-B	基部敲き
	622	28	A		X41Y29　Ⅱ層	磨製石斧	(14.8)	6.8	3.5	579.49	蛇紋岩	SE-ⅡB	
54	623	29	B		X95Y63　Ⅰ層	打製石斧	13.9	5.2	2.9	190.06	顕晶質安山岩	AN-C	
	624	29	B		X104Y65　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	13.0	6.0	4.0	365.75	片麻岩	GNS	二次被熱
	625	29	A		X33Y22　Ⅰ層	打製石斧	10.7	5.7	1.5	106.71	輝緑岩	DIA	
	626	29	D		X123Y61　Ⅰ層	打製石斧	11.6	7.5	2.6	230.63	閃緑斑岩	DIO-POR	
	627	29	D		X127Y59　Ⅰ層	打製石斧	14.2	6.9	2.9	343.87	輝緑岩	DIA	
	628	29	C		X126Y75　Ⅱ層	打製石斧	13.4	5.9	2.6	216.66	輝緑岩	DIA	裏中央に柄装着痕
	629	29	C		X124Y73　Ⅱ層	打製石斧	12.2	5.9	2.5	201.19	輝緑岩	DIA	裏下部摩耗
	630	29	B		X101Y65　Ⅱ層	打製石斧	(9.4)	7.2	2.8	193.54	閃緑斑岩	DIO-POR	
55	631	29	A	SD1	X9Y15	打製石斧	13.3	11.6	4.6	995.00	礫岩	CON	
	632	29	C		X125Y86　Ⅱ層	敲石	10.1	8.8	5.4	675.00	アレナイト質砂岩	SA-A	擦石兼用
	633	29	A	SI4	№9	擦石	11.0	8.3	4.2	559.55	アレナイト質砂岩	SA-A	
	634	29	A	SI4	№10	擦石	10.3	6.9	5.2	512.76	顕晶質安山岩	AN-C	
	635	29	C	SK265	№3	擦石	12.5	7.3	4.8	607.72	マイロナイト	MYL	
56	636	29	C	SI400	アゼ	擦石	14.6	8.9	5.2	980.00	閃緑斑岩	DIO-POR	
	637	29	C	SI400		擦石	10.5	9.3	6.7	910.00	顕晶質安山岩	AN-C	二次被熱
	638	29	C	SI401	№4	擦石	12.5	9.0	5.9	985.00	閃緑岩	DIO	
	639	29	C	SI401	№3	擦石	8.8	8.2	5.2	533.88	閃緑岩	DIO	
	640	29	A	SI4-P9		擦石	11.2	10.0	6.3	975.00	閃緑斑岩	DIO-POR	
	641	29	C	SP287		擦石	9.4	8.4	5.2	597.82	閃緑岩	DIO	
57	642	30	D		X130Y60　Ⅰ層	石錘	5.6	4.1	2.1	69.94	アレナイト質砂岩	SA-A	
	643	30	D		X127Y61　Ⅰ層	石錘	8.7	4.0	1.8	91.21	顕晶質安山岩	AN-C	二次被熱
	644	30	D		X127Y63　Ⅰ層	有溝砥石	(12.2)	3.9	3.0	200.91	アレナイト質砂岩	SA-A	敲石に転用
	645	30	A		X58Y35　Ⅰ層	石棒	(8.2)	5.6	5.6	363.58	凝灰岩	TU	塩屋石
	646	30	C		X129Y80　Ⅱ層	石棒か	(4.9)	(2.7)	(1.4)	20.05	凝灰岩	TU	
	647	30	C	SI400	№16	石皿	12.0	11.5	3.0	530.35	アレナイト質砂岩	SA-A	
	648		A	SI4-P12	№12	石皿	40.0	32.3	11.3	22600.00	砂岩	SA	上層出土
58	649	30	C	SI400	№53	石皿か	30.0	22.0	8.0	7600.00	砂岩	SA	
	650	30	C	SI400	№51	石皿	24.5	16.5	4.5	3600.00	砂岩	SA	二次被熱
59	651		C	SI400	№52	石皿か	40.0	35.0	15.0	42300.00	砂岩	SA	
60	652		C	SK397	№1	石皿	45.0	30.0	15.0	33500.00	砂岩	SA	

第Ⅳ章　近　世

1　遺　構

（1）道路状遺構

3号道路状遺構（SF3，第61・62図，図版1・12）

A地区の南端に位置する。SD1・2を側溝とし，その間が路面として機能していたと考えられる。

側溝であるSD1は，その西側壁面の上端では長さ20.1mを確認した。路面もSD1の西側に沿って形成されていたと考えられるが，近年の農地整備により南側が削平されており，路面を確認することのできた長さは14.1mとなった。この削平により，路面西側のSD2も南側が消失している。

路面幅は2.7～2.8m，側溝中心間の距離は4.1mを測る。埋土は路面直上に5層の黒褐色砂質土が0.1～0.2mの厚みで堆積する。この層はSD1埋土の上面まで覆っている。道路の最終的な廃絶時期に近い段階での堆積土と考えられるが，遺物の包含は無い。この上に1～4層が堆積している。1・2層は旧耕作土（Ⅰa層），3・4層は農地整備時の土地改変に伴う層（Ⅰb層）と考えられる。

路面は南から北へ向かって下がっていく傾斜路である。調査区内で路面が残存している範囲では，水平距離14.1mに対し垂直距離で1.0mの高低差が生じており，その勾配は7.1％[注1]となる。

路面上では，側溝に平行する溝・段差やピットが確認された。路面の東側から順に説明すると，まず，SD1西側の0.6～1.2m付近で段差があり，そこから西側は0.05m程高くなる。さらに路面中央付近では深さ0.05m程の不明瞭な溝が検出された。その溝から西側1.0～1.1mで段差があり，さらに0.05m程高くなる。この段差から0.1～0.2m西側にSD2が位置している。また，路面中央の溝とSD1西側の段差沿い，及びSD1の西壁上端沿いでは，円～楕円形のピットが検出された。これらのピットは径0.3m，深さ0.1m程の規模となる。道路軸方向では1.1m，道路横断方向では0.6～0.7mのほぼ等間隔に並んでいる。これらの埋土は黒褐色砂質シルトで，しまりがなく，路面の凹凸を補修するような性格とは考えにくい。また，路面直上の埋土と同質であり，開口した状態であった溝・ピットが路面と共に埋没したと考えられる。こうした状況から，道路が廃絶する手前の段階では，路面上には溝・段差や規則的に配置されたピットにより，凹凸がある状態であったこととなる。

路面上で堅守された規則的なピット群は，近江俊秀氏の示した波板状凹凸面（近江1995）でのⅣ群に相当する。Ⅳ群は円形の浅い土坑が一定間隔で並び，平坦な場所で集落に伴うⅣ－1群と，尾根・丘陵上の遺跡での切り通しとなるようなⅣ－2群に分けられている。SF3は段丘縁辺の斜面に形成された傾斜路であることから，Ⅳ－2群に該当しよう。ピット群は道路廃絶後に路面や側溝と同時期に埋没していると考えられることから，道路整備の基礎工事に伴うような性格のものではない。柵や杭列の存在も想定されるが，ピットは浅く，そうした構造物があった可能性は低いと思われる。一方，同じく路面上にある溝・段差も，いくつかの役割が想定される。一つは路面を仕切り，先述のピット群とともに路面の東半分に何らかの機能を持たせていた可能性がある。もう一つは路面中央付近の溝と段差は道路整備段階の幅員を示すもので，後にSD2まで拡幅された可能性もある。こうした推測をすることも出来るが，いずれにしても決定的な根拠はなく，その性格は判然としない。

このSF3を北側へ延長した場合，平成24年度の包蔵地確認調査での試掘トレンチ（以下，H24－T No.で表記）を通過する。そのH24－T9の北端では近世段階と考えられる落ち込みが確認された。その幅は少なくとも2m程度となる。この落ち込み部分は，規模や位置的なことから路面の延長部分

であった可能性が考えられる。また，SF３北端と H24 － T９北端の水平距離は 16 m，SF３北端の路面と H24 － T９での落ち込み部分底面の高低差は 1.2 mある。その勾配は 7.5 %となり，SF３での勾配と近い値を示す。

（２）溝

１号溝（SD１，第 61 図，図版 12）

SD１は SF３の東側側溝である。幅は 2.5 ～ 3.0 mを測る。壁面は両側ともに階段状を呈し，底面から１～２段の段差がある。底面での幅は 0.2 ～ 0.5 mとなる。深さは東壁面で約 1.2 ～ 1.6 m，路面側となる西壁面では約 0.7 ～ 0.8 mを測る。埋土は６～８層となる。段階的に埋没し，徐々に浅い側溝となり，５層の堆積時にはわずかに浅い溝となっていたと考えられる。

埋土中からは越中瀬戸（701・702）・唐津（703・704）・伊万里・珠洲・縄文土器・打製石斧が出土した。近世段階の遺物が埋没の時期に近いと考えられる。それらは 17 世紀後半頃の所産と見られることから，SD１の埋没はそれ以降と想定される。SD１が掘削された時期，すなわち SF３の整備時期を明確に示す遺物は無いものの，中世段階の遺物もほとんど無いことから，近世以降である可能性が高い。こうした状況から，SF３が道路として機能していた時期は 17 世紀前半代が中心であったと推測される。

なお，この SD１の続きと考えられる溝が，H24 － T12・14 で確認された。これらのトレンチでは，削平により路面が確認できないため，その傾斜を知ることは出来ない。そこで，確認された溝の底面での傾斜を参考としたい。H24 － T14 北端と SD１の南端までの傾斜を第 61 図下段に示した。それによると水平距離が 88 m，高低差は 6.3m で，勾配は 7.2 %となり，SF３の路面で確認した勾配とほぼ等しくなる。SD１の北側に続く延長部分で，路面から側溝底面までの深さが一定であったとすれば，勾配 7.1 %前後の傾斜路が H24 － T14 付近まで続いていたことになる。

H24 － T14 より北側では，段丘面上に設定した平成 25 年度のトレンチ（以下，H25 － T No. で表記）があるが，道路側溝の続きとなるような溝や近世段階の遺物は無く，こちら側に道路が延伸する可能性は低い。こうした点から，道路延長推定線は段丘面沿いの崖線付近を通る可能性がある。仮に H24 － T14 から H25 － T11・22 の西側を通り，H25 － T13 西側の田面付近に至るとした場合，H24 － T14 と H25 － T13 西側田面までの水平距離は 106 m，その高低差は 7.5 mであり，勾配は 7.1 %となる。先に算出した SD１から H24 － T14 にかけての傾斜と近い数値を示す。H25 － T13 より北では，現況の道路付近に続くと考えた場合，H25 － T13 西側の田面付近から下位の段丘面までは水平距離が 260.6 m，高低差は 27.6 mを測る。勾配は 10.6 %で，傾斜はきつくなる。

一方，SD１の南側では平坦な段丘面が広がっており，路面の傾斜は弱くなり，平坦な道が続いていたと考えられる。

２号溝（SD２，第 61 図，図版 12）

SD２は SF３の西側側溝である。幅 0.3 ～ 0.4 m，深さ 0.12 ～ 0.25 mを測る。埋土となる９層は黒褐色砂質シルトで，しまりは弱い。路面上で検出されたピットと同色・同質の埋土を基調とする。両者とも土質は５層に類似していることから，９層も同時期に形成されたと考えられる。路面上で確認された段差・溝も５層により埋没しており，路面上の段・溝・ピット群は道路廃絶段階のほぼ同時期に埋没したと考えられる。出土遺物は無い。

２　遺　物

調査区全体として近世の遺物は出土量が少ない。調査区が傾斜地にあり，当該期の居住域として土地利用するには適していなかったことが関係すると考えられる。また，縄文時代以降では，中世段階のものがわずかに出土しており，併せて提示しておきたい（第63図，図版７）。

Ａ地区のSD１の出土遺物として越中瀬戸（701・702），唐津（703・704）がある。701・702は鉄釉皿で，内面に釉止めの段は無い内禿皿である。宮田進一氏のⅢ期（宮田1997）に比定される。703は灰釉の皿，704は白化粧土の刷毛塗りを施した碗となる。共に九州陶磁編年（九州近世陶磁学会2000）のⅢ期に比定される。SD１の出土遺物で提示できるものは小破片で，量も僅かであるが，これらの時期的な様相から，SD１の埋没は少なくとも17世紀後半以降と判断した。

包含層出土の遺物には，青磁（705）・越中瀬戸（706～710）・唐津（711～714）・伊万里（716・717）・その他（715・718～721）がある。705は龍泉窯系青磁の碗である。口縁部の小破片で，上田分類（上田1982）のＤ類に比定される。706～708は越中瀬戸の灰釉皿である。707に釉止めの段は無く，底部は三角形状の削り出し高台となる。708は釉止めの段があり，見込に印花文が押され，底部は削り込み高台となる。708が宮田編年Ⅱ期，707がⅢ期に相当する。709は錆釉の擂鉢である。底径外面は回転糸切り未調整で，体部の立ち上がりは緩やかである。710は匣鉢で，底部外面を除き鉄釉が施される。唐津の内，711・712・714は白化粧土による刷毛目文を施しており，九州陶磁編年Ⅲ期以降の所産と考えられる。713は鉄釉の碗で高台脇の削り込みは明瞭で，体部との境には水平な面を作り出す。九州陶磁編年Ⅱ期としておく。伊万里の716は碗，717は蛇の目凹形高台の皿である。後者は九州陶磁編年Ⅳ期の途中，18世紀第２四半期から九州陶磁編年Ⅴ期までの時期幅がある。715は産地不明の擂鉢で，内面と体部外面に鉄釉を施す。内面と高台外縁に重ね焼きの痕が残る。718は陶胎染付の碗である。719は瀬戸美濃の鉢と思われる。見込にトチン痕が残り，高台内に墨書があるが判読は出来ない。720は羽口の先端部で，内径は推定３cmとなる。金属製品として，721の煙管がある。吸口部で，羅宇側の断面形は六角形を呈する。

以上の様に，17世紀前半から19世紀代にまで至る近世全般の遺物を確認することが出来た。出土量が少ないため，近世における土地利用の趨勢を明確にすることは難しいが，17世紀後半頃が僅かに目立つということのみ指摘しておきたい。（青山　晃）

注

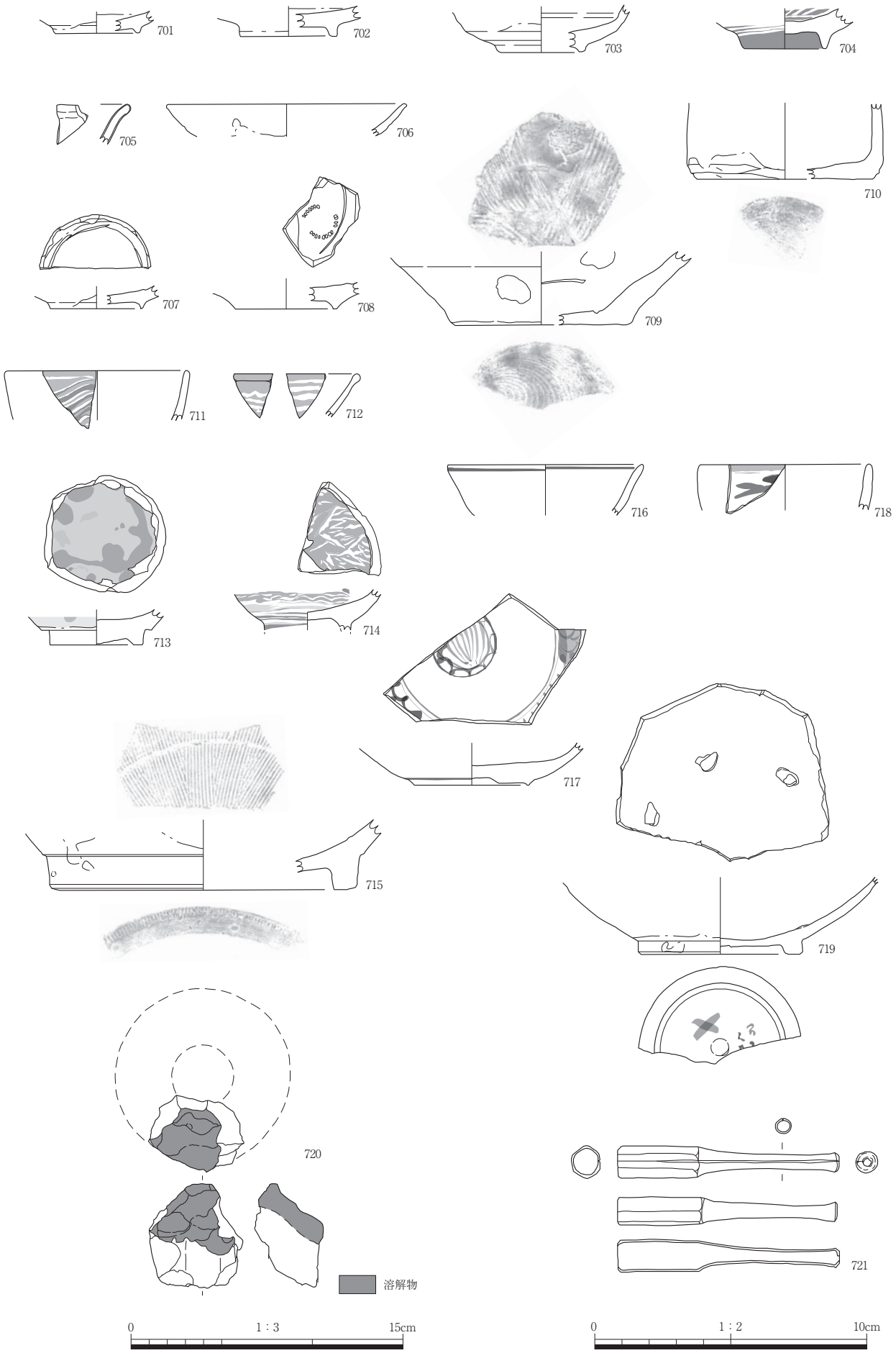
注１　傾斜した道路の勾配については，「％」での表記が一般的である。これは水平距離100ｍに対して，垂直距離が何ｍ上下動するのかを示す。求め方は，勾配（％）＝垂直距離（ｍ）×100／水平距離（ｍ）となる。今回はこの数式で求められた数値の小数点第２位を四捨五入して示している。

参考文献

上田秀夫　1982「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究 No. ２』日本貿易陶磁研究会
近江俊秀　1995「道路遺構の構造－波板状凹凸面を中心として－」『古代文化第47巻第４号』（財）古代學教會
九州近世陶磁学会　2000『九州陶磁の編年』
宮田進一　1997「越中瀬戸の変遷と分布」『中近世の北陸』桂書房

第61図　近世遺構実測図

第62図　道路状遺構ＳＦ３の推定延長



第63図　近世遺物実測図（701～720　1/3，721　1/2）
SD1（701～704）　包含層

第12表　陶磁器等一覧

挿図	遺物番号	図版	出土位置				種類	器種	法量(cm)			残存率	時期	詳細時期	胎土		釉			備考
			地区	遺構	XY	層			口径	器高	底径				記号	色名	種類	記号	色名	
63	701	7	A	SD1	X5Y15	最下層(③層)	越中瀬戸	皿		(1.2)	(5.0)	20%	近世	宮田編年Ⅲ期(17C後半～18C前半)	5YR6/6	橙色	鉄釉	5YR3/2	暗赤褐色	釉止めの段なし
	702		A	SD1	X9Y15		越中瀬戸	皿		(1.6)	(5.4)	25%	近世	宮田編年Ⅲ期(17C後半～18C前半)	5YR7/6	橙色	鉄釉	5YR5/2	灰褐色	釉止めの段なし
	703		A	SD1	X16Y14		唐津	皿		(2.6)	(4.8)	10%	近世	九陶Ⅲ期(1650～1690年代)	10YR6/2	灰黄褐色	灰釉	7.5Y7/1	灰白色	
	704		A	SD1	X15Y15		唐津	碗		(2.2)	(4.6)	50%	近世	九陶Ⅲ期(1650～1690年代)	2.5YR6/4	にぶい橙色	透明釉			刷毛目
	705		C		X114Y93	Ⅰ層	青磁	碗					中世	上田分類D類	5YR8/1	灰白色	青磁釉	10Y6/2	オリーブ灰色	
	706		A		X8Y16	Ⅱ層	越中瀬戸	皿	15	(1.8)			近世		10YR6/2	灰黄褐色	灰釉	2.5YR8/3	淡黄色	
	707		B		X107Y70	Ⅰ層	越中瀬戸	皿		(1.3)	5.1		近世	宮田編年Ⅲ期(17C後半～18C前半)	5YR6/4	にぶい橙色	灰釉	5Y7/3	浅黄色	見込みに重焼痕
	708		A		X32Y27	Ⅱ層	越中瀬戸	皿		(1.5)	5.6		近世	宮田編年Ⅱ期(17C前葉～中頃)	7.5YR6/3	にぶい褐色	灰釉			見込みに印花文
	709		C		X123Y80	Ⅱ層	越中瀬戸	擂鉢		(4.0)	9.6		近世		10YR7/4	にぶい黄橙色	鉄釉	N4/	灰色	卸目3.4cm12条1単位　内面重焼痕 内外面砂目痕?
	710		B		X104Y65	Ⅱ層	越中瀬戸	匣鉢		(4.2)	9.7		近世		2.5Y7/3	浅黄色	鉄釉	7.5YR3/3	暗褐色	断面にスス付着
	711		B		X104Y65	Ⅱ層	唐津	碗	10	(2.7)			近世	九陶Ⅲ期(1650～1690年代)～	5YR3/1	黒褐色	透明釉			刷毛目唐津
	712		B		X104Y65	Ⅱ層	唐津	鉢又は皿					近世	九陶Ⅲ期(1650～1690年代)～	10YR5/4	にぶい黄褐色	透明釉			刷毛目唐津
	713		B		X106Y68	Ⅰ層	唐津	碗		(1.9)	5.1		近世	九陶Ⅱ期(1610～1650年代)	7.5YR5/4	にぶい褐色	鉄釉	5YR3/2	にぶい赤褐色	削りだし高台
	714		A		X16Y16	Ⅰ層	唐津	碗		(2.3)	(5.0)		近世	九陶Ⅲ期(1650～1690年代)～	5YR4/2	灰褐色	透明釉			刷毛目唐津
	715		B		X95Y63	Ⅰ層	近世陶器	擂鉢		(3.8)	16.9		近世		7.5YR6/4	にぶい橙色	鉄釉	5YR4/4	にぶい赤褐色	見込み･高台外縁に重焼痕
	716		A		X58Y35	Ⅰ層	伊万里	碗	10.8	(2.8)			近世		7.5Y8/1	灰白色		2.5PB4/4	くすんだ青色	
	717		B		X99Y64	Ⅰ～Ⅱ層	伊万里	皿		(2.3)	6.4		近世	九陶Ⅳ～Ⅴ期(18C第2Q～1860年代)	N8/	灰白色		2.5PB4/6	くすんだ青色	蛇目凹形高台
	718		B				近世陶器	碗	9.2	(2.5)			近世		5Y5/1	灰色		5BG3/1	暗灰青色	
	719		B		X105Y64	Ⅰ～Ⅱ層	瀬戸美濃	鉢		(4.0)	9.0		近世		10YR7/3	にぶい黄橙色	透明釉			見込みにトチン痕　高台裏墨書
	720		A		X41Y29	Ⅱ層	羽口		9.6	(5.7)										溶解物付着

第13表　金属製品一覧

挿図	遺物番号	図版	出土位置			種類	法量(cm･g)				備考
			地区	XY	層		長	幅	厚	重さ	
63	721	7	A	X11Y15	Ⅰ層	煙管(吸口)	8.0	0.5～1.1		11.90	銅製

第Ⅴ章　自然科学分析

1　概　要

小糸尾萩野遺跡に暮らした人々の生活を復元することを目的とし，発掘調査で出土した土器，石器，炭化物，種実遺体などを，自然科学の視点から分析した。石器の石材鑑定では使用石材の特徴から他地域との交流，種実遺体同定では周囲の植生や生活環境，土器付着炭化物の脂肪酸分析および放射性炭素年代測定では食生活と年代，土器付着炭化物の放射性炭素年代測定では住居や土坑墓の年代，土器外面の漆塗膜分析では漆塗り技術を解明，復元することができた。（田中道子）

2　小糸尾萩野遺跡における石器石材と原産地推定

（1）はじめに

小糸尾萩野遺跡は富山市南部の神通川右岸の河岸段丘に位置し，富山・岐阜県境から飛騨地方の各地の礫が流れ込む地域にあたる。

本稿は，小糸尾萩野遺跡出土の石器，石製品の使用石材について，詳細な記載をおこなうことが中心である。石材鑑定では，微視的な岩石鑑定をおこなう目的で，おもに色調，構成粒子の粒度，岩石組織，節理等の多寡，玉髄の充填による珪化の度合，含有物の種類・量，表面の外観，風化の程度などに着目した。

石材の観察・記載には，非破壊方法を用い，実体顕微鏡ニコン SMZ－745T で主に 20 倍～ 100 倍で検鏡・観察し，写真撮影は，マイクロネット社製スーパーシステム（デジカメ）を使用した（写真は 139～146 頁に掲載）。比重測定は水中に石器を木綿糸でつるすアルキメデス法による。磁性テストは，10cm の糸につるした外形８㎜，厚さ３㎜のリング状の強力なネオジム磁石を石器に近づけ，磁石に引き付けられる力の強さを 4 段階（強い方から３，２，1+，1－）に区分する。レベル３（強）は磁石が約１㎝の距離で強く引き付けられて落ちない。レベル２（中）は磁石が約５㎜の距離でやや強く引き付けられ，自重で落ちる。レベル 1＋（弱）は磁石が約２～３㎜の距離で弱く引きつけられ，レベル 1－（極めて弱）は磁石がごくわずかに反応するか，ほとんど反応しない。

帯磁率計は Kappameter KT－６を使用し，単位は× 10^{-5} SI ユニットである（中村 2011b，2013）。光沢度は堀場製作所グロスチェッカ IG－331 を使用し，岩石鉱物表面の光沢の度合いを計測した。とくに磨製石斧等の研磨の状況をよく反映している（第 16 表）。なお，石材の細区分については，主に富山県小竹貝塚（中村 2014）でおこなった分類名に従った（第 17 表）。

（2）剥片石器の石材

黒曜石，下呂石，無斑晶質安山岩，デイサイト，玉髄，碧玉，珪質頁岩，チャート，緑色凝灰岩などがあるが，点数は少ない。

黒曜石 OB：黒曜石は，黒色，灰色で，透明から半透明である。黒曜石は点数が少ない。

２点の顕微鏡観察を実施した。黒曜石遺物は実体顕微鏡のステージ上に透明の台の上に乗せ，薄い縁辺部を斜め下方からの透過照明を当てることにより，晶子形態の観察をおこなうことができ，晶子

形態の用語は中村（2008）に従った。写真１・２は極めて透明度が高いもので，わずかに微球体を含むのみである。このように晶子等の不純物をふくまない透明度の高いものは，信州産のうちで鷹山などの和田系と諏訪系の一部に見られる特徴である。写真３・４は微球体が層状に集合するもので，透明感がある。いずれも諏訪系か和田系の黒曜石と推定される。

下呂石 GE：岐阜県下呂市の湯ヶ峰に分布する湯ヶ峰流紋岩（下呂石）は，黒灰色，緻密・ガラス質で，黒曜石とサヌカイトのほぼ中間的な透明感と質感をもつ。黒灰色で薄いところは透明感がある石材である。風化した面は白く濁る（写真６）が，これは主に斜長石が白濁しているためである。ガラス質で，透過光でみると微小な黒色，細粒板状の黒雲母が見られることが判断基準となる（写真９）。剥離面の肌理は黒曜石よりは粗い。

無斑晶質安山岩 AN：安山岩はシリカ（二酸化珪素）の含有量が中間的な噴出岩で，日本の火山では最も多く見られる。無斑晶質安山岩は溶岩が急冷されてできたもので，黒色で緻密質な岩石である。一般に石基中のガラスの含有量が増加するほど，見かけは黒色，緻密質で，ガラス状の光沢を有するようになり，ガラス質（玻璃質）といえるものになる。

写真 10・11 は輝石安山岩質の無斑晶質安山岩である。流理構造がみられる。中部地方北部では無斑晶質安山岩は長野・新潟県境の関田山地，能登半島北部の柳田累層と門前周辺，福井県勝山市報恩寺山，東尋坊などに知られており，富山県下では西部から東部まで帯状に分布する中新世の岩稲累層に多く，東部では一部，黒瀬谷累層の中の安山岩中にも分布する（中村 2009，2011a）。概して輝石や斜長石の微細な斑晶がわずかに含まれる。この分布域の中で大半を占めるのは顕晶質の安山岩であり，石器石材となる無斑晶質のものは多くはない。

玉髄 CL：石英の微細な結晶が，網目（繊維）状に集まった鉱物である。硬度６で，比重は石英とほとんど変わらず硬い鉱物。透明感があり，乳白色のものが一般的であるが，不純物が入って赤や緑などの色がついたものも多い。シリカ（二酸化珪素）に富んだ火成岩や岩脈に伴って，二次的に火山岩の空洞中に熱水が浸み込んで（熱水作用），内部に充填して結晶が生じる。色調から６タイプに分類される中で，CL４がみられる。

CL４（写真 14～16）は暗黄褐色系で，透明感をもつ。低温の熱水起源か堆積岩起源と推定される。新第三紀の地層中のものと推定され，産地は大規模でないが富山県の医王山累層を中心に，一部，岩稲累層も含み富山県西部にみられ，南砺市周辺が最大の産地である。新潟県の相川層，津川層，長野県の内村層，また能登半島などの新第三紀中新世の地層中にもみられる。

碧玉（鉄石英）JA：玉髄が酸化鉄などの不純物により，色がついたものを碧玉という。貝殻状の割れ口を呈し，不透明で，赤，褐，黄褐，緑，黒などの多様な色を示す。色調によって赤玉，黄玉，青玉などと呼ばれることがある。黒鉱鉱床，火成岩の接触珪化帯などに団塊または細脈状をなして産する熱水性の鉱物。新第三紀中新世の初期～中期の火成活動にしばしば見られる。

玉髄・碧玉（鉄石英）は，筆者の石材調査によれば，南砺市の小矢部川，同支流の大谷川，糸谷川，打尾川，山田川，千谷川などでわずかに礫がみられる。おもに医王山累層の分布域とその周辺の熱水活動が盛んであったと推定される地域内に，岩石の割れ目や空洞に，脈状，玉状に産すると推定される。なお，この分布域には，JA１～JA４が多く，横山真脇石とされる石材に類似するものは産しない。

本遺跡では，色調から６タイプに分類される中で，JA１と JA４がみられる。JA１は赤色タイプ（赤玉）である（写真 17・18）。JA４は黄褐色タイプ（黄玉）である（写真 19・20）。とくに 19 には 0.1～0.2 ㎜ほどの魚卵状の構造が多くみられるが，これはコロフォーム組織といい，低温熱水中でゲル状物質

が沈殿した初期の形状を残したものである。

頁岩 SH：頁岩は珪化の度合いと色調および凝灰質の有無により，６分類される。SH3 は光沢のない暗褐色系の珪質頁岩である。珪化は弱い。SH4 は灰褐色系の珪質頁岩で，光沢が少ない。写真 21 は放散虫化石を含む。

チャート CH：チャートはシリカ（二酸化珪素）が 90％以上を占めていて，細粒・均質で，緻密で硬い岩石である。微細な石英が集まっているため，剥片石器に適した貝殻状断口を示す。CH2 灰色系チャート（写真 25・26）には，0.1㎜前後の円形の斑点で，内部は透明の玉髄で充填された放散虫化石が多く含まれている。チャートにはしばしば節理や石英脈が多く入る（写真 26）ために，剥離面が平滑でなく，破損することが多い。

富山県域にはチャートは分布しないが，神通川上流の岐阜県飛騨地方に美濃帯の三畳系－ジュラ系が広く分布しているので，その中にチャートが多く含まれる場所がある。CH2 と CH1 が多い。CH1 は長野県の奈川赤褐色チャートに一致する石材で，乗鞍山をはさんだ西側の岐阜県丹生川と朝日川の間に分布する美濃帯に由来するものと考えられる。CH2 も同様で，チャートはみな神通川の礫を採集したものと推定される。また，新第三紀の楡原累層などにも礫として含まれる。

緑色凝灰岩 GT：写真 27 ～ 29 は酸性の細粒火山灰からなる緑色凝灰岩である。石英，斜長石，軽石を多く含む。写真 29 は火山ガラスが集中した部分である。

（３）石斧の石材記載

磨製石斧 32 点のうち，多いものから透閃石岩 18 点，蛇紋岩６点，輝緑岩（粗粒玄武岩）３点，角閃岩２点，緑色凝灰岩，結晶片岩，濃飛流紋岩が各１点である。このほか，打製石斧には，輝緑岩，閃緑岩，閃緑ひん岩，凝灰岩，礫岩，片麻岩がある。

透閃石岩 TR：透閃石岩は透明～灰色の透閃石（トレモナイト）と緑色の緑閃石（アクチノライト）の結晶の集合体であり，比重は 2.9 ～ 3.0 前後で，硬度５～６と硬く，衝撃に対しては極めて丈夫な岩石である。透閃石，緑閃石はともにカルシウム角閃石の一種である。透閃石の Mg の一部が Fe に置き換わることで緑閃石になり，両者は固溶体をなしており，色調だけでは判断できない。

蛇紋岩との見分け方は，磁石に引きつけられる力が極めて弱いこと，比重が大きいことでほぼ分類でき，実体顕微鏡で結晶を確認することがもとめられる。また，透閃石岩の中に部分的に角閃石（岩）や蛇紋石（岩）が含まれるものもみられる。透閃石岩は色調と透明感，結晶の大きさなどの特徴により８分類される（中村 2011b）。磨製石斧の 32 点のうち，透閃石岩の A1（写真 30・31）が１点，B（写真 32 ～ 41）が 12 点，C（写真 42 ～ 45）が２点，D2（写真 46・47）が１点，不明２点の計 18 点であった。A1 は透明感のある緑・暗灰色系の軟玉タイプのもので，写真 30 は細粒のものである。B は結晶が大きく，暗色と白色系の両者が混合したもので，暗色系が優先するタイプである。C も B と同様で，白色系が優先するものである。写真 42 は緑閃石～透閃石の針状結晶がよく観察できる。D2 は透明感のない細粒型で，白色系のものである。写真 46 はきわめて細粒緻密なものである。不明２点にはやや磁性があり，若干，蛇紋石が含まれている。

透閃石岩は姫川，青海川の流域の長野県白馬村から新潟県糸魚川市にかけての青海－蓮華地域の蛇紋岩岩体の中に含まれるものである。膨大な量の蛇紋岩の岩体の中にごく少量の透閃石岩が含まれる状態だと思われ，透閃石岩はきわめて限られた存在である。

蛇紋岩 SE：暗緑色，黄緑色，褐色の蛇紋石が集まった岩石。蛇紋石は硬度 2.5 ～ 3.5，比重が 2.4 ～ 2.6

と，透閃石と比べるといずれも小さく，蛇紋岩は衝撃に対してそれほど強固ではなく，表面には暗色のすじが入るものが多い。暗色部は磁鉄鉱の結晶が集合しており，そのために蛇紋岩は磁石に極めて強く引きつけられ，帯磁率も大きい。

蛇紋岩６点のうち，ⅡＡが２点，ⅡＢが１点，ⅡＣが２点，ⅡＤが1点である。写真50・51，54・55，58には，黒色粒状の磁鉄鉱が多く含まれている。蛇紋岩ⅡＤと透閃石岩の不明２点は，一般的な蛇紋岩より比重が高く，帯磁率はやや低いものである。これらは比重が小さく，柔らかく，崩れやすい本来の蛇紋岩ではなく，多少なりとも熱水との交代作用を被って硬質になる透閃石岩化の過程にある岩石と推定される。

蛇紋岩は北陸地方では，飛騨外縁帯とされる地質構造帯に伴っており，長野－新潟－富山県境部の青海－蓮華地域が，面積・ボリュームともに最大である。青海－蓮華地域は，姫川，青海川の流域の長野県白馬村から新潟県糸魚川市にかけての超苦鉄質岩類の中に含まれ，広い分布を示す。主な蛇紋岩メランジ帯は，①姫川本流ぞいの姫川渓谷地域，②青海地域，③大所川上流～朝日岳地域，④八方尾根北方地域に見られる。

角閃岩 AM：黒色の長柱状の角閃石が集合した岩石。比重2.9～3.1前後。透閃石岩と同様に，硬度5.5～６と硬く，衝撃に対しては極めて丈夫な岩石である。角閃岩は苦鉄質変成岩類に含まれるもので，青海－蓮華地域に産する。詳細な産地は不明である。写真64・66は角閃石の黒色・針状結晶が多くみられる。

輝緑岩（粗粒玄武岩）DIA：写真68・70・72は黒色の普通輝石か角閃石と思われる黒色の鉱物の中に斜長石の長柱状（拍子木状）の自形結晶が多数，多方向に入り込むオフィティック組織がみられることが特徴である。玄武岩質の半深成岩であり，脈岩として産することが多い。粗粒玄武岩（ドレライト）ともよばれる。

閃緑岩 DIO：写真74・75は，角閃石，斜長石などの等粒状の斑晶があつまる。

閃緑斑岩 DIO－POR：写真76・77は閃緑岩より角閃石などの有色鉱物が少ない半深成岩である。

濃飛流紋岩 NOH：濃飛流紋岩は飛騨～東濃地方を中心に分布する中生代白亜紀～新生代古第三紀の酸性火山岩類の総称である。主要な岩相は，火砕流などによる高温の火山灰や軽石などの火砕物が熱で溶けて固結した溶結凝灰岩である。写真78は軽石などが引き伸ばされて断面が細長いレンズ状になるユータキシティック組織だと思われる。石英が含まれる。

緑色凝灰岩 GT：写真80・81は斜長石，軽石，細粒の磁鉄鉱を多く含み，有色鉱物はあまり多くない。

凝灰岩 TU：写真82・83は，砕屑性の組織がみられる凝灰岩である。

礫岩 CON：写真84～86は礫岩である。円磨された石英や長石類を含む。固結がよく，濃飛流紋岩類に含まれるものの可能性がある。

塩基性結晶片岩 SCH：写真87・88は，塩基性結晶片岩と思われる。

片麻岩 GNS：写真89・90は，角閃石，斜長石，石英などがよくめだつ片麻岩である。

（４）装身具・石製品の石材記載

琥珀と凝灰岩が各１点ある。

琥珀 AMB：写真93～96は，主に針葉樹の樹脂が化石化した琥珀である。極暗赤褐色で，樹脂光沢をもち，風化によりひびが入っている。小竹貝塚出土の垂飾（4059）と色調，外観は類似する。

凝灰岩 TU：写真97・98は球形の石英，黒雲母のやや大きな結晶および角閃石を含む灰色でデイサイ

ト質の凝灰岩である。岐阜県飛騨市宮川のいわゆる塩谷石である可能性があるが，溶結組織は未確認である。

（5）礫石器の石材記載

安山岩（顕晶質），閃緑岩，花こう閃緑岩，凝灰岩，砂岩，マイロナイトが各１点ある。

顕晶質安山岩 AN－C：緻密な無斑晶質に対して数㎜以上の斑晶がめだつ顕晶質の，通常の安山岩が１点ある。写真 99・100は，灰色タイプで，輝石類を含む。

閃緑岩 DIO：安山岩質（中性）の深成岩で，写真101・102は角閃石，斜長石などの大きな結晶からなる。

花こう閃緑岩 GR－DIO：閃緑岩と花こう岩の中間的な色調で，角閃石，黒雲母を含み，石英，長石類が多い。

アレナイト質砂岩 SA－A：写真105・106は砂粒子が主体で粘土分が少ないアレナイト質砂岩である。長石と石英がほぼ同量の，長石質アレナイトである。アレナイト質砂岩はとくに磨石に多く用いられる。

凝灰岩 TU：写真 107・108は細粒の酸性凝灰岩である。有色鉱物は少ない。

マイロナイト MYL：花こう岩に似ているが，弱い片理がみられる。

（6）　磨製石斧の石材の特徴

小糸尾萩野遺跡（縄文中期）の石器で特筆されるのは，総点数が多くない中で磨製石斧の占める割合が大きいことである。磨製石斧の報告例が多い遺跡で，厳密な石材鑑定がされた小竹貝塚（縄文前期），平岡遺跡（縄文前期），境Ａ遺跡（縄文中～晩期）の石材組成と比較し，石斧石材について考察する（第14表）。

いずれの遺跡でも透閃石岩が主体となり，蛇紋岩が次いで多いが，小竹貝塚は蛇紋岩より角閃岩が多く占める。これ以外の石材は補完的な存在でそれぞれおおむね５％以下である。しかし，このような傾向の中で小糸尾萩野遺跡では，輝緑岩（粗粒玄武岩）が9.7％と高率であり，さらに打製石斧にも複数含まれていることは特筆できる点である。富山県内の他遺跡でほとんど使用されない輝緑岩が多いことは，この石材が小糸尾萩野遺跡に近い産地のものであることを示唆している。

次に磨製石斧の石材として主体的な存在である透閃石岩と蛇紋岩の細分グループの構成割合を検討する（第15表）。小糸尾萩野遺跡の透閃石岩と蛇紋岩は，総数では富山県内の遺跡と同様な傾向を示すが，透閃石岩の中でＢタイプが50％と極めて片寄った組成である。Ａ1，Ｄ2などの細粒のタイプが少なく，粗粒・混合型のＢが多いことは，際立った特徴である。

富山県下の遺跡における縄文時代磨製石斧に使われる透閃石岩，蛇紋岩は，ともに新潟・富山県境域の青海－蓮華地域産の石材であると考えてきた（中村 2014）が，再考を要する出土例になると思われる。土谷（2007，2013）は，北陸～近畿に分布する「蛇紋岩製石斧」の石材の中に複数産地のものが含まれることを論じている。この論考であつかわれている「石材」の記述が難解で，筆者の細分グループとの比較はできないでいる。この当否は別としても，土谷氏が論じているように複数産地の透閃石岩，蛇紋岩の存在を検討する必要がある。

北陸地方では，蛇紋岩は飛騨外縁帯に伴っており，長野－新潟－富山県境部の青海－蓮華地域のほか，小規模であるが，岐阜県高山市上宝町蒲田地域，高山市清見町楢谷地域，福井県大野市伊勢地域に小規模岩体が分布する。また，福井県大飯地域には，夜久野塩基性岩類の中に蛇紋岩体が分布する。

小糸尾萩野遺跡は富山・岐阜県境に近く，上宝・浦田地域は神通川上流に位置することから，飛騨地方の透閃石岩がもたらされている可能性がある。本遺跡の透閃石岩Ｂタイプに類似する石材が飛騨地方の縄文時代遺跡で使用されているかどうか，上宝地区において自然界に小糸尾萩野遺跡の石器石材に近い透閃石岩が存在するかどうか，今後検討することが求められる。

（7）　小糸尾萩野遺跡の石材環境

小糸尾萩野遺跡で使用された石器石材は，多くの地域から搬入されている。大きくみると，在地系，新潟・富山県境域，飛騨系，信州系，新潟系，および遠来の琥珀である（第64図）。

在地系としては，富山県内の岩稲累層と県東部では一部，黒瀬谷累層中に含まれる無斑晶質安山岩，県西部の南砺市付近に多い玉髄・碧玉などがあげられる。顕晶質安山岩は在地のものと思われる。また，礫石器石材の閃緑岩，花こう閃緑岩，凝灰岩，マイロナイトなどは，原産地が岐阜県内のものもあると思われるが，主として神通川の河川礫として供給されたものと推定される。

新潟・富山県境域の石材は，石斧石材の透閃石岩，蛇紋岩，角閃岩である。飛騨系には，下呂市湯ヶ峰産の下呂石，美濃帯のチャート，濃飛流紋岩類，塩谷石などである。チャートと濃飛流紋岩は，神通川に流下した河川礫が採集された可能性がある。さらに透閃石岩Ｂは神通川上流の飛騨産のものが多く含まれる可能性がある。信州系には，和田系・諏訪系と推定される黒曜石がある。新潟系は，珪質頁岩である。新潟県の中・北越産のものと推定される。

遠来のものとしては，琥珀１点がある。外観からは小竹貝塚の石材に近似しており，色調からは岐阜県瑞浪市（新生代中新世）のものは排除でき，岩手県久慈市，福島県いわき市，千葉県銚子市（いづれも中生代白亜紀）などのいずれかのものと推定される。

なお，石斧石材に含まれる輝緑岩（粗粒玄武岩）の産地は不明である。

（明治大学黒耀石研究センター　中村由克）

文献

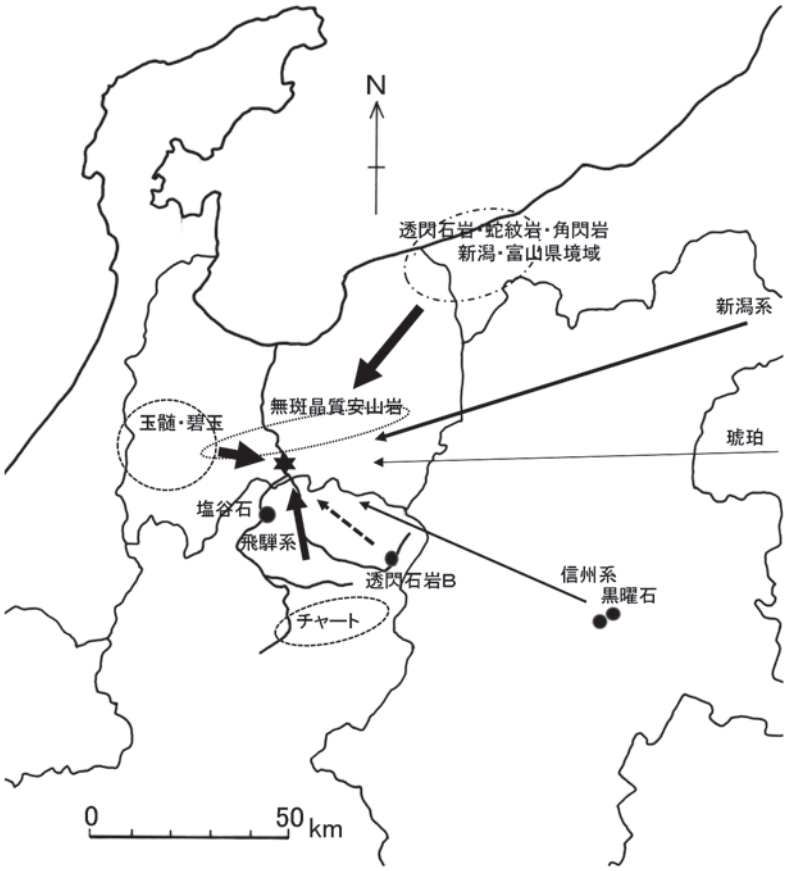
土谷崇夫　2007 「磨製石斧の供給」『縄文時代の考古学６　ものづくり』232-239. 同成社
土谷崇夫　2013 「石斧流通試論」『立命館大学考古学論集』Ⅵ，41-52.
中村由克　2008 「上ノ原遺跡の石器石材とその原産地・採集地の推定」『上ノ原遺跡（第５次・県道地点）』信濃町教育委員会，199-231；461-497（図版）.
中村由克　2009 「日本海沿岸，富山地域における石器石材環境１」『日本第四紀学会講演要旨集』39，140-141.
中村由克ａ　2011 「旧石器時代北陸の石材環境」『考古学ジャーナル』610号，7-10.
中村由克ｂ　2011 「旧石器時代における石斧の石材鑑定」『野尻湖ナウマンゾウ博物館研究報告』19，31-54.
中村由克　2013 「富山県境Ａ遺跡における縄文時代磨製石斧の石材利用」『野尻湖ナウマンゾウ博物館研究報告』21号，9-28.
中村由克　2014 「石材とその原産地の推定」『小竹貝塚発掘報告（第２分冊）』富山県文化振興財団，43-72.
中村由克　2015 「石材とその原産地推定」『平岡遺跡発掘報告』富山県文化振興財団，277-296.
このほか，関係範囲の地質調査所発行の５万分の１地質図幅，20万分の１地質図幅を参考にした。

第14表　磨製石斧の石材内訳

	透閃石岩	蛇紋岩	輝緑岩	角閃岩	緑色凝灰岩	緑色岩	凝灰岩	閃緑岩	ひん岩	その他	総　数
	TR	SE	DIA	AM	GT	GRS	TU			OR	
小糸尾萩野	18	6	3	2	1					2	32　点
	58.1	19.4	9.7	6.5	3.2					6.5	%
小竹貝塚	64	18	1	38		7	4		1	7	140　点
	45.7	12.9	0.7	27.1		5.0	2.9		0.7	5.0	%
平　岡	78	21	1	2		4	2	2			110　点
	70.9	19.1	0.9	1.8		3.6	1.8	1.8			%
境A　大型品	33	12		1			1	1	1	3	52　点
	63.5	23.1		1.9			1.9	1.9	1.9	5.8	%
境A　小型品	69	3		2			1			4	79　点
	87.3	3.8		2.5			1.3			5.1	%

第15表　磨製石斧の石材　透閃石岩－蛇紋岩の内訳

	A1	A2	B	B0	C	C0	D1	D2	不明	透閃石岩	ⅡA	ⅡB	ⅡC	ⅡD	不明	蛇紋岩	総合計
小糸尾萩野 縄文中期	1		12		2			1	2	18	2	1	2	1		6	24　点
	4.2		50.0		8.3			4.2	8.3	75	8.3	4.2	8.3	4.2		25	%
小竹貝塚 縄文前期	45	3	7		4			1	4	64	3	4	5	3	3	18	82　点
	54.8	3.7	8.5		4.9			1.2	4.9	78.0	3.7	4.9	6.1	3.7	3.7	22.0	%
平岡 縄文前期	15	16	5		15	1		23	3	78	6	5	5	5		21	99　点
	19.2	16.2	5.1		15.2	1.0		23.2	3.0	78.8	6.1	5.1	5.1	5.1		21.2	%
境A　大型品 縄文中～晩期	8		9	2	11	2		1		33	5	1	1	5		12	45　点
	17.8		20.0	4.4	24.4	4.4		2.2		73.3	11.1	2.2	2.2	11.1		26.7	%
境A　小型品 縄文中～晩期	13	16	4		8	10	4	14		69	3					3	72　点
	18.1	22.2	5.6		11.1	13.9	5.6	19.4		95.8	4.2					4.2	%



第64図　小糸尾萩野遺跡の石器石材環境

第16表　小糸尾萩野遺跡出土の石器・石製品石材の属性一覧

No	台帳番号	遺物番号	記号	石材名	色調	マンセル表示	比重	帯磁率	磁石テスト	光沢度	備考
1	130090	605	OB	黒曜石	透明	—		1	1−		
2	130091	606	OB	黒曜石	透明～暗灰色	—		1	1+		
3	130073	602	GE	下呂石	灰色	N4/0		4	1+～2		
4	140102	609	GE	下呂石	灰色	N4/0		28	2		
5	140104	603	AN−3	無斑晶質安山岩	灰色	10Y5/1		47	3～2		
6	140125	604	DAC	デイサイト	灰色	N5/0		29	2		無斑晶質
7	140116	−	CL−4	玉髄	にぶい黄橙色	10YR6/3		6	1−		
8	140012	608	JA−1	碧玉	暗赤灰色	10R3/1		3	1−		
9	140135	−	JA−4	碧玉	褐色	10YR4/4		4	1−		
10	140143	610	SH−S	珪質頁岩	灰黄色	2.5Y7/2		5	1−		SH−4
11	130083	612	SH−S	珪質頁岩	暗灰黄色	2.5Y5/2		10	1−		SH−3
12	140115	−	CH−2	チャート	緑灰色	10GY5/1		7	1−		
13	140142	611	GT	緑色凝灰岩	明オリーブ灰色	5GY7/2		10	1−		
14	140118	−	TR−A1	透閃石岩	青灰色	5BG5/1	2.98	23	1+	3	受熱
15	140103	616	TR−B	透閃石岩	明オリーブ灰色	5GY7/1	2.91	45	1+	2	
16	140106	621	TR−B	透閃石岩	緑灰色	7.5GY5/1	2.96	46	1+	1	受熱
17	140111	620	TR−B	透閃石岩	灰白色	2.5Y7.5/1	2.91	25	1+	5	
18	140120	−	TR−B	透閃石岩	オリーブ灰色	5GY6.5/1	3.00	15	1+	4	
19	140126	619	TR−B	透閃石岩	にぶい黄色	2.5Y6/3	2.85	43	1+	2	
20	140015	−	TR−C	透閃石岩	明緑灰色	10GY7/1	2.82	23	1+	1	
21	140123	−	TR−C	透閃石岩	明緑灰色	10G7/1	2.77	19	1+	1	
22	140005	614	TR−D2	透閃石岩	灰白色	2.5GY8/1	2.94	12	1−	4	
23	140308	−	SE−IIA	蛇紋岩	灰白色	10Y7/1	2.41	2185	3	1	
24	130085	613	SE−IIA	蛇紋岩	青灰色	10BG5/1	2.48	1140	3	2	
25	130082	622	SE−IIB	蛇紋岩	灰色	5Y4/1	2.72	1940	3	3	
26	140316	−	SE−IIC	蛇紋岩	にぶい黄橙色	10YR6/4	2.57	421	3	2	
27	140319	−	SE−IIC	蛇紋岩	灰色	10Y5/1	2.48	271	2	2	
28	130081	−	SE−IID	蛇紋岩	緑灰色	7.5GY5.5/1	2.74	592	2	8	
29	130071	−	TR−SE	透閃石岩(蛇紋石含む)	緑灰色	10GY5/1	2.86	292	2	6	
30	140013	−	TR−SE	透閃石岩(蛇紋石含む)	緑灰色	7.5GY6/1	2.91	136	2	4	
31	140309	−	AM	角閃岩	暗灰黄色	2.5Y5/2	2.86	67	1+	2	
32	140146	−	AM	角閃岩	黄灰色	2.5Y4/1	3.00	8	1+	2	
33	140109	−	DIA	輝緑岩(粗粒玄武岩)	明オリーブ灰色	2.5GY7/1	2.69	29	1+	2	受熱
34	130074	−	DIA	輝緑岩(粗粒玄武岩)	灰色	5Y6/1	2.80	40	1+	1	
35	140108	628	DIA	輝緑岩(粗粒玄武岩)	灰色	5Y6.5/1	2.54	2760	3	1	
36	140313	−	DIO	閃緑岩	灰オリーブ色	5Y5.5/2	2.80	30	1+	1	
37	140312	626	DIO−POR	閃緑斑岩	灰オリーブ色	5Y6/2		1200	3		
38	140112	−	NOH	濃飛流紋岩	暗灰黄色	2.5Y4.5/2		53	2		
39	140149	−	GT	緑色凝灰岩	オリーブ灰色	2.5GY6/1	2.40	172	3	3	
40	130076	−	TU	凝灰岩	灰色	5Y6/1	2.55	17	1−	1	
41	130086	631	CON	礫岩	灰白色	2.5Y7/1		8	1−		
42	140131	−	CON	礫岩	灰オリーブ色	5Y5.5/2		7	1−		
43	130072	−	SCH	塩基性結晶片岩	青灰色	10BY6/1	2.71	18	1−	1−	
44	140004	624	GNS	片麻岩	オリーブ灰色	5GY5/1	2.89	752	3	1	
45	130084	615	DIA ?	輝緑岩?	黄灰色	2.5Y5/1	2.61	11	1+	1	
46	140144	601	AMB	琥珀	極暗赤褐色	7.5R2/3		1	1−		
47	130077	645	TU	凝灰岩	灰黄色	2.5Y6/2		44	1+		
48	130088	634	AN−C	顕晶質安山岩	黄灰色	2.5Y6/1		1060	3		
49	140128	638	DIO	閃緑岩	灰白色	2.5Y8/1		1140	3		
50	140122	−	GR−DIO	花こう閃緑岩	灰白色	2.5Y8/2		1480	3		
51	140304	644	SA−A	アレナイト質砂岩	にぶい黄色	2.5Y6/4		1	1−		
52	140002	−	TU−acid	酸性凝灰岩	灰白色	2.5Y8/1		5	1−		
53	140130	−	MYL	マイロナイト	灰白色	2.5Y7.5/1		14	1−		

第17表　石材の分類と記載 （『平岡遺跡発掘調査報告』P286から転載・一部改変）

※中村由克（2014）「小竹貝塚」による

［無斑晶質安山岩］	
AN1	黒色緻密質タイプ。0.5㎜ほどの斜長石をわずかにふくみ,まれに微細な輝石を含む。基質は黒色,均質で微晶質と思われる。
AN2	灰黒色タイプ。やや粗粒で,大きいものでは1㎜の斜長石や輝石を少し含む。微晶質と思われる。
AN3	灰色タイプ。やや粗粒で,大きいものでは1.5㎜の斜長石や角閃石,輝石を少しふくむ。微晶質と思われる。
AN4	灰白色タイプ。風化が進行するもので,細粒。微晶質と思われる。
AN5	まだらタイプ。灰黒色で,やや粗粒。やや大きめの斜長石が見られる。基質は細粒。剥離面の肌はやや粗い。
AN6	緑灰色タイプ。緑灰色で,斜長石,輝石をわずかにふくむ。剥離面の肌はやや粗い。
AN7	ガラス質タイプ。黒色,灰色,灰黒色で,基質はややガラス質と思われる。微細な斜長石,輝石がわずかにふくまれる。
［医王山系流紋岩類］	
流紋岩　RH	流紋岩　RH:暗灰色～明灰色,暗黄褐色,暗紫灰色など色調が多彩。石英,斜長石などの結晶がわずかに含まれ,基質はガラス質。基質が粒度の大きいものは微晶質と思われる。
溶結凝灰岩　WT	溶結凝灰岩　WT:灰色,明灰褐色でしま模様が見られる流紋岩質のもの。白色,細粒なものでも,よく見ると部分的に細長いレンズ状の透明部（ガラス）が観察できるものがある。凝灰岩との見分けが難しいものが多い。
凝灰岩　TU	凝灰岩　TU:灰色～明灰色,明青灰色で,細粒のガラスが集まった流紋岩質のものが多い。やや大きめの石英や斜長石の結晶が含まれることがある。剥離面の肌理は,比較的細かいものからやや粗いものがある。流紋岩,溶結凝灰岩との見分けがつきにくいものもある。
［玉髄］	
CL1	透明タイプ。やや褐色を帯びた灰白色で,すこし濁りがあり,完全な透明なものではない。剥離面の肌は細かい。
CL2	灰色～ピンク系タイプ,透明感はないか少ない。剥離面の肌目は細かいが,CL1よりはやや粗い。
CL3	明橙色タイプ,透明感あり。明橙色の部分と黄褐色～透明な部分が入り混じったもので,コロフォーム組織が認められ,透明部の透明感は強い。剥離面の肌は細かい。
CL4	暗黄褐色系タイプ,透明感あり。玉髄（堆積岩起源）としたもの。暗黄褐色部分が多く,剥片の縁辺などの薄いところは,寒天状に透けて見えるぐらいの透明感がある。暗黄褐色部分は微細な粒子が多く集まり色調が濃くなっているようにみえる。黒,灰色の微細粒子が点在して含まれ,砕屑物粒子と思われる。剥離面の肌目は細かいが,CL1よりはやや粗い。
CL5	黄褐色～褐色系タイプ,透明感ない。透明部分の中に黄褐色の微細な粒子状のコロフォーム組織が認められ,剥離面の肌は細かい。約　㎜程度の円形の構造が見られる。部分的に緑灰色部分を含むものがある。
CL6	白色タイプ,透明感ない。微細な不明瞭で細長い楕円形や鉤形の透明部が含まれ,白色部は細粒均質で,剥離面の肌は細かく,透明感はない。
［碧玉］	
JA1	赤色タイプ（赤玉）。濃い赤褐色部分と明灰色～黄灰色部分が混じる。赤褐色部分には不明瞭ながら,コロフォーム組織が認められ,剥離面の肌はやや粗い。
JA2	暗赤色タイプ（赤玉）。濃い赤褐色部分と明灰色部分,黒灰色部分が入り混じる。赤褐色部分には不明瞭ながら,コロフォーム組織が認められ,剥離面の肌目は細かい。
JA3	赤色～黄色タイプ（赤玉・黄玉）。濃い赤褐色部分と黄灰色部分が混じる。不明瞭ながら,コロフォーム組織が認められ,剥離面の肌目はやや粗い。後から充填した透明部分があり,玉髄かオパールと思われる。
JA4	黄褐色タイプ（黄玉）。暗い黄褐色部分が主で,一部に明黄褐色部を含む。亀裂ができたところを後から透明玉髄が充填している。剥離面の肌目はやや粗い。
JA5	緑灰色タイプ。緑灰色で,剥離面の肌目は粗い。
JA6	その他のタイプ。黒灰色で,剥離面の肌目はやや細かい。粗い肌目の灰白色部分を含む。
［珪質頁岩］	
SH2	暗褐色系珪質頁岩,光沢あり。暗褐色の頁岩で,珪化作用を受けており,やや弱い樹脂状光沢がみられる。剥離面の肌目は比較的細かく,微細な褐色に見える斑点の一部は放散虫等の微化石の空洞であり,明灰褐色の細粒鉱物が充填しているものもある。
SH3	暗褐色系珪質頁岩,光沢なし。暗褐色の頁岩で,珪化作用を受けており,光沢は少ない。剥離面の肌目はやや細かく,微細な褐色に見える斑点の一部は放散虫等の微化石の空洞であり,あまり空洞は充填されていない。
SH4	灰褐色系珪質頁岩,光沢なし。灰褐色の頁岩で,珪化作用を受けており,ごく弱い樹脂状光沢がみられる。剥離面の肌目は比較的細かく,微細な灰白色に見える斑点の多くは放散虫,有孔虫等の微化石や海綿骨針の空洞であり,玉髄が充填しているものもある。灰褐色を呈するのは,多少とも火山灰を含んでいるためだと思われる。
［頁岩・凝灰質頁岩］	
SH1	黒色頁岩。黒灰色の頁岩で,光沢はない。剥離面の肌目はやや粗く,灰白色に見える微細な斑点は放散虫等の空洞であり,内部はあまり充填されていない。
SH5	明灰色凝灰質頁岩。明灰色の頁岩で,弱い珪化作用を受けており,ごく弱い樹脂状光沢がみられる。剥離面の肌目はやや細かく,微細な灰白色に見える斑点の多くは放散虫,有孔虫等の微化石の空洞であり,内部はあまり充填されていない。明灰褐色を呈するのは,火山灰を含んでいるためだと思われる。
SH6	暗灰色凝灰質頁岩。暗灰色の凝灰質頁岩で,珪化作用は少なく,光沢はない。剥離面の肌目はやや粗い。微化石は認められない。
［チャート］	
CH1	赤色系チャート。赤褐色のチャートで,節理は多くないが,節理部分には暗灰色の石英が充填する。微細な透明の楕円形の斑点が多く見られるが,放散虫化石の中に玉髄が充填している。剥離面の肌目はたいへん細かい。
CH2	灰色系チャート。灰色のチャートで,節理はみられるが,それほど多くない。微細な透明の楕円形の斑点が多く見られるものもあるが,放散虫化石の中に玉髄が充填している。剥離面の肌目はたいへん細かい。
CH3	灰白色～透明チャート。灰白色～透明のチャートで,節理は少ない。透明感のある明緑灰色の部分と暗灰色部分が混じる。剥離面の肌目は細かいが,CH1,CH2と比較すると粗い。
CH4	緑灰色系チャート。緑灰色のチャートで,節理が多く,剥離面の肌目はチャートとしては粗い。
［透閃石岩］	
A1	軟玉型,緑・暗灰色系。緑・暗灰色系で透明感がある軟玉タイプ。結晶は小さい。
A2	軟玉型,白色系。白色系で透明感がある軟玉タイプ。結晶は小さい。
B	混合型,暗色系。暗色系と白色系の両者が混じる混合型で,暗色系が優先のもの。結晶は大きい。
C	混合型,白色系。暗色系と白色系の両者が混じる混合型で,白色系が優先のもの。結晶は大きい。
B0	単一型,暗色系。結晶が大きく,暗色のもの。
C0	単一型,白色系。結晶が大きく,白色系のもの。
D1	細粒型,緑・暗色系。透明感がないが,結晶が小さくきめ細かなもの。緑・暗色系。
D2	細粒型,白色系。透明感がないが,結晶が小さくきめ細かなもの。白色系。
［蛇紋岩］	
ⅡA	明緑灰色で暗色のすじが入るもの,比重は小。
ⅡB	網目構造が認められるもの,比重は小。2.65～2.87。
ⅡC	その他のもの,比重は小。2.43～2.83。
ⅡD	暗灰色,灰色部がしま状に混じり,比重が大きいもの。2.96～3.00。

3　種実遺体同定

（1）試料と分析方法

試料は，発掘調査中に現地で取り上げられたものである。試料を肉眼及びルーペで観察し，同定は種の階級で，現生標本との対比で行った。

（2）同定結果と分類群の記載

同定の結果，木本のオニグルミ，クリの２分類群であった。以下に，結果をまとめ（第18表），形態的特徴を示す（第19表）。

第18表　種実遺体同定結果一覧

分類群（和名／学名）		部　位	01KO-C X123 Y74　Ⅰ層 141002	01KO-C X117 Y96　Ⅰ～Ⅱ層 141028	01KO-D SK781 141023
オニグルミ	*Juglans ailanthifolia* Carr.	核		1	
クリ	*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.	炭化子葉	1		1

第19表　形態的特徴

オニグルミ（*Juglans ailanthifolia* Carr.）核；縫合線で割れた半分の個体が得られた。淡褐色で，広卵形を呈する。表面にはオニグルミ特有の不規則な小隆起がみられる。長さ31.2㎜，幅28.4㎜である。
クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）炭化子葉；黒色で，広卵形を呈する。表面には縦方向の小皺が走る。完形の個体で長さ14.8㎜，幅17.8㎜，厚さ7.0㎜，半分程度の個体で長さ13.4㎜，幅13.0㎜である。

（3）所　見

今回，得られた種実遺体の中で縄文時代中期中葉まで遡る個体は，SK781から出土したクリの炭化子葉のみである。炭化子葉は著しく炭化しており，被熱によるものと考えられる。また，時期は特定できないもののⅠ層から出土したクリ炭化子葉も被熱した後に埋没したと考えられる。オニグルミは未炭化の核であり，Ⅰ～Ⅱ層から出土している。未炭化であることから，比較的新しい個体であり，縄文時代中期中葉まで遡らないと考えられる。

クリの子葉部分はアク抜きをしなくても食用が可能である。また被熱により炭化していることから，集落内で広く利用されていたと考えられる。（島田亮仁）

参考文献

朝田亜紀子　2015「小糸・尾萩野遺跡」『平成26年度埋蔵文化財年報』公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

4　放射性炭素年代測定

（1）はじめに

富山市小糸地内に所在する小糸尾萩野遺跡より検出された試料について，加速器質量分析法（AMS）による放射性炭素年代測定を行った。

（2）試料と方法

測定試料の情報，調製データは第20表のとおりである。試料№.1（PLD-31813）は，土坑墓SK204より出土した土器の内面底部に付着する炭化物である。試料№.2（PLD-31814）は，土坑墓SK218より出土した土器の内面胴部に付着する炭化物である。試料№.3（PLD-31815）は，土坑墓SK390より出土した土器の外面胴部に付着する炭化物である。試料№.4（PLD-31816）は，埋設土器SK391の内面底部に付着する炭化物である。試料№.5（PLD-31817）は，竪穴住居SI400より出土した土器の外面口縁部に付着する炭化物である。土器はいずれも深鉢で，上山田・天神山式土器とみられている。

第20表　測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-31813	試料No.1 地区名:C 出土遺構:SK204 遺構種類:土坑墓	種類:土器付着炭化物 器種:深鉢（上山田･天神山式） 試料採取位置:内面底部 状態:dry	超音波洗浄 酸･アルカリ･酸洗浄（塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N）
PLD-31814	試料No.2 地区名:C 出土遺構:SK218 遺構種類:土坑墓	種類:土器付着炭化物 器種:深鉢（上山田･天神山式） 試料採取位置:内面胴部 状態:dry	超音波洗浄 酸･アルカリ･酸洗浄（塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N）
PLD-31815	試料No.3 地区名:C 出土遺構:SK390 遺構種類:土坑墓	種類:土器付着炭化物 器種:深鉢（上山田･天神山式） 試料採取位置:外面胴部 状態:dry	超音波洗浄 酸･アルカリ･酸洗浄（塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N）
PLD-31816	試料No.4 地区名:C 出土遺構:SK391 遺構種類:埋設土器	種類:土器付着炭化物 器種:深鉢（上山田･天神山式） 試料採取位置:内面底部 状態:dry	超音波洗浄 酸･アルカリ･酸洗浄（塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N）
PLD-31817	試料No.5 地区名:C 出土遺構:SI400 遺構種類:竪穴住居	種類:土器付着炭化物 器種:深鉢（上山田･天神山式） 試料採取位置:外面口縁部 状態:dry	超音波洗浄 酸･アルカリ･酸洗浄（塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:0.1N,塩酸:1.2N）

試料は調製後，加速器質量分析計（パレオ・ラボ，コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた^{14}C濃度について同位体分別効果の補正を行った後，^{14}C年代，暦年代を算出した。

（3）結果

第21表に，同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ^{13}C），同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲，慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した^{14}C年代を，第65図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり，今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C年代（yrBP）の算出には，^{14}Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また，付記した^{14}C年代誤差（±1σ）は，測定の統計誤差，標準偏差等に基づいて算出され，試料の^{14}C年代がその^{14}C年代誤差内に入る確率が68.2％であることを示す。

なお，暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは，大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し，過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動，および半減期の違い（^{14}C の半減期 5730 ± 40 年）を較正して，より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.2（較正曲線データ：IntCal13）を使用した。なお，1 σ 暦年代範囲は，OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2％信頼限界の暦年代範囲であり，同様に 2 σ 暦年代範囲は 95.4％信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は，その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し，二重曲線は暦年較正曲線を示す。

第21表　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	δ^{13}C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	^{14}C 年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-31813 試料No.1 SK204出土	-26.11±0.18	4378±22	4380±20	3016-3000 cal BC（13.1%） 2993-2930 cal BC（55.1%）	3086-3062 cal BC（ 8.0%） 3029-2915 cal BC（87.4%）
PLD-31814 試料No.2 SK218出土	-26.41±0.19	4400±22	4400±20	3086-3061 cal BC（18.2%） 3030-3007 cal BC（16.2%） 2987-2933 cal BC（33.8%）	3091-2926 cal BC（95.4%）
PLD-31815 試料No.3 SK390出土	-27.64±0.20	4425±21	4425±20	3095-3021 cal BC（68.2%）	3308-3302 cal BC（ 0.5%） 3282-3279 cal BC（ 0.2%） 3266-3241 cal BC（ 6.5%） 3106-2928 cal BC（88.2%）
PLD-31816 試料No.4 SK391出土	-28.72±0.19	4381±22	4380±20	3018-3001 cal BC（14.1%） 2993-2930 cal BC（54.1%）	3087-3060 cal BC（ 9.8%） 3030-2917 cal BC（85.6%）
PLD-31817 試料No.5 SI400出土	-27.47±0.19	4407±22	4405±20	3090-3046 cal BC（34.3%） 3036-3011 cal BC（19.2%） 2978-2961 cal BC（ 9.7%） 2951-2943 cal BC（ 5.0%）	3095-2927 cal BC（95.4%）

（4）考察

以下，^{14}C 年代および 2 σ 暦年代範囲（確率 95.4%）に基づいて結果を整理する。

土坑墓 SK204 より出土した土器の内面底部付着炭化物（試料№.1：PLD-31813）は，^{14}C 年代が 4380 ± 20 ^{14}C BP，2 σ 暦年代範囲が 3086-3062 cal BC（8.0%）および 3029-2915 cal BC（87.4%）であった。

土坑墓 SK218 より出土した土器の内面胴部付着炭化物（試料№.2：PLD-31814）は，^{14}C 年代が 4400 ± 20 ^{14}C BP，2 σ 暦年代範囲が 3091-2926 cal BC（95.4%）であった。

土坑墓 SK390 より出土した土器の外面胴部付着炭化物（試料№.3：PLD-31815）は，^{14}C 年代が 4425 ± 20 ^{14}C BP，2 σ 暦年代範囲が 3308-3302 cal BC（0.5%），3282-3279 cal BC（0.2%），3266-3241 cal BC（6.5%），3106-2928 cal BC（88.2%）であった。

埋設土器 SK391 の内面底部付着炭化物（試料 No.4：PLD-31816）は，^{14}C 年代が 4380 ± 20 ^{14}C BP，2 σ 暦年代範囲が 3087-3060 cal BC（9.8%）および 3030-2917 cal BC（85.6%）であった。

竪穴住居 SI400 より出土した土器の外面口縁部付着炭化物（試料 No.5：PLD-31817）は，^{14}C 年代が 4405 ± 20 ^{14}C BP，2 σ 暦年代範囲が 3095-2927 cal BC（95.4%）であった。

今回測定した試料の年代は，縄文土器編年と ^{14}C 年代や暦年代との対応関係を示した小林（2008），工藤（2012）や，北陸地方の縄文時代中期の土器の ^{14}C 年代を集成した加藤（2008），小島（2008），

狩野（2008）を参照すると，いずれも縄文時代中期中葉にあたる。第66図に暦年代の分布を示す。

（パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ　伊藤　茂・安昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹
小林紘一・Zaur Lomtatidze・竹原弘展）

参考文献

Bronk Ramsey, C.（2009）Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51（1）, 337-360.

狩野　睦（2008）串田新式・大杉谷式土器．小林達雄編「総覧縄文土器」：480-485，アム・プロモーション．

加藤三千雄（2008）新保・新崎式土器．小林達雄編「総覧縄文土器」：450-457，アム・プロモーション．

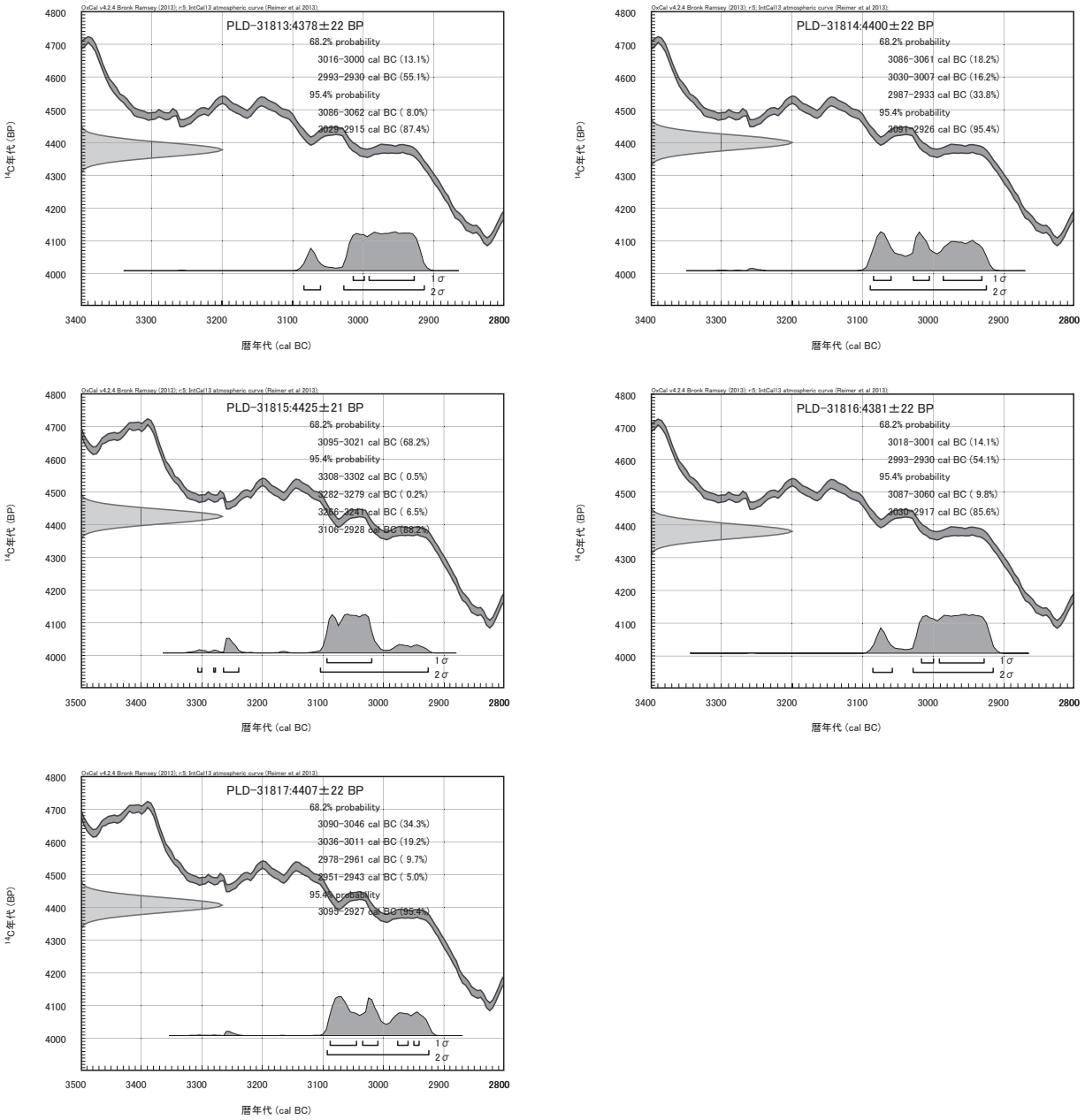
小林謙一（2008）縄文時代の暦年代．小杉 康・谷口康浩・西田泰民・水ノ江和同・矢野健一編「縄文時代の考古学 2 歴史のものさし」：257-269，同成社．

小島俊彰（2008）上山田・天神山式土器．小林達雄編「総覧縄文土器」：466-471，アム・プロモーション．

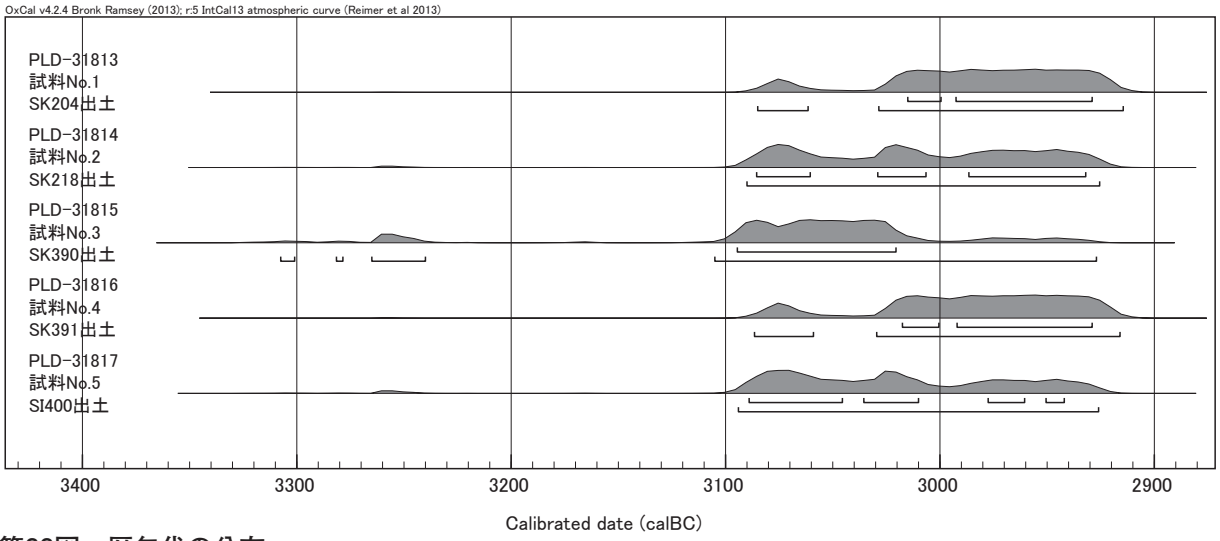
工藤雄一郎（2012）後氷期の考古編年と ^{14}C 年代．旧石器・縄文時代の環境文化史，212-229，新泉社．

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の ^{14}C 年代編集委員会編「日本先史時代の ^{14}C 年代」：3-20，日本第四紀学会．

Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J.（2013）IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0–50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55（4）, 1869-1887.



第65図　暦年較正結果



第66図　暦年代の分布

5　漆塗膜分析

（1）はじめに

富山市小糸地内に所在する小糸尾萩野遺跡では，C 地区の土坑墓 SK390から縄文土器の深鉢のほかに，外面が赤彩された有孔鍔付土器が出土した。ここでは有孔鍔付土器の赤彩塗膜について，薄片を作製し，塗膜構造と材料について検討した。

（2）試料と方法

分析対象は，土坑墓 SK390より出土した上山田・天神山式の有孔鍔付土器外面の赤彩塗膜１点である（第22表，写真２－１・２　写真２は147頁に掲載）。赤彩された土器の一部を精密グラインダで採取し，分析試料とした（写真２－１～３）。なお，土坑墓 SK390より有孔鍔付土器とともに出土した深鉢の，外面付着炭化物の放射性炭素年代測定の結果，縄文時代中期中葉の値が得られている（詳細は別項）。分析にあたっては，藤根が赤外分光分析，米田・竹原が薄片作製，竹原が顕微鏡観察・X 線分析を行い，報告は竹原がまとめた。

第22表　分析対象

試料№	地区	出土遺構	遺構種類	器種	型式	備考
1	C	SK390	土坑墓	有孔鍔付土器	上山田･天神山式	外面に赤彩,赤漆か

分析は，表面の漆成分を調べるために赤外分光分析を行った。また，塗膜構造を調べるために薄片を作製して，光学顕微鏡と走査型電子顕微鏡による観察，および X 線分析を行った。

赤外分光分析は，手術用メスを用いて赤色部分から薄く削り取った試料を，押し潰して厚さ１mm 程度に裁断した臭化カリウム（KBr）結晶板に挟み，油圧プレス器を用いて約７トンで加圧整形し，測定試料とした。分析装置は日本分光株式会社製フーリエ変換型顕微赤外分光光度計 FT/IR-410, IRT-30-16を使用し，透過法により赤外吸収スペクトルを測定した。

塗膜観察用の薄片は，高透明エポキシ樹脂を使用して包埋し，薄片作製機および精密研磨フィルム（#1000）を用いて厚さ約 50μm 前後に仕上げ，まず走査型電子顕微鏡（日本電子株式会社製 JSM-5900LV，以下 SEM）による反射電子像観察を行った。さらに，SEM に付属するエネルギー分散型 X 線分析装置（同 JED-2200）による定性・簡易定量分析を行った。その後，再度精密研磨フィルム（#1000）を用いて厚さ約 20μm 前後に調整した後，生物顕微鏡を用いて塗膜構造の観察を行った。

（3）結果および考察

以下に，塗膜分析結果について述べる。なお，第 67図の赤外吸収スペクトルは，縦軸は透過率（%T），横軸が波数（Wavenumber（cm^{-1}）；カイザー）である。また，各スペクトルはノーマライズしてあり，吸収スペクトルに示した数字は，生漆の主な赤外吸収位置を示す（第 23表）。赤外分光分析では，生漆を特徴づけるウルシオールの吸収（吸収№６～８）は認められなかった。有機物を示す CH 基に由来する 2950.55（cm^{-1}），2923.56（cm^{-1}）の吸収が僅かであったことから，漆などの成分が

第23表　生漆の赤外吸収位置とその強度

吸収№	生漆		ウルシ成分
	位置	強度	
1	2925.48	28.5337	
2	2854.13	36.2174	
3	1710.55	42.0346	
4	1633.41	48.8327	
5	1454.06	47.1946	
6	1351.86	50.8030	ウルシオール
7	1270.86	46.3336	ウルシオール
8	1218.79	47.5362	ウルシオール
9	1087.66	53.8428	
10	727.03	75.3890	

残っていないと考えられる。また，吸収№９付近の大きな吸収は劣化に伴うゴム質の吸収である（第67図）。以上，赤外分光分析の結果からは，劣化にともなう無機化が進み，漆を検出できなかった。しかし，後述の生物顕微鏡観察では黄褐色透明の塗膜層が認められるため，現状では劣化しているものの，漆は使用されていたと考えられる。

塗膜薄片の観察では，土器胎土ａ層の上に，透明漆層c1層とc2層，赤色漆層c3層が観察された（写真２－５・6）。c3層は，黄褐色透明の塗膜層中に赤色粒子が多量に混和されている様子が観察できる（写真２－５）。

各層のＸ線分析結果を第24表に示す。c3層は，鉄（FeO）が多く検出されており，赤色顔料としてベンガラが使用されていると考えられる。なお，赤色顔料を別途極少量採取して生物顕微鏡で観察したところ，直径約１μｍの赤色パイプ状粒子が認められた（写真２－４）。よって赤色顔料は，いわゆるパイプ状ベンガラであったと考えられる。

第24表　X線分析結果（mass%）

試料No.	塗膜層	C	Al_2O_3	SiO_2	FeO
1	c3	32.70	1.17	8.53	57.60
	c1～c2	61.19	13.36	19.60	5.85
	a	48.76	14.07	28.40	8.77

塗膜の特徴を第25表にまとめる。

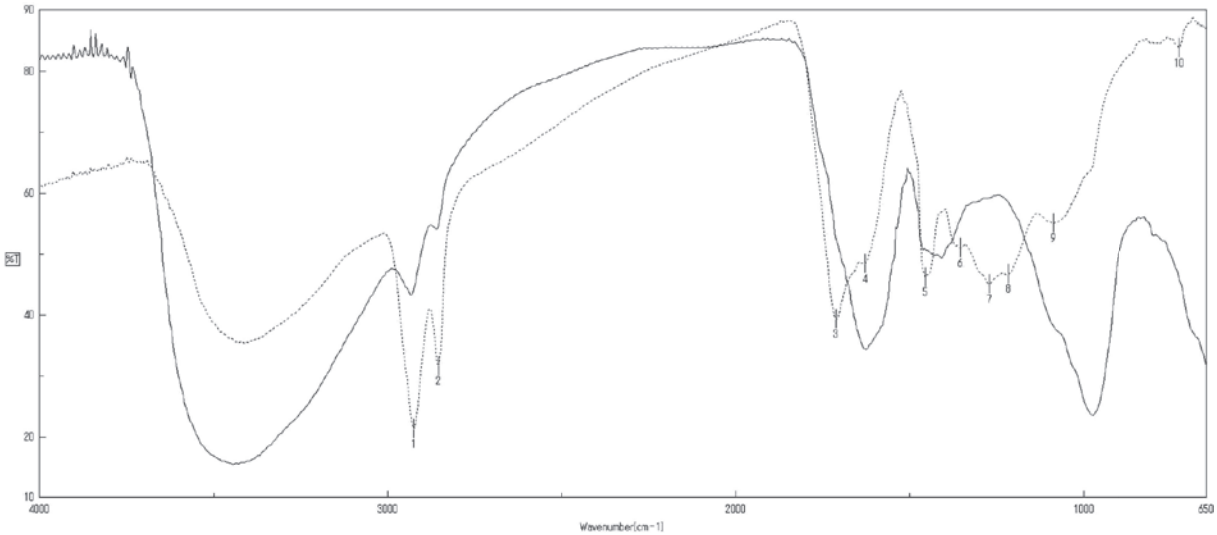
（４）おわりに

土器外面の赤彩塗膜について分析を行い，塗膜構造や材料について検討した。その結果，透明漆層２層の上に赤色漆層が１層塗られる構造と考えられた。赤色顔料としては，パイプ状ベンガラが使用されていた。

（パレオ・ラボ　竹原弘展・藤根　久・米田恭子）

第25表　塗膜分析結果

試料No.	採取塗膜	下地	塗膜層	
1	赤色塗膜	無し	3層	透明漆層2層,赤色漆層（パイプ状ベンガラ）



第67図　土器外面赤色塗膜の赤外分光スペクトル図（実線：塗膜試料、点線：生漆、数字：生漆の赤外吸収位置）

第Ⅵ章　総　括

1　縄文時代

（1）遺構の分布

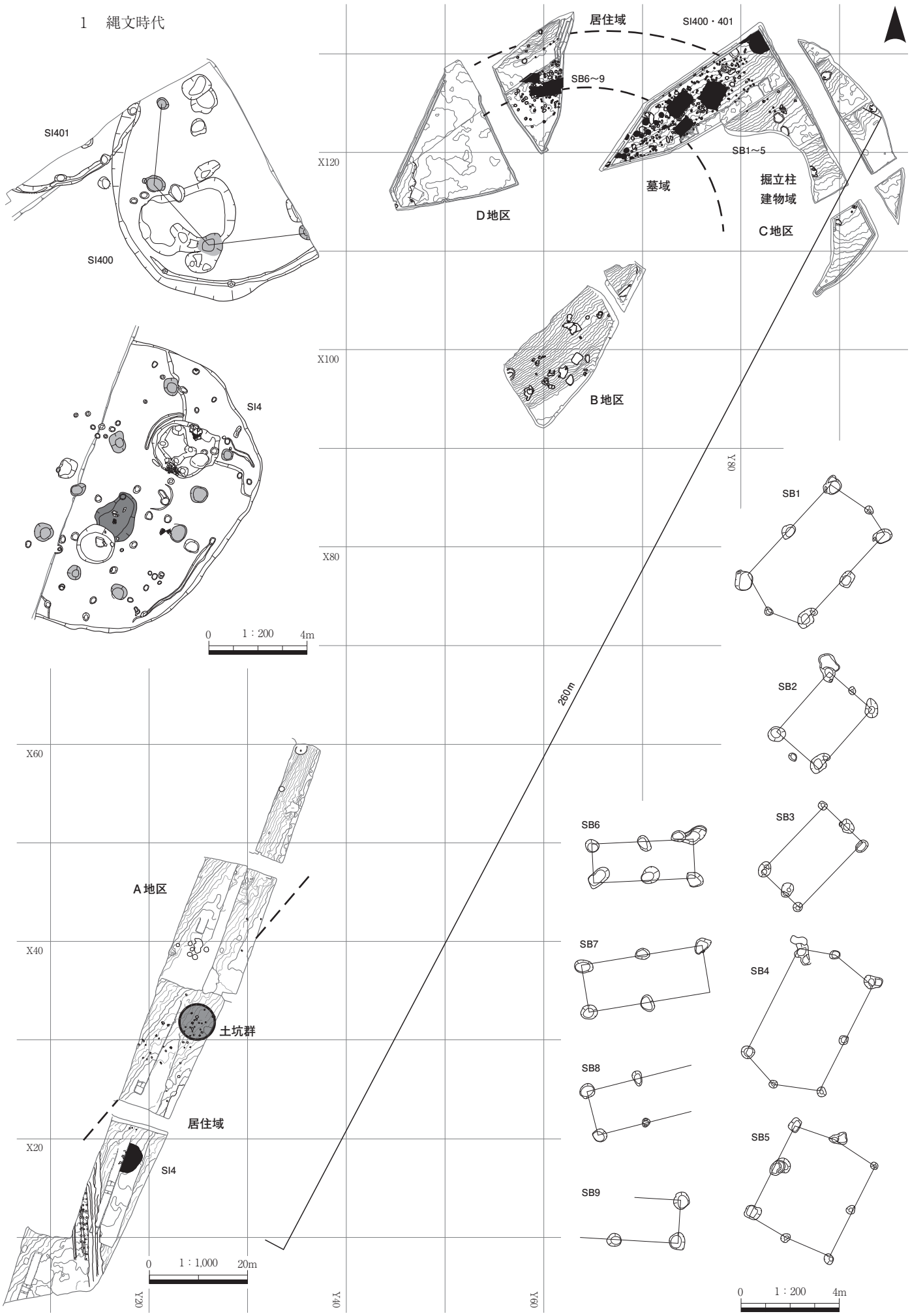
小糸尾萩野遺跡では竪穴建物は３棟，掘立柱建物は９棟が確認された。竪穴建物はＡ地区で１棟，Ｃ地区で２棟が確認され，それぞれは直線距離で約 260ｍ離れており，標高差は 12ｍある。Ａ地区では他に性格を特定できる遺構は無く，竪穴建物単独で存在している。ただ，北に約 20ｍ離れた土坑群付近の包含層からは縄文土器とともに黒曜石の剥片が出土し，竪穴建物付近以外での出土遺物が少ないＡ地区において，建物の存在を推測できる。Ｃ地区の２棟は重複しており，調査区北端に位置することから，北への広がりを推測するが，北西に向かって急傾斜の地形となることを考慮すれば，建物が立地可能な範囲は狭いとみられる。

掘立柱建物はＣ地区の竪穴建物の南西にあり，Ｃ地区からＤ地区にかけての南北 20ｍ，東西 40ｍの範囲に９棟が位置しており，最大３棟の重複を確認した。Ｃ地区とＤ地区とは比高差が２ｍほどあり，掘立柱建物の主軸方向を異にする。掘立柱建物は弧を描くように建ち並び，その南西には掘立柱建物域に囲まれるように土坑群が広がり，その中に 14 基の土坑墓を確認した。竪穴建物と掘立柱建物に重複はみられず，掘立柱建物と土坑墓の重複は１基を除きみられないことから，掘立柱建物域を含む居住域と墓域との明確な区別がみてとれる。建物や土坑墓が集中する場所は小糸尾萩野遺跡の中では緩斜面であり，その勾配はＡ地区 6.16％，Ｃ地区４～ 4.5％，Ｄ地区 3.1％と緩やかで，限られた緩斜面に継続して暮らしている様子が伺える。一方，遺構群から少し離れた場所の勾配は，Ａ地区北端 12％，Ｂ地区 9.5％，Ｃ地区南東７％，Ｄ地区北端 10％と急傾斜地となり，倒木痕が確認されただけである。

Ａ　竪穴建物と掘立柱建物

竪穴建物はＡ地区の SI4 とＣ地区の SI400･401 の３棟であり，単独で存在したとみられる。建物構造において，貼り床をもたない，壁溝がある，壁溝内に柱穴があるという共通点がある一方，SI4 の平面形が楕円形，柱穴の並びが平行，地床炉とロート状ピットをもつのに対し，SI400 は平面形が円形，柱穴の並びが円形，炉は未確認，貯蔵穴があるという相違点がある。SI401 は確認された建物の範囲がわずかであり，比較できる内容は少ないが，SI400 と類似した構造とみられる。出土遺物においては，SI4 が若干古い様相をもつ遺物を含むが，SI400 は SI401 廃絶直後の建て替えではなく，SI401 とはある程度の時期差があること，SI400 の遺物出土状況が住居廃絶後の窪地利用として廃棄された様相を示すことを考慮すると，SI4 と SI400 はほぼ同時期に存在していたと考えられる。

掘立柱建物は２間×１間４棟，１間×１間４棟，６間×１間１棟がある。この内Ｃ地区にある２間×１間の建物の中には梁から張り出す位置に棟持ち柱をもつため，平面形が六角形状となるものが３棟，一方のみが張り出し五角形状となるものが１棟ある。Ｄ地区の掘立柱建物は平面形が桁行方向に細長い長方形を呈する。主軸方向は，Ｃ地区にある SB1 ～５はＮ－ 28～ 45°－Ｅであり，Ｄ地区にある SB6 ～９はＮ－ 76～ 87°－Ｅとなり，Ｃ地区の建物は梁側が中央の土坑墓群を向くのに対し，Ｄ地区のものは桁側が中央を向く。建物の時期は，SB1 の柱穴出土遺物に混入と考える前期初頭のものが１点ある以外，ほぼ新崎式～上山田式に収まり，主軸方向と時期には関連はなく，建物の機能ま



第68図　遺構配置図（1/1,000）

たは性格による相違と推測する。

B　土坑墓

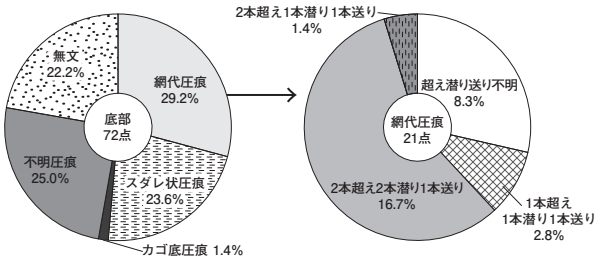
土坑墓は掘立柱建物が弧を描くように囲む内側に14基確認され，SK390を除き掘立柱建物とは重複しない。土器被覆葬とみられるSK260・SK390からは，遺体を被覆していた深鉢の外，副葬品として石鏃，琥珀製の丸玉や有孔鍔付土器が出土した。被覆する深鉢はいずれも倒置，横倒しであるが，前者は渦巻き文が施された大型破片，後者は全面縄文でほぼ完形という相違がある。このような土器の使い分けは，関東では関係性がみられる事例も報告されており[注1]，意図的である可能性を考えたい。一方，配石や立石などの上部構造がわかる例はなく，平面形と規模および副葬品の有無またその内容とに関係性はみられない。これらの土坑墓とSI400は同時期に存在したことが，副葬品の放射性炭素年代測定の結果から裏付けられた。

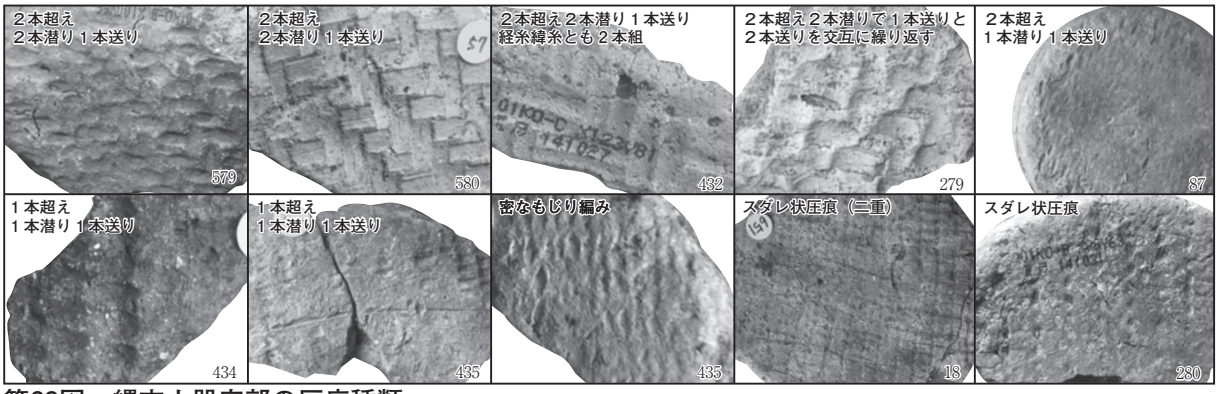
（2）　縄文土器

小糸尾萩野遺跡から出土した縄文土器の時期は，本文中にも記述したが，早期中葉から晩期までと幅はあるが，中心となるのは中期前葉～中葉（新崎式～上山田式），次に多いのが串田新式～気屋式（とくに串田新式～前田式が中心）である。前期の遺物は，初頭の花積下層式併行期のものが１点確認できたほかはなく，断絶しているとみられる。在地産の土器が主体であるが，外来系の土器には，信州の新道式の影響を受けたとみられる隆帯で三角形や楕円形の区画を創出し，その周囲に爪形刺突を施す土器，東北地方の大木７ｂ式の影響を受けたとみられる頸部に縄文原体を押圧する土器，勝坂式の土器が少量ではあるが出土している。小糸尾萩野遺跡における外来系の土器様相は，在地の新崎式系統や上山田式系統に供伴すること，新道式と大木７ｂ式とでは後者が多いことにおいて，同時期の砺波市徳万頼成遺跡における様相と類似する[注2]。

A　敷物圧痕

底部外面の残る破片のうち，図化したものは72点で，そのうち敷物圧痕を確認できた破片は56点，77.8％である。敷物圧痕には網代圧痕，もじり編み圧痕，不明圧痕があり，網代圧痕が最も多く29.2％を占める。網代圧痕では２本超え２本潜り１本送りのものが最も多く，過半数を占めるなかに，２本超え２本潜りで１本送りと２本送りを繰り返す網代圧痕がある。次いでもじり編み圧痕が25％を占め，カゴ底圧痕とみられるもの１点を除けば，全てスダレ状





第69図　縄文土器底部の圧痕種類

注１　中村耕作　2015「土器被覆葬にみる社会関係－中期後半の南関東の事例分析－」『季刊考古学』第130号（株）雄山閣
注２　町田賢一　2016「第Ⅶ章総括　１縄文時代」『徳万頼成遺跡発掘調査報告』（公財）富山県文化振興団埋蔵文化財調査事務所

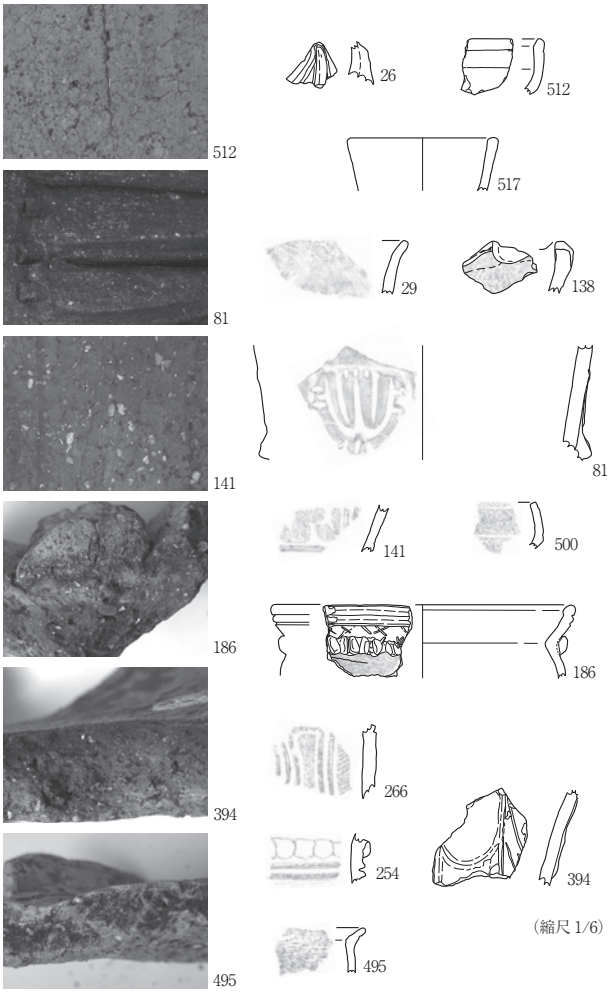
圧痕である（第69図）。２本超え２本潜り１本送りや１本超え１本潜り１本送りの網代圧痕は北陸・東海地方から西日本でよくみられ，スダレ状圧痕は北陸地方を含む日本海側地域に卓越すること（北陸では特に中期と晩期に多い），中期後半から後期前半の岐阜県山地部では２本超え２本潜りで１本送りと２本送りを繰り返す網代圧痕が卓越することが知られており[注3]，小糸尾萩野遺跡でみられる敷物圧痕の傾向は，遺跡の立地と関連して縄文時代中期における特徴を示している。

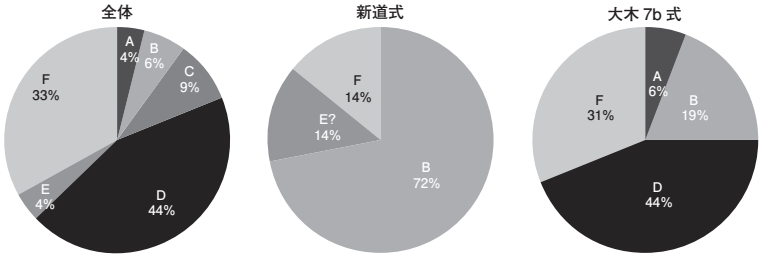
B　胎土

縄文土器の胎土については，肉眼観察により確認できた鉱物などを観察表（第10表）に記入しているが，肉眼でも識別可能な特徴をもつ胎土があることから，石材鑑定を依頼した中村氏に顕微鏡観察を行っていただいた。その結果，６タイプに分類でき，各タイプの特徴を第26表に記し，その特徴をもとに肉眼観察から分類した結果を観察表に記載している。ＤタイプとＦタイプは肉眼での判別が困難で，より砂粒が顕著なものをＦタイプとした。また，Ｅタイプは本来顕微鏡観察が必須だが，

第26表　小糸尾萩野遺跡出土の縄文土器胎土

タイプ	遺物番号	胎　土
A	26	角が丸まった石英（高温型石英=クリスタルアッシュ），黒雲母を多く含む。混和剤として含む。アプライト含む。512と同じ。
	512	石英（高温型石英），斜長石を多く含む。角ばっており，中に角が丸くなった石英を含む。この角が丸い石英は，クリスタルアッシュ（約40万年前の大町Ａ軽石群）という火山灰によくみられ，北アルプス（槍ヶ岳付近）起源で，長野県北部～中部より北関東などに分布する広域火山灰。これと同時期の火砕流堆積物が高山北方に広く分布している。したがって，飛騨地方の火砕流かクリスタルアッシュを採集して混和剤とした可能性が考えられる。
	517	石英，斜長石（角ばった）を多く含む。チャート礫，海綿骨針を含む。火山灰（クリスタルアッシュ）か火砕流の石英などを混和剤としている。粘土は海成粘土（新第三紀～更新世のもの?）を用いたと思われる。
B	29	石英，アプライト，斜長石など，角ばった鉱物粒子を含み，アプライト（半花崗岩）か花崗岩類の風化砂を混ぜていると思われる。
	81	黒雲母が多く，花崗岩類の砂，石英，正長石を含む。花崗岩類の風化した砂を混和剤として加えていると思われる。花崗岩類は，例えば安曇野市，諏訪市周辺，山梨県内など各地にみられる。
	138	チャートなどの砂を含むが，黒雲母（Bio）・石英（Qt）・長石（Fl）など風化した鉱物を多く含む。Bio:Qt:Fl=3:1:2
C	141	角ばった石英，正長石，斜長石（多くはない）などを含む。海綿骨針を含む。
	500	石英，長石の砂（多少水磨された砂=川砂），海綿骨針（化石）を含む。海成粘土を使っていると思われる。
D	186	石英，長石，アプライト，花崗岩類，流紋岩などの砂を含む。あまり円磨（水磨）していない川砂。飛騨地方の胎土とする可能性は十分考えられる。
	266	花崗岩，アプライトなどの砂，石英，正長石などを多く含む。花崗岩帯を流下する河川の川砂を混ぜている。
E	254	石英，長石類，花崗岩類，黒色の岩石などの川砂を多く含む。ローム層（火山灰層）起源のシソ輝石，磁鉄鉱も含む。花崗岩地帯・ローム層は飛騨地方にもある。
	394	斜長石，石英，アプライト，スコリアを含む。ローム層（風化火山灰）が混じる。ローム層のある所（飛騨地方?）の胎土と思われる。
F	495	石英砂，長石，石英，鉱物（石英の結晶）をわずかに含むが，大半は砂粒子である。





第70図　縄文土器胎土のタイプ別比率

注３　松永篤知　2012「「敷物圧痕」について」『早月上野遺跡発掘調査報告』（公財）富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

今回は肉眼で比較し類似したものとした。

タイプ別の比率は第70図に示した。全体では飛騨地方や中部高地にみられる砂や火山灰を混和剤とするＡタイプ・Ｂタイプ・Ｅタイプは1割強である中で，外来系の信州の新道式の影響を受けた土器ではＢタイプが72％，東北地方の大木７ｂ式の影響を受けた土器ではＡ・Ｂタイプが25％と高い比率を示す。土器型式的に搬入品とみられる81（勝坂式）はＢタイプ，146はＥ？タイプとなり，胎土においても搬入品であると裏付けられた。また，Ｄタイプが在地産とみられる土器の中で高い比率を示すのは，小糸尾萩野遺跡で作られた土器に混和剤として使用した砂が花崗岩帯を流下する神通川で採取されたものであることに起因すると考えられる。

（3）　石器

小糸尾萩野遺跡において，石材は在地系の外，新潟・富山県境域，飛騨系，信州系，新潟系，および遠来の琥珀など，多くの地域から搬入されている。竪穴建物出土の石器・石製品をみても，SI4では剥片に黒曜石（信州系）２点，擦石に砂岩，顕晶質安山岩，閃緑斑岩各１点，石皿に砂岩１点がみられ，SI400では磨製石斧に透閃石岩４点・角閃岩１点（新潟・富山県境域），剥片では緑色凝灰岩，礫岩，濃飛流紋岩（飛騨系）各１点，二次剥片では珪質頁岩（新潟系）１点，擦石では閃緑斑岩，顕晶質安山岩，花こう閃緑岩各１点，石皿では４点全てが砂岩である。

顕晶質安山岩は在地系，濃飛流紋岩や礫石器石材の閃緑岩，花こう閃緑岩，凝灰岩，マイロナイトなどは飛騨産のものもあると思われるが，小糸尾萩野遺跡は富山・岐阜県境に近く，主として神通川に流下した河川礫として供給されたものと推定される[注4]。出土する石材において偏在がみられるのは黒曜石で，出土石器・石製品に占める割合が１％であるが，その全てがＡ地区から出土しており，竪穴建物から２点，土坑群が確認されたＸ 32～35 Ｙ 21付近の包含層から剥片３点が出土している。出土地点の偏在と建物の性格や時期に関連があるのかは今後の検討課題である。

（4）　まとめ

小糸尾萩野遺跡は狭隘な河岸段丘上の限られた緩傾斜地に営まれた，縄文中期前葉～中葉を主体とする集落遺跡である。遺構の分布はＡ地区とＣ・Ｄ地区に集中するが，Ｃ・Ｄ地区にみられる土坑墓群を弧状に囲む掘立柱建物，さらにその外周に竪穴建物が配置される集落構造は，環状集落の構造に類似する。Ａ地区の竪穴建物から，Ｃ地区の竪穴建物までは約260ｍ離れているが，Ａ地区には竪穴建物以外は確認されていない。縄文時代中期に環状集落が増加する全国的な傾向は富山県内でも同様で，東日本の中でも最大級の規模をもつ魚津市早月上野遺跡をはじめとして，富山市開ヶ丘狐谷Ⅲ遺跡，富山市北代遺跡，富山市北代加茂下Ⅲ遺跡，富山市東黒牧上野遺跡，富山市花切遺跡，立山町吉峰遺跡などがある。小糸尾萩野遺跡の集落構造は環状集落を意識しながらも，帯状にある限られた緩傾斜地に制約された結果と考えられる。

竪穴建物や掘立柱建物の重複関係から，少なくとも３時期にわたり建て替えを繰り返し住み続けていることがわかる。また，今回の調査では遺構が確認されなかったが，出土遺物には串田新式～気屋式（主に串田新式～前田式）のものも多いことから，周囲にはその時期の集落が存在すると推測できる。Ａ地区に比して，Ｃ・Ｄ地区での出土遺物量が圧倒的に多いことから，集落は標高の低い北へと時代とともに移動しているとみられ，比較的長期にわたり定住していたと推測される。

土器は形態や文様，胎土により，在地産や模倣品，外来産を判別していたが，顕微鏡観察により混

注４　詳細は第Ⅴ章２参照。

和剤の詳細が明らかになることで土器製作地域が絞られる可能性がある。小糸尾萩野遺跡の場合，飛騨地方，信州地方を主とする中部高地からの搬入品の外，遺跡眼下を流れる神通川で採取した砂を混和剤に使用したことで，飛騨産の胎土に類似する土器が作られたと推測される。石製品は石材鑑定により，新潟・富山県境域，飛騨，信州，新潟，および東日本地域など多くの地域から搬入されていることがわかった。このような土器・石製品にみられる文化・物資の交流・移動は，昔も今も変わらず滔々と流れ，豊かな恵みを育む神通川水系を利用していたと考えられる。　（田中道子）

参考文献

有山径世　2000「鏡坂Ⅰ遺跡　遺物」『外輪野Ⅰ遺跡・鏡坂Ⅰ遺跡発掘調査報告』婦中町教育委員会
池野正男　1975「遺構」『松原遺跡緊急発掘調査概報』庄川町教育委員会
莵原雄大　2007「富山県・石川県における縄文時代の小型住居について」『堀切遺跡Ｇ地区発掘調査報告書』黒部市教育委員会
大山町教育委員会　1990『東黒牧上野遺跡Ａ地区発掘調査概要』
大山町教育委員会　1995『東黒牧上野遺跡Ａ地区』
大山町教育委員会　1999『富山県大山町花切西遺跡発掘調査概要』
大山町教育委員会　1999『富山県大山町花切遺跡発掘調査概要』
大山町教育委員会　2000『富山県大山町東黒牧上野遺跡Ｇ地区発掘調査概要』
岡田義樹　2003「開ヶ丘狐谷Ⅲ遺跡　竪穴住居」『開ヶ丘狐谷Ⅲ遺跡・開ヶ丘中山遺跡・開ヶ丘中山Ⅳ遺跡・開ヶ丘狐谷Ⅳ遺跡発掘調査報告書－県営畑地帯総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（５）－』富山市教育委員会
小矢部市教育委員会　2007『富山県小矢部市桜町遺跡発掘調査報告書　縄文時代総括編』
加藤三千雄　1988「新保・新崎式土器様式」『縄文土器大観』３　小学館
桐生直彦　2015「「竪穴住居」から「竪穴建物」へ」『季刊　考古学　第131号』雄山閣
源田　孝　2001『松原遺跡』庄川町教育委員会
久々忠義　2011「縄文集落と串田新式土器　境Ａ遺跡の様相」『大境』第29号　富山考古学会
櫛原功一　2009「Ⅳ　北陸・中部地方の縄文集落と世界観」『集落の変遷と地域性』シリーズ縄文集落の多様性Ⅰ　雄山閣
小島俊彰　1975「北陸の縄文時代中期の編年　戦後の研究史と現状」『大境』第５号　富山考古学会
小島俊彰　1979「縄文土器・土製品」『上山田貝塚』宇ノ気町教育委員会・石川考古学研究会
小島俊彰　2005「バスケット型土器と三ツ山装飾環状把手」『大境』第25号　富山考古学会
小島俊彰　2008「上山田・天神山式土器」『総覧　縄文土器』アム・プロモーション
小林達雄編　2008『総覧　縄文土器』アム・プロモーション
酒井重洋　1977「遺構」「遺物　土器」『宇奈月町浦山寺蔵遺跡緊急発掘調査概要』富山県教育委員会
笹森健一　2014「竪穴住居の構造」『講座日本の考古学４　縄文時代（下）』青木書店
神保孝造　1977「遺物」『厳照寺遺跡緊急発掘調査概要』富山県教育委員会
立山町教育委員会　1990『吉峰遺跡　第７次発掘調査報告書』
谷口康浩　2005『環状集落と縄文社会構造』学生社
砺波市教育委員会　2012『松原遺跡発掘調査報告－庄川流域における縄文時代中期の集落遺跡の調査－』
富山県教育委員会　1977『富山県宇奈月町浦山寺蔵遺跡緊急発掘調査概要』
富山県教育委員会　1989『北陸自動車道遺跡調査報告　朝日町編４　境Ａ遺跡遺構編』
富山県教育委員会　1990『北陸自動車道遺跡調査報告　朝日町編５　境Ａ遺跡石器編』
富山県教育委員会　1991『北陸自動車道遺跡調査報告　朝日町編６　境Ａ遺跡土器編』
富山県教育委員会　1992『北陸自動車道遺跡調査報告　朝日町編７　境Ａ遺跡総括編』
富山県埋蔵文化財センター　1997『縄文のなりわい』平成９年度特別企画展図録
富山市教育委員会　1998『史跡北代遺跡発掘調査概要Ⅱ』第Ⅵ章　総括
富山市教育委員会　2003『富山市開ヶ丘狐谷Ⅲ遺跡・開ヶ丘中山Ⅰ遺跡・開ヶ丘中山Ⅳ遺跡・開ヶ丘狐谷Ⅳ遺跡発掘調査報告書』
富山市教育委員会　2004『富山市開ヶ丘狐谷Ⅲ遺跡発掘調査報告書』
西田泰民　2008「混和材」『総覧　縄文土器』アム・プロモーション
能都町教育委員会真脇遺跡発掘調査団　1986『石川県能都町真脇遺跡』
古川知明　2009「富山県における下呂石の搬入状況」『越中と美濃を結ぶ考古展記念講演録』富山市教育委員会埋蔵文化財センター
堀沢祐一　1991「北代加茂下Ⅲ遺跡の縄文時代の掘立柱建物について」『富山市考古資料館報』No.30富山市考古資料館
堀沢祐一　1997「縄文時代中期掘立柱建物の一考察－北代加茂下Ⅲ遺跡掘立柱建物の検討－」『富山市考古資料館紀要』第16号　富山市考古資料館
堀沢祐一　2003「富山県内の縄文時代竪穴住居について～前期から中期にかけて～」『富山市北押川Ｃ遺跡発掘調査報告書－主要地方道新湊平岡線道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告－』富山市教育委員会
麻柄一志　1981「魚津産黒曜石と縄文遺跡」『富山市考古資料館報』５　富山市考古資料館
麻柄一志　2011「縄文環状集落の広場　区画された空間」『考古学は何を語れるか』同志社大学考古学シリーズＸ　同志社大学考古学シリーズ刊行会
町田賢一　2010「富山県における縄文遺跡のあり方　地形分類図から見た遺跡分布」『富山考古学研究』紀要第13号　富山県文化振興財団
松永篤知　2004「東アジア先史土器の「敷物圧痕」分類について」『金沢大学考古学紀要』第27号
松永篤知　2008a「縄文土器底部の「敷物圧痕」について」『考古学雑誌』第92巻第２号　日本考古学会
松永篤知　2008b「網代・敷物」『総覧縄文土器』アム・プロモーション
森　秀典　1985「遺物」『野沢狐幅遺跡発掘調査概報』立山町教育委員会
八尾町教育委員会　1985『富山県八尾町長山遺跡発掘調査報告』
柳井　睦　1975「遺物」『松原遺跡緊急発掘調査概報』庄川町教育委員会
山本正敏　2007「桜町遺跡の石器・石製品の様相について」『桜町遺跡発掘調査報告書　縄文時代総括編』小矢部市教育委員会

2　近世の道路状遺構について

小糸尾萩野遺跡Ａ地区で検出された道路状遺構 SF３は，出土遺物から近世段階の所産と考えられることと，その位置が従来から推定されている近世飛騨街道の東道と概ね一致していることから，その一部であった可能性が高い。ここではまず，越中と飛騨を結ぶ交通路がどのような様相を呈していたのかを概観する（第71図）。加えて，SF３の規模や構造についても，近世における道路状遺構の諸例を踏まえて検討し，近世飛騨街道の東道との関連性を探っていきたい。

（１）飛越間交流の様相

Ａ　中　世

鎌倉時代においては政権所在地である鎌倉に向かう経路として，有峰を通り飛騨の高原郷を経由して信州へ抜ける道筋があったとされる。高原郷は飛騨や北陸諸国と信州を結ぶ交通の要衝であった。この高原郷に向かって神通川沿いを通る道筋を示す史料として，詩僧である万里集九の『梅花無尽蔵』がある。その中では，長享二（1488）年に集九が越中の滑川から吉野・猪谷を通って飛騨の高原郷に赴き，江馬氏の歓待を受けたことが記されている。また，永禄八（1565）年には江馬氏の配下である河上氏が神通川沿いにある吉野・庵谷・篠津（笹津）の関所を通過する商人紅屋に役銭等免除の特権を与えており，万里集九の例とともに，神通川沿いの交通路の存在を示している。

戦国時代の終わりには，越中では天正十三（1585）年に前田利家が新川郡を除く三郡を支配し，文禄四（1595）年には全域を領地とする。利家は文禄三（1594）年に牛ヶ増から東猪谷の村々に荷役の特権を保証する書状を出し，慶長六（1601）年には加賀藩家老の前田長種によって再度その特権が保証されている。飛騨では天正十四（1586）年に金森長近が封ぜられ，その下で茂住宗貞が飛越国境付近の茂住銀山を開発する。これに関連し，宗貞は文禄四（1595）年から慶長四（1599）年に横山村の牛役の請取状を残しており，鉱山経営に関わる牛方の物資運搬があったことが分かる。

このように飛越間の交流において，特に中世末期には神通川沿いの道筋が物資運搬路の性格を強めていった様子を見ることができる。

Ｂ　近　世

江戸時代に富山と高山を結ぶ神通川沿いの交通路については，過去に実施された「歴史の道調査」（富山県教育委員会 1979）を参考としていきたい。交通路の呼称は，越中では飛騨街道・飛州往来・高山道，飛騨側では越中街道などがあり一様ではないため，ここでは飛騨街道の名称を用いる。その道筋は，平野部では時期により変遷するが，神通川渓谷部入口の笹津で右岸と左岸に分かれる。

右岸は飛騨街道東道（以下，東道）である。国境の口留番所は越中側が東猪谷，飛騨側が荒田口にある。飛騨国内では高原川の右岸沿いを船津まで溯行し，そこで高原川を渡り，高山へと通じる。飛騨側では越中東街道，大東路と呼ばれた。この推定ルート上に SF３は位置している。

左岸は飛騨街道西道（以下，西道）である。国境の口留番所は越中側が西猪谷，飛騨側が小豆沢にある。そのまま宮川沿いを進み高山へと通じる。飛騨側では越中西街道，大西路，西地と呼ばれた。また，西道では西猪谷を過ぎた蟹寺で「籠の渡し」により宮川を渡り，高原川沿いに進み船津を経て高山まで通じる道筋もあり，飛騨側では中道，中通りと呼ばれた。

飛騨街道においては，当初は東道の利用が多くあったと考えられている。それは，戦国時代末期から江戸時代初期に最盛期であった飛越国境付近に分布する鉱山に対する物資運搬路としての役割が大

きかったためである。その後，鉱山産出量の減少や富山藩の成立などに伴い，西道の方が主要な飛越間の交通路になったとされる。また，物資の運搬方法は渓谷地帯を通る道路では，道幅が狭くて起伏も激しいため，牛に背負わせる牛方あるいは人が背負う歩荷によるものであった。

このように，近世における神通川両岸の交通路は，その利用状況が時期によって変化しながらも，飛越間の交通において重要な役割を担っていた。

C　東道沿いの鉱山

東道沿いの鉱山には越中国内に吉野銀山，飛騨国内に茂住銀山が存在する。また，飛騨国を通過する経路で越中国内の長棟鉛山にも通じていた。

吉野銀山は発見が天正元（1573）年で，最盛期は慶長年間（1596～1614）とされる。「山況がよくなって山師数が増加すると，伏木・舟渡・小糸の諸村にも散在することになった」（富山県 1982）とされる。寛文十（1670）年頃からは山勢は衰えるが，その後も吉野銀山には飛越双方から関所を通らずに物資が運び込まれたため，文政二（1829）年には特定の移入品に口銭が課された（大沢野町誌編纂委員会 1958）。鉱山衰退以降も東道を利用した物流が存続していたことを示している。

茂住銀山はその成立時期は明かではないが，17世紀終わり頃まで銀の産出が多くあり，その後は鉛の産出が主となった。その鉱山経営に関連する物資運搬について東道を通る牛方が担っていたことは先述の通りである。また，鉱床とは離れた飛騨街道沿いに鉱山経営の中枢部が形成されており，茂住銀山と東道には密接な関連性が指摘されている（原田 2011）。

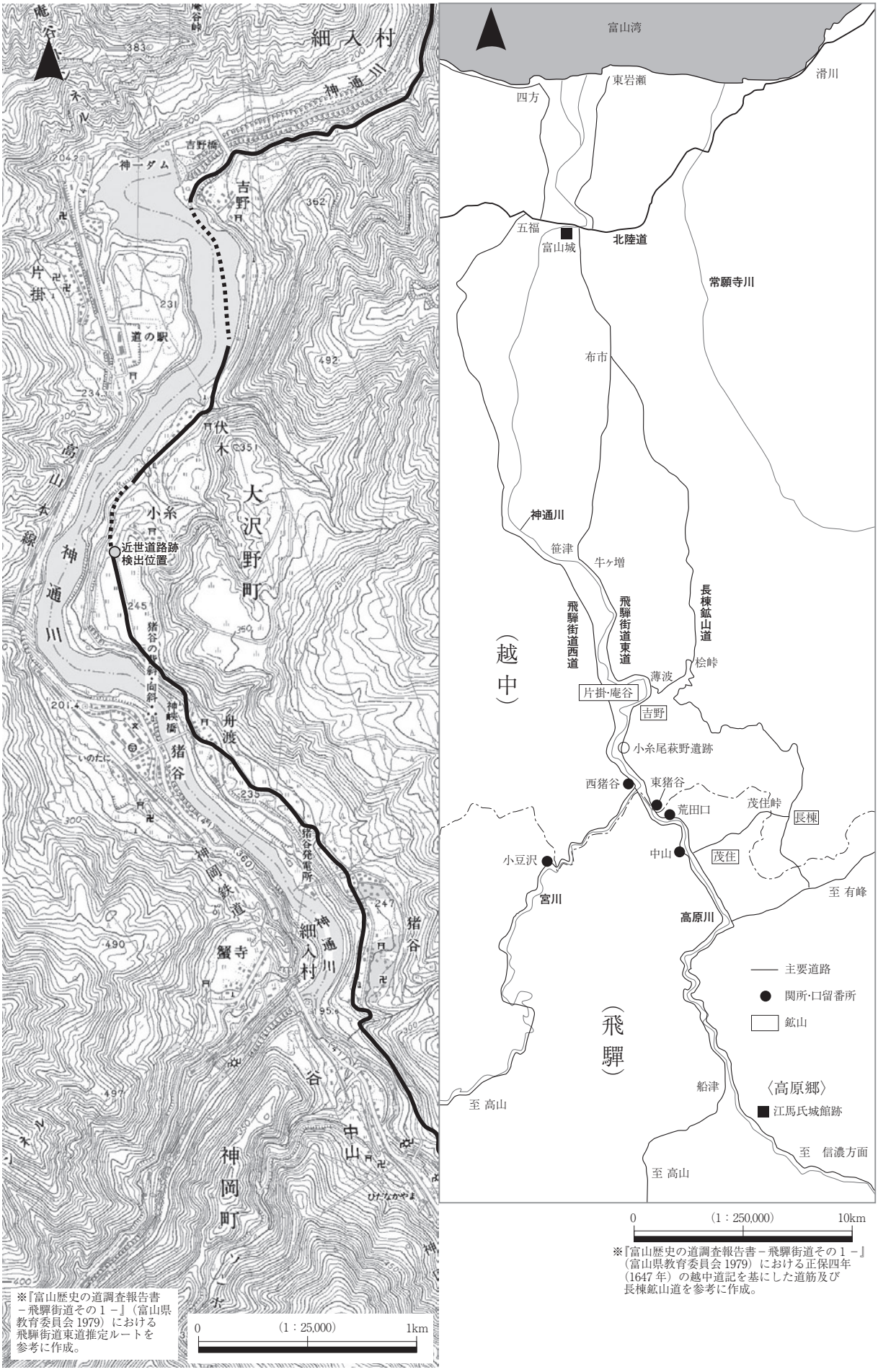
長棟鉛山は寛永三（1626）年の発見後，約20年間が最盛期とされる。産出された鉛は富山の鉛蔵，富山藩分藩後は東岩瀬の鉛蔵まで運ばれた。その経路となる長棟鉱山道は，上道と下道の二つがある。上道は長棟川沿いから桧峠を経て黒川沿いを通って富山平野に通じる。下道は飛騨の茂住に一端出て，東猪谷を経由して東道を通る。富山からの距離は下道の十三里に対し，上道は十二里と短いが，上道の通行は難路であったため，下道も利用されていた（大沢野町誌編纂委員会 1958）。

以上のように，東道に接続する鉱山に関わる物資運搬が行われており，その流通経路上にある小糸尾萩野遺跡の道路整備にも少なからず影響を及ぼした可能性がある。

D　運搬された主要物資

物資の運搬は，鉱山はもとより，高山を中心とした飛騨国北部域に向けても多く行われた。主要な物資としては，米・魚・塩が挙げられる。それらの運搬経路は，先に示したように近世初めには東道が主流であったが，その後は西道が優位になったと考えられている。ただし，近世末期における飛越間の商品流通の検討（矢ヶ崎 1960）では，飛騨国側の口留番所の史料から，米に関しては西道の中山口と東道の荒田口を通過する米の石数がほぼ同等であったとしている。魚については加賀藩領から飛騨へ魚商人の活動が盛んだったことが示されている。また，こうした荷主が東道沿いの山間地の村落に分布が多く，単なる運送業でなく，商業活動が活発であったことも指摘されている。

塩は富山藩や加賀藩から移入された。高山藩は文化年間（1804～1817）から領内の円滑な塩供給を目的として，年間1万俵の塩を富山藩から移入することを取り決めた。これは「定式塩」と呼ばれ，その運搬は富山藩領を通る西道が利用された。一方，東道を経路とする加賀藩領の東岩瀬から送られる塩は「別廉塩」とされ，安永年間頃からは年間2～3千俵あったとされる（高瀬 1974）。時代が下がって，元治元（1864）年の史料によると，東道に対し西道は約2.6倍の流通量があったとされる（大沢野町史編さん委員会 2005）。このように塩の運搬も，輸送量に変動はありながら，東道でも継続的になされていたことが分かる。



第71図　飛騨街道東道推定ルートと周辺の主要交通路

こうした米・魚・塩の他にも様々な食料品や生活雑貨が飛騨街道を利用して運搬され，近世を通じて東道がその物流の一翼を担っていたと言えよう。

（2）近世道路状遺構の諸例との比較

小糸尾萩野遺跡のSF３が，その位置から東道の一部である可能性が高いことは先述した。東道については，加賀藩による正保期の街道報告書を模写したとされる『越中道記』において，遺跡付近での道幅は２～３尺（約0.6～0.9m）と記載されている。これに対し，SF３の路面幅は約１間半（９尺：2.7m）となっている。道路が立地する地形等の制約により，その規模や構造が一律でない可能性は高く，文献の記載との相違をもって東道の可能性が否定されるものではないだろう。いずれにしても，東道との関係性を考える上で，近世段階での路面幅がどの程度の規模であったのかを把握する必要があり，いわゆる五街道や脇街道等と推定される事例を中心に，その規模を確認していく。加えて，SF３の路面上にみられるピット群に関しても諸例を参考に検討していきたい。

A　道路状遺構の規模

近世に整備された五街道には東海道・中山道・日光道中・奥州道中・甲州道中，さらに付属街道が水戸佐倉道とされる。それ以外に脇街道があるが，その規定は明確ではなく，その他にも各地域の幹線道となる街道が多く存在した。しかし，これらの路線や名称を統一的に捉えることは難しいとされている（武部2003）。なお，飛騨街道は主要な脇街道に次ぐ位置付けとなっている。

今回，道路状遺構の事例として示したのは，五街道や脇街道の他，各地の主要な幹線道と推測される道を中心とした。また，近世においても時期が不明確な例も多く，ここでは近世全般のおおよその傾向を把握することを目的とする。なお，城下で確認された事例については，小糸尾萩野遺跡の立地条件とは異なっているため，比較検討に適さないと考え対象外とした。

①五街道

奥州街道（４：第27表の遺跡番号，以下同様）で2.8～5.7m，甲州街道（17）で1.0～1.2mの道幅であった。ともに丘陵尾根上に位置している。中山道（31・32）は平坦地では最大で6.5mあるが，山間地の勾配がある地点では2.4m程である。東海道については，概ね３～４間（5.4～7.2m）で，山間部では２間（3.6m）であったとの指摘もある（武部2003）。なお，焼場遺跡（21）の東海道の前身と推測される幹線道路では，丘陵地を通過する地点の路面幅は3.0mであった。このように，五街道においても，路面幅は立地条件等により左右され，一定ではないものだったのだろう。

②脇街道など

平坦な路面では，最大で上中・西屋敷遺跡（24）で4.8mあり，廻間遺跡（23）では推定で６mの規模となる。幅が狭いのは近世山陰道推定地の荒磯谷地区（46）での１mである。路面に傾斜はないが，山間地に立地する地区であり，幅員を確保することが困難な場合であるためであろう。同様に路面の傾斜はないが，山間地に位置する近世熊野街道跡（34）では２mの道幅が確認されている。平坦な路面として22例を示した。各事例での確認できた最大幅では，２m未満が３例，２m以上４m未満の事例が10例，４m以上が６例，不明が３例となった。おおよその傾向として，２mを越える幅員が比較的多いことが分かる。

特に近隣の事例として，水上・本開発遺跡（27）を挙げておきたい。ここでは近世北陸道の下街道が検出されており，17世紀中頃の整備期には1.5～1.8m，その後2.7mへ拡張される。また，水橋金広・中馬場遺跡（富山市教育委員会2001）では16世紀末～17世紀前半の2.7～3.0m幅の道路が検出され

ている。周辺地域でも近世段階に，こうした規模の道路が形成されていた様相が分かる。

勾配がある傾斜路では，最大幅は名木沢楯跡（６）で検出された近世羽州街道が約６ｍある。調査区では平坦な路面が10ｍ程の長さで検出されるが，調査区外に街道の続きが22.8％の勾配をもって段丘を登っていく。遺跡が最上川に隣接し，河川・陸上交通の要衝であることが，路面規模にも反映されていると思われる。一方，幅が狭いのは近世山陰道推定地のカモト地区（46）における0.3ｍであるが，急斜面に位置しており，崩落や流出した可能性がある。近世山陰道推定地では概ね２ｍの道幅を確保しようとしたと指摘されている。勾配のある路面として25例を示したが，最大幅で２ｍ未満の事例が７例，２ｍ以上４ｍ未満が11例，４ｍ以上が７例となった。なお，勾配は立地条件により異なり，2.4％の蓙野遺跡（１）から近世山陰道推定地の原地区（46）の40％まである。

これらの事例は，線的な広がりを持つ道路の一部分における路面幅であるが，勾配の有無に関わらず立地条件に応じて２ｍを越える路面幅が確保される傾向があったことを指摘できよう。SF３は平坦な段丘面に登り切る寸前の位置にあり，傾斜地にありながらも東道の中においては比較的路面幅を確保し易い条件を満たしていたと思われる。

Ｂ　路面上のピット群について

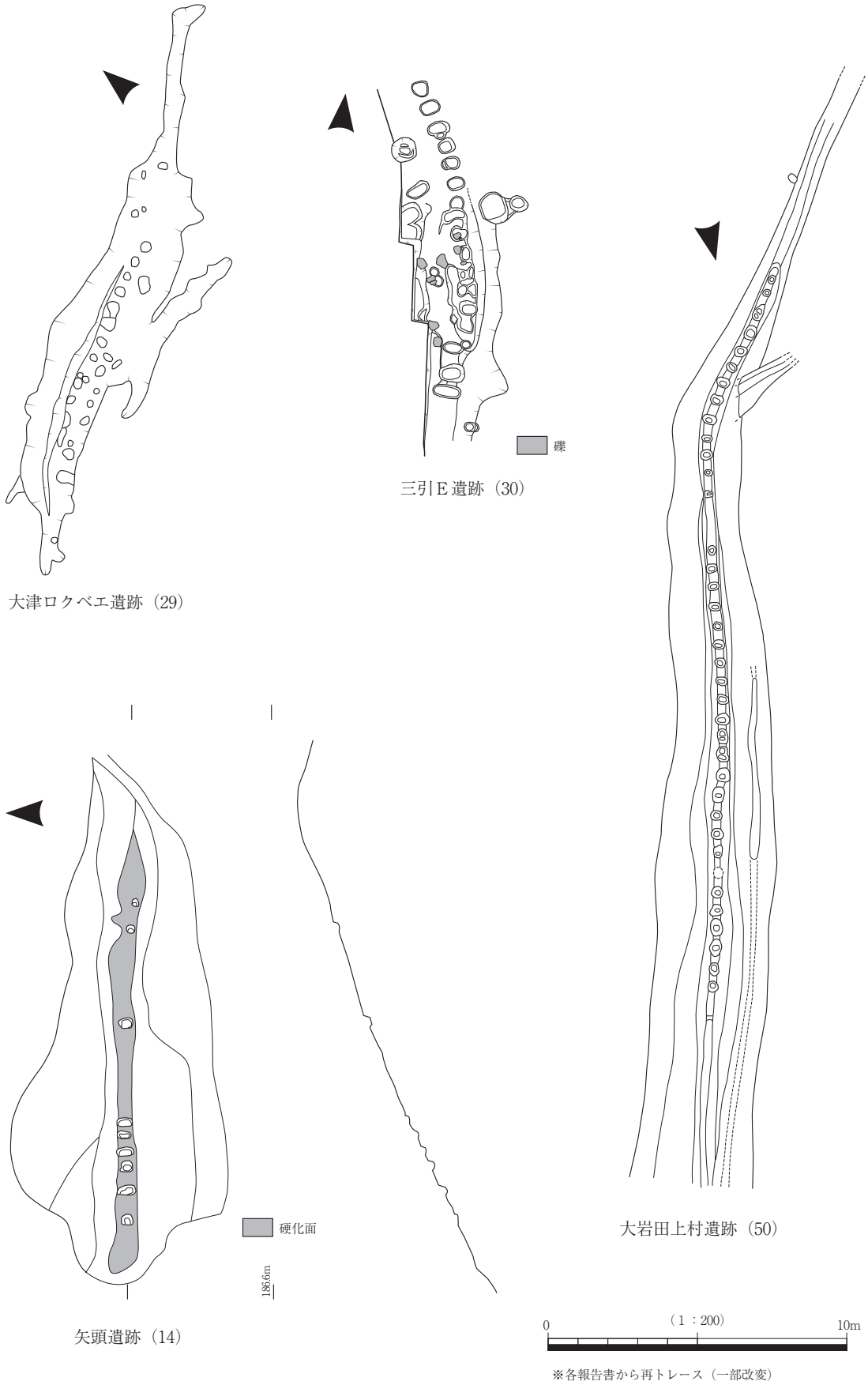
SF３の路面上で検出されたピット群については，波板状凹凸面の中でも円形の浅い土坑が一定間隔で並ぶⅣ群（近江1995）に相当すると考えられる。こうした構造は五街道の事例では確認されなかった。その他の街道や主要幹線道においても事例は少ない。近江氏による検討では主に中世以前の事例が用いられていたが，波板状凹凸面を伴う道路は「圧倒的に生活道であるものが多い」と指摘されており，そうした傾向が近世にも続いている可能性がある。

以下ではピット群の事例を見ていく。なお，事例が多くないため，街道や主要幹線道以外や，一部中世段階のものも含めて提示する（第72図）。

大津ロクベエ遺跡（29）では，勾配5.6％で幅1.2ｍの道路状遺構の底面に円形・楕円形ピットが0.5～0.7ｍの間隔で検出される。硬化面は無く，底面がそのまま路面であったとされる。矢頭遺跡（14）では斜面を段切りし，その底面にピット列が並ぶ。幅狭い階段状を呈し，40.5％の勾配を持つ。三引Ｅ遺跡（30）は中世の事例である。道路もしくは道路側溝と推測される複数の溝が検出され，それらの底面に円形・楕円形のピットが連続する。この内，3.5％の緩い勾配を持つSD32Ｎは溝自体が道路となる可能性がある。ただし，平坦な箇所に位置する他の溝でもピット列が形成されており，路面勾配に関わらずそうした造作がなされていたことを示す。大岩田上村遺跡（50）は中世の事例である。勾配５％の切り通し状となった遺構の底面が硬化しており，その下から楕円形のピット列が検出された。路面形成の基礎工事，あるいは登坂のための足掛かりの可能性も指摘されている。

以上のようなピット群が検出された事例では，ピットによる凹凸面がそのまま路面となる場合と，硬化面下で検出されるような基礎工事に関連すると考えられる場合に分かれる。SF３では廃絶段階の路面上にはピット群や溝・段差がある状態だったと考えられ，凹凸のある路面であった点は前者と同様だが，ピット群が２～３列で規則的に並んだ点が特徴的である。また，SF３のピット群は浅く，柵や杭列等の構造物があった可能性も考えにくいことから，別の性格を考える必要がある。

こうした路面上のピット群については，重量物を運搬する際に用いる梃子の支点や足を踏ん張る為の穴等の諸説がある。その内，牛方の活動という東道の特徴を念頭に置いた場合，興味深いものとして牛馬歩行痕説がある（東2003）。これによると，ピットなどにより形成された凹凸面の間隔が0.6～0.7ｍで牛馬の歩幅と同等であることや，絵画資料や現在の牧場での観察などが根拠とされており，坂



第72図　道路状遺構で検出されたピット群

の上りはじめと水の溜まりやすい低い部分に生じやすいとされる。一方，SF３のピット群は約１ｍ間隔で，坂を登り切って平坦面に移行する位置にあることから，条件が一致しない点もある。

もう一つ，東道の特徴である歩荷の利用を考えた場合，歩荷輸送の道具である荷杖が注目される。歩荷の歩行速度は遅く，短い距離を歩いては休憩を入れ，また歩くことを繰り返す。野麦峠の事例では，一度の歩行距離は20～30間（約36～54ｍ）程であったとされ，休憩時には背負った荷物の下部に当てて支えるために荷杖が不可欠な道具であった（胡桃沢2008）。こうした荷杖の先端を休憩時あるいは登坂時に，安定して路面に維持させるため，ピットが機能した可能性もある。ただし，そうした荷杖の利用に明確な凹みの存在やそれらの規則的な配置が必要であったのか明かでない点もある。牛方・歩荷の往来という東道の特徴を踏まえ，ピット群を積極的に評価するならば，こうした性格も想定できようが，現段階では各地の諸例やこれまでの研究成果においてもピット群の性格は明確でない場合が多い。ここでも可能性の一つとして示すに止め，今後の検討課題としておきたい。

（３）まとめ

小糸尾萩野遺跡の道路状遺構SF３は，遺構の時期や位置から飛驒街道東道の一部である可能性が高いが，その規模は文献史料による記録と乖離があった。これに関して，各地の街道等の事例を検討したところ，近世全般の傾向としてSF３と同等規模の道路整備が認められた。また，SF３と同様に鉱山経営に関わり山間部を通る道路でも場所によっては２ｍを越える路面幅が認められた。例えば石見銀山に関係する梨ノ木坂遺跡（39）では17世紀初め頃から利用され，1.7～2.3ｍの路面幅が確保されている。また，現況の踏査からではあるが，鞆ヶ浦道（40）では0.5～2.4ｍ，温泉津沖泊道（41）では0.8～4.3ｍの路面幅が確認されている。小糸尾萩野遺跡周辺では，東道沿いのみならず飛越国境付近には多くの鉱山が存在する。これらは，「16世紀後半から17世紀初頭にかけての鉱山開発盛期にあっては，対外交易のため多くの金銀が必要とされ，これが鉱物資源開発の一種のブームともいえる状況を招来した」（原田2011）と言われる社会情勢下で開発が推し進められた。こうした近世初めを中心とした鉱山の盛期，さらに比較的路面幅を確保し易い立地条件が重なり，SF３が整備されたものと思われる。

SF３における路面幅の確保は，東道の輸送形態に関わる可能性もある。SF３は段丘上へ登る，もしくは下位の段丘へ下る傾斜路であり，歩荷や牛方の通行にとっては負担の大きい場所である。特に牛方の通行では，牛同士がすれ違う際に角で突きかからないようにすることが必要であった（胡桃沢2008）。安全な通行の為には路面幅がある程度必要とされたのであろう。なお，路面上で検出されたピット群については，牛方・歩荷の通行に関わる可能性も示したが，現時点では不明とせざるを得ない。近世での道路状遺構の調査例，特に山間部の傾斜路における事例の増加を待って再考する必要があろう。

こうして整備されたSF３であったが，鉱山の衰退や西道利用が活発になる時期には放棄され，埋没していく。物資輸送による利益は減少し，道路の維持管理に見合うものではなくなり，より簡素な道を利用して東道での飛越間流通は続いていったと考えられる。

（青山　晃）

引用・参考文献

近江俊秀　1995「道路遺構の構造－波板状凹凸面を中心として－」『古代文化第47巻第４号』（財）古代學教會
大沢野町誌編纂委員会　1958『大沢野町誌　上巻』
大沢野町史編さん委員会　2005『大沢野町史』
大山の歴史編集委員会　1990『大山の歴史』
胡桃沢勘司　2008『牛方・ボッカと海産物移入』岩田書院
高瀬　保　1974「能登塩の他領進出と瀬戸内塩」『日本歴史311号』日本歴史学会
武部健一　2003『道Ⅱ』法政大学出版局
田中啓爾　1957『塩および魚の移入路－鉄道前夜の内陸交通』古今書院
富岡儀八　1978「近世飛騨の塩道」『歴史地理研究と都市研究（上）』藤岡謙二郎先生退官記念事業会
富山県　1982『富山県史　通史編Ⅲ　近世　上』
富山県　1983『富山県史　通史編Ⅳ　近世　下』
富山県教育委員会　1979『富山県歴史の道調査報告書－飛騨街道（その１）－』
富山市教育委員会　2001『水橋金広・中馬場遺跡発掘調査報告書』
原田洋一郎　2011『近世日本における鉱物資源開発の展開－その地域的背景－』古今書院
東　和幸　2003「波板状凹凸面牛馬歩行痕説再論」『縄文の森から　創刊号』鹿児島県立埋蔵文化財センター
細入村史編纂委員会　1987『細入村史　通史編（上巻）』
丸山雍成　1989『日本近世交通史の研究』吉川弘文館
三井金属鉱業株式会社修史委員会　1970『神岡鉱山史』
矢ヶ崎　孝雄　1960「神通川筋飛越間の江戸末期における商品流通」『人文地理』12巻３号

第27表　文献一覧

1　青森県教育委員会　2003『尾上山遺跡・蓙野遺跡』
2　青森県教育委員会　2010『上野遺跡Ⅱ』
3　（財）岩手県文化振興事業団　1985『曲田Ⅰ遺跡発掘調査報告書』
4　大衡村教育委員会　2009『奥州街道・大衡一里塚ほか』
5　（財）山形県文化財センター　2010『上の寺遺跡第１・２次発掘調査報告書』
6　山形県教育委員会　1993『名木沢楯跡発掘調査報告書』
7　（財）山形県文化財センター　2006『小松原窯跡・長者屋敷遺跡・坂ノ上遺跡発掘調査報告書』
8　（財）茨城県教育財団　2003『中山遺跡』
9　（財）とちぎ生涯学習文化財団　2006『下上遺跡』
10　（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1998『白井遺跡群－中世・近世編－（白井丸岩遺跡・白井北中道遺跡）』
11　（財）印旛郡市文化財センター　1986『千葉県印旛郡八街町　大関大曲遺跡・柳沢牧・御成街道発掘調査報告書』
　（財）印旛郡市文化財センター　1988『千葉県印旛郡八街町　御成街道Ⅱ発掘調査報告書』
12　平塚市教育委員会　2002『厚木道遺跡』
13　（公財）かながわ考古学財団　2013『馬場綿内谷遺跡』
14　（財）かながわ考古学財団　1997『宮畑遺跡（No.34）矢頭遺跡（No.34）大久保遺跡（No.36）』
15　（財）かながわ考古学財団　2009『三ノ宮・下木津根遺跡』（公財）かながわ考古学財団　2012『三ノ宮・下木津根遺跡Ⅱ』
16　（公財）かながわ考古学財団　2013『上粕屋・石倉中遺跡』
17　山梨県教育委員会　2000『長峰砦跡』
18　山梨県教育委員会　1991『獅子之前遺跡発掘調査報告書』
19　山梨県教育委員会　2012『町屋口遺跡』
20　山梨県教育委員会　1998『鰍沢河岸跡』
21　（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所　1994『焼場遺跡Ａ地点』
22　（財）愛知県埋蔵文化財センター　1992『勝川遺跡Ⅲ』
23　（財）愛知県埋蔵文化財センター　1990『廻間遺跡』
24　（財）愛知県教育サービスセンター　愛知県埋蔵文化財センター　2004『上中・西屋敷遺跡』
25　神林村教育委員会・山武考古学研究所　2002『山屋遺跡群　前坪遺跡・銅鉄遺跡・フケ田遺跡・天王前遺跡・水口沢遺跡』
26　糸魚川市教育委員会　1994『歴史の道（旧松本街道）発掘調査報告書』
27　大島町教育委員会　2000『水上・本開発遺跡』
28　（財）富山県文化振興財団　2007『岩坪岡田島遺跡・手洗野赤浦遺跡・近世北陸道遺跡発掘調査報告』
29　石川県立埋蔵文化財センター　1993『大津ロクベエ遺跡』
30　（財）石川県埋蔵文化財センター　2001『田鶴浜町三引Ｅ遺跡・三引Ｆ遺跡』
31　恵那市　1992『歴史の道　中山道　保存整備事業報告書』
32　（財）岐阜県文化財保護センター　2001『中山道』
33　（財）岐阜県文化財保護センター　2000『南整理遺跡』
34　三重県埋蔵文化財センター　2009『旅籠江戸屋跡・近世熊野街道跡発掘調査報告』
35　京都大学埋蔵文化財研究センター　1979『京都大学構内遺跡調査研究年報　昭和54年度』
　京都大学埋蔵文化財研究センター　1981『京都大学構内遺跡調査研究年報　昭和56年度』
36　四条畷市教育委員会　2011『清滝街道発掘調査報告書』
37　（財）広島県教育事業団　2003『近世山陽道跡・日向一里塚・石立炭窯跡』
38　大山町教育委員会　2010『町内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
39　島根県教育委員会　2010『梨ノ木坂遺跡・庵寺古墳群・庵寺遺跡Ⅱ』
40　島根県教育委員会　2003『石見銀山街道　鞆ケ浦道・温泉津沖泊道調査報告書』
41　瑞穂町教育委員会　1993『石州街道発掘調査報告書』
42　浜田市教育委員会　2008『唐谷坂道』
43　江津市教育委員会　2011『浜田三次往還・道平遺跡ほか発掘調査報告書』
43　江津市教育委員会　2011『浜田三次往還・道平遺跡ほか発掘調査報告書』
44　津和野町教育委員会　2008『山陰道（野坂峠越・徳城峠越え』
45　島根県教育委員会　2011『近世山陰道推定地（力石地区・荒磯谷地区・原地区・カモト地区）・片良ケ平遺跡・馬ノ太郎遺跡・北ケ迫遺跡』
46　（財）山口県ひとづくり財団　2009『三見ほうろく窯跡・ほうろく茶屋跡』
47　福岡県教育委員会　1999『堀池口ケ坪遺跡』
48　宮崎県埋蔵文化財センター　2003『教塚遺跡・栃屋遺跡・大郎遺跡』
49　宮崎県埋蔵文化財センター　2003『大岩田上村遺跡』

第27表　近世道路状遺構の諸例（1）

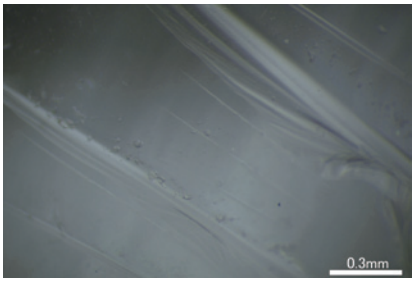
都道府県	遺跡番号	遺跡名	遺構名	路面幅(m)	側溝幅(m)	側溝深(m)	勾配(%)	時期	街道名称・性格など	備考	文献番号
青森県	1	蘆野	第1号街道跡	4.2～4.5	2.7～3.5	0.62～1	2.4%	近世	近世西浜街道の一部。	側溝底面にピット列。側溝が道路であった時期(18世紀代)もあった。	1
青森県	2	上野遺跡Ⅱ	街道跡	1.4～	0.5～0.6	0.4～0.5	平坦	近世	近世下之切通り：羽州街道から分岐し,小泊に至る。	推定1間半～2間。近代に側溝掘り直し。	2
岩手県	3	曲田Ⅰ	EⅢ-071	3.6	0.3～0.7	不明	不明	不明(平安～近世)	平安時代「流霞道」・江戸時代「鹿角街道」の可能性。	道路面に横方向の凹みがあり,枕木を敷いたと推定。	3
宮城県	4	奥州街道　◎	SX01A道路跡	2.8～5.7	0.28～1.22	0.1～0.5	2.6～40.0%	近世(初期)	近世奥州街道	片側に側溝,片側に盛土を伴う。近代に改修や拡幅された陸羽街道(旧奥州街道)と推定されるSX01Bも検出。	4
山形県	5	上の寺	D区SF0275・E区SF4334	0.8～1.4	0.5～1	0.1～0.5	10.5%	中世～近世・近代	箕輪道	勾配はD地区・A区SD3068も一部。両側溝。	5
山形県	6	名木沢楯跡	旧羽州街道	5～6	無し	無し	22.8%	近世：不詳	近世羽州街道	切り通し状の上端幅10m。	6
山形県	7	坂ノ上	街道跡	3.5～3.6	0.1～0.4	0.2～0.6	3.1%	近世：不詳	近世羽州街道	玉石敷・玉石は滑り止めと推定。両側溝。	7
茨城県	8	中山	第1号道路跡	5～	～0.66	不明	平坦	近世	笠間―土浦間の幹線道路。	17C代に利用開始後,改修。切り合い：SF3>SF2>SF1。片or両側溝不明。	8
茨城県	8	中山	第2号道路跡	3.2～	～0.4	0.2	平坦	近世	笠間―土浦間の幹線道路。	17C代に利用開始後,改修。切り合い：SF3>SF2>SF1。片or両側溝不明。	8
茨城県	8	中山	第3号道路跡	4～	～0.53	0.13	平坦	近世	笠間―土浦間の幹線道路。	17C代に利用開始後,改修。切り合い：SF3>SF2>SF1。片or両側溝不明。	8
栃木県	9	下上	S-1	3	無し	無し	平坦	近世18C	真岡街道	中世後半までさかのぼる可能性あり。路面に平行する浅い溝跡が複数条検出され,整備時に関わる可能性を示唆。	9
群馬県	10	白井北中道	道路遺構	1.1	0.5	不明	一部6%	近世	白井城の東遠構を利用した「夜盗道」に続くと推測。	上幅2.0～2.5mの溝状の落ち込み部分を道路とする。片側溝。白井城は江戸初期に廃城。	10
千葉県	11	御成街道	御成街道	3.0～4.5	無し	無し	傾斜路部分:5.9・8.8・15.1・19.3%	近世	1614年造営の鷹狩り場への将軍御成りの道。	房総地域に対する軍事用道路としての性格も指摘される。盛土・切り通しによって形成。	11
神奈川県	12	厚木道	1号道路状遺構	1.7～2.3	0.21～0.72	0.04～0.43	平坦	近世	中原街道の可能性。中原街道は江戸へとつながり,献上酢を運んだことから「御酢街道」とも呼ばれる。献上は元禄八年(1695年)頃まで行われる。	両側溝。一方の側溝に径0.2mのピット列があり,杭列・柵列の可能性もある。	12
神奈川県	13	馬場綿内谷	K1号道路状遺構	3.0～4.0			部分的に傾斜:1.7%	近世	旧馬場村と旧綱島街道を結ぶ主要道と推測。	深さ0.75m程の掘り込み状となる。第1～3硬化面を確認。第3硬化面には幅0.3～0.95mの両側溝が付随。第3硬化面の下から,波板状凹凸面を検出。埋没は18世紀以降。	13
神奈川県	14	矢頭(No.35)	第1号道	0.5～0.9	無し	無し	40.5%	近世：17C代	尾根上への登坂路。	斜面段切り状とし,その底面を階段状にして道路とする。	14
神奈川県	15	三ノ宮・下木津根	1号道状遺構	不明(0.5～)			平坦	近世：18C以前に形成	大山道：宝永火山灰の降灰以前に形成。	堀割状の道。	15
神奈川県	16	上粕屋・石倉中	K2号道状遺構	2.7～3.0	無し	無し	平坦	近世：18C代前半期	大山道	幅7.4mの堀割状の底面を道路とする。路面脇にピットが等間隔に並ぶ。	16
山梨県	17	長峰砦跡　◎	道路状遺構	1.0～1.2	無し	無し	95-A区:5.5%(一部14%)・98-B区:5.6%	近世初め	甲州街道(甲州海道→甲州道中)		17
山梨県	18	獅子之前	道路遺構	3.0～4.0	無し	無し	平坦	近世：江戸時代後期～近代	青梅街道：甲州道中の脇街道	三叉路となる部分。路面脇に一部石列。	18
山梨県	19	町屋口	河岸御蔵道跡	2.9～3.4	0.9～1.1	0.35～0.5	平坦	近世～近代	河岸御蔵道(富士川沿いの青柳河岸に通じる道)	路面の一部にピット列。	19
山梨県	20	鰍沢河岸跡	道路	1.8	無し	無し	平坦	近世：18C中頃～	駿信往還から御蔵台を経て船着場へと続く道。	道には水路が隣接(規模不明)する。	20
静岡県	21	焼場　◎	道路状遺構　本道	3.0	不明	不明	平坦	平安末～近世初頭	近世東海道(箱根往還)整備直前までの幹線道路。		21
静岡県	21	焼場　◎	道路状遺構　枝道	2.0	無し	無し	3.5%	平安末～近世初頭	近世東海道(箱根往還)整備直前までの幹線道路からの支線。		21
愛知県	22	勝川	下街道	3.6	1	0.1～0.4	平坦	近世：19C	下街道(名古屋から中山道へ向かう街道)	上街道(官道)に対し四里短く,主に庶民が通行。両側溝。	22
愛知県	23	廻間	祖父江街道	推定6m	1	0.2	平坦	近世：16C末～17C前葉	清洲城の城下整備に関係して形成された街道。	片or両側溝か不明。	23
愛知県	24	上中・西屋敷	SF01	4.8	0.55～1.2	0.07～0.09	平坦	近世初め～	八神街道(江戸時代初期に八神城主の毛利氏が名古屋城登城のために整備)は整備当初は1.8m(6尺)で,幕末から明治期に3.6m(二間)に拡幅された。検出遺構はそれよりも幅広い。	両側溝。	24
新潟県	25	天王前	SX226	約2	約1～2	0.9	平坦	近世：16C末～17C初頭	丘陵上の天王社への参道。	砂利を含む土で整地。両側溝。	25
新潟県	26		松本街道	－	－	－	－	近世	茶屋跡・関所跡調査するが,街道は未検出。	明治14年の「山口村皇国地誌」では2.7m(9尺)の記載がある。	26
富山県	27	水上・本開発	SF01(街道整備期)	1.5～1.8	不明	不明	平坦	近世：17C中頃	近世北陸道「下街道」	整備期。両側溝あるが,規模不明。	27
富山県	27	水上・本開発	SF01	2.7	1.0～3.0	0.4～1.0	平坦	近世：17C後半～	近世北陸道「下街道」	拡幅後。両側溝。	27
富山県	28	近世北陸道	近世北陸道	不明	0.6～1.4	0.12～0.36	平坦	近世～近代	近世北陸道	道路側溝を2条検出するが,対になる側溝ではない。路面は現道の下であり,規模など詳細不明。	28
石川県	29	大津ロクベエ	SF01	1.2	無し	無し	5.6%	近世：17C初頭～18C前半	大津往来(外浦街道と内浦街道を結ぶ)からの枝分的道。	ピット列のある底面が路面。	29
石川県	30	三引E遺跡　※	SD04南側溝	－	0.8	0.2～	平坦	中世：14C後半～15C頃	溝底面に円形・卵形の小穴が連続して並ぶ。	溝を道路自体もしくは道路側溝と推測。	30
石川県	30	三引E遺跡　※	SD05	－	1.0～1.25	0.15～0.25	平坦	中世：14C後半～15C頃	溝底面に円形・卵形の小穴が連続して並ぶ。	溝を道路自体もしくは道路側溝と推測。	30
石川県	30	三引E遺跡　※	SD32S	－	0.4～0.7	0.1～0.15	平坦	中世：14C後半～15C頃	溝底面に円形・卵形の小穴が連続して並ぶ。	溝を道路自体もしくは道路側溝と推測。	30

第27表　近世道路状遺構の諸例（2）

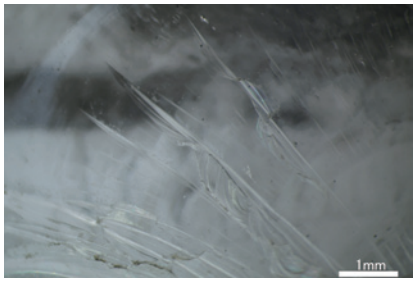
都道府県	遺跡番号	遺跡名	遺構名	路面幅(m)	側溝幅(m)	側溝深(m)	勾配(%)	時期	街道名称･性格など	備考	文献番号
石川県	30	三引E遺跡　※	SD32N	−	不明	0.6	3.5%	中世：14C後半〜15C頃	溝底面に円形・卵形の小穴が連続して並ぶ。	溝を道路自体もしくは道路側溝と推測。	30
岐阜県	31	中山道　◎	中山道	2.4	不明	不明	最大27.3%	近世初期〜	中山道	遺構調査･文献による平均幅員。	31
岐阜県	32	中山道　◎	中山道	6〜6.5	不明	不明	2.8%	近世初頭〜	中山道	両側に盛土状遺構を伴う。攪乱により側溝の有無は不明。	32
岐阜県	33	南整理　◎	盛土状遺構	−	−	−	−	近世初頭	中山道	中山道に沿って形成された盛土状遺構。	33
三重県	34	旅籠江戸屋跡･近世熊野街道跡	近世熊野街道跡	2	無し	無し	平坦	近世	近世熊野街道	丘陵部の斜面上にあり,山側を開削し,テラス状の路面を形成。硬化面･石畳等確認されず。	34
京都府	35	京都大学構内遺跡（AW28･AX28区）	SF1	4.5	0.3	0.5	平坦	近世：18C〜19C前半	白川道（京都･近江間の幹線道）	轍痕検出。	35
大阪府	36	清滝街道	清滝街道	2.4	0.2〜0.8	0.1〜0.2	7.1%	中世〜近代	清滝街道	丘陵裾部に沿って位置し,丘陵側に側溝を有する。	36
広島県	37	近世山陽道跡	近世山陽道跡	平坦部･3.9〜4.1・坂道：2.1〜3.4	無し	無し	12.2%	近世：17C前半に整備	近世山陽道（西国街道）	一部に土塁状の遺構（高さ0.3〜0.7m）が並行する。	37
鳥取県	38	西坪三軒屋	近世伯耆往来	不明	不明	不明	不明	近世	近世伯耆往来	肩部検出･路面構造や規模不明。	38
島根県	39	梨ノ木坂	石畳道路遺構	1.7〜2.3	0.3〜0.5	0.15〜0.35	26.8%	近世：17C初め〜	石見銀山へ向かう温泉津沖泊道から分岐し,小浜港へ至る街道の一部。	両側溝。石畳の整備時期は不明。小浜港から薪･炭を銀山へ運ぶ重要な交通路。	39
島根県	40	鞆ヶ浦道	鞆ケ浦道（北廻り道）	0.6〜2.4	不明	不明	山間地を通過。高低差があり,勾配生じるが詳細不明。	16C〜	石見銀山への交通路。	現況の踏査による路面幅。路面構造･側溝など不明。	40
島根県	40	鞆ヶ浦道	鞆ケ浦道（南廻り道）	0.5〜1.4	不明	不明	−	16C〜	石見銀山への交通路。	現況の踏査による路面幅。路面構造･側溝など不明。	40
島根県	41	温泉津沖泊道	温泉津沖泊道	0.8〜4.3	不明	不明	−	16C〜	石見銀山への交通路。	現況の踏査による路面幅。路面構造･側溝など不明。	40
島根県	42	石州街道	石州街道	2.1	不明	不明	16.0〜30.0%･平均23.5%	17C前半	石州街道:浜田―広島を結ぶ街道（浜田藩主の参勤交代・山陰と山陽を結ぶ交通路）。	当初の幅員は断ち割り部分のみで確認。側溝など不明。	41
島根県	42	石州街道	石州街道:石畳	2.5〜3.2	0.4〜0.6	0.1〜0.2	−	18C後半〜19C前半	石州街道：浜田―広島を結ぶ街道。	石畳は路面流失防止のため急勾配の場所に整備。両側溝。	41
島根県	43	唐谷坂道	唐谷坂道	0.9〜1.4	不明	不明	12.0%	18C後半以前	浜田佐波道の一部。	浜田広島街道の脇道。石畳に改修以前の小石敷路面。両側溝あるが規模不明。	42
島根県	43	唐谷坂道	唐谷坂道:石畳	1.3〜3.8	0.15〜0.2	0.1	12.0〜20.0%	18C後半〜	浜田佐波道の一部。	石畳幅:1.3〜2.0m。一部は石畳無く,階段状の刻目を路面に形成。片or両側溝。側溝は範囲不明瞭なため,おおよそ計測値。	42
島根県	44	浜田三次往還	浜田三次往還1	0.7〜1.0	無し	無し	11.6〜34.4%	近世	浜田三次往還の一部。	道01〜07を確認。	43
島根県	44	浜田三次往還	浜田三次往還2	0.9〜2.45	0.19〜0.45	0.05〜0.21	8.9〜13.7%	近世	浜田三次往還の一部。	道08〜12を確認。一部両側溝。波板状遺構検出,通行者の足場と推測。	43
島根県	45	山陰道	野坂峠越	3.0〜4.0	0.25〜0.7	0.2〜0.45	8%･15%	近世：時期不明	近世山陰道	一部に石畳:幅2m。拡幅前は小石混じりの層で,幅2mの路面を形成。盛土内炭化物の年代測定はAD1500〜1670年を示す。	44
島根県	45	山陰道	徳城峠越	3.0〜4.0	0.4	不明	9%･16%	近世：19Cか	近世山陰道		44
島根県	46	近世山陰道推定地:力石地区	近世山陰道推定地	1.2〜2.4	無し	無し	7.1%･8.8%･19.2%･25%	近世：18C〜	近世山陰道	4地区とも路面幅員は2mを基本として整備か。傾斜の強い箇所は階段状の削り出しや溝状に加工。	45
島根県	46	近世山陰道推定地:荒磯谷地区	近世山陰道推定地	1.0〜2.4	0.4〜0.6	0.2	平坦	近世：18C〜	近世山陰道	山側に側溝。砂利敷路面。	45
島根県	46	近世山陰道推定地:原地区	近世山陰道推定地	0.6〜2.5	0.5〜1.3	0.3〜0.5	3.5%･12.9%･18.2%･40%	近世：18C〜	近世山陰道	片側or両側に側溝。路面改修複数回。	45
島根県	46	近世山陰道推定地:カモト地区	近世山陰道推定地	0.3〜1.8	無し	無し	15.4%	近世：18C〜	近世山陰道		45
山口県	47	ほうろく茶屋跡	街道跡	2	0.2〜0.52	0.05〜0.17	11.1%	近世：時期不明	赤間関街道：萩と赤間関（現下関）との交通路。	隣接する「ほうろく茶屋跡」は18C後半〜19C。	46
福岡県	48	堀池口ケ坪	SX3	不明	不明	不明	平坦	近世	長崎街道か?：小倉と長崎との交通路。	現況の推定長崎街道の幅員3.5〜4mと同等と推測。	47
宮崎県	49	栃屋	道状遺構	1.5〜2.0	無し	無し	7.7%	近世	延岡藩国境の番所へ向かう道。	硬化面形成。	48
宮崎県	50	大岩田上村　※	道路状遺構（SF1）	0.6	無し	無し	5.0%	中世：15C中葉	傾斜路での波板状凹凸。基礎工事又は足掛かりと推測。	切通し状の底面に硬化面が形成。	49

◎：五街道とその関連遺跡
無印：脇街道又は主要幹線道
※：中世のピット群検出例

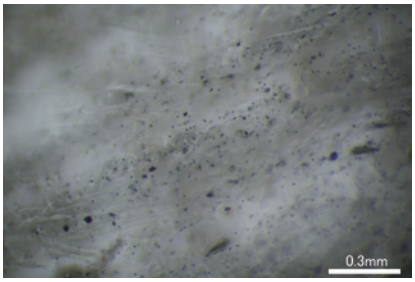
表注：側溝の有無が一律でないため、路面幅は側溝中心間の距離ではない。
空欄は報文･図面上で確認できなかったもの



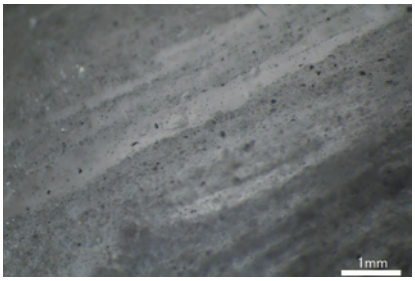
1　No.1 130090(605) OB ×80



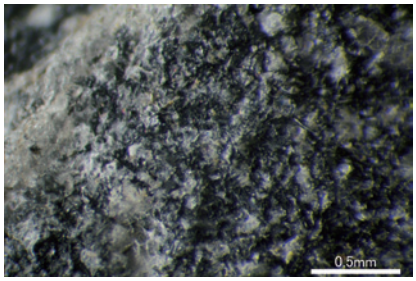
2　No.1　×20



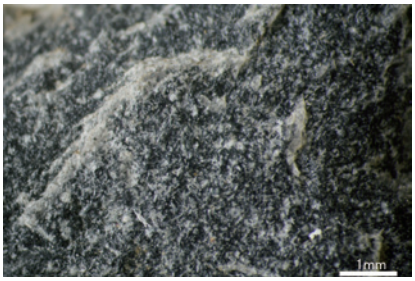
3　No.2 130091(606) OB ×80 微球体



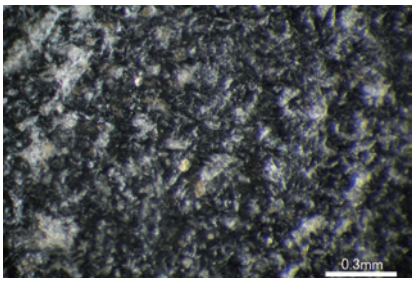
4　No.2　×20



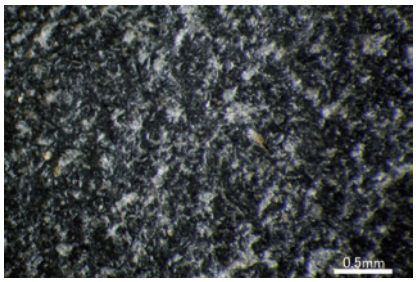
5　No.3 130073(602) GE ×60



6　No.3　×20



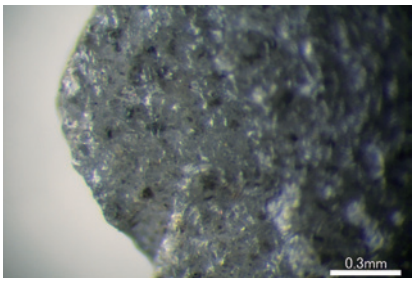
7　No.4 140102(609) GE ×80



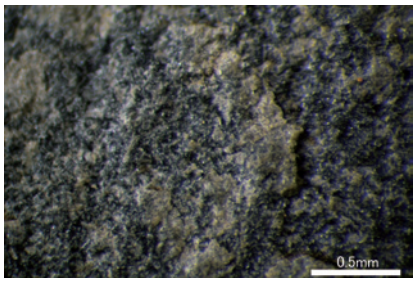
8　No.4　×40

黒曜石

No.1　No.2

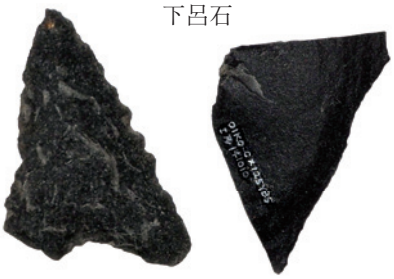


9　No.4 ×80 黒雲母

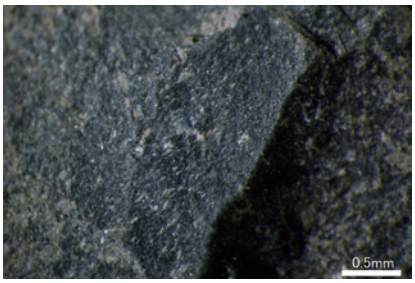


10　No.5 140104(603) AN-3 ×60

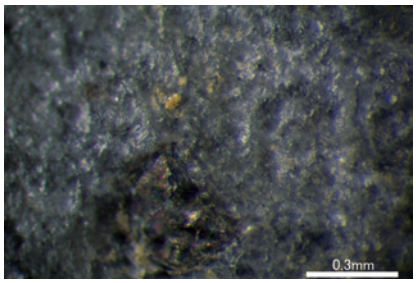
下呂石



No.3　No.4



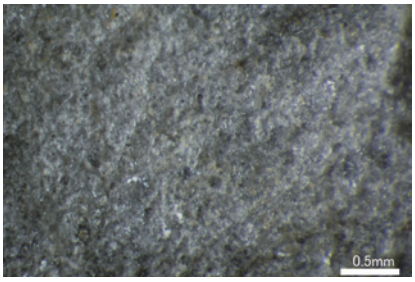
11　No.5　×40



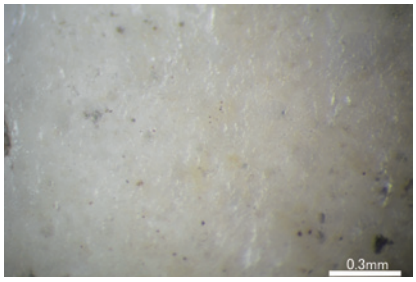
12　No.6 140125(604) DAC ×100

無斑晶質安山岩　デイサイト

No.5　No.6

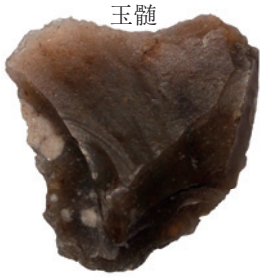


13　No.6　×40



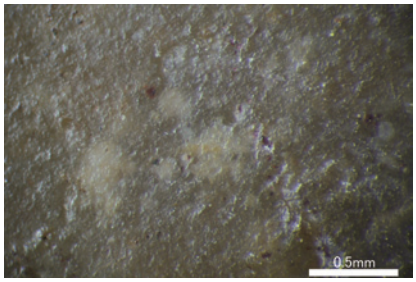
14　No.7 140116 CL-4 ×80

玉髄

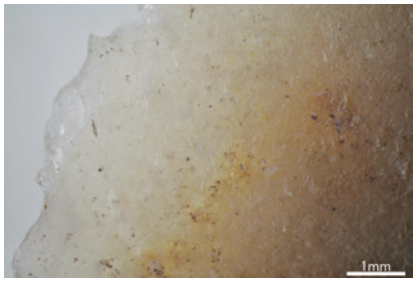


No.7

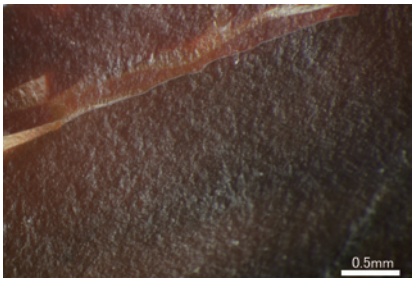
写真１　主な石器石材の顕微鏡写真（１）



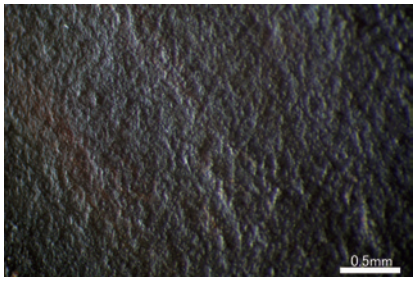
15　No.7 CL-4 ×60



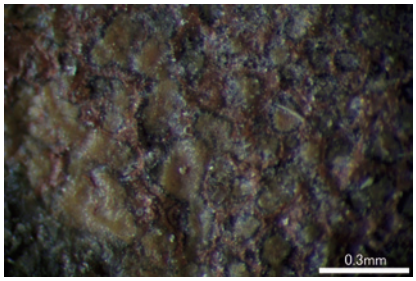
16　No.7　×20



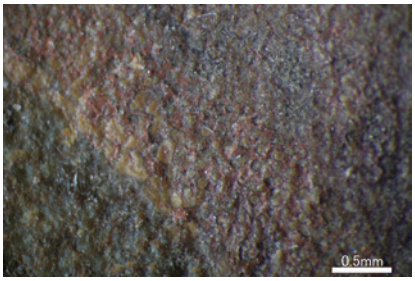
17　No.8 140012(608) JA-1 ×40



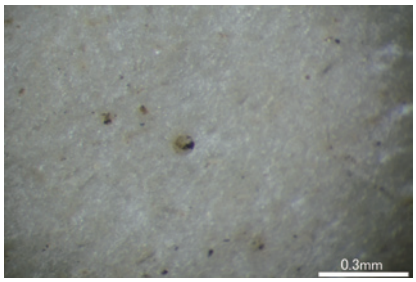
18　No.8　×40



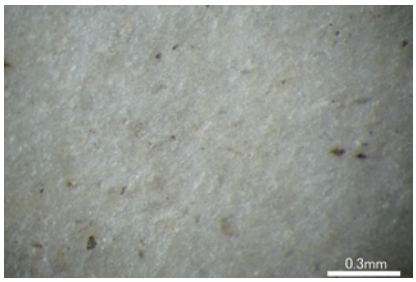
19　No.9 140135 JA-4 ×100 コロフォーム組織



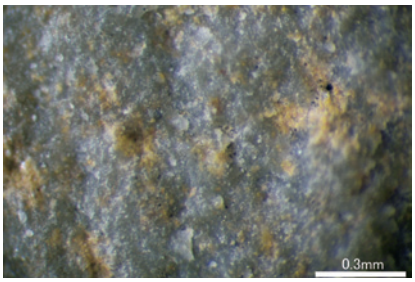
20　No.9　×40



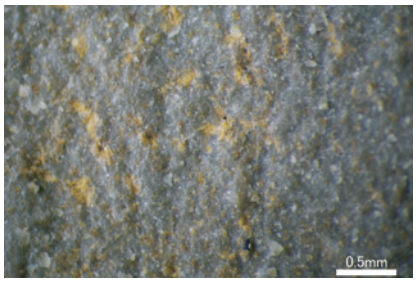
21　No.10 140143(610) SH-S ×100 放散虫化石



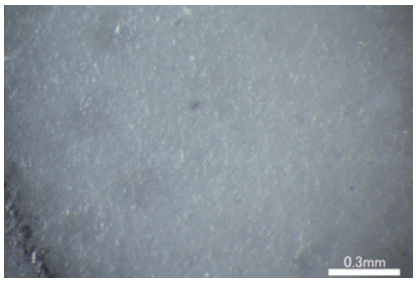
22　No.10　×80



23　No.11 130083(612) SH-S ×100

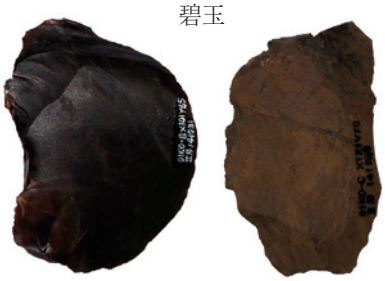


24　No.11　×40

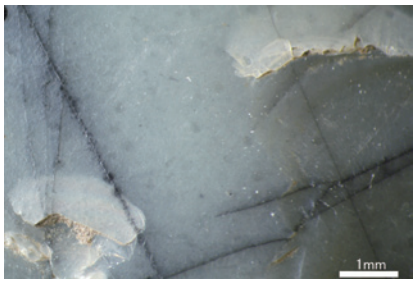


25　No.12 140115 CH-2 ×80

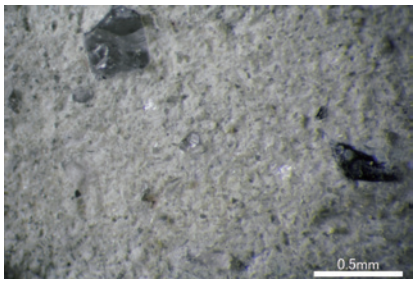
碧玉



No.8　No.9

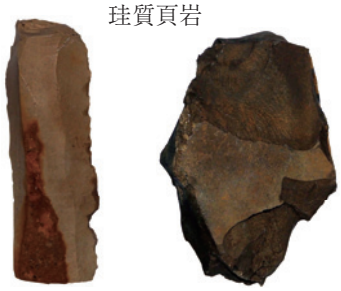


26　No.12 ×20 放散虫化石

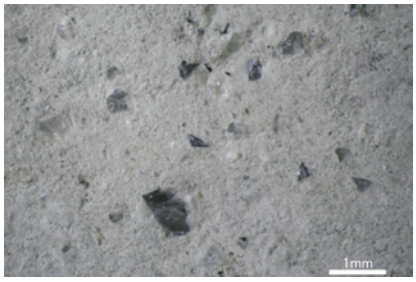


27　No.13 140142(611) GT ×60

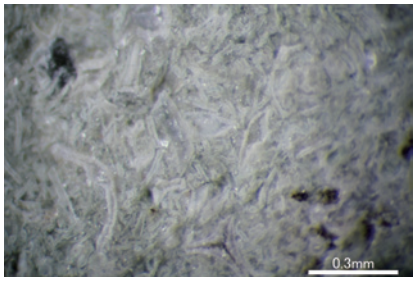
珪質頁岩



No.10　No.11

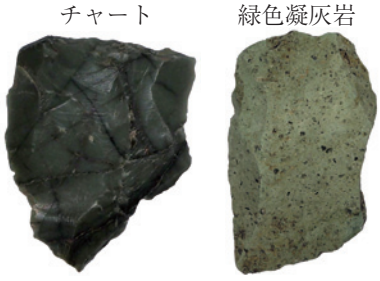


28　No.13　×20



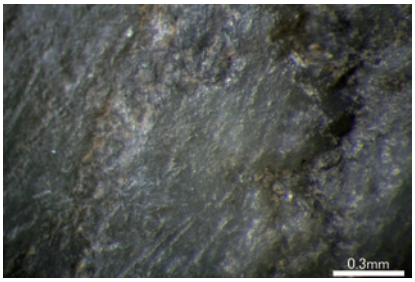
29　No.13 ×100 ガラス片

チャート　緑色凝灰岩

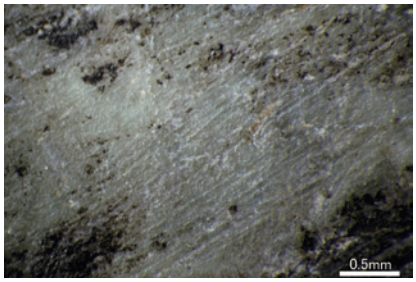


No.12　No.13

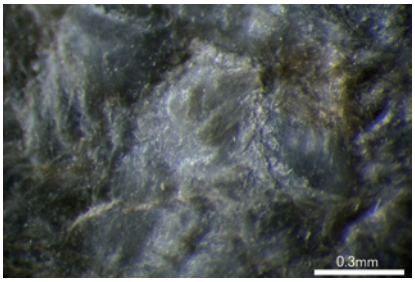
写真１　主な石器石材の顕微鏡写真（２）



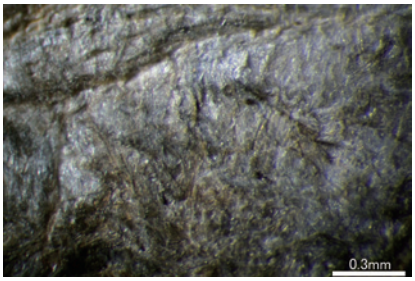
30　No.14 140118 TR-A1 ×80



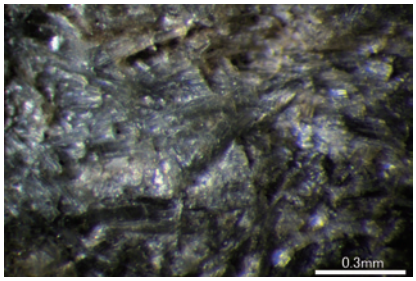
31　No.14　×40



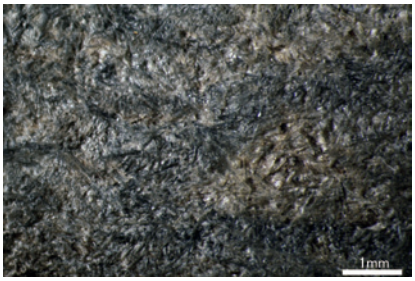
32　No.15 140103(616) TR-B ×100



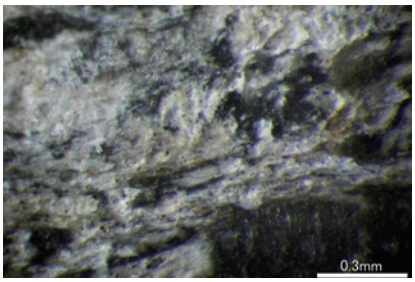
33　No.15　×80



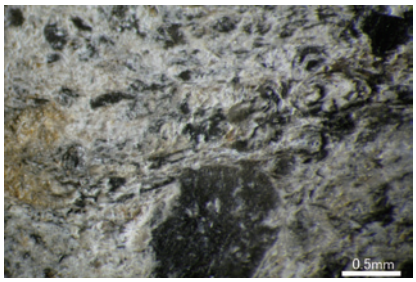
34　No.16 140106(621) TR-B ×100 緑閃石



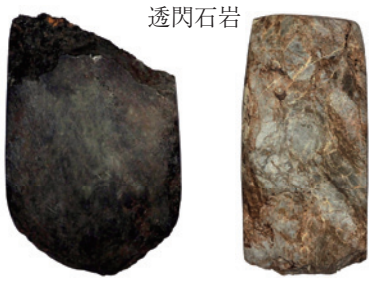
35　No.16　×20



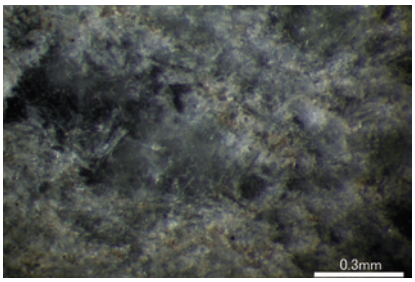
36　No.17 140111(620) TR-B ×100



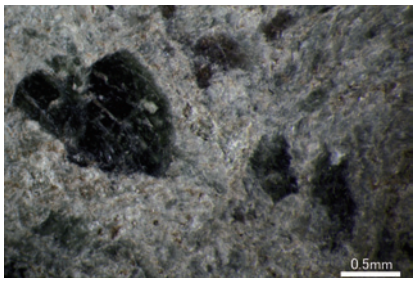
37　No.17　×40



No.14　No.15

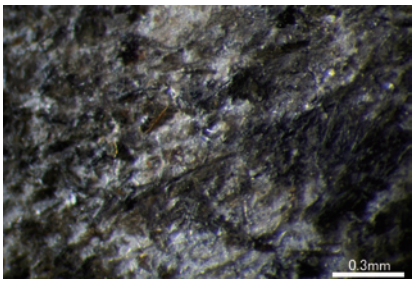


38　No.18 140120 TR-B ×100

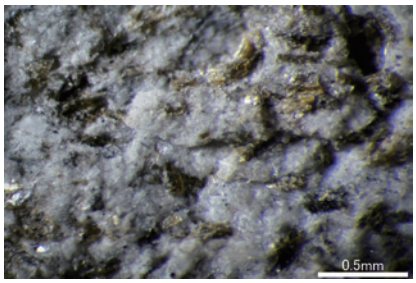


39　No.18　×40

No.16　No.17

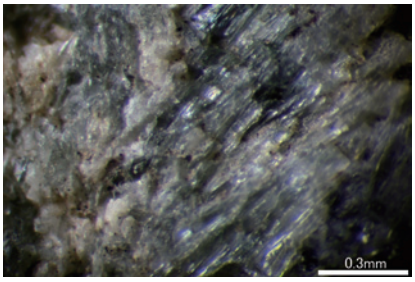


40　No.19 140126(619) TR-B ×80

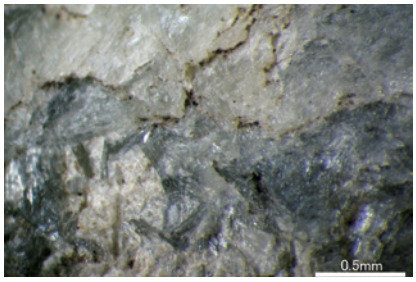


41　No.19　×60

No.18　No.19



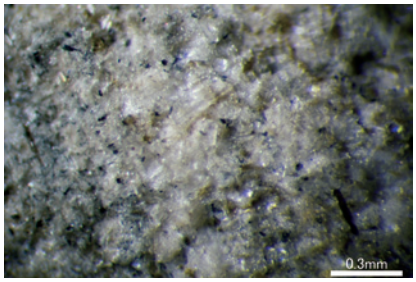
42　No.20 140015 TR-C ×100 緑閃石～透閃石



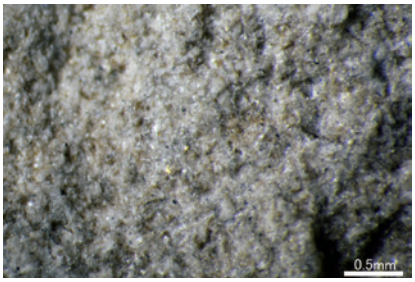
43　No.20　×60

No.20

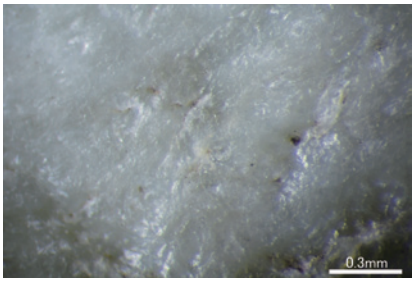
写真１　主な石器石材の顕微鏡写真（３）



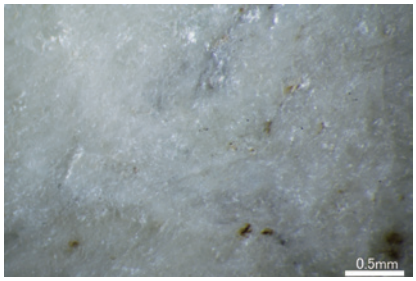
44　No.21 140123 TR-C ×80



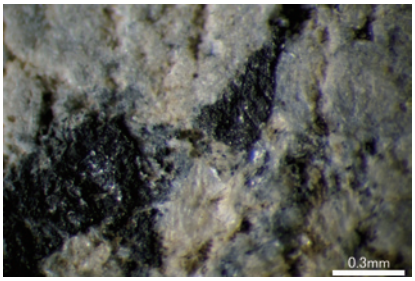
45　No.21　×40



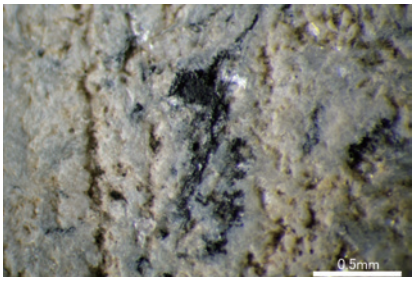
46　No.22 140005(614) TR-D2 ×80



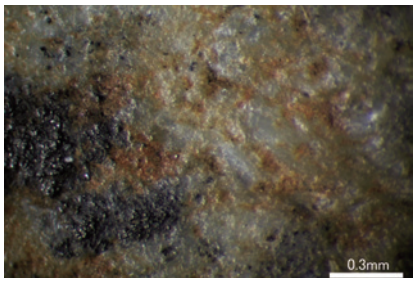
47　No.22　×40



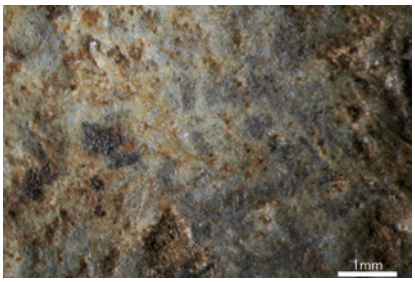
48　No.23 140308 SE-ⅡA ×80 磁鉄鉱



49　No.23　×60

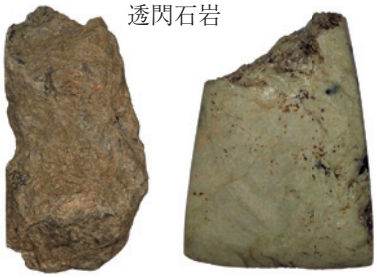


50　No.24 130085(613) SE-ⅡA ×80

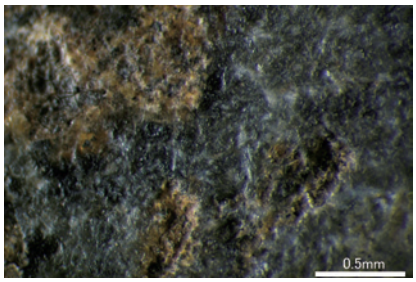


51　No.24　×20

透閃石岩



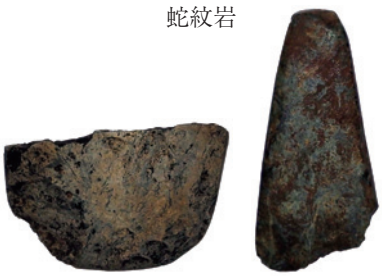
No.21　No.22



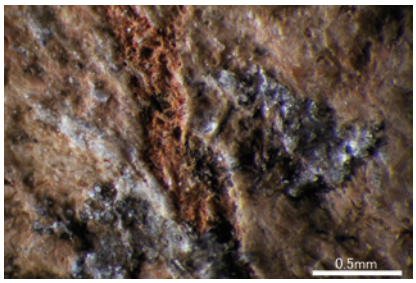
52　No.25 130082(622) SE-ⅡB ×60

53　No.25　×20

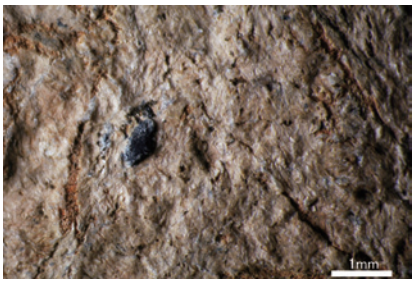
蛇紋岩



No.23　No.24

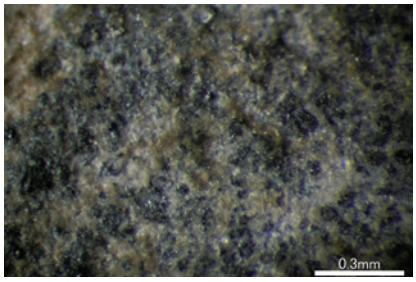


54　No.26 140316 SE-ⅡC ×60

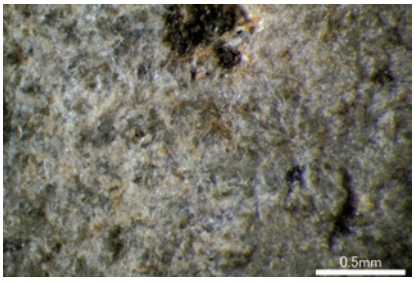


55　No.26 ×20 磁鉄鉱

No.25　No.26



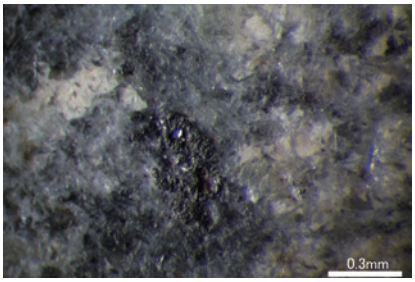
56　No.27 140319 SE-ⅡC ×100



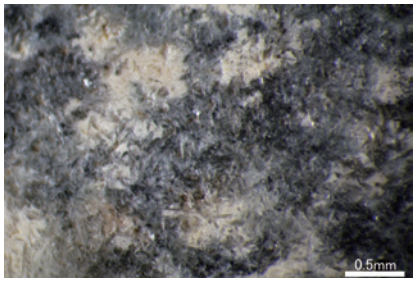
57　No.27　×60

No.27

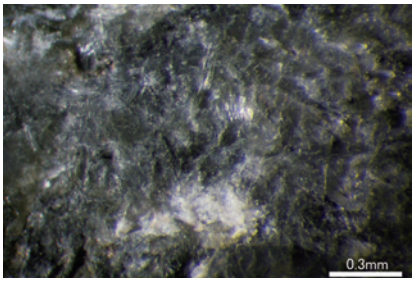
写真１　主な石器石材の顕微鏡写真（４）



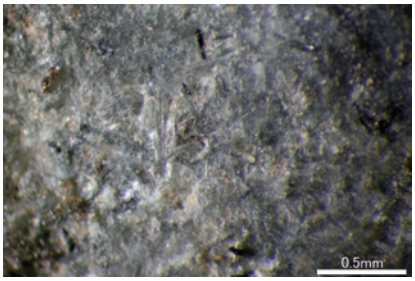
58　No.28 130081 SE-ⅡD ×80



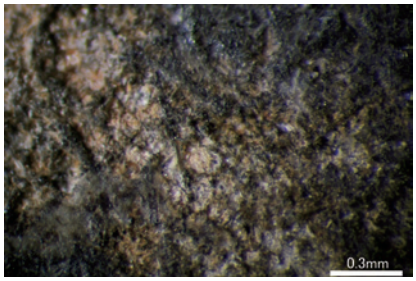
59　No.28　×40



60　No.29 130071 TR-SE ×80

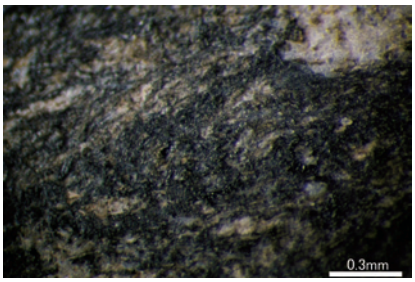


61　No.29　×60

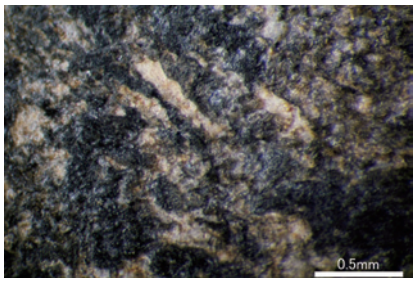


62　No.30 140013 TR-SE ×80

63　No.30　×20

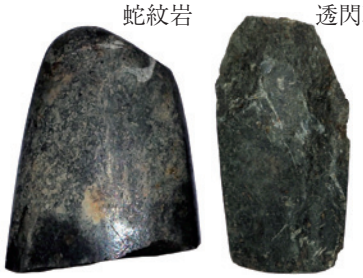


64　No.31 140309 AM ×80

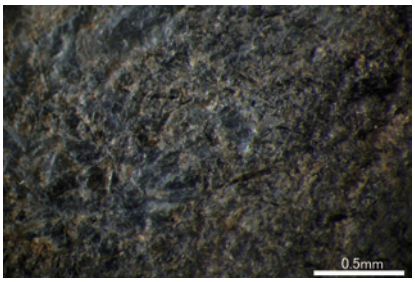


65　No.31　×60

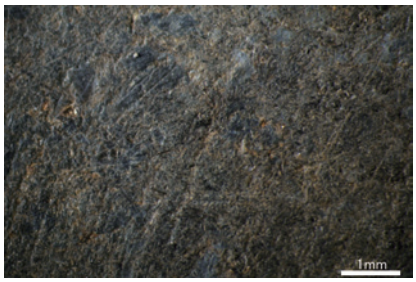
蛇紋岩　透閃石岩



No.28　No.29



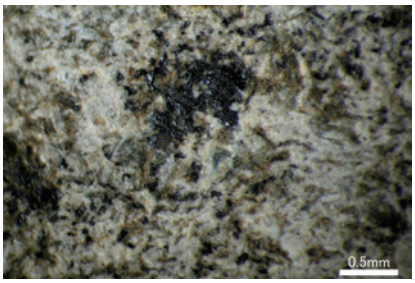
66　No.32 140146 AM ×60



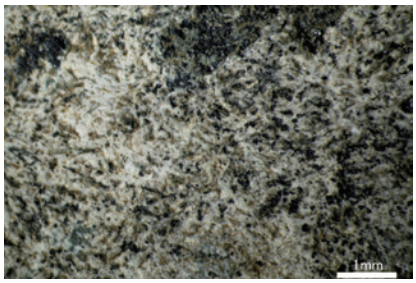
67　No.32　×20

透閃石岩

No.30

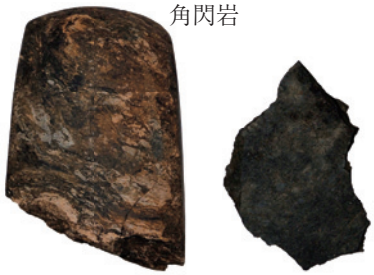


68　No.33 140109 DIA ×40

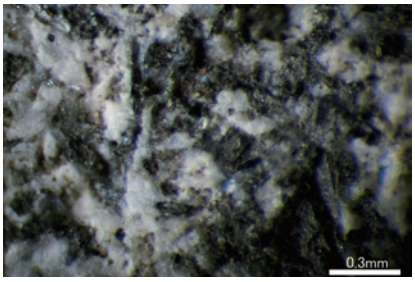


69　No.33　×20

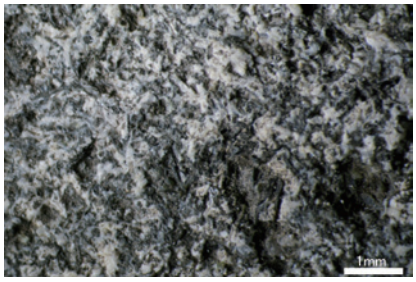
角閃岩



No.31　No.32



70　No.34 130074 DIA ×80

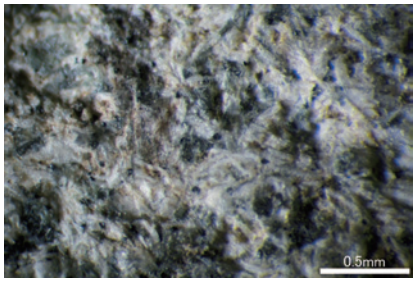


71　No.34　×20

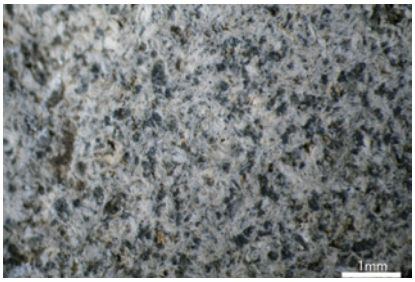
輝緑岩

No.33　No.34

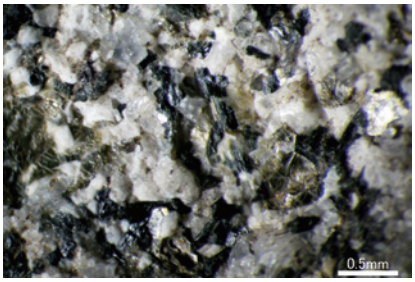
写真１　主な石器石材の顕微鏡写真（５）



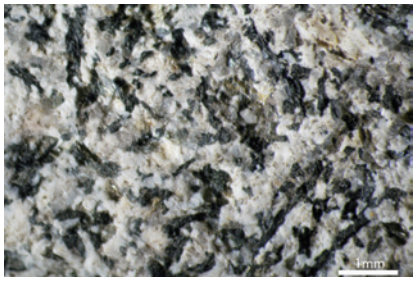
72　No.35 140108(628) DIA ×60



73　No.35　×20



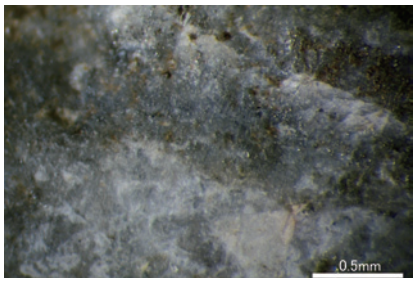
74　No.36 140313 DIO ×40



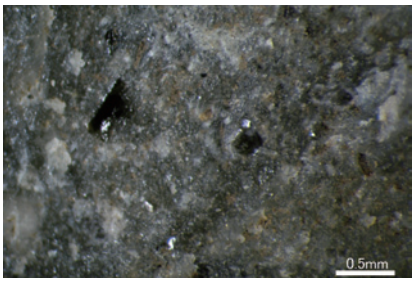
75　No.36　×20

76　No.37 140312(626) DIO-POR ×20

77　No.37　×20

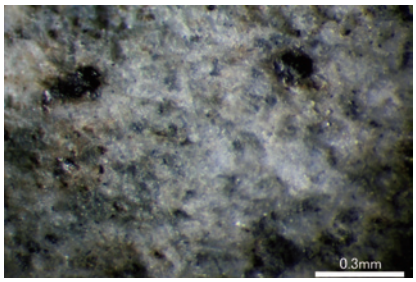


78　No.38 140112 NOH ×60

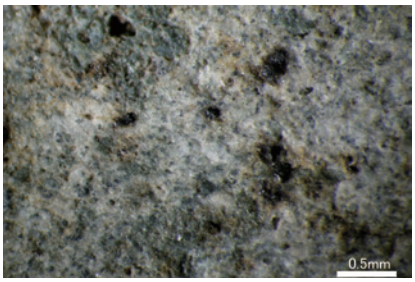


79　No.38　×40

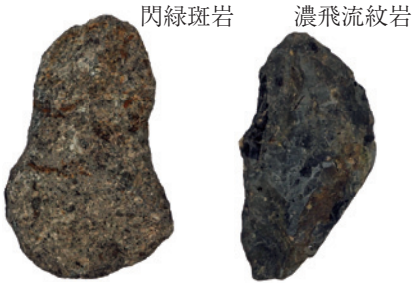
No.35　No.36



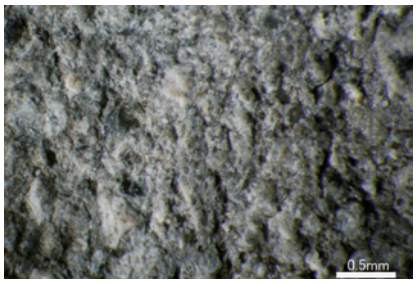
80　No.39 140149 GT ×100



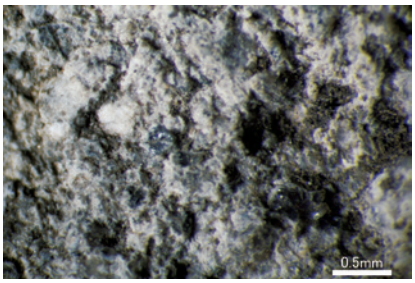
81　No.39　×40



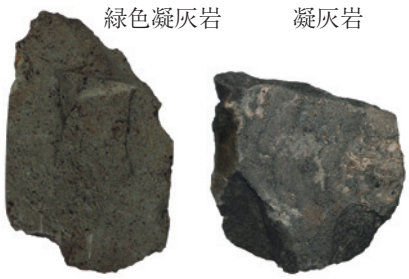
No.37　No.38



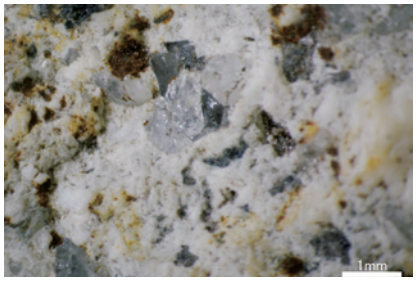
82　No.40 130076 TU ×40



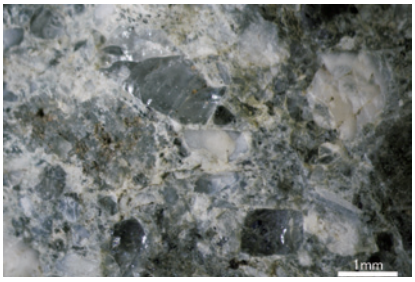
83　No.40　×40



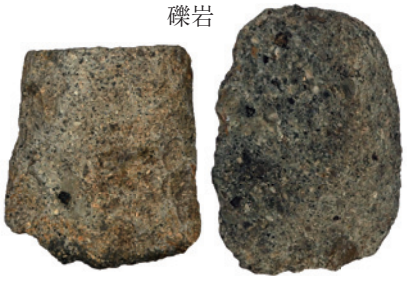
No.39　No.40



84　No.41 130086(631) CON ×20

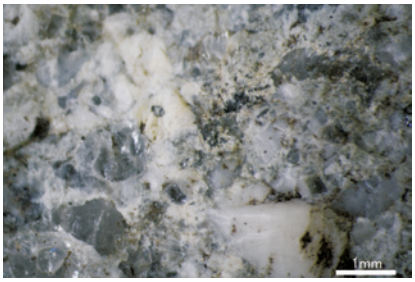


85　No.42 140131 CON ×20

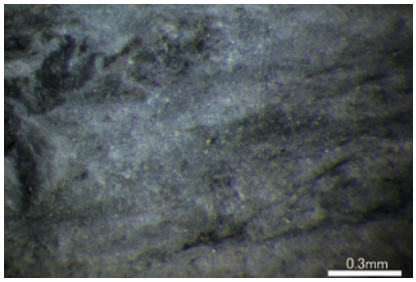


No.41　No.42

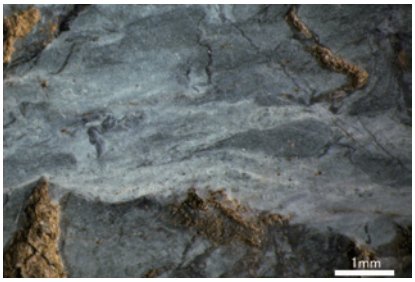
写真１　主な石器石材の顕微鏡写真（６）



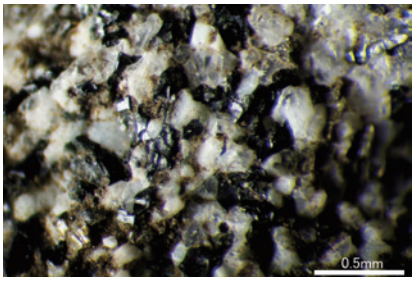
86　No.42 CON ×20



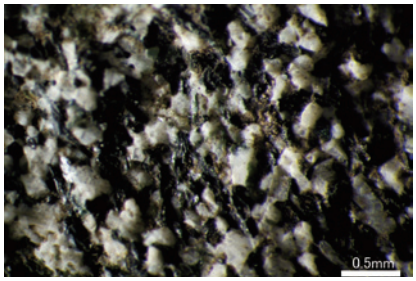
87　No.43 130072 SCH ×80



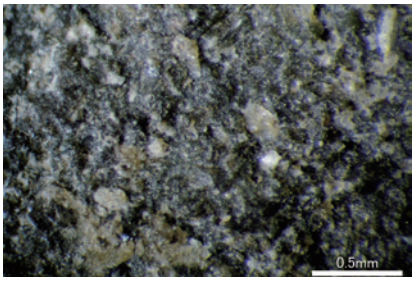
88　No.43　×20



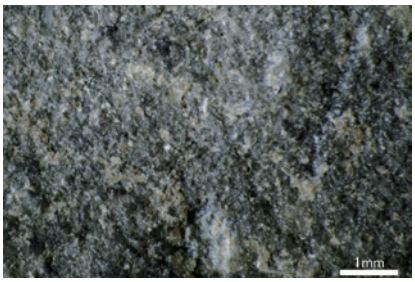
89　No.44 140004(624) GNS ×60



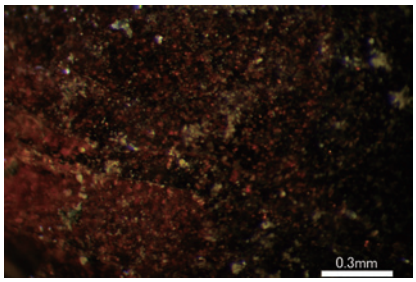
90　No.44　×40



91　No.45 130084(615) DIA？ ×60

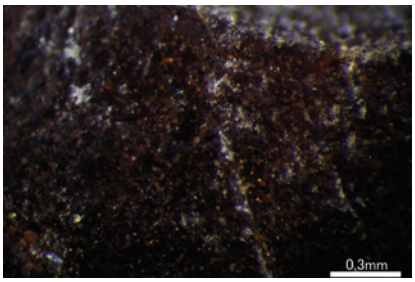


92　No.45　×20

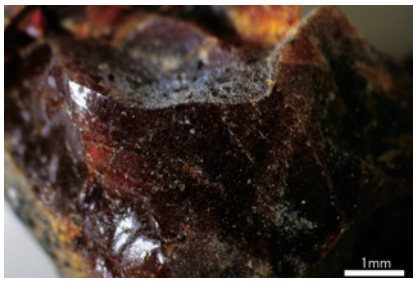


93　No.46 140144(601) AMB ×80

No.43　No.44

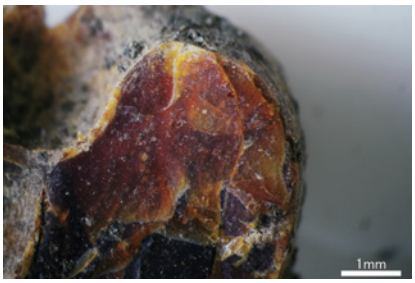


94　No.46　×80

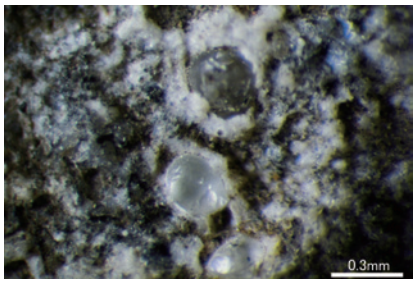


95　No.46　×20

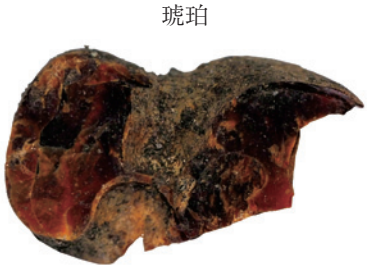
No.45



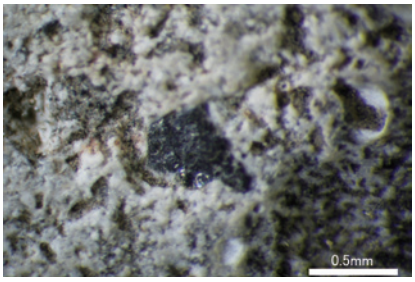
96　No.46　×20



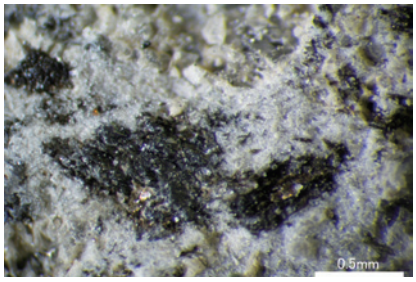
97　No.47 130077(645) TU ×80



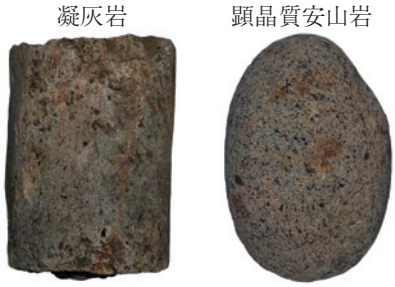
No.46



98　No.47 ×60 黒雲母

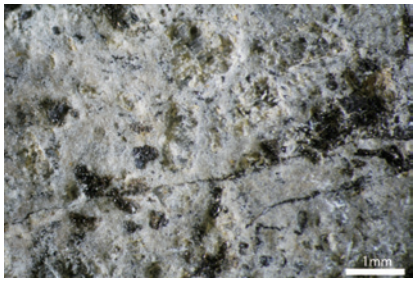


99　No.48 130088(634) AN-C ×60

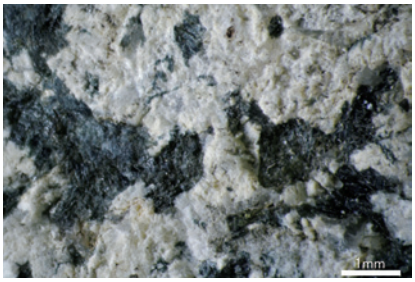


No.47　No.48

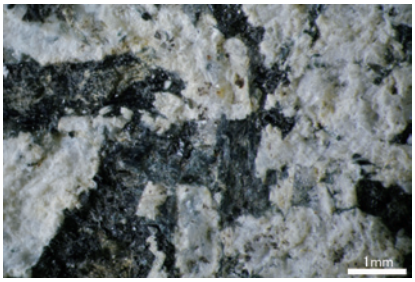
写真１　主な石器石材の顕微鏡写真（７）



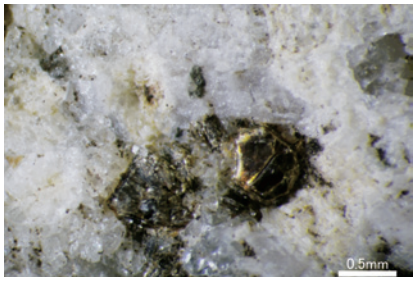
100　No.48 AN-C ×20



101　No.49 140128(638) DIO ×20

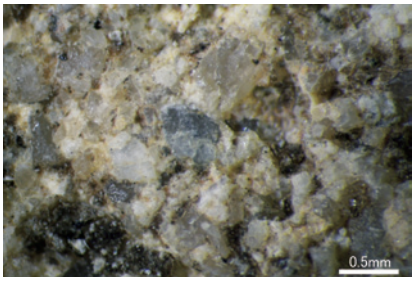


102　No.49　×20

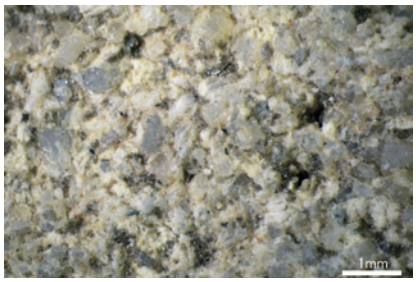


103　No.50 140122 GR-DIO ×40 黒雲母

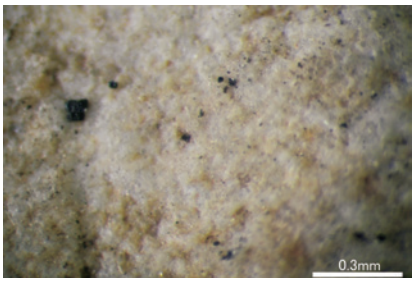
104　No.50　×20



105　No.51 140304(644) SA-A ×40

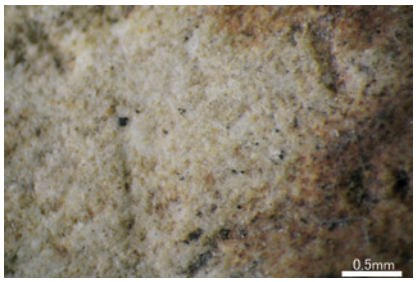


106　No.51　×20

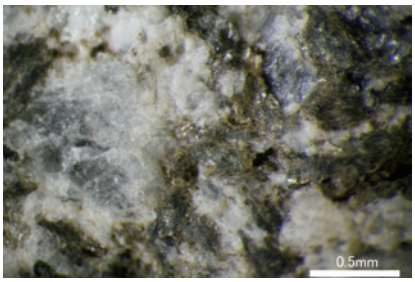


107　No.52 140002 TU-acid ×100

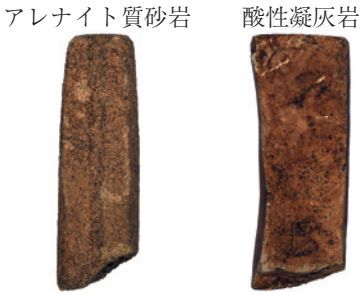
No.49　No.50



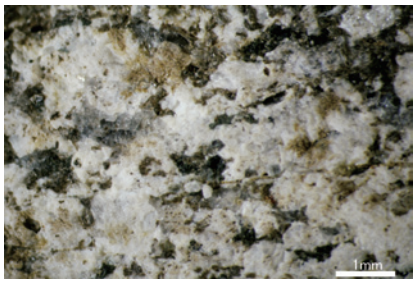
108　No.52　×40



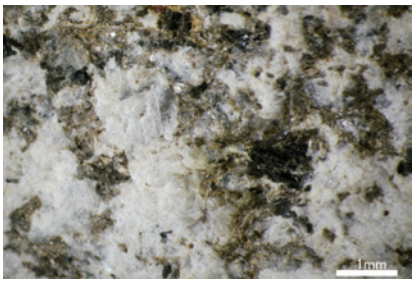
109　No.53 140130 MYL ×60



No.51　No.52



110　No.53　×20



111　No.53　×20

No.53

写真１　主な石器石材の顕微鏡写真（８）

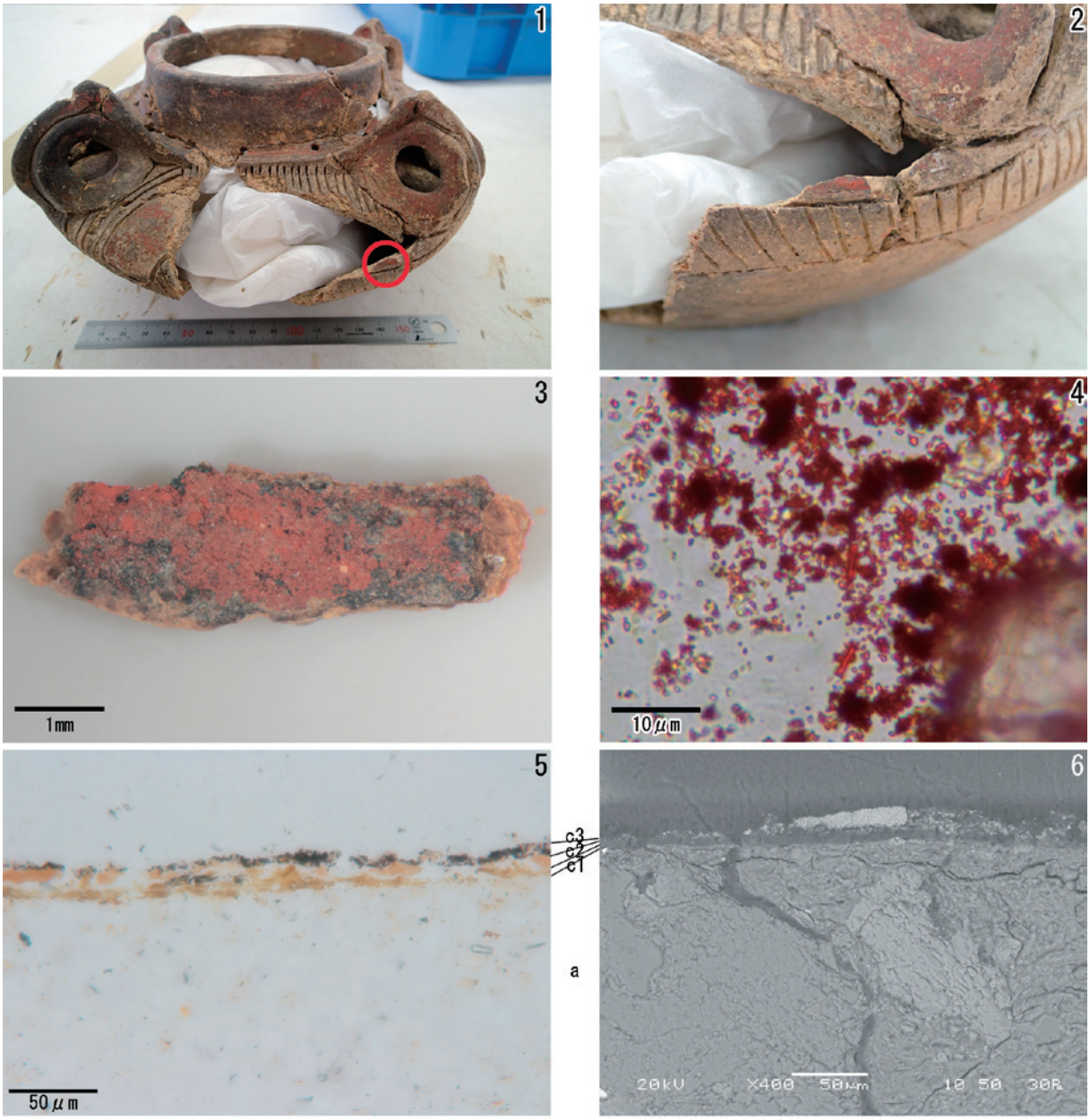


写真２　土器外面赤色塗膜の塗膜構造

1. 分析対象土器　2. 試料採取位置拡大　3. 採取試料　4. 赤色顔料の生物顕微鏡写真
5. 塗膜断面の生物顕微鏡写真　6. 塗膜断面のSEM反射電子像

図版1

遠景

1.　B・C・D地区遠景（南から）　2.　A地区竪穴建物・道路状遺構（北東から）

竪穴建物・土坑墓

1. SI400・SI401遺物出土状況（東から）
2. SI400縄文土器出土状況（東から）
3. SK203・SK204遺物出土状況（南から）
4. SK204縄文土器出土状況（南西から）
5. SK207縄文土器出土状況（北から）
6. SK218縄文土器出土状況（南西から）
7. SK225縄文土器出土状況（南から）
8. SK255縄文土器出土状況（東から）

図版3

土坑墓

1. SK260縄文土器出土状況（西から）　2. SK261（北から）　3. SK265（北西から）
4. SK266縄文土器出土状況（北から）　5. SK390（南から）　6. SK390縄文土器出土状況（南西から）
7. SK391（南東から）　8. SK810縄文土器出土状況（東から）

縄文土器

図版5

1

2

縄文土器

1.　SI400出土土器　2.　土坑墓出土土器

100

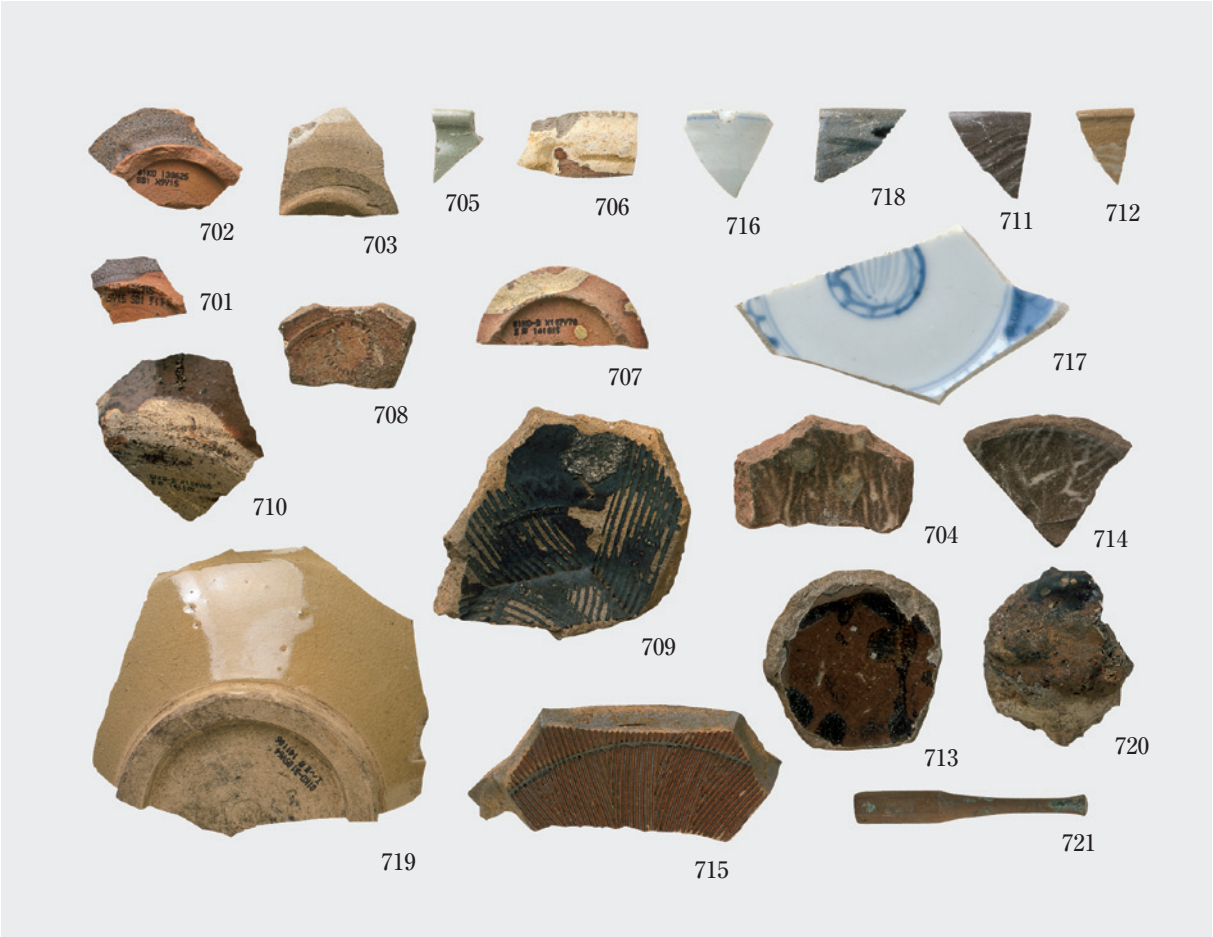
89

181

縄文土器

SK207（89）　SK390（100）　包含層

図版7



石製品・陶磁器・金属製品

SI4（605・606）　SI400（610・611）　SK772（607）　SK260（604）　SK390（601）　SD1（701～704）
包含層

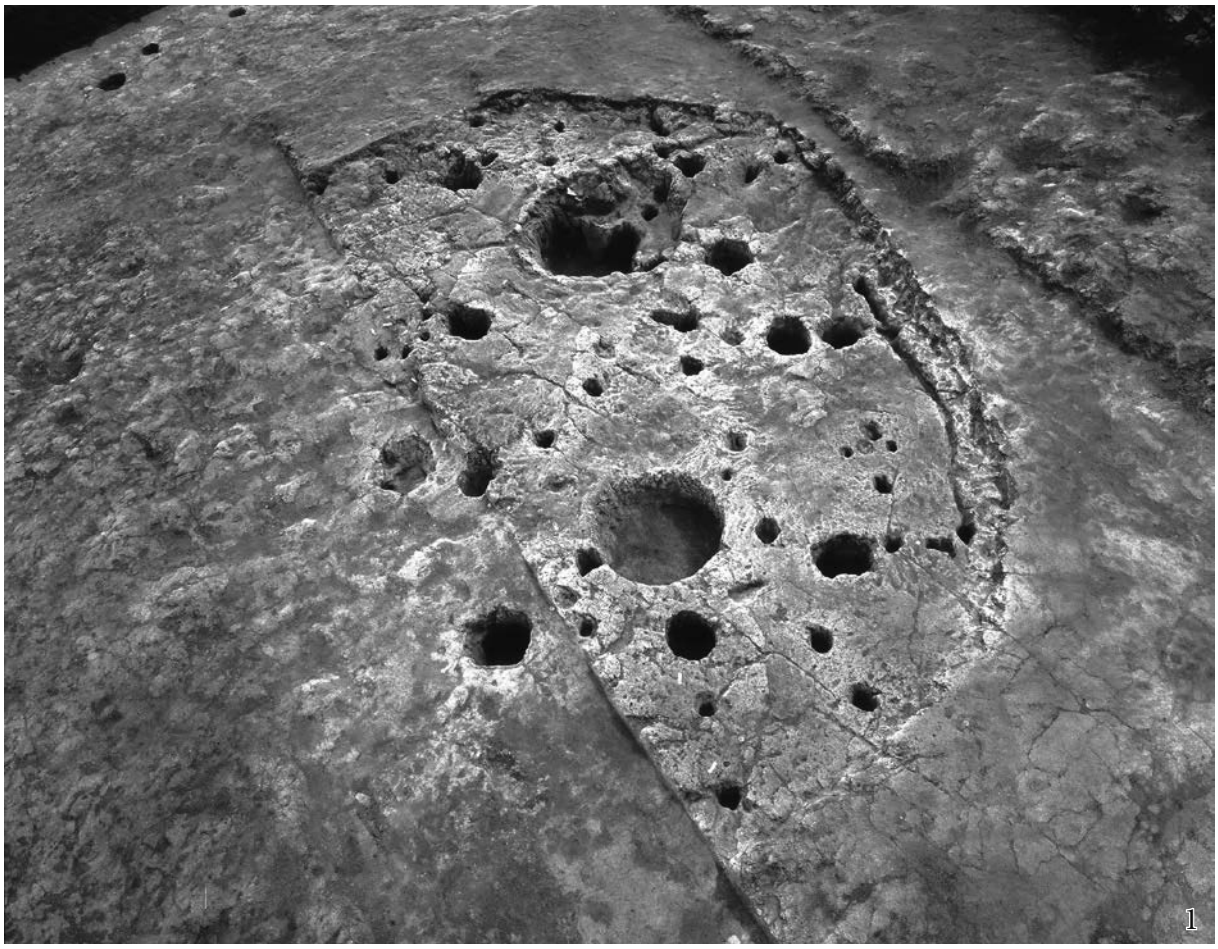
航空写真

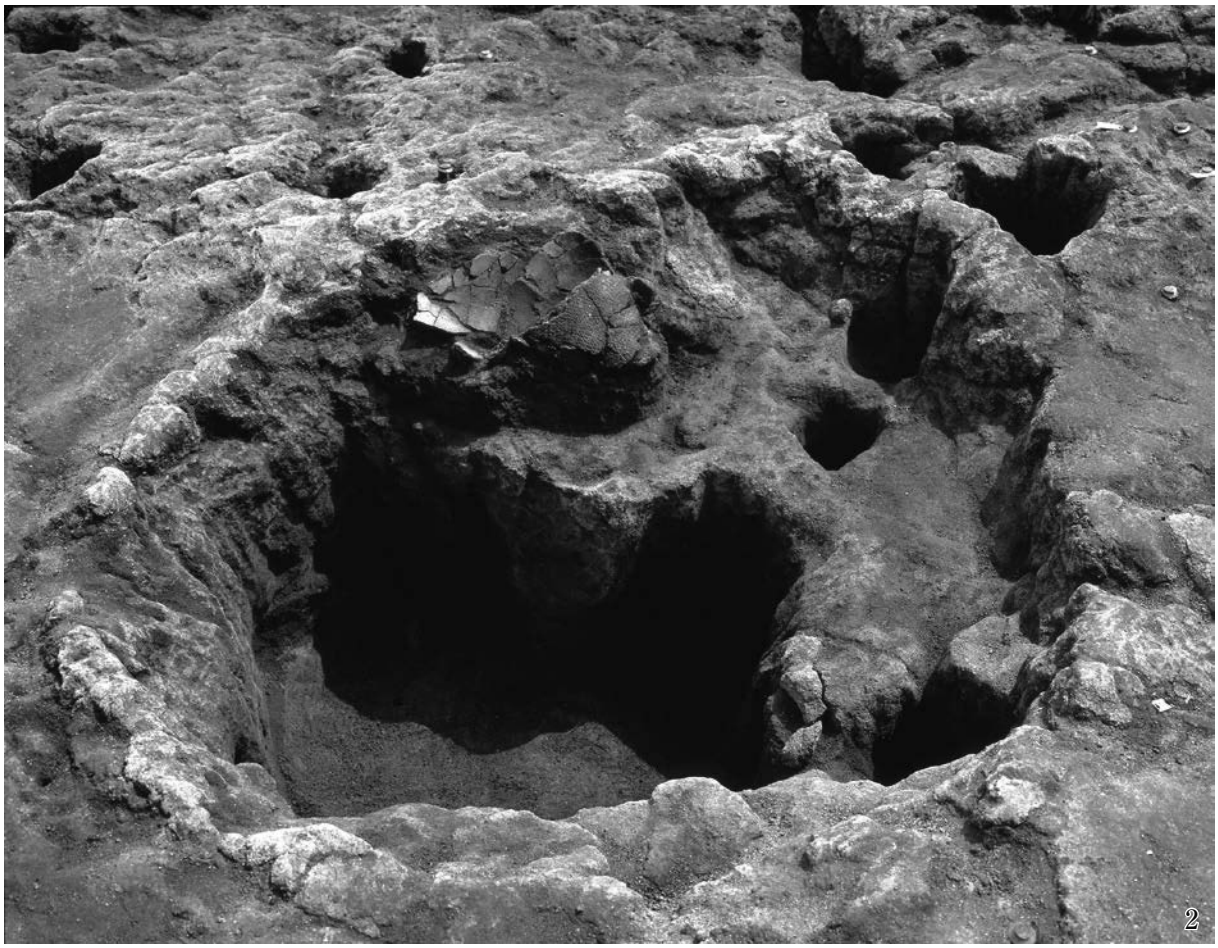
1.　1947年11月米軍撮影　2.　2001年 9 月国土地理院撮影

図版9

全景

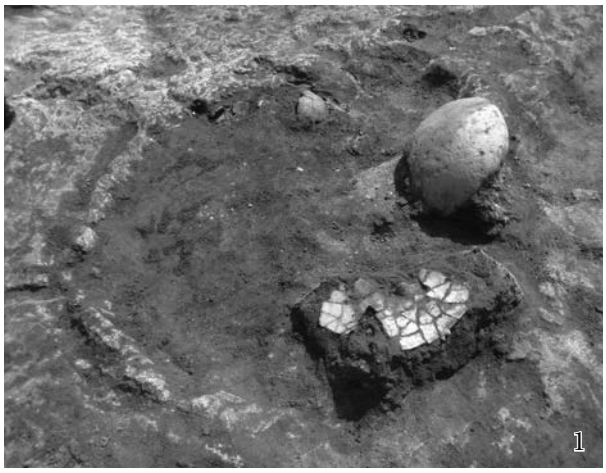
1.　A地区全景（北から）　2.　A地区中央の土坑群（東から）

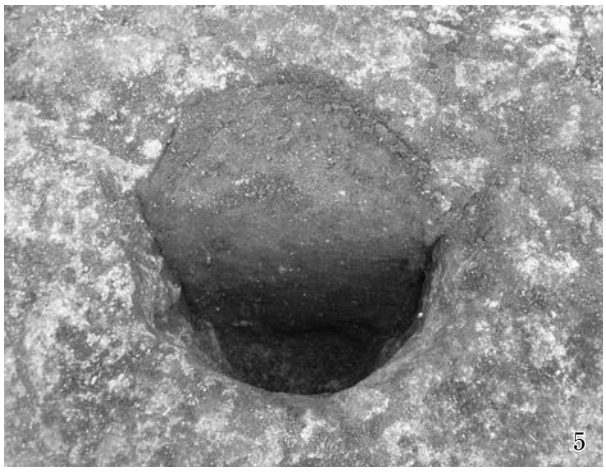


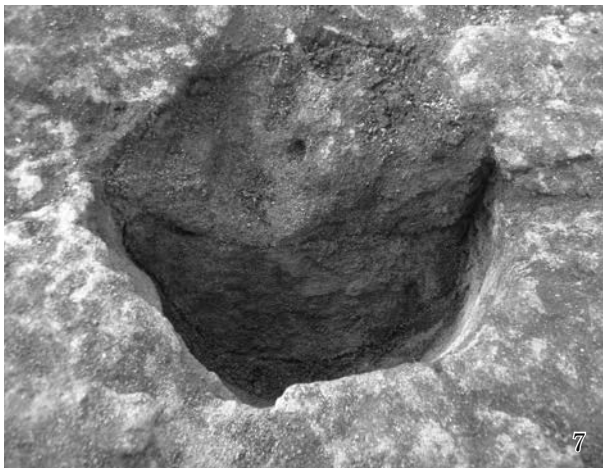


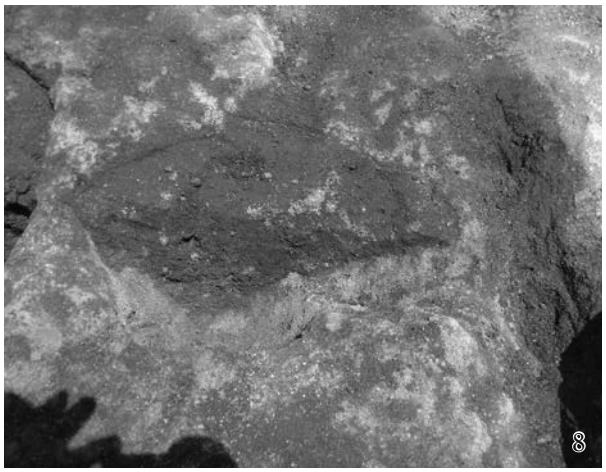
竪穴建物

1. SI4（南から）　2. SI4-P12縄文土器状況（北から）









竪穴建物

1. SI4-P12検出状況（北から）　2. SI4-P12縄文土器出土状況（南から）　3. SI4-P12（東から）
4. SI4-P1（南西から）　5. SI4-P2（南西から）　6. SI4-P9（西から）
7. SI4-P11（東から）　8. SI4-P8・溝（南から）

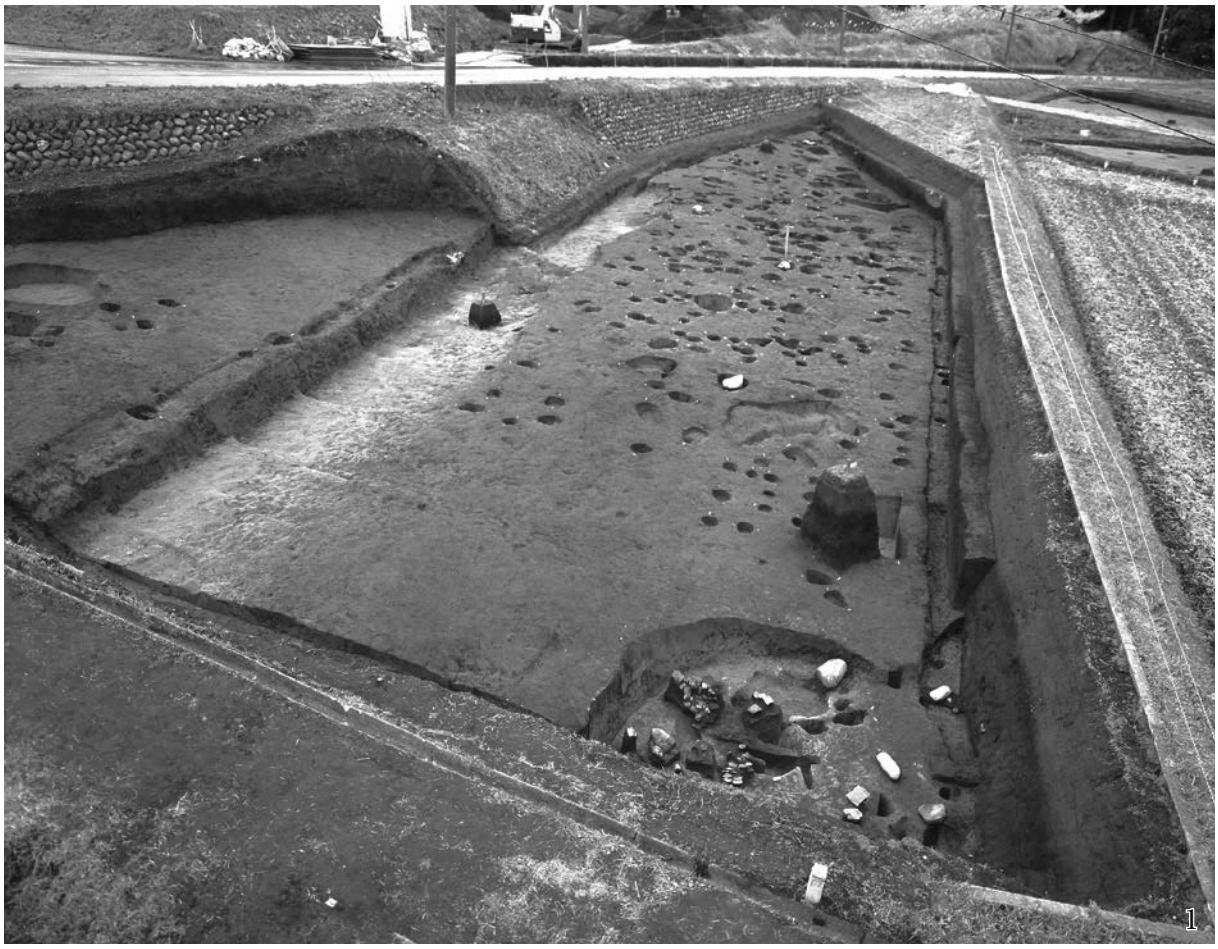
道路状遺構

1. SF3（北から）　2. SD1（南から）　3. SD2（北から）　4. SD1（北から）　5. SF3（東から）

図版13

全景

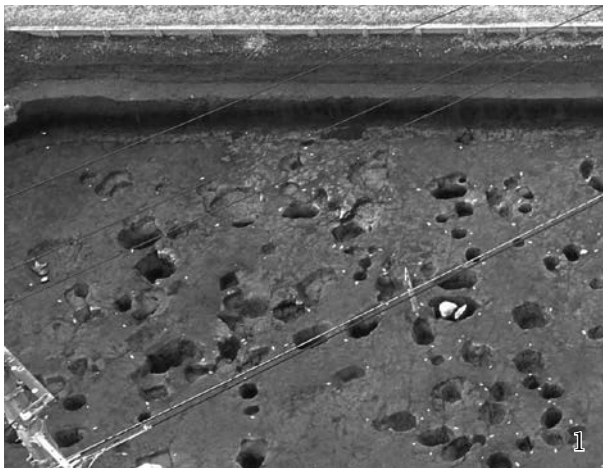
1.　B・C地区全景（北から）　2.　D地区全景（東から）

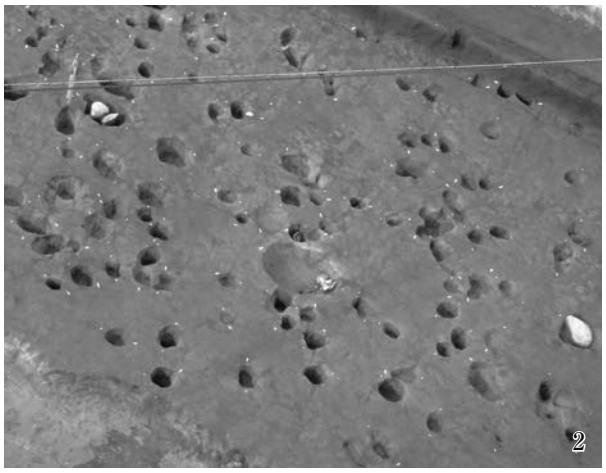


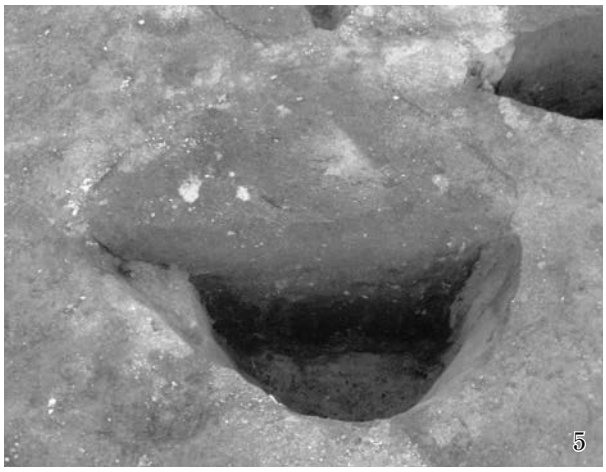
竪穴建物・掘立柱建物

1.　SI400・SI401（北東から）　2.　SB1～SB9（南東から）

図版15

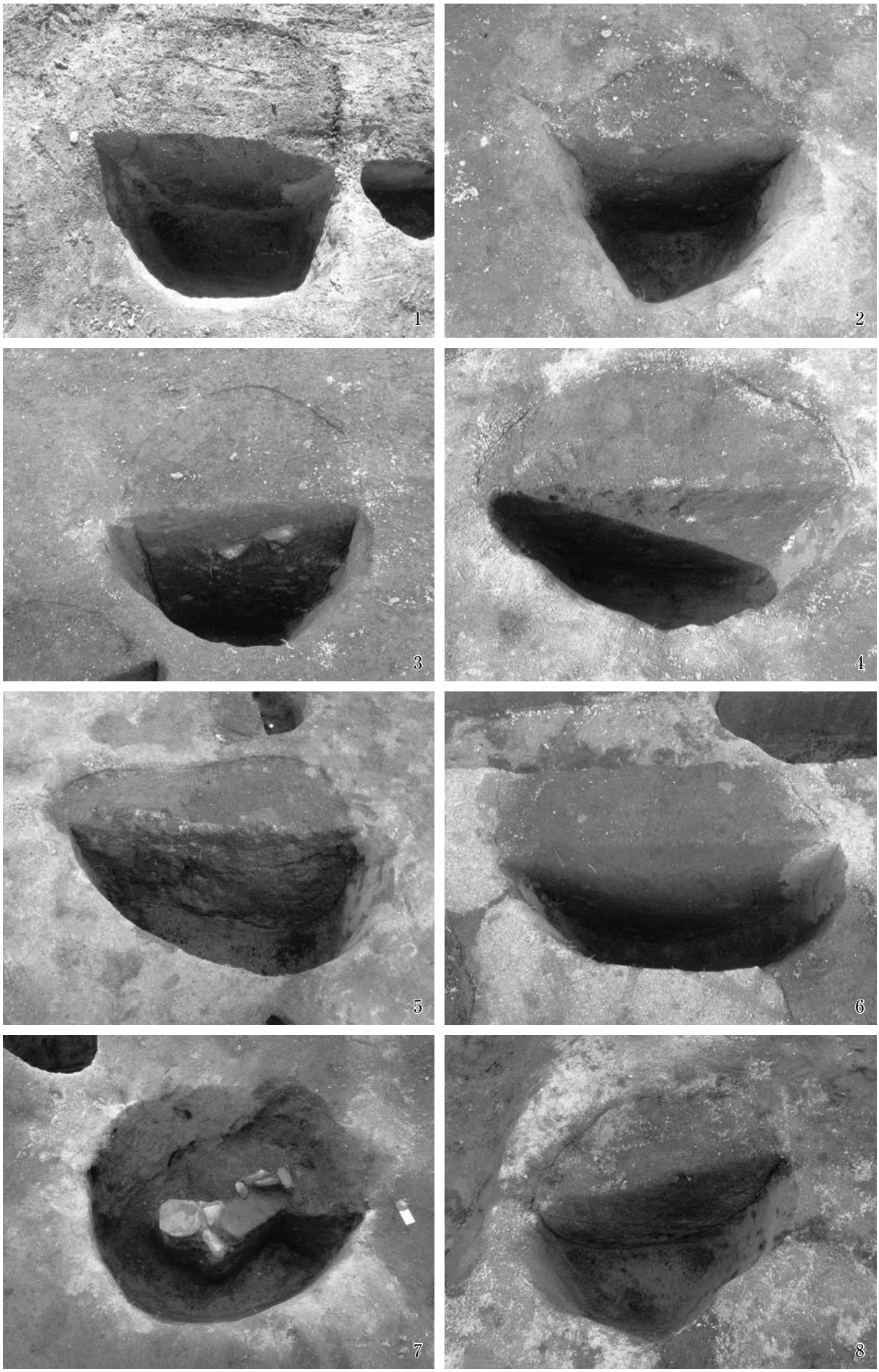






掘立柱建物

1. SB1・SB2（南東から）　2. SB4・SB5（南東から）　3. SB1～SB5（西から）　4. SB6～SB9（南東から）
5. SB1・SP295（南西から）　6. SB1・SP423（東から）　7. SB1・SP331（北西から）　8. SB2・SP473（西から）

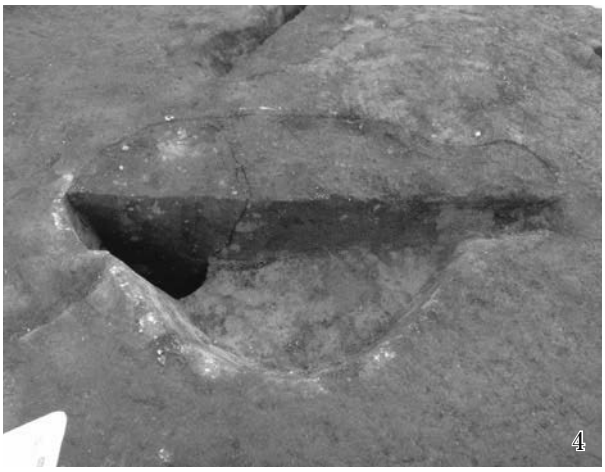


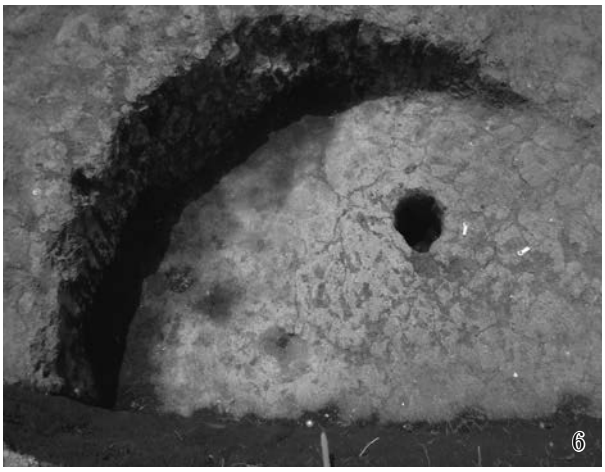
掘立柱建物

1. SB3・SP276（北から）　2. SB4・SP345（北東から）　3. SB5・SP398（西から）　4. SB6・SP729（南から）
5. SB7・SP758（北西から）　6. SB7・SP770（西から）　7. SB8・SP781（北から）　8. SB9・SP741（南から）

土坑墓

1. 土坑墓群（南西から）　2. SK260（南東から）　3. SK260（北から）　4. SK260石鏃出土状況（南から）
5. SK390（北西から）





土坑墓・土坑

1. SK201（南東から）　2. SK208（北西から）　3. SK258（北西から）　4. SK305（北から）　5. SK59（南西から）
6. SK59・60（北から）　7. SK496（南西から）　8. SK705（南から）

11

17

20

54

57

58

縄文土器

SI4（11・17）　SI400（20・54・57・58）

61

66

62

67

60

68

縄文土器

SI400（60～62・66～68）

87

91

90

92

83

93

縄文土器

SB8（83）　SK204（87）　SK207（90）　SK218（91・92）　SK225（93）

96

99

97

105

101

106

127

縄文土器

SK260（96）　SK265（97）　SK266（99）　SK319（105）　SK390（101）　SK391（106）　SK788（127）

159

160

169

193

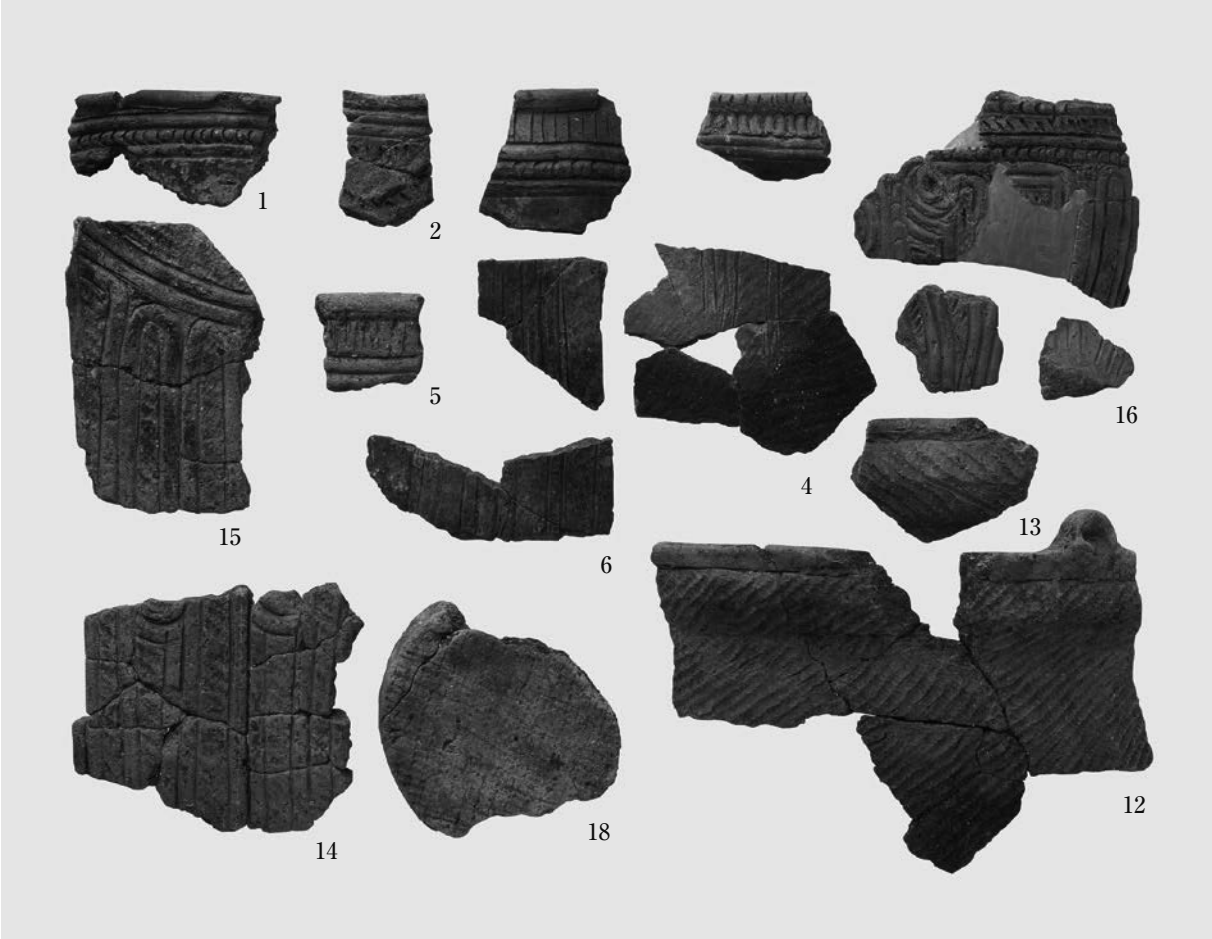
338

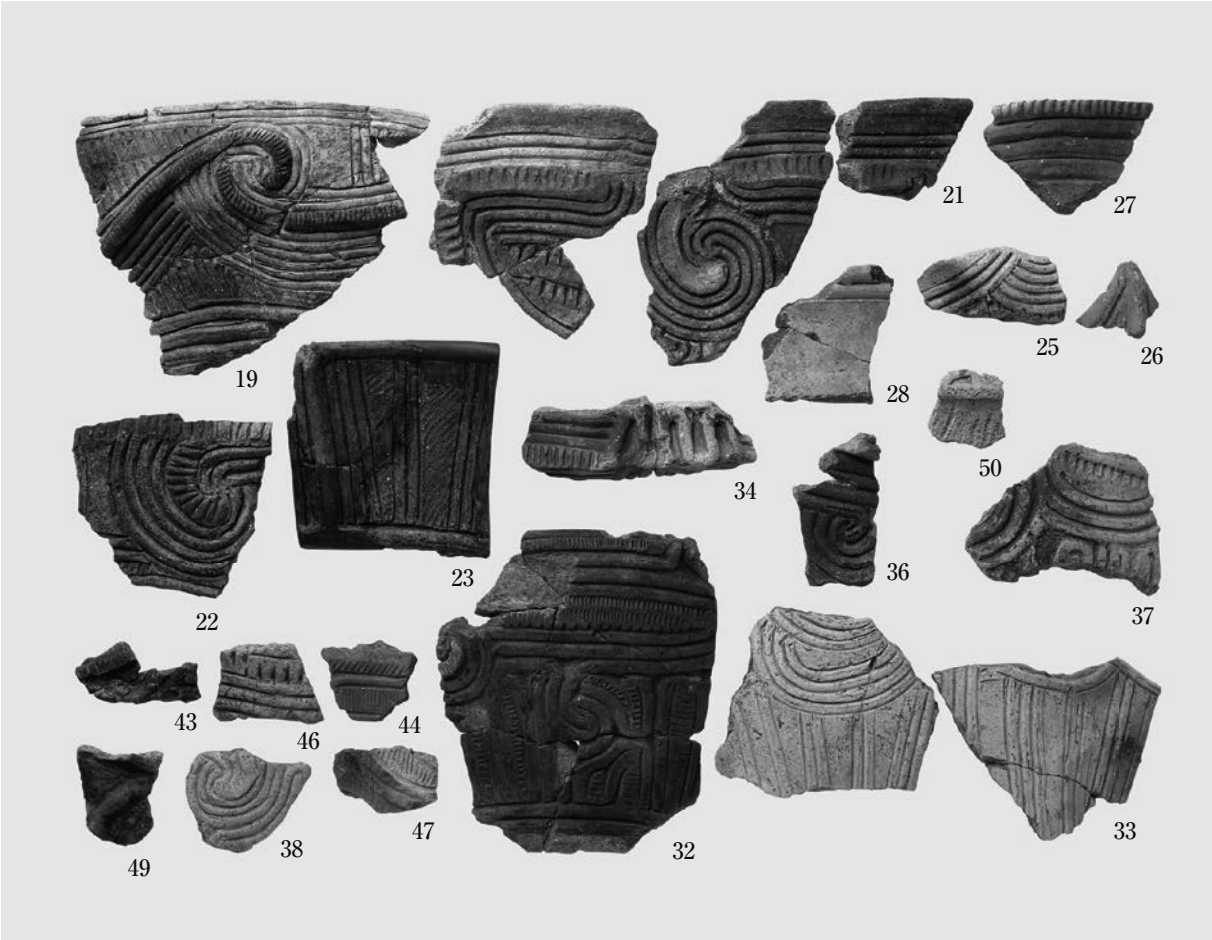
461

502

縄文土器

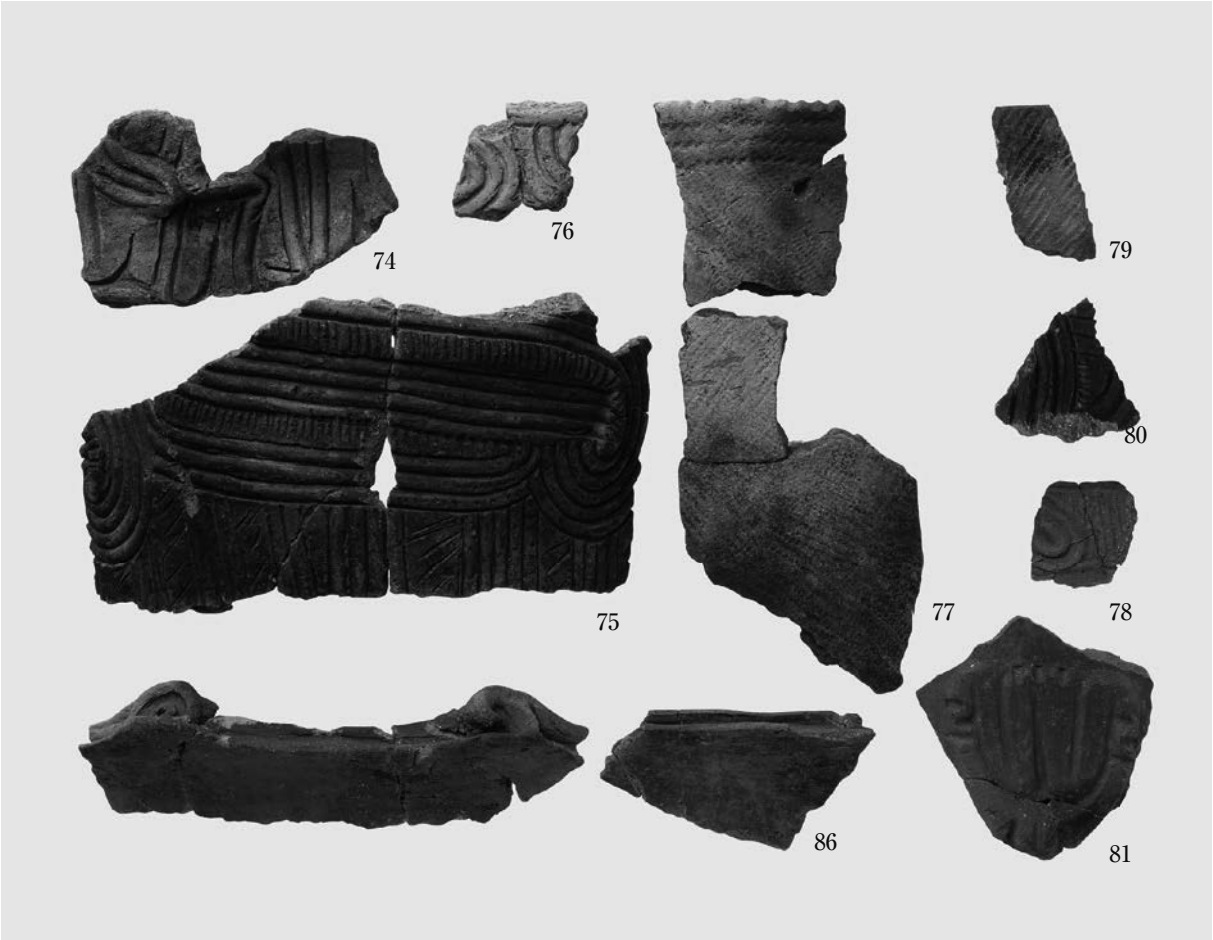
包含層





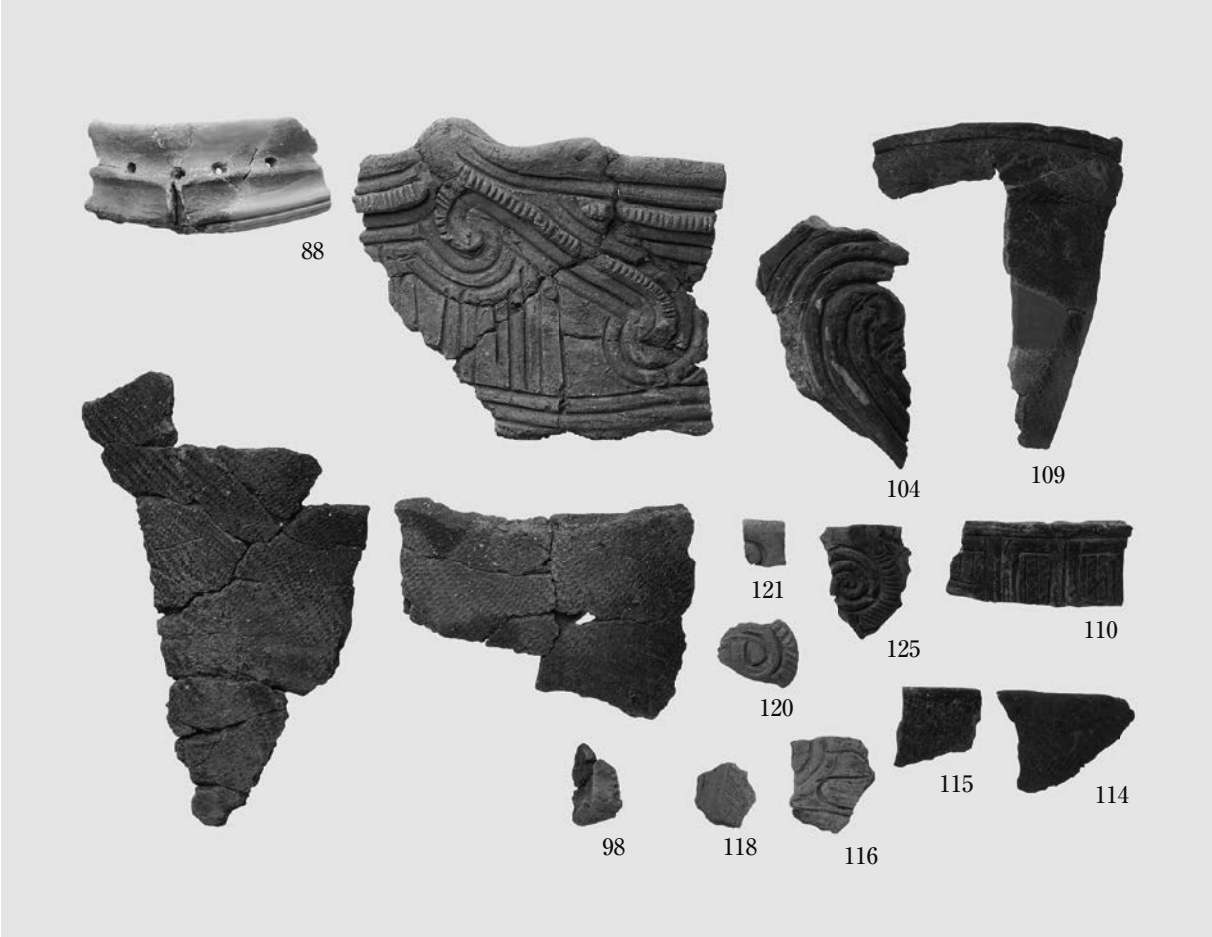
縄文土器

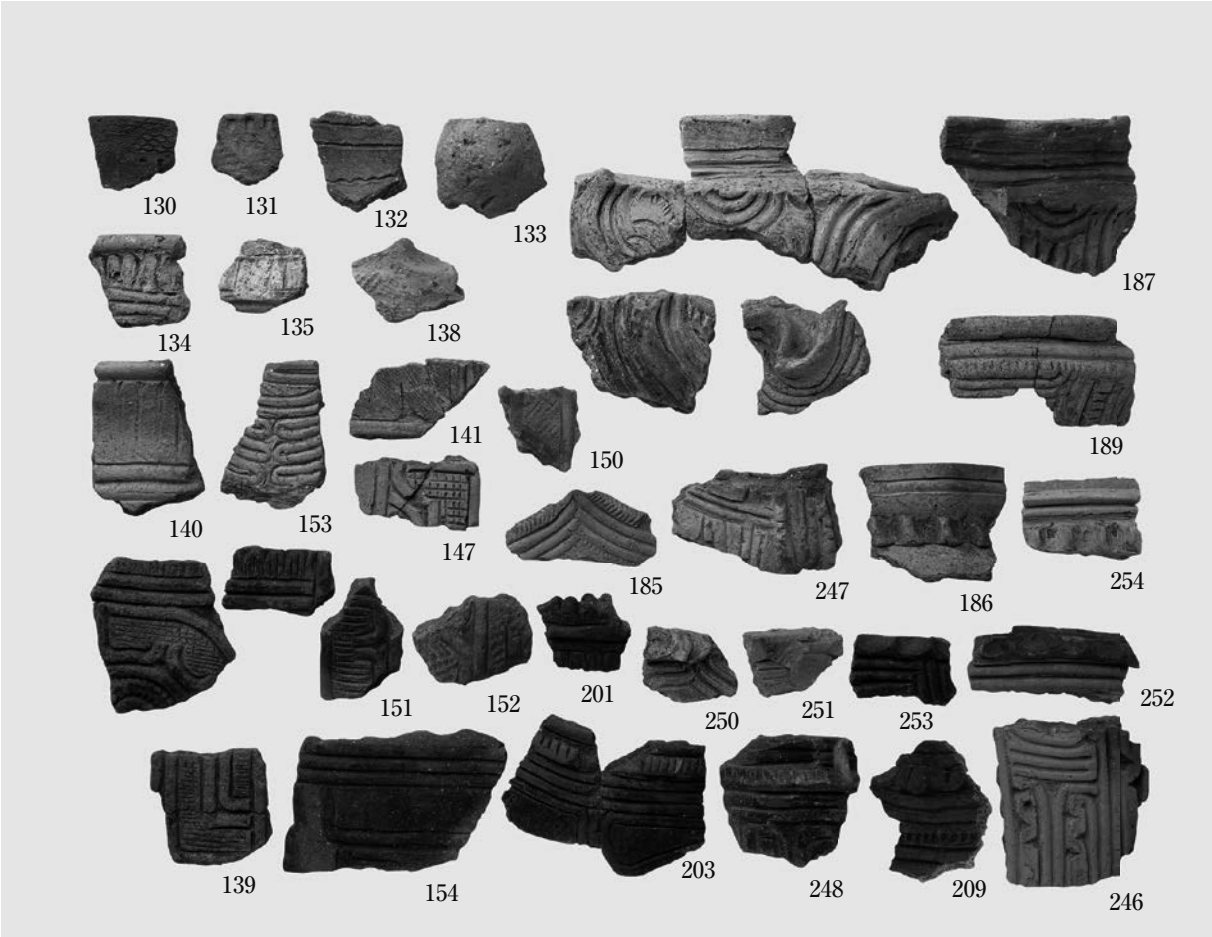
SI4（1・2・4～6・12～16・18）
SI400（19・21～23・25～28・32～34・36～38・43・44・46・47・49・50）



縄文土器

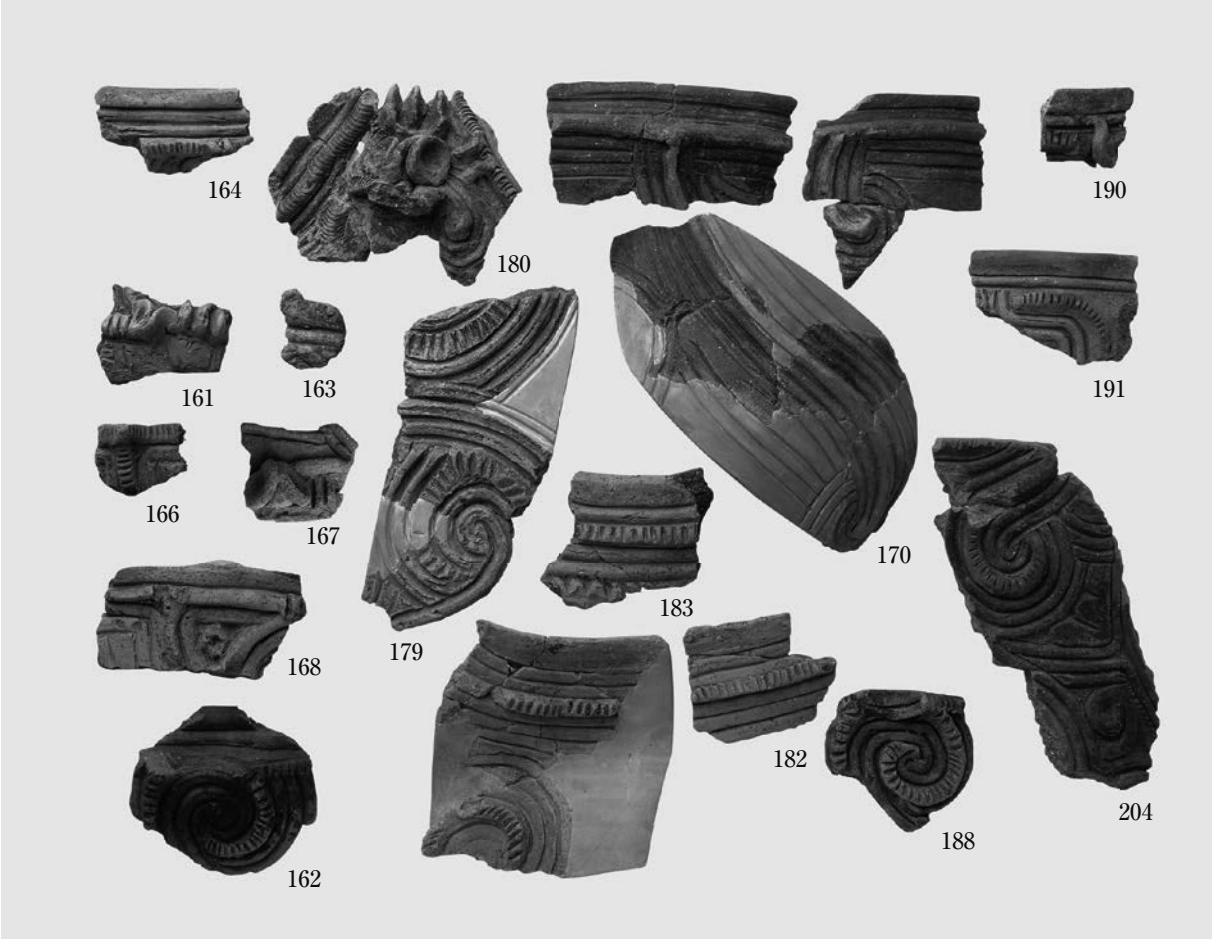
SI400（53・55・56・59・63・69）　SI401（74～76）　SP295（77）　SP423（78）　SP764（86）
SP796（79）　SP798・799（80）　SP798・800（81）

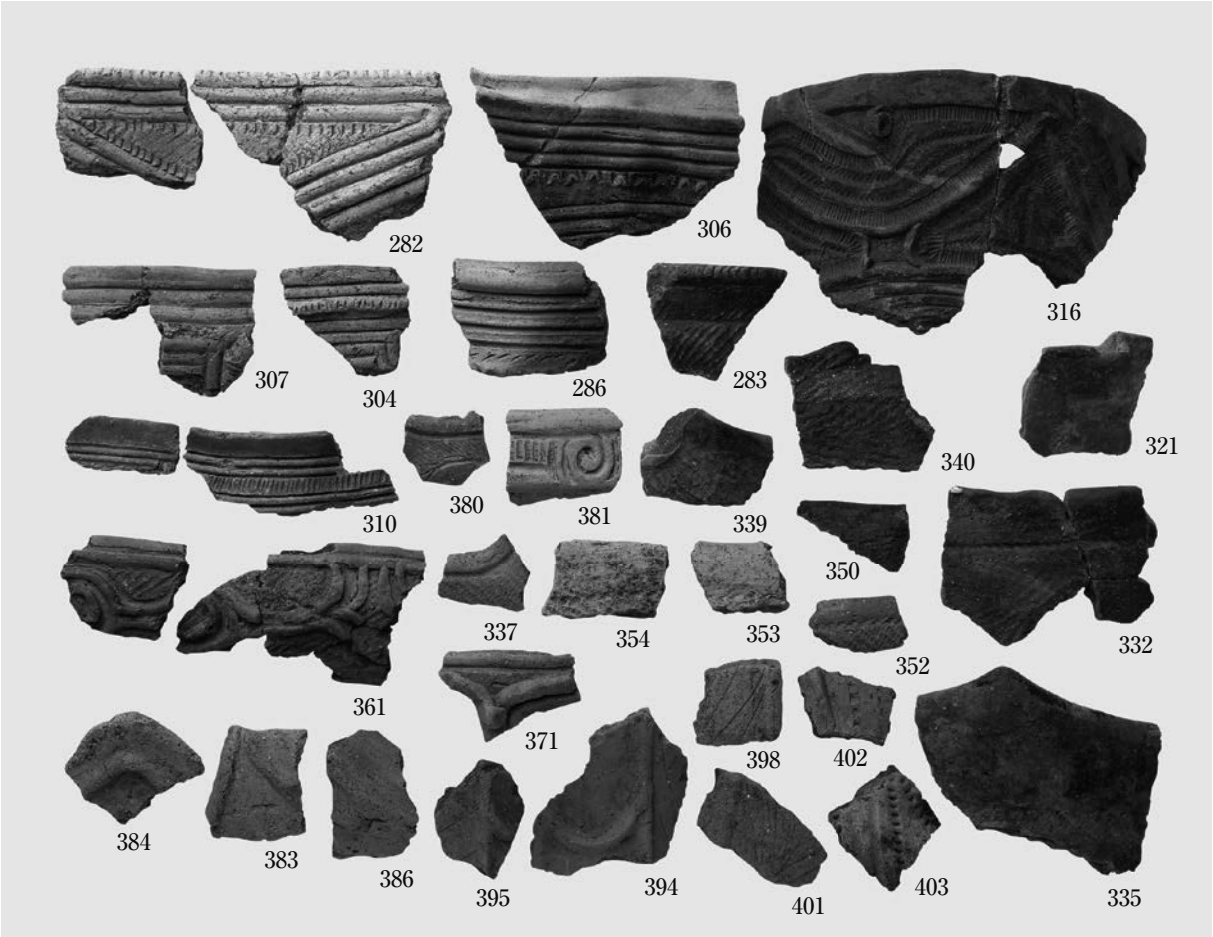




縄文土器

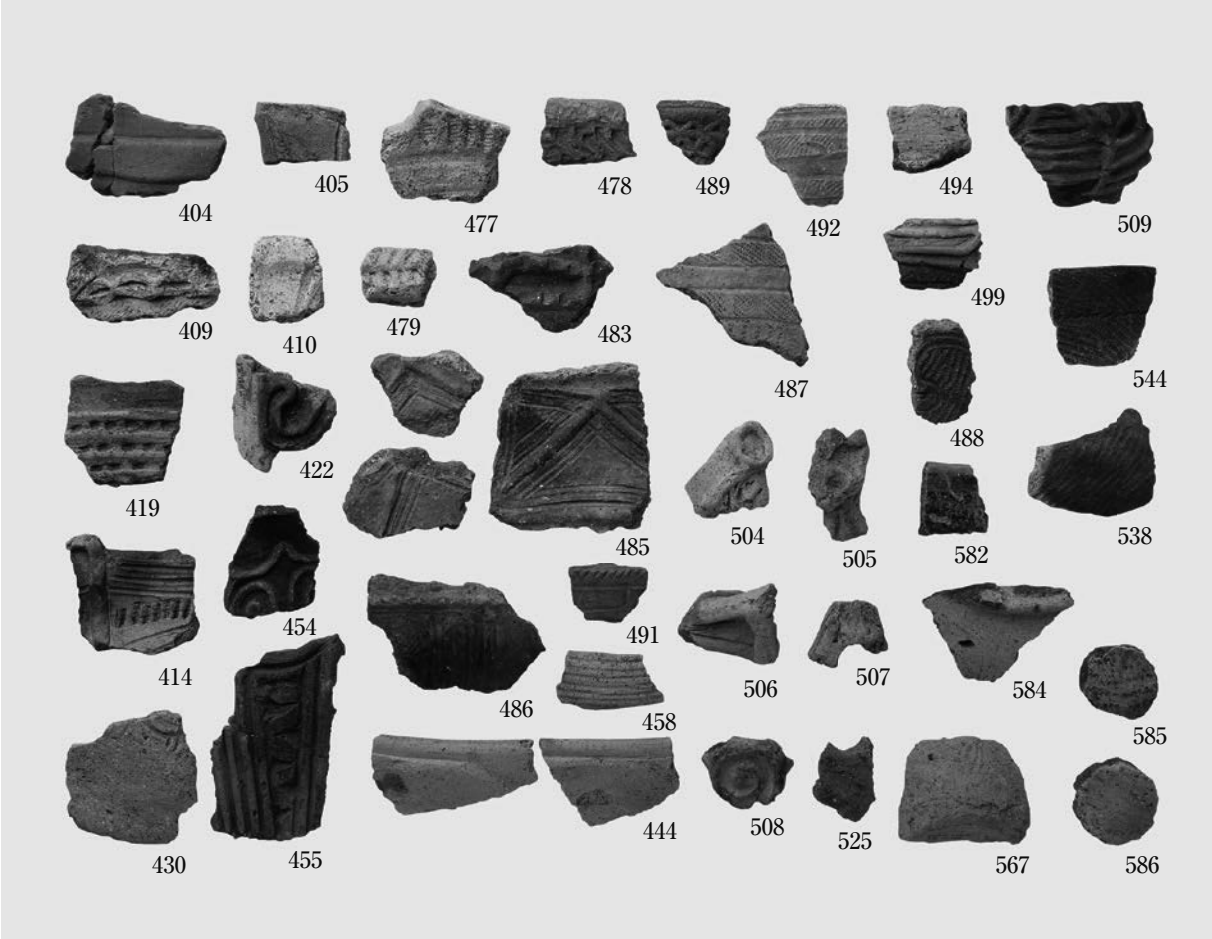
SK5（109・110）　SK201（104）　SK207（88）　SK261（98）　SK364（114）　SK403（115）
SK448（116）　SK495（118）　SK496（120・121）　SK761（125）　包含層

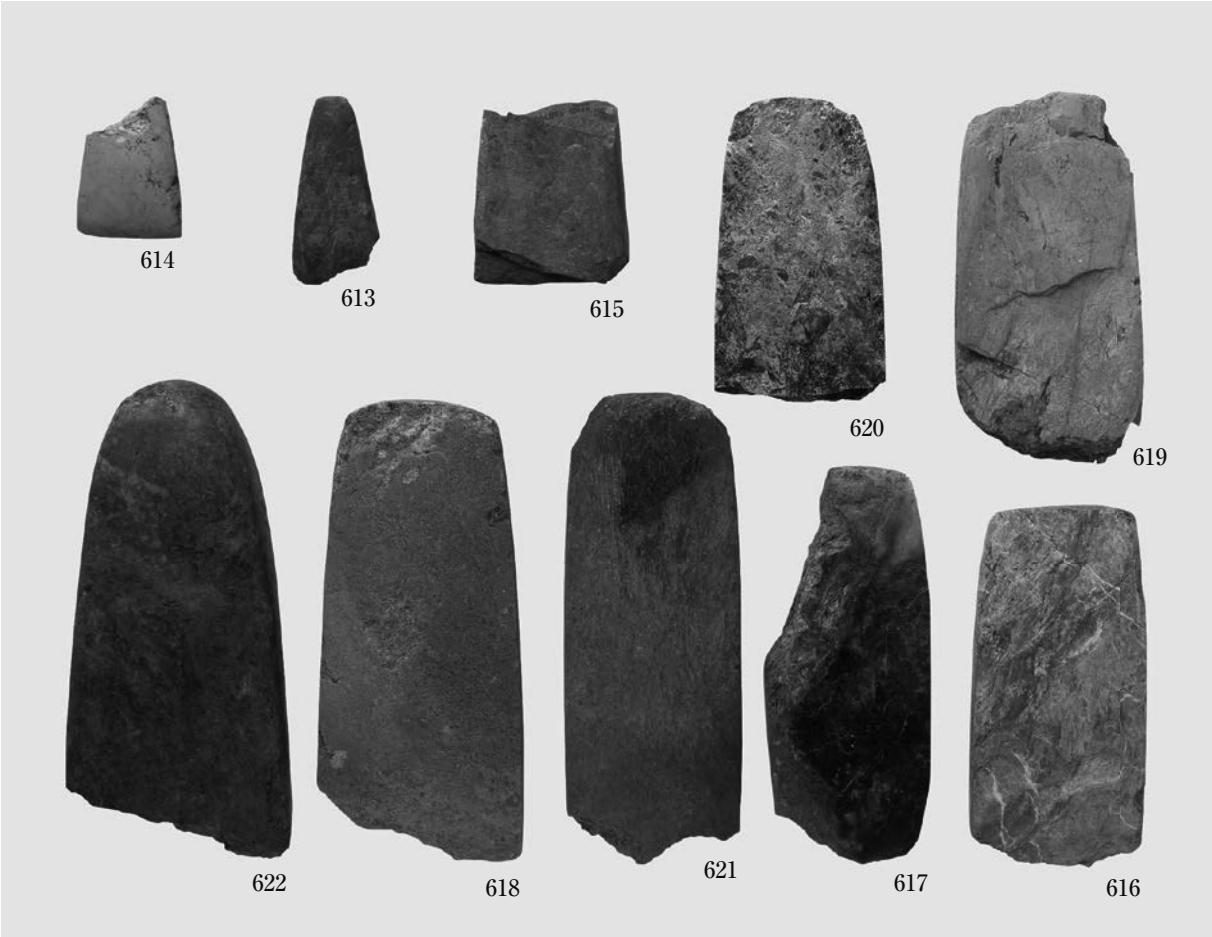

164
180
190
161
163
191
166
167
170
183
168
179
182
204
188
162


282
306
316
307
304
286
283
340
321
310
380
381
339
350
337
354
353
352
332
361
371
398
402
384
383
386
395
394
401
403
335

縄文土器

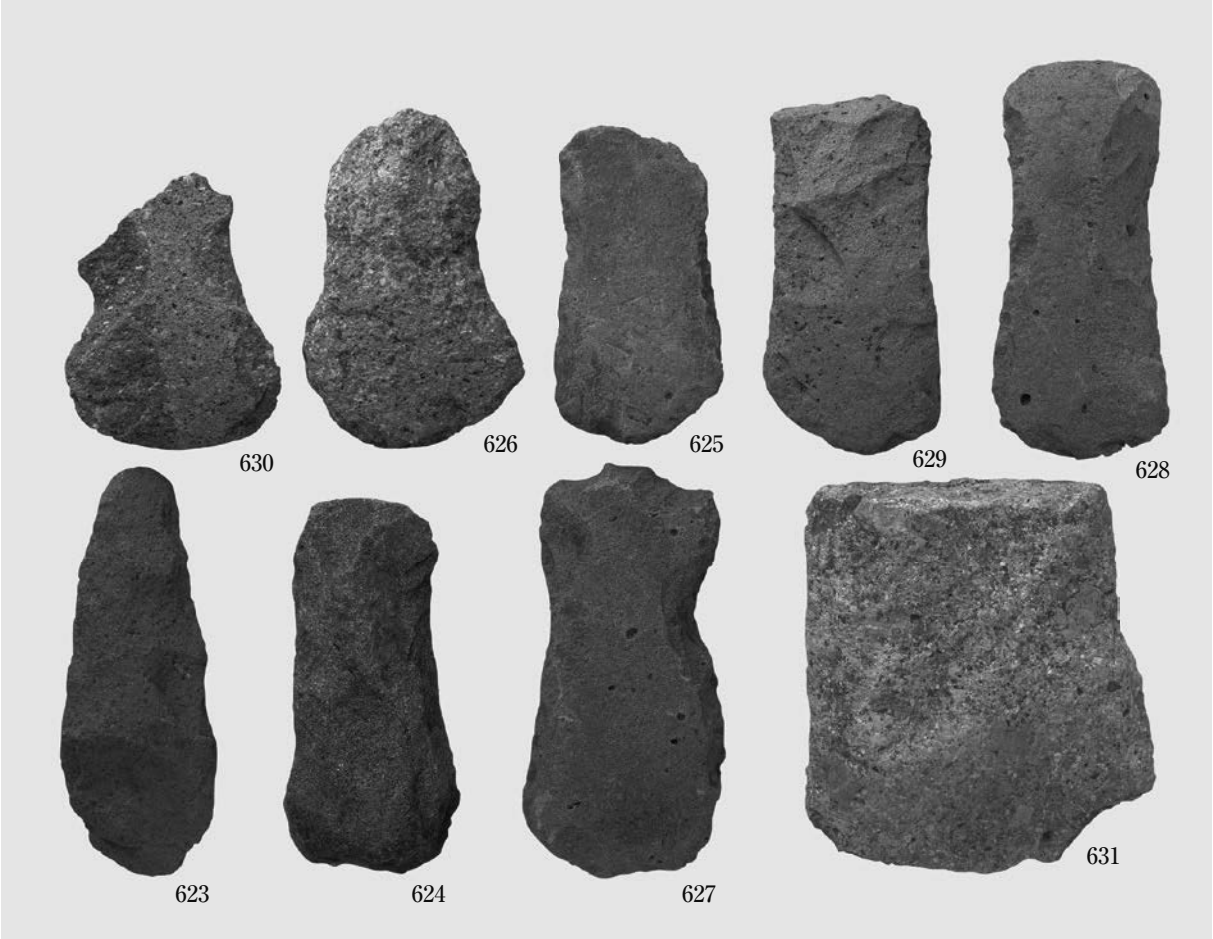
包含層

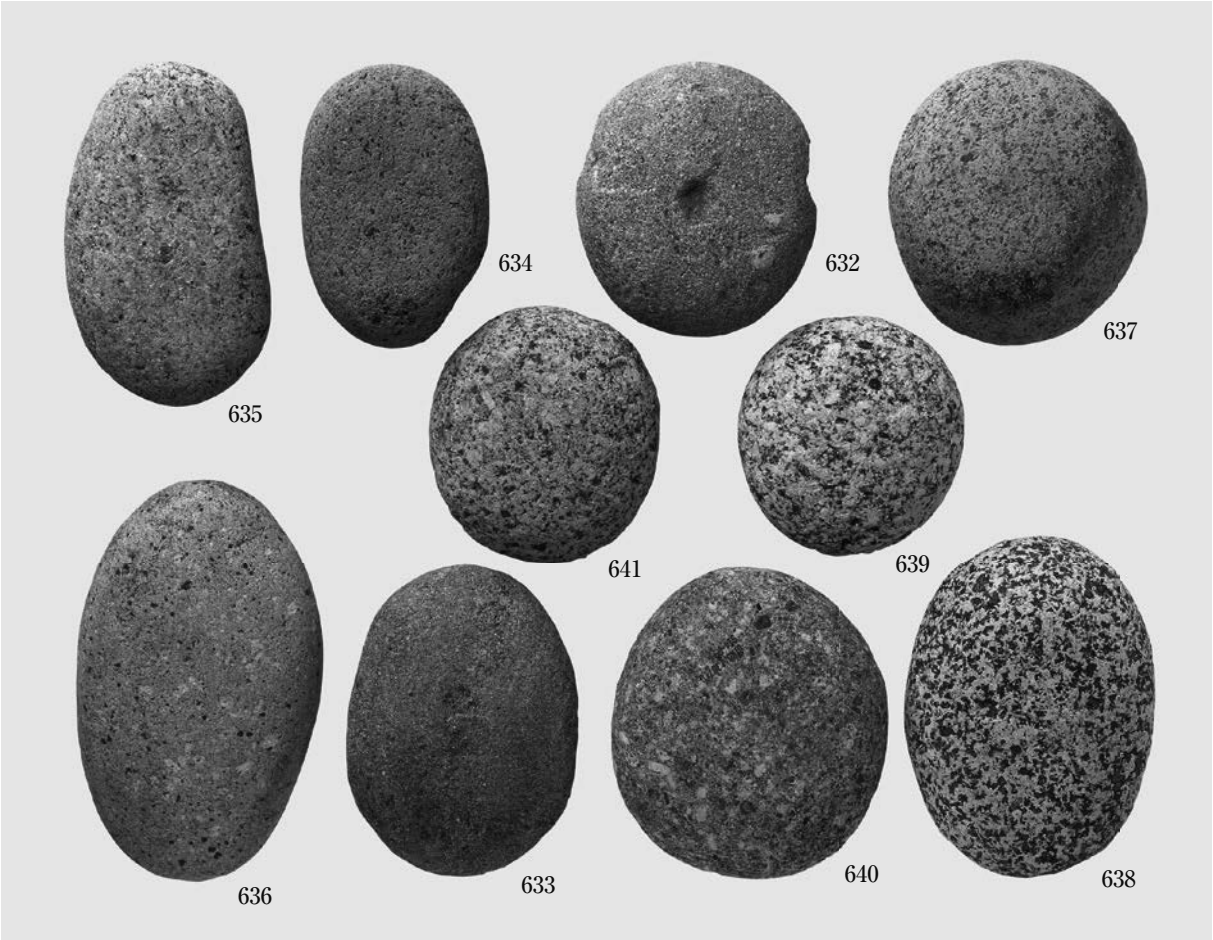




縄文土器・石製品

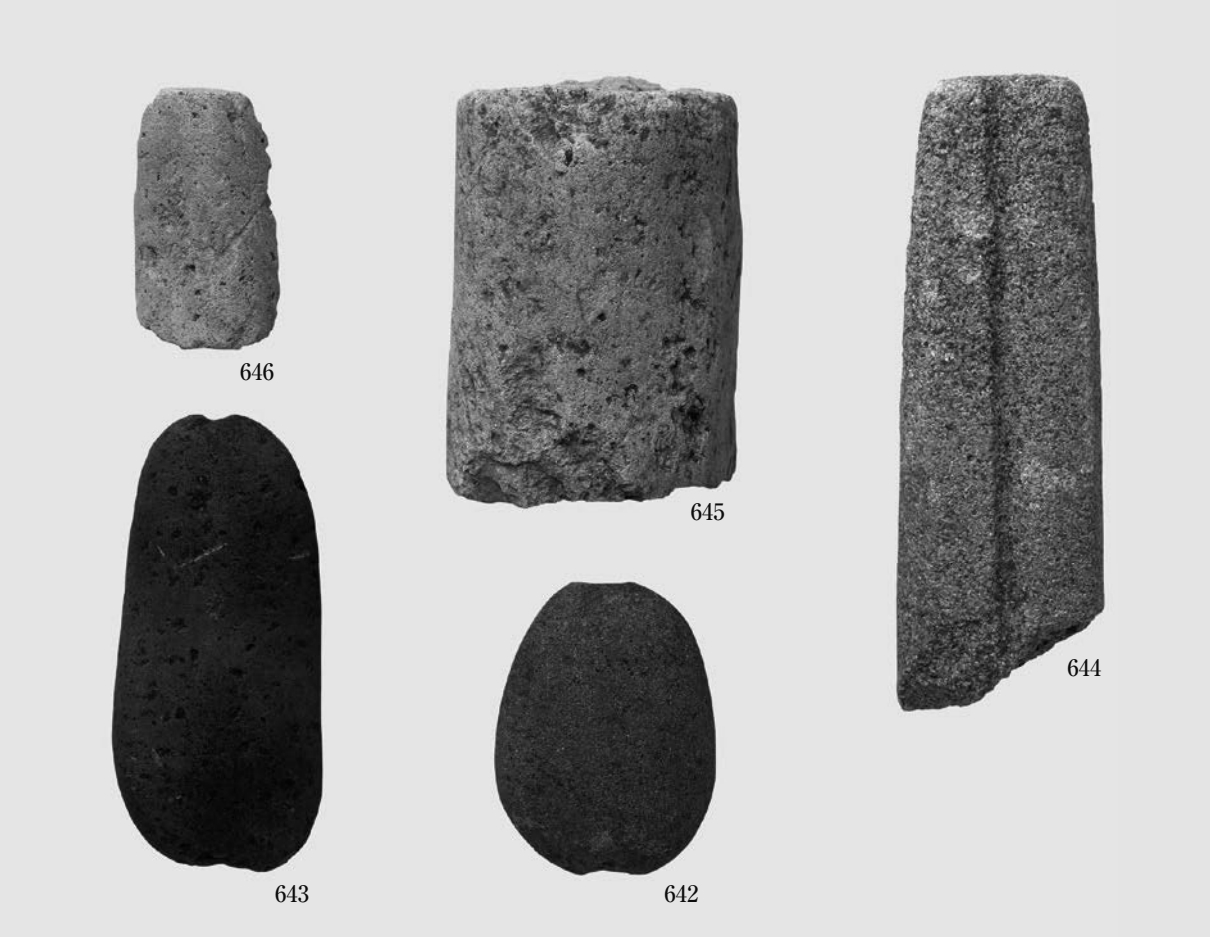
SI400（619・620）　SK5（615）　SD1（613）　包含層





石製品

SI4（633・634・640）　SI400（636・637）　SI401（638・639）　SP287（641）　SK265（635）　SD1（631）
包含層



石製品

SI400（647・649・650）　包含層

報告書抄録

ふりがな	こいとおはぎのいせきはっくつちょうさほうこく
書名	小糸尾萩野遺跡発掘調査報告
副書名	猪谷楡原道路建設に伴う埋蔵文化財発掘報告Ⅰ
シリーズ名	富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告
シリーズ番号	第73集
編著者名	田中道子，青山　晃，島田亮仁，朝田亜紀子
編集機関	公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
所在地	〒930-0887　富山県富山市五福4384番1号　TEL　076-442-4229
発行年月日	西暦2017年3月10日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
小糸尾萩野（こいとおはぎの）	富山県（とやまけん） 富山市（とやまし） 小糸（こいと）	16204	301034	36° 28′ 51″	137° 14′ 17″	20130610 ～ 20130722 20140916 ～ 20141127	4,160	道路（猪谷楡原道路）建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
小糸尾萩野	集落	縄文	竪穴建物　3棟 掘立柱建物　9棟 土坑墓　14基 土坑　多数	縄文土器・石器・玉	竪穴建物・掘立柱建物・土坑墓を検出 縄文中期を主体として多量の土器と石器が出土
		近世	道路状遺構 溝　2条 土坑　多数	越中瀬戸・唐津・伊万里・煙管	道路状遺構は飛騨街道東道の一部である可能性が高い

要約

縄文時代の集落は中期前葉末～中葉にかけてそのピークを迎え，竪穴建物1～2棟，掘立柱建物，土坑墓で構成される小規模な集落が，限られた平坦面に点々と立地しているとみられる。土坑墓には副葬品の外，遺体や遺体の顔を覆ったと推測する縄文土器が出土しており，葬送文化の一端が明らかになった。また，縄文土器の文様や胎土，石器の使用石材などから，他地域との交流が盛んであったことが伺える。

近世の飛騨街道東道の一部とみられる道路状遺構は，幅2.7m，長さ20mにわたり確認した。道路は南から北に向かって下降斜していき，両側に側溝が沿う。路面には溝や段差，規則的に並ぶピットがみられるが，その機能は不明である。この道路が整備された背景には周囲で開発された鉱山との密接な関係があり，鉱山の衰退や西道の利用により17世紀後半以降には廃れていったと考えられる。

2017（平成29）年3月1日　印刷
2017（平成29）年3月10日　発行

富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第73集

小糸尾萩野遺跡発掘調査報告

― 猪谷楡原道路建設に伴う埋蔵文化財発掘報告Ⅰ ―

編集・発行　公益財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所
〒930-0887　富山市五福4384番1号
TEL　076－442－4229

印　　刷　とうざわ印刷工芸株式会社
〒939-2745　富山市婦中町広田5210
TEL　076－466－2711